No. 1277

学内広報

2003. 12. 11
東京大学広報委員会

2002年（第52回）学生生活実態調査の結果

ま　え　が　き

昨年度に実施された、第52回学生生活実態調査の結果がまとまりました。ここに、学内広報の場を借りて報告いたします。

例年行われているこの調査は、本学に所属する学部学生から、学部別・男女別に無作為に抽出して実施していますが、残念なことに、近年回収率がしだいに下がっていました。そのため、第52回から、それまで１／８であった抽出率を１／４に上げることによって、サンプルサイズの増加を図ることにしました。学生諸君には、平均すると４年間の在学期間のうち１度は回答をお願いすることになります。

この調査の企画、実施、分析にあたっては、学生生活調査室の室員である各学部からの委員と調査室の事務員の方々に尽力いただいています。質問項目としては、例年継続して調査している項目と、その回ごとに設けている項目とがあります。さらに、「特殊分析」として、とくに重点をおいたテーマがあります。今回は、「東大生の心身の健康」をそのテーマとし、理学部の中村正治委員に担当をお願いしました。

学生の生活実態を経年的に把握することはそれ自体興味深く重要なことですが、その結果を広く知っていただくことは、国立大学として社会に対する説明責任を果たすことにもつながります。また、本調査で寄せられた大学側に対するさまざまな意見、要望を、法人化に向けた今後の大学改革にぜひ生かしていただけることを、調査室を代表してお願いするしだいです。

東京大学学生生活委員会学生生活調査室室長　市　川　伸　一

目　　次

調査の概要……2
調査の結果……2
Ⅰ　基本的事項……4
Ⅱ　家庭の状況……5
Ⅲ　生活費の状況……8
Ⅳ　通学・住居……11
Ⅴ　奨学金……13
Ⅵ　アルバイト……14
Ⅶ　心身の健康……15
Ⅷ　入学・進学・学業……17
Ⅸ　教科外学習……22
Ⅹ　旅行・スポーツ……23
XI　性・ジェンダー観……25
XII　就職……27
XIII　大学への要望……28
特殊分析……29
資料１（集計表）……31
具体的記述（抜粋）……81
資料２（調査票）……113
学生生活委員会学生生活調査室

調査の概要

1．調査票の作成

2002年（平成14年）5月から10月にかけて、学生生活委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2．調査の期間

2002年（平成14年）11月下旬～12月下旬。

3．調査の対象及び抽出率

学部男子・女子学生。学部・科類別無作為抽出法で、在籍者数の1／4を抽出。

4．調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する（自記式）方法。

5．調査の内容

Ⅰ．基本的事項、Ⅱ．家庭の状況、Ⅲ．生活費の状況、Ⅳ．通学・住居、Ⅴ．奨学金、Ⅵ．アルバイト、Ⅶ．心身の健康、Ⅷ．入学・進学・学業、Ⅸ．教科外学習、Ⅹ．旅行・スポーツ、XI．性・ジェンダー観、XII．就職、XIII．大学への要望、XIV．具体的記述

調査の結果

今回は、2001年（第51回）と同様に、学部男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。

グラフと表について

1．今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1971年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表１」に1971年以降の調査の実施状況を表示した。

2．本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがある。そのため、合計が100％に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100％に満たないものと100％を超えるものがある。

3．各表の2002年の集計結果は、**太枠**で示してある。

4．1984年調査で抜本的改正を行った家計支持者の職業分類については、2001年調査に引き続き三重クロス集計（「職業」×「従事先の規模」×「雇用形態」）の一元化表を作成した。「表３」６ページを参照されたい。

表１　学生生活実態調査実施状況一覧表

回　数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
				人	%	
第21回	1971年12月	学部男子	１／４・１／１５	797	67.3	郵送自記式
第22回	1972年11月	学部男子・女子	男子　１／１５ 女子　１／５	648 107	68.2 78.5	〃
第23回	1973年12月	学部男子・女子	男子　１／１５ 女子　１／　２	794 340	76.2 75.0	〃
第24回	1974年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,004	67.8	〃
第25回	1975年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,041	75.3	〃
第26回	1976年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,063	75.5	〃
第27回	1977年11月	学部女子	全数	811	75.8	〃
第28回	1978年12月	大学院学生	男子　１／４ 女子　全数	862 315	66.1 66.3	〃
第29回	1979年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,069	78.6	〃
第30回	1980年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,064	73.8	〃
第31回	1981年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,031	74.2	〃
第32回	1982年11月	学部女子	全数	910	77.6	〃
第33回	1983年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,008	75.0	〃
第34回	1984年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,380	76.1	〃
第35回	1985年11月	大学院学生	男子１／２～１／４ 女子　１／２ ＯＭ・ＯＤ　１／２	968 165 249	69.8 67.9 51.4	〃
第36回	1986年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,385	72.6	〃
第37回	1987年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,432	73.9	〃
第38回	1988年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,459	70.9	〃
第39回	1989年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,480	78.5	〃
第40回	1990年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,504	63.1	〃
第41回	1991年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,530	62.2	〃
第42回	1992年11月	大学院学生	男子１／２～１／６ 女子　１／２	1,496	59.8	〃
第43回	1993年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,593	64.8	〃
第44回	1994年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	2,005	60.6	〃
第45回	1995年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	2,011	64.0	〃
第46回	1996年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	2,004	60.9	〃
第47回	1997年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,990	60.2	〃
第48回	1998年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,964	60.3	〃
第49回	1999年11月	大学院学生	男・女　１／４ ＯＭ・ＯＤ　１／４	2,099	49.5	〃
第50回	2000年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,917	54.4	〃
第51回	2001年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,900	49.6	〃
第52回	2002年11月	学部男子・女子	男・女　１／４	3,749	37.2	〃

（注１）　「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。1992年調査は「外国人留学生」を含む。

（注２）　1971年調査で、抽出率に２つの数字が掲げられているのは、前者は医学部であり、後者は医学部を除く他の学部である。また、1974年以降の調査で抽出率に幅がある場合は、学部（大学院）の規模により、その数字の範囲内で抽出率をそれぞれ定めている。

Ⅰ.基本的事項

表２　　2002年（第52回）学生生活実態調査回収状況一覧

男女別 / 学部	男子				女子				全体			
	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率
	人	人	人	%	人	人	人	%	人	人	人	%
教養学部(前期)	5,715	1430	502	35.1	1,209	304	159	52.3	6,924	1734	661	38.1
文科小計	2,314	579	202	34.9	755	190	100	52.6	3,069	769	302	39.3
文科一類	1,008	252	91	36.1	258	65	32	49.2	1,266	317	123	38.8
文科二類	643	161	52	32.3	117	30	14	46.7	760	191	66	34.6
文科三類	663	166	59	35.5	380	95	54	56.8	1,043	261	113	43.3
理科小計	3,401	851	300	35.3	454	114	59	51.8	3,855	965	359	37.2
理科一類	2,338	585	195	33.3	149	37	16	43.2	2,487	622	211	33.9
理科二類	905	226	89	39.4	279	70	39	55.7	1,184	296	128	43.2
理科三類	158	40	16	40.0	26	7	4	57.1	184	47	20	42.6
法学部	1,371	343	124	36.2	294	74	26	35.1	1,665	417	150	36.0
経済学部	727	182	67	36.8	104	26	16	61.5	831	208	83	39.9
文学部	635	159	55	34.6	278	70	34	48.6	913	229	89	38.9
教育学部	135	34	10	29.4	75	19	6	31.6	210	53	16	30.2
理学部	588	148	50	33.8	70	17	7	41.2	658	165	57	34.5
工学部	1,834	459	140	30.5	130	32	14	43.8	1,964	491	154	31.4
農学部	523	131	44	33.6	174	44	21	47.7	697	175	65	37.1
薬学部	115	29	13	44.8	55	14	3	21.4	170	43	16	37.2
医学部	409	102	40	39.2	115	29	14	48.3	524	131	54	41.2
教養学部(後期)	305	77	37	48.1	104	26	12	46.2	409	103	49	47.6
合計	12,357	3,094	1,082	35.0	2,608	655	312	47.6	14,965	3,749	1,394	37.2
2001年(第51回)調査	12,535	1,569	741	47.2	2,604	331	201	60.7	15,139	1,900	942	49.6

注）　「在籍者数」は2002年（平成14年）8月1日現在の学生数（休学者、留学者、外国人留学生を除く）である。

Ⅱ．家庭の状況

家庭の所在地は56.6％が関東
主たる家計支持者は「父」が90.4％、職業は「管理的職業」が47.0％
年収額1,016万円、前年に比べ微増

家庭の所在地は、「東京都」24.1％、東京都以外の「関東」が32.5％、合計すると56.6％で、前回調査（2001年（第５１回））と比較して0.9ポイントの増加となっている。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の55.5％に対し、女子は60.4％で前回調査と同様男子を上回っている。

「東京都」の比率は全体で前回の22.9％から1.2ポイント増加して24.1％、男女別に見ると、男子は21.2％から22.9％に1.7ポイント増加し、女子は逆に29.4％から28.1％に1.3ポイントの減少となっている（図１－１～２、資料１－Ⅱ－１表）。

主たる家計支持者は「父」が90.4％を占め、「母」は4.9％となっている（資料１－Ⅱ－３表）。

その職業は例年どおり「管理的職業」が最も多く47.0％、次いで「専門的、技術的職業」16.8％、「教育的職業」10.2％と続き、前回調査と同順となっている（表３、資料１－Ⅱ－４表）。

年収の分布状況は、「750万円未満」が28.3％、「750万円以上1,050万円未満」が37.8％、「1,050万円以上」が34.0％となっている。前回調査との比較では、「750万円未満」は29.8％から1.5ポイント、「750万円以上1,050万円未満」は39.0％から1.2ポイント減少し、「1,050万円以上」が31.1％から2.9ポイント増加している（図２、資料１－Ⅱ－５表）。

家計支持者の年収額の全体平均は1,016万円で、前回調査（1,002万円）から14万円の微増となっている（図３、資料１－Ⅱ－６表）。

図1－1　家庭の所在地の推移（男子学生）

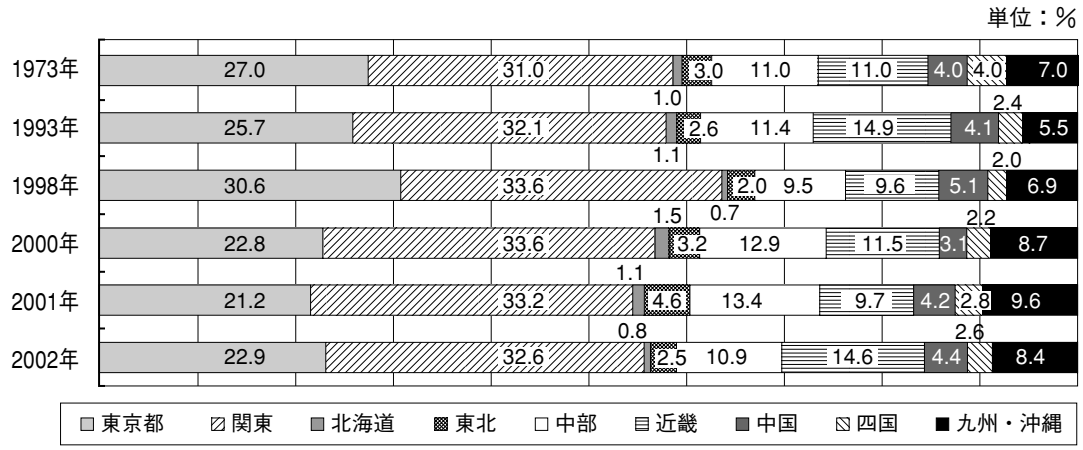


図1－2　家庭の所在地の推移（女子学生）

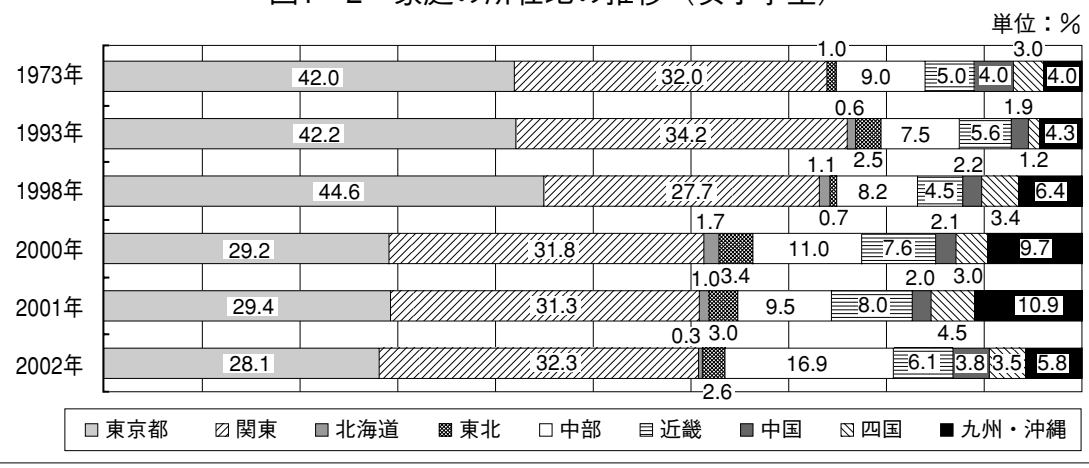


表３ 「家計支持者の職業分類」三重クロス集計の一元表 （「職業」×「勤務先の規模」×「雇用形態」）

区分	専門的、技術的職業			教育的職業				管理的職業						事務	販売	農・林・漁業	生産工程・採掘作業	運輸・通信・保安・サービス	無職	その他・分類不能	無回答	合計	事例数
	被雇用者	単独又は、雇用主	小計	大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授	小・中・高校の校長・教頭	一般教員	小計	民間企業大規模（従業員一、〇〇〇人以上）	民間企業中規模以下（従業員一、〇〇〇人未満）	雇用主・経営者大規模（従業員一、〇〇〇人以上）	雇用主・経営者中規模以下（従業員一、〇〇〇人未満）	官公庁	小計										
1984年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		%		%	人
全体	6.9	3.6	10.5	5.2	2.4	6.7	14.3	19.1	9.2	1.6	7.7	8.6	46.2	6.4	5.6	1.6	5.5	5.6	2.8	1.4		100.0	1,050
男子	6.5	3.2	9.7	5.0	2.4	7.0	14.4	19.1	9.1	1.7	7.8	8.6	46.3	6.5	5.9	1.8	5.9	5.6	2.5	1.2		100.0	962
女子	10.2	8.0	18.2	8.0	2.3	3.4	13.7	19.3	10.2	1.1	6.8	8.0	45.4	4.5	2.3	—	1.1	5.7	5.7	3.4		100.0	88
1997年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	10.7	6.1	16.8	5.8	1.8	2.8	10.4	22.9	9.9	1.8	5.2	5.8	45.6	6.9	4.6	0.9	3.5	4.7	2.4	2.6	1.7	100.0	1,198
男子	10.8	6.7	17.5	5.1	1.7	2.2	9.0	23.6	9.6	1.8	5.2	5.5	45.7	7.2	4.8	0.8	3.7	5.3	2.1	2.5	1.5	100.0	950
女子	10.1	3.6	13.7	8.5	2.4	4.8	15.7	20.2	11.3	1.6	5.2	7.3	45.6	6.0	3.6	1.2	2.8	2.4	3.6	2.8	2.4	100.0	248
1998年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	11.4	5.7	17.1	4.6	1.6	3.6	9.8	21.9	9.5	1.6	4.5	6.6	44.1	6.5	5.3	0.4	3.5	5.1	2.6	2.4	3.0	100.0	1,185
男子	10.6	6.1	16.7	4.7	1.4	3.5	9.6	22.1	9.8	1.0	4.6	6.5	44.0	6.6	5.4	0.5	4.0	5.2	2.2	2.4	3.3	100.0	918
女子	14.2	4.5	18.7	4.5	2.2	4.1	10.8	21.3	8.6	3.7	4.1	6.7	44.4	6.0	4.9	—	1.9	4.5	4.1	2.6	1.9	100.0	267
2000年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	5.5	10.7	16.2	6.0	2.0	3.5	11.4	18.5	12.7	0.7	5.7	8.2	45.7	7.4	4.0	0.7	4.0	3.2	3.4	2.3	1.7	100.0	1,042
男子	5.2	11.7	16.9	5.1	2.4	3.2	10.7	19.1	13.0	0.5	5.3	7.7	45.7	8.1	3.6	0.6	4.5	3.3	3.2	1.6	1.9	100.0	806
女子	6.4	7.6	14.0	8.9	0.8	4.2	14.0	16.5	11.4	1.3	6.8	9.7	45.8	5.1	5.5	0.8	2.5	2.5	3.8	4.7	1.3	100.0	236
2001年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	10.7	6.6	17.3	5.2	2.9	4.4	12.5	18.9	10.7	0.8	4.9	6.2	41.5	8.3	4.5	0.7	4.2	5.4	2.7	2.9	0.1	100.0	942
男子	10.3	6.7	17.0	3.8	3.2	4.2	11.2	19.2	11.1	0.4	4.9	5.9	41.5	8.8	4.2	0.7	4.9	5.9	2.8	3.0	0.1	100.0	741
女子	12.4	6.0	18.4	10.4	1.5	5.0	16.9	17.9	9.5	2.5	5.0	7.0	41.9	6.5	5.5	1.0	2.0	3.5	2.0	2.5	—	100.0	201
2002年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	12.1	4.7	16.8	4.2	1.6	4.0	9.8	23.0	10.8	1.0	3.8	7.1	45.7	6.2	3.9	0.7	4.5	4.4	3.6	2.4	1.9	100.0	1,395
男子	11.6	4.8	16.4	3.5	1.6	4.2	9.2	22.0	11.1	0.6	3.9	7.1	44.7	6.8	4.3	0.7	5.3	4.5	3.5	2.5	2.0	100.0	1,082
女子	14.1	4.5	18.5	6.7	1.6	3.5	11.8	26.5	9.6	2.2	3.5	7.0	48.9	4.2	2.9	0.6	1.9	3.8	3.8	1.9	1.6	100.0	313

注）2002年調査で、「教育的職業」で勤務先の規模・雇用形態の不明者が5名。「管理的職業」で勤務先の規模・雇用形態の不明者が19名。
各不明者を「その他・分類不能」の欄へ移行し集計した。従って「職業分類」のみを挙げたⅡ－４表とでは、集計数値に若干の相違がある。

図2　主たる家計支持者の年収額分布

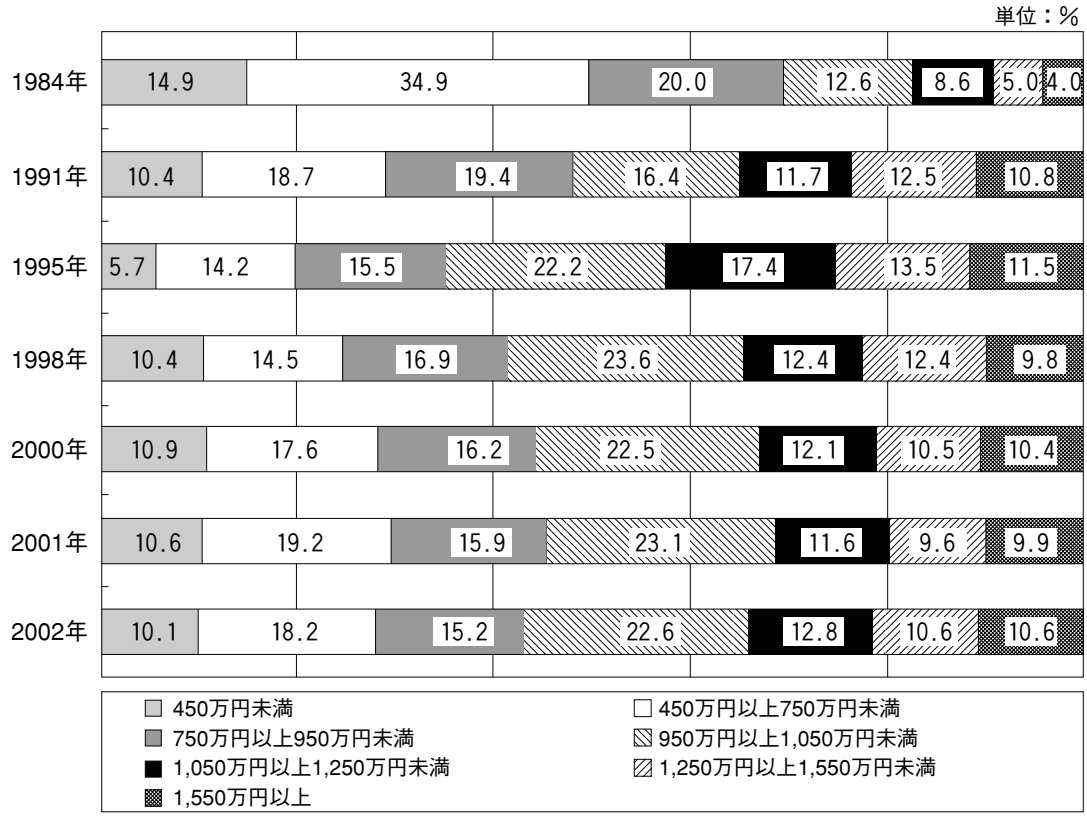
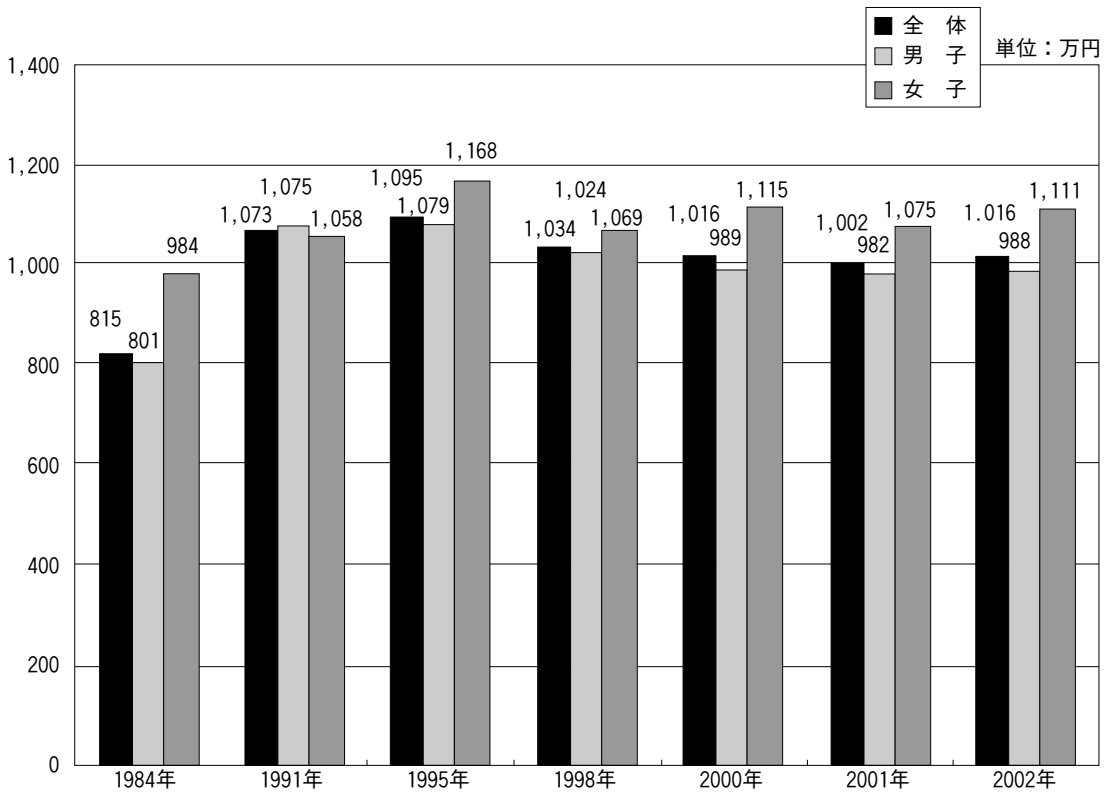


図3　主たる家計支持者の平均年収額の推移



Ⅲ．生活費の状況

生活費は自宅生69,200円、自宅外生153,500円
自宅外生の「住居費」は支出総額の44.4％
収入で大きな割合を占めるのは、自宅生が「奨学金」「アルバイト・雑収入」、自宅外生が「家庭からの仕送り」

１か月当たりの生活費（100円未満四捨五入）をみると、「支出総額」は、自宅生69,200円、自宅外生153,500円で、前回調査（2001年（第51回））と比較すると自宅生が1,000円減り、自宅外生が2,100円増えている。

自宅外生の「住居費」は、68,200円で、前回調査と比べ1,400円増え、支出総額に占める割合も0.3ポイント増えて44.4％になっている。また、７割を超える「賃貸マンション・アパート（バスつき）」の平均額は、男子74,500円、女子78,200円で、前回調査と比較すると男子が700円増え、女子が4,400円減っている。

「通学費」は、自宅生10,000円、自宅外生5,200円で、支出総額に占める割合は自宅生が14.5％、自宅外生は3.4％で前回調査とほぼ同じである（表４、図４、資料１－Ⅲ－１表）。

一方、「収入総額」は、自宅生70,700円、自宅外生163,500円で前回調査とほぼ同じ額である。自宅外生の生活費は自宅生に比べ、支出総額では前回調査と同じ2.2倍、収入総額でも前回調査と同じ2.3倍となっている。

収入のうち、「家庭からの仕送り・小遣い」は、自宅生32,300円、自宅外生121,800円で、前回調査と比較すると、自宅生が3,400円、自宅外生が700円減っている。「アルバイト・雑収入」は、自宅生48,400円、自宅外生44,600円で、前回調査と比較すると自宅生が2,400円増え、自宅外生は同額となっている（表４、資料１－Ⅲ－２表）。

収入形態の推移をみると、「仕送り＋アルバイト・雑収入」が最も大きな割合を占めている（表５）。

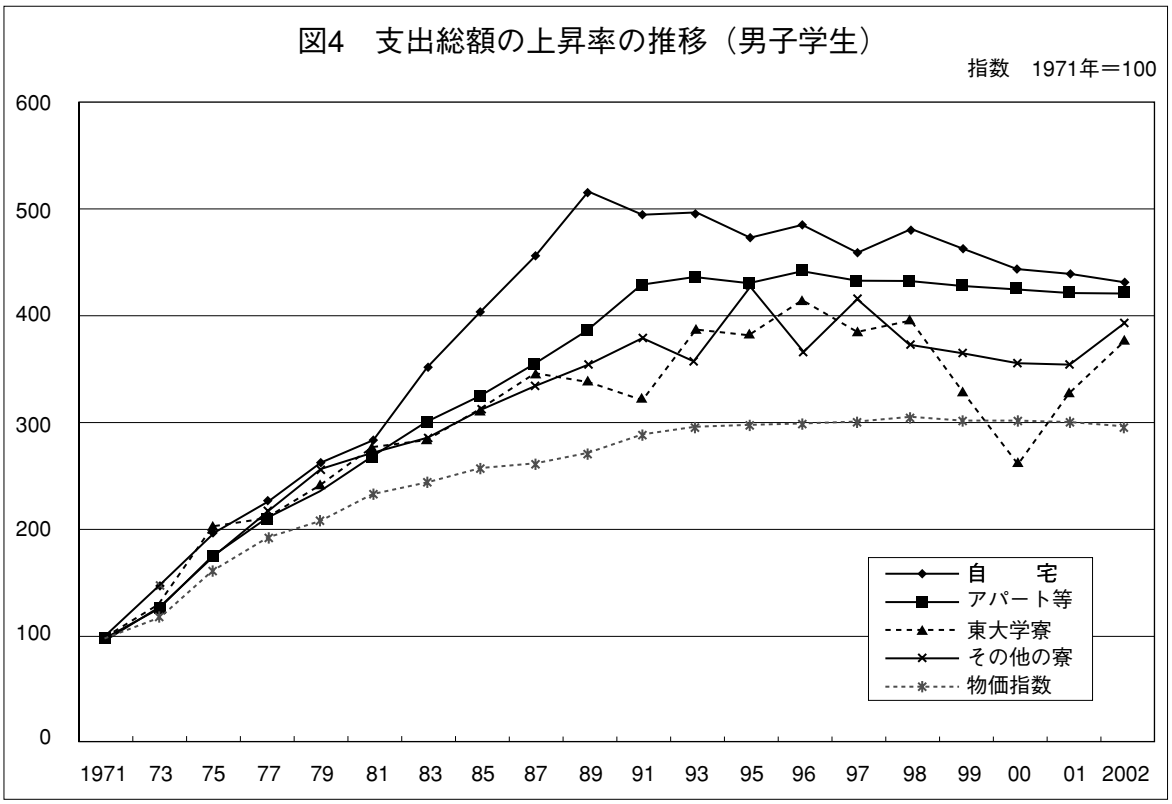


表４　生活費の状況の推移（支出総額・収入総額）

区　　分	支出総額				収入総額			
	自　宅	マンション・アパート・下宿他	学　寮	その他の寮	自　宅	マンション・アパート・下宿他	学　寮	その他の寮
	円	円	円	円	円	円	円	円
1971年　（男子）	15,600	37,600	25,100	30,400	16,800	39,000	27,500	32,100
1972年　（男子）	20,100	40,900	27,600	31,400	21,100	42,200	29,900	32,200
1976年　（男子）	32,600	73,500	49,400	59,300	35,900	76,900	55,100	63,900
1977年　（女子）	31,000	76,700	51,000	85,300	36,200	82,000	56,900	92,000
1979年　（男子）	41,000	88,100	61,000	77,700	45,600	93,100	68,500	83,600
1980年　（男子）	41,100	92,900	62,600	78,300	48,100	100,200	66,800	84,400
1981年　（男子）	44,300	100,500	69,900	82,200	50,100	107,000	75,500	91,300
1982年　（女子）	41,700	105,400	64,900	108,700	49,600	115,400	75,500	119,200
1983年　（男子）	54,900	110,900	71,300	86,700	60,800	118,600	78,600	96,700
1984年　（男子）	61,300	116,100	77,700	85,500	67,600	124,200	86,100	95,300
〃　（女子）	56,500	114,900	64,700	107,200	56,700	125,400	78,300	112,800
1991年　（男子）	77,300	161,300	81,000	115,100	86,900	175,100	109,100	132,300
〃　（女子）	76,100	162,200	91,400	134,000	81,300	182,500	90,600	141,000
1993年　（男子）	77,600	163,800	97,700	108,500	82,300	176,000	103,000	126,400
〃　（女子）	77,400	157,800	133,000	147,500	77,000	172,600	151,500	168,300
1994年　（男子）	75,300	164,300	91,400	119,100	82,000	173,200	116,400	131,800
〃　（女子）	74,700	162,200	92,600	127,300	82,000	180,300	115,600	142,900
1995年　（男子）	74,000	161,600	96,400	130,300	80,500	176,200	109,500	156,200
〃　（女子）	65,700	166,000	94,800	143,000	74,900	187,000	130,100	156,800
1996年　（男子）	76,000	166,500	105,900	111,300	83,000	176,800	129,500	130,900
〃　（女子）	79,500	157,500	115,300	142,100	81,500	169,600	119,500	173,600
1997年　（男子）	71,500	162,300	96,800	126,500	78,400	175,200	117,300	149,200
〃　（女子）	74,500	155,200	94,000	148,300	83,900	177,100	116,400	161,900
1998年　（男子）	75,100	162,500	99,500	113,600	75,400	171,100	114,800	123,400
〃　（女子）	77,000	172,300	83,800	154,300	73,800	182,300	125,800	161,300
2000年　（男子）	69,400	159,600	65,900	108,200	76,500	172,000	100,100	129,000
〃　（女子）	69,900	167,300	79,500	158,300	72,300	182,800	104,300	175,000
2001年　（男子）	68,400	158,300	82,800	107,800	68,500	169,100	103,300	129,200
〃　（女子）	76,000	163,300	91,100	170,300	77,100	175,400	116,700	176,600
2002年　（男子）	67,500	158,100	95,200	119,200	69,600	168,800	114,700	130,900
〃　（女子）	74,500	164,800	86,500	142,800	73,900	168,400	129,900	140,200

表５　収入形態の推移

区　　分	仕送りのみ	奨学金のみ	アルバイトのみ	アルバイト・雑収入のみ	仕送り＋奨学金	仕送り＋アルバイト	奨学金＋アルバイト	仕送り＋奨学金＋アルバイト	仕送り＋アルバイト・雑収入	奨学金＋アルバイト・雑収入	仕送り＋奨学金＋アルバイト・雑収入	その他	雑収入	無回答	合計	事例数
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
1971年(男子)	36.0	1.0	5.0	—	7.0	36.0	3.0	14.0	—	—	—	—	—	—	100.0	536
1972年(男子)	38.0	—	7.0	—	11.0	29.0	2.0	13.0	—	—	—	—	—	—	100.0	442
1976年(男子)	30.9	0.3	8.2	—	6.7	39.0	3.4	11.6	—	—	—	—	—	—	100.0	803
1977年(女子)	28.6	0.2	10.9	—	4.7	38.9	3.1	6.3	—	—	—	—	—	7.3	100.0	615
1979年(男子)	31.1	0.4	7.3	—	7.4	38.6	2.7	10.8	—	—	—	—	—	1.7	100.0	840
1980年(男子)	30.6	0.1	9.6	—	7.6	37.1	3.4	9.4	—	—	—	—	—	2.2	100.0	785
1981年(男子)	32.0	0.1	8.6	—	6.7	36.3	2.8	9.9	—	—	—	—	—	3.5	100.0	765
1982年(女子)	24.8	0.3	17.0	—	2.8	41.1	3.5	5.8	—	—	—	—	—	4.7	100.0	706
1983年(男子)	28.4	0.1	7.4	—	4.9	42.5	3.2	10.3	—	—	—	—	—	3.2	100.0	756
1984年(男子)	25.5	—	8.0	—	6.1	45.7	3.3	8.8	—	—	—	—	—	2.5	100.0	962
〃（女子）	25.0	—	12.5	—	1.1	52.3	2.3	5.7	—	—	—	—	—	1.1	100.0	88
1991年(男子)	18.7	5.3	—	—	3.3	50.4	3.1	12.5	—	—	—	5.5	—	1.3	100.0	819
〃（女子）	12.1	4.5	—	—	3.8	48.5	1.5	16.7	—	—	—	9.1	—	3.8	100.0	132
1993年(男子)	22.3	0.2	3.1	—	5.2	51.1	2.2	9.8	—	—	—	4.8	—	1.4	100.0	871
〃（女子）	14.9	0.6	5.0	—	3.1	55.9	1.9	11.2	—	—	—	5.6	—	1.9	100.0	161
1994年(男子)	23.8	0.3	3.6	—	4.4	49.6	1.9	9.7	—	—	—	5.6	—	1.2	100.0	1,008
〃（女子）	25.6	—	4.8	—	2.9	48.3	1.0	10.6	—	—	—	4.3	—	2.4	100.0	207
1995年(男子)	20.5	0.4	3.2	—	3.7	40.4	1.8	7.5	—	—	—	—	19.6	2.9	100.0	1,056
〃（女子）	17.7	0.4	6.5	—	3.0	35.8	1.7	6.5	—	—	—	—	26.7	1.7	100.0	232
1996年(男子)	20.9	0.3	—	3.9	5.5	—	—	—	53.1	2.4	10.3	—	—	3.6	100.0	974
〃（女子）	18.7	0.8	—	5.7	2.8	—	—	—	57.3	1.2	11.4	—	—	2.0	100.0	246
1997年(男子)	22.7	0.5	—	4.2	5.8	—	—	—	53.6	1.2	9.6	—	—	2.4	100.0	950
〃（女子）	20.2	0.4	—	4.8	1.2	—	—	—	53.6	4.0	12.5	—	—	3.2	100.0	248
1998年(男子)	22.0	0.3	—	6.6	5.1	—	—	—	51.5	2.1	9.2	—	—	3.2	100.0	918
〃（女子）	23.6	0.7	—	9.0	4.1	—	—	—	49.8	0.7	10.5	—	—	1.5	100.0	267
2000年(男子)	27.2	0.9	—	5.2	5.6	—	—	—	43.9	1.6	11.5	—	—	4.1	100.0	806
〃（女子）	22.9	0.4	—	7.2	3.0	—	—	—	47.9	3.4	11.4	—	—	3.8	100.0	236
2001年(男子)	23.9	0.9	—	4.0	6.3	—	—	—	45.6	2.6	12.7	—	—	3.9	100.0	741
〃（女子）	19.9	—	—	2.0	6.0	—	—	—	54.2	3.0	10.9	—	—	4.0	100.0	201
2002年(男子)	23.3	0.8	—	3.4	8.0	—	—	—	47.3	2.6	11.6	—	—	3.0	100.0	1,082
〃（女子）	20.8	0.3	—	5.8	4.5	—	—	—	56.2	1.6	8.9	—	—	1.9	100.0	313

Ⅳ．通学・住居

現在の居住地は72.0％が「都内」
自宅外生では、「賃貸マンション、アパート（バスつき）」が72.8％、後期課程の女子で91.0％
「通学所用時間」は平均49.0分、自宅生は自宅外生の２倍以上の68.5分

都内在住者は72.0％で、「23区内」57.2％、「23区外」14.8％となっている（資料１－Ⅳ－１表）。

自宅生の現住所分布は、東京都46.7％（23区内31.8％、23区外14.9％）、神奈川県27.3％、千葉県12.1％、埼玉県11.9％の順で、前回調査(2001年（第51回)）との比較でおのおのについてみると、23区内で1.8ポイント、23区外で0.7ポイント、埼玉県で2.6ポイント、千葉県で0.4ポイント減少し、神奈川県で4.5ポイント増加している。

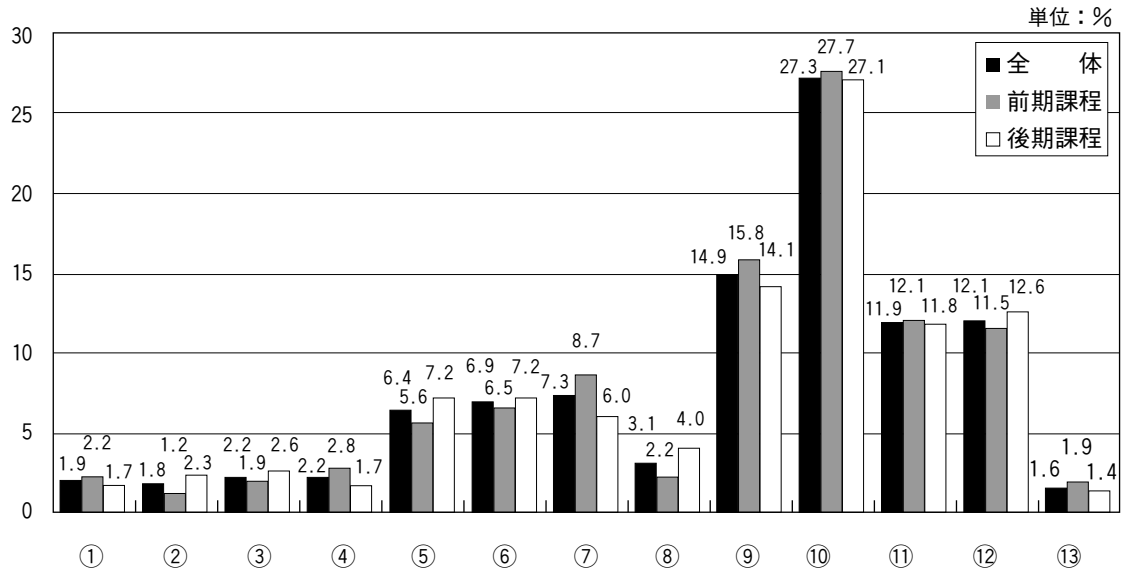
自宅外生の現住所分布を課程別にみると、前期課程は「世田谷・渋谷・目黒」が33.8％、「23区外」が25.6％、「中野・杉並・新宿」が17.9％、「台東・文京・豊島」が12.1％、後期課程では「台東・文京・豊島」が45.2％、「板橋・練馬・北」が16.6％、「世田谷・渋谷・目黒」が11.7％と続き、前回調査同様上位に分布している。分布を前回調査と比較すると、前期課程の上位区で「世田谷・渋谷・目黒」が2.1ポイント、「23区外」が2.8ポイント、「台東・文京・豊島」が0.9ポイント増加し、「中野・杉並・新宿」が2.6ポイント減少している。後期課程の上位区では「世田谷・渋谷・目黒」が3.3ポイント増加し、「台東・文京・豊島」が0.6ポイント、「板橋・練馬・北」が4.9ポイント減少している（図５－１～２、資料１－Ⅳ－１表）。

自宅外生の住居区分は「賃貸マンション、アパート（バスつき）」が72.8％で最も多く、特に後期課程の女子では91.0％となっている。他では「その他の寮」8.4％、「アパート（バスなし）」5.4％、「東大学寮・三鷹国際学生宿舎」4.4％が続いている。前回調査と比較すると、「分譲及び賃貸マンション、アパート（バスつき）」は74.7％から76.1％に1.4ポイント増えており、男子が2.6ポイント増え、女子が3.4ポイント減っている。(図６－１～２、資料１－Ⅳ－２表)。

通学に利用する交通機関では、「自転車」の利用が比較的多く、第１位の回答と第２位の回答を合わせた全体で見ると、「電車」87.0％に次いで42.1％に上っている(資料１－Ⅳ－３表)。

通学所用時間は、片道平均49.0分で前回調査より若干増えている。自宅生は自宅外生31.0分の倍以上の68.5分を要している(資料１－Ⅳ－４表)。

図5－1　現住所の分布（自宅生）



①足立・葛飾・荒川　②江戸川・江東・墨田　③台東・文京・豊島　④千代田・中央・港　⑤板橋・練馬・北
⑥中野・杉並・新宿　⑦世田谷・渋谷・目黒　⑧品川・大田　⑨東京都（23区外）　⑩神奈川県
⑪埼玉県　⑫千葉県　⑬その他の県

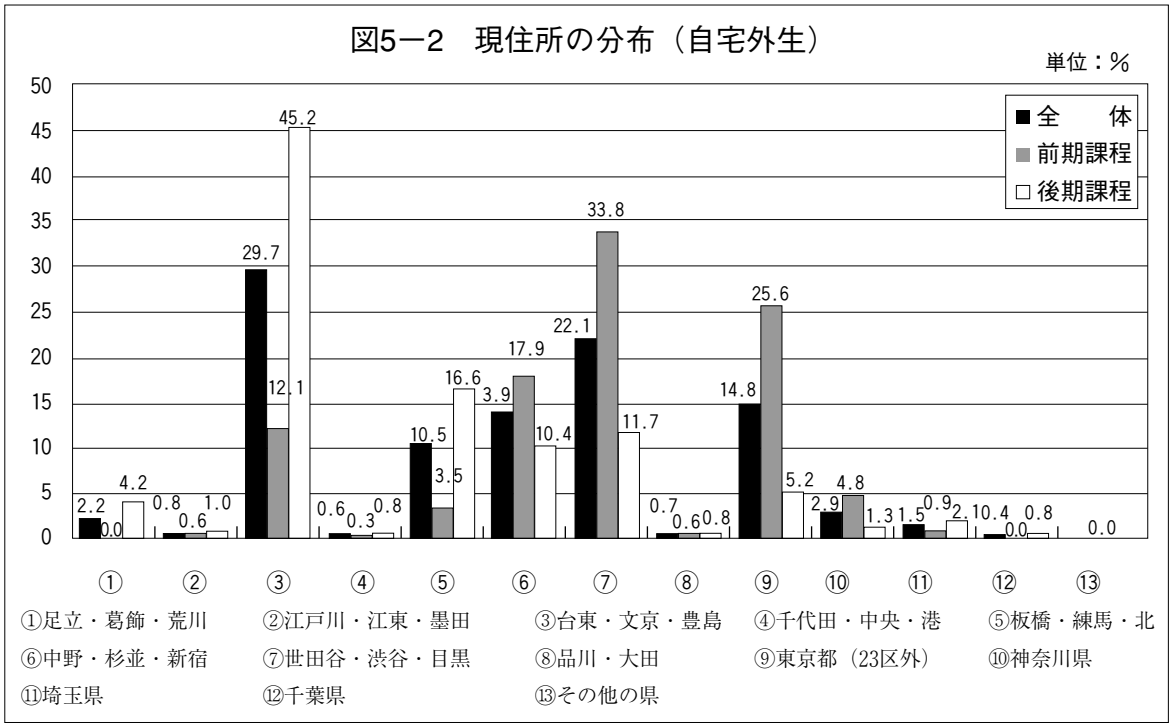


図5－2　現住所の分布（自宅外生）
単位：％
■全　体
■前期課程
□後期課程
①足立・葛飾・荒川
②江戸川・江東・墨田
③台東・文京・豊島
④千代田・中央・港
⑤板橋・練馬・北
⑥中野・杉並・新宿
⑦世田谷・渋谷・目黒
⑧品川・大田
⑨東京都（23区外）
⑩神奈川県
⑪埼玉県
⑫千葉県
⑬その他の県

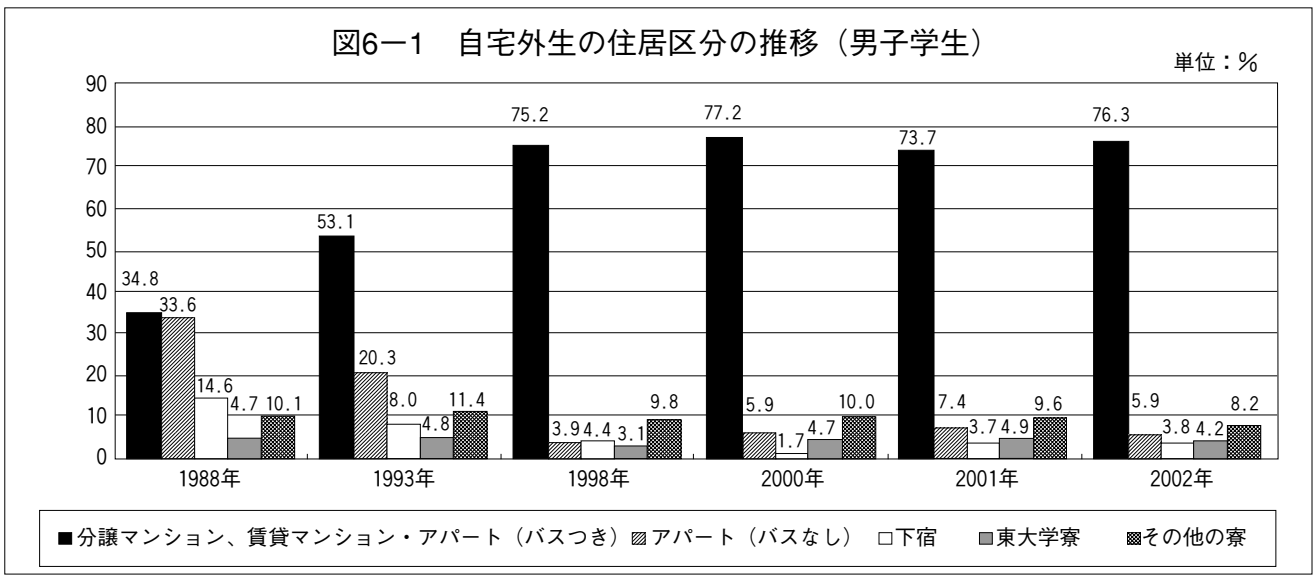


図6－1　自宅外生の住居区分の推移（男子学生）
単位：％
1988年
1993年
1998年
2000年
2001年
2002年
■分譲マンション、賃貸マンション・アパート（バスつき）
▨アパート（バスなし）
□下宿
■東大学寮
▩その他の寮

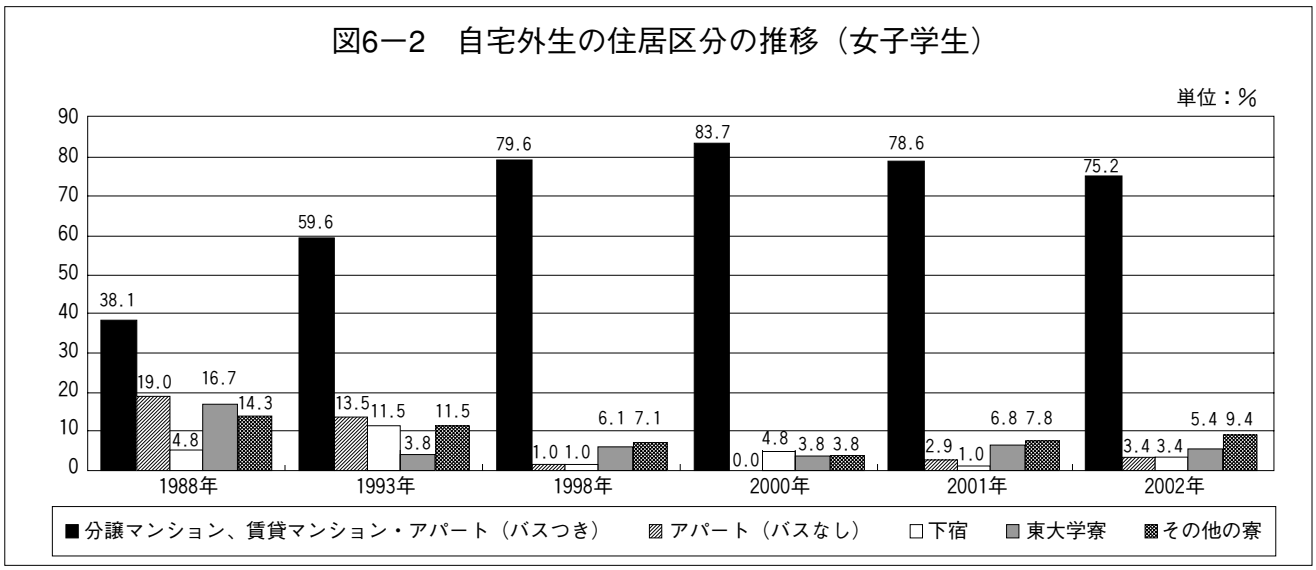


図6－2　自宅外生の住居区分の推移（女子学生）
単位：％
1988年
1993年
1998年
2000年
2001年
2002年
■分譲マンション、賃貸マンション・アパート（バスつき）
▨アパート（バスなし）
□下宿
■東大学寮
▩その他の寮

Ｖ．奨学金

奨学金を希望している者36.5％
奨学生のうち80.8％が日本育英会から貸与を受けている
用途は「生活費」、「勉学費」、「教養・娯楽費」が中心

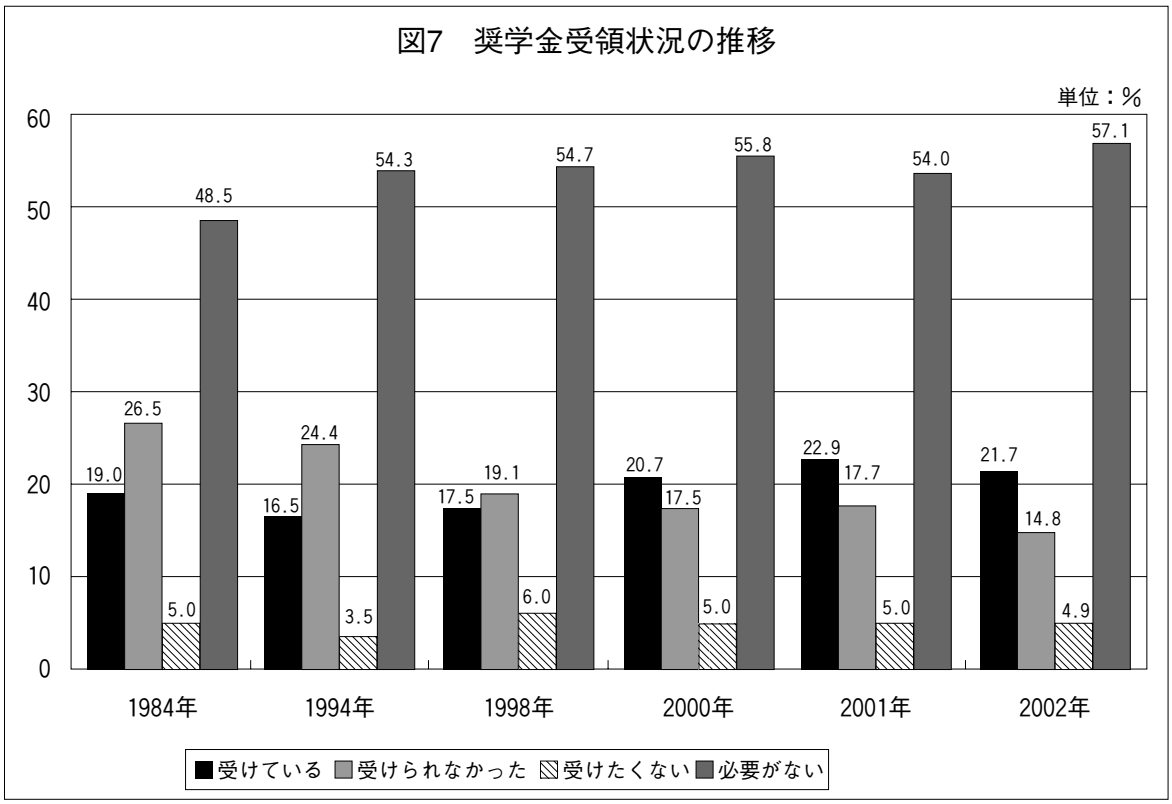
奨学金を希望している学生は、「受けている」21.7％「受けたいが受けられなかった」14.8％合わせて36.5％となり、前回調査（2001年（第５１回））と比較すると40.6％から4.1ポイントの減少となっている（図７、資料１－Ｖ－１表）。

「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した理由としては、「貸与なので申請しなかった」25.7％が最も多く、次いで、「資格がない」22.5％、「出願はしたが採用されなかった」21.4％、「掲示等に気が付かなかった」13.0％、「事務手続が煩雑だから」10.5％の順となっている（資料１－Ｖ－２表）。

受領している奨学金の内訳は、「日本育英会のみ」が71.6％で、これに「他の奨学金との併用」9.2％を含め日本育英会から貸与を受けている奨学生は80.8％を占め、前回調査と比べると4.9ポイント減少している（資料１－Ｖ－３表）。

奨学金はどんな面で役立っているかについては（２つまで選択可）、例年どおり「家庭の経済的負担が軽減される」が77.6％で最も多く、次いで「多少ともゆとりのある生活ができる」34.0％、「奨学金があるので生活が成り立っている」32.0％が上位になっている（資料１－Ｖ－４表）。

奨学金の主たる支出目的（用途）は（３つまで選択可）、前回調査とほぼ同順で「生活費（衣・食・住居費）」77.9％、「勉学費」61.7％、「教養・娯楽費」49.2％、「授業料」30.0％、「貯金」14.5％の順となっている。また、前回調査との比較では、「生活費（衣・食・住居費）」が1.0ポイント、「勉学費」が14.0ポイント、「教養・娯楽費」が6.1ポイント増加し、「授業料」が2.4ポイント、「貯金」が3.6ポイント減少している（資料１－Ｖ－５表）。



Ⅵ．アルバイト

アルバイトをしている者79.4%
「家庭教師」「塾講師」「販売・セールス・サービス業」が上位を占める
週に11.4時間、月額で47,800円

アルバイトをしていると回答した学生は、全体の79.4%（「継続的」53.9%、「臨時」10.1%、「継続的＋臨時」15.4%）で、前回調査（2001年（第51回））との比較では全体で0.2ポイントの微増となっている。また、男子学生の78.0%に対し、女子学生は84.0%で、前回調査同様女子が男子を上回っている（資料１－Ⅵ－１表）。

アルバイトの種類は（２つまで選択可）「家庭教師」50.3%、「塾講師」29.6%、「販売・セールス・サービス業」25.5%が上位で、男子の場合は「家庭教師」47.2%、「塾講師」30.8%、「販売・セールス・サービス業」23.6%、「肉体労働」14.6%と続き、女子では「家庭教師」60.1%、「販売・セールス・サービス業」31.6%、「塾講師」25.9%と続いている。(資料１－Ⅵ－２表)。

アルバイトの従事時間数は１週間当たり11.4時間、１か月当たりの収入額は47,800円で、前回調査と比べると、時間では週当たり0.3時間、収入では月額200円の微増となっている（資料１－Ⅵ－３表)。

アルバイトの紹介者は（２つまで選択可）「友人・知人等」43.1%、「アルバイト先と直接」30.7%、「新聞広告・アルバイト広告誌」27.8%、「インターネット」13.6%、「大学の担当事務」10.6%と続いている（資料１－Ⅵ－４表)。

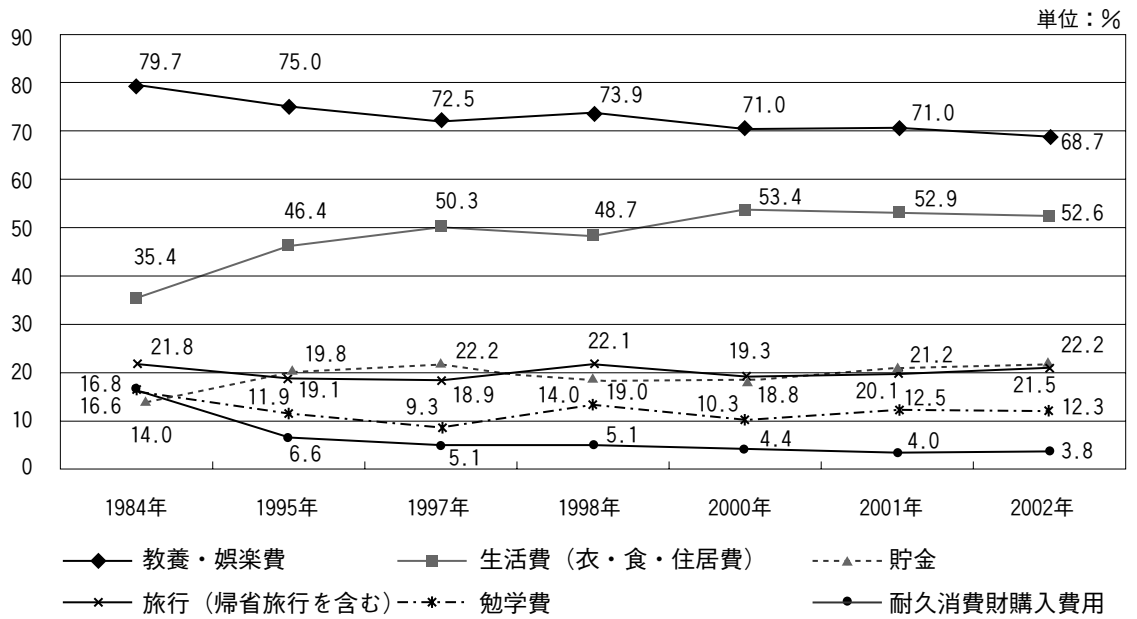
アルバイトをした理由では、「学生生活を楽しむため」を挙げている学生が42.9%で最も多く、前回調査より4.0ポイント上がっている。次いで「家庭の経済的負担を軽減するため」26.6%、「社会経験のため」25.4.%と続き、前回調査と同順となっている（資料１－Ⅵ－５表)。

アルバイト収入の主たる使途は（２つまで選択可）「教養・娯楽費」が68.7%で前回調査同様最も多く、次いで「生活費（衣・食・住居費)」52.6%、「貯金」22.2%、「旅行（帰省旅行も含む)」21.5%、「勉学費」12.3%の順となっているが、「教養・娯楽費」では男子が女子を9.3ポイント上回り、逆に「旅行（帰省旅行も含む)」では女子が男子を11.2ポイント上回っている（図８、資料１－Ⅵ－６表)。

「継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんか」という問に、「かなり妨げになった」と回答した学生と「多少妨げになった」と回答した学生を合わせると54.7%になり、前回調査より3.5ポイント増加している（資料１－Ⅵ－７表)。

現在の暮らし向きについては、80.4%の学生が普通以上であると答えている（「かなり楽な方」22.7%、「やや楽な方」20.4%、「普通」37.3%)。反面、18.4%の学生が苦しいと答えており（「やや苦しい方」15.0%、「大変苦しい方」3.4%)、前回調査より2.5ポイント増加している（資料１－Ⅵ－８表)。

図8　アルバイト収入の主な使途の推移（2つまで選択）



Ⅶ. 心身の健康

健康状態は「非常に良好」「良好」総じて87.9％
朝食を「ほぼ毎日」摂っている学生が69.5％
たばこを「全く吸わない」学生が88.0％
「将来の進路や生き方」に78.8％の学生が悩みや不安を感じている
「よく相談する」相談相手は、学内の友人・知人、母親、恋人

健康状態については、「非常に良好」が26.5％、「良好」が61.4％で合わせると87.9％で、これは前回までの調査（1986年87.9％、89年88.1％、93年86.4％、98年86.8％）とほぼ横ばいである。これに対し「やや悪い」「悪い」が全体で11.6％もあり、自宅9.8％より自宅外13.2％の方が、とくに女子の場合では、「自宅」11.0％より「自宅外」19.4％が、「後期課程」11.0％より「前期課程」18.9％が高い割合を示している（図９、資料１－Ⅶ－１表）。

朝食については、「ほぼ毎日」が69.5％、「ときどき」が17.9％、「ほとんど食べない」が12.3％で、朝食を摂っている割合は、女子より男子の方が低く、とくに男子の「自宅外」は「ほぼ毎日」食べるのが51.9％、「ときどき」食べるのが26.9％で、21.0％が「ほとんど食べない」と答えている（図10、資料１－Ⅶ－２表）。

飲酒の頻度については、「ほぼ毎日」が2.6％、「週３・４回」が5.5％、「週１・２回」が37.6％、「ほとんど飲まない」が54.1％となっている（資料１－Ⅶ－３表）。

喫煙については、「１日20本以上」が1.5％、「１日20本未満」が5.5％、「ときどき吸う程度」が4.7％、「全く吸わない」が88.0％（89年78.9％、93年83.8％、98年87.3％）で「全く吸わない」学生が調査の度に増えている（資料１－Ⅶ－４表）。

睡眠時間については、「６時間以上７時間未満」38.3％、「７時間以上」28.5％、「5時間以上6時間未満」24.1％の順となっており、６時間以上の睡眠を取っている学生は66.8％になる。これを、男女の自宅･自宅外で比べると、男子では「自宅」が62.1％、「自宅外」が72.2％で、女子では「自宅」が56.1％、「自宅外」が73.1％で、男女共に「自宅外」の学生の睡眠時間が多く、男子で10.1ポイント、女子で17.0ポイント多くなっている（資料１－Ⅶ－５表）。

健康維持増進のために心がけていることは（２つまで選択可）、「スポーツをしている」が38.2％で最も多く、「栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している」35.1％、「なるべく歩くなど体を動かすようにしている」33.1％、「規則正しい生活をするように心がけている」22.2％が上位で続いている。これを自宅・自宅外で比べてみると、男子の「自宅」は「スポーツをしている」が、女子の「自宅」は「なるべく歩くなど体を動かすようにしている」が、「自宅外」は男女共に「栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している」が高い割合を示している。（資料１－Ⅶ－６表）。

日常生活における心身の状態では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を総じてみると、「こころから楽しいと感じるときがある」81.5％、「大学入学前後を比べ、自分の成長を感じる」73.9％、「毎日が充実している」73.3％が上位となっている。また、「いつも頭がボンヤリしている」は逆に、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を合わせると73.7％になっている（資料１－Ⅶ－７表）。

学生生活の中で、悩みや不安を感じたりしているものとして、「よく悩む」と答えたものをみてみると、「将来の進路や生き方」が39.2％で最も多く、「就職」26.8％、「学部進学や大学院進学」22.4％、「性・異性・恋愛・結婚」21.4％、「勉学（成績・単位など）」20.4％と続き、「ときに悩む」を加えると実に78.8％の学生が「将来の進路や生き方」に悩んでいることになる。また、「よく悩む」と「ときに悩む」を合わせた学生の男女比では、全ての項目で女子が男子を上回っており、とくに、「自分の性格」については、その差が12.6ポイントある。さらに、「よく悩む」と「ときに悩む」を合わせた全体の上位を前回（2001年）調査と比較して見ると、「就職」が60.5％でほぼ同じ割合の他は、「将来の進路や生き方」が80.9％から2.1ポイント、「勉学（成績・単位など）」が66.7％から5.4ポイント、「性・異性・恋愛・結婚」が62.5％から5.1ポイント、「学部進学や大学院進学」が58.9％から4.3ポイントそれぞれ下がっている。（図11、資料１－Ⅶ－８表）。

不安や悩みの対処法では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると、「趣味・スポーツなどで気を紛らわす」65.3％、「友人と雑談などで気を紛らわす」64.8％「他人に相談する」51.0％が上位で続き、とくに、男子は「趣味・スポーツなどで気を紛らわす」67.4％が、女子は「他人に相談する」67.1％が高い割合を示している（資料１－Ⅶ－９表）。

不安や悩みの相談相手は、「大学内の友人･知人」36.2％、「母親」18.4％、「恋人」17.9％と続き、「大学の教職員」は0.3％で最下位となっている。とくに、男子の「大学内の友人･知人」では、「自宅外」36.1％より「自宅」41.1％の方が、「文科系」35.8％より「理科系」40.5％の方が、また、女子の「恋人」では、「前期課程」18.9％より「後期課程」35.7％の方が高い割合を示している（資料１－Ⅶ－10表）。

図9　健康状態

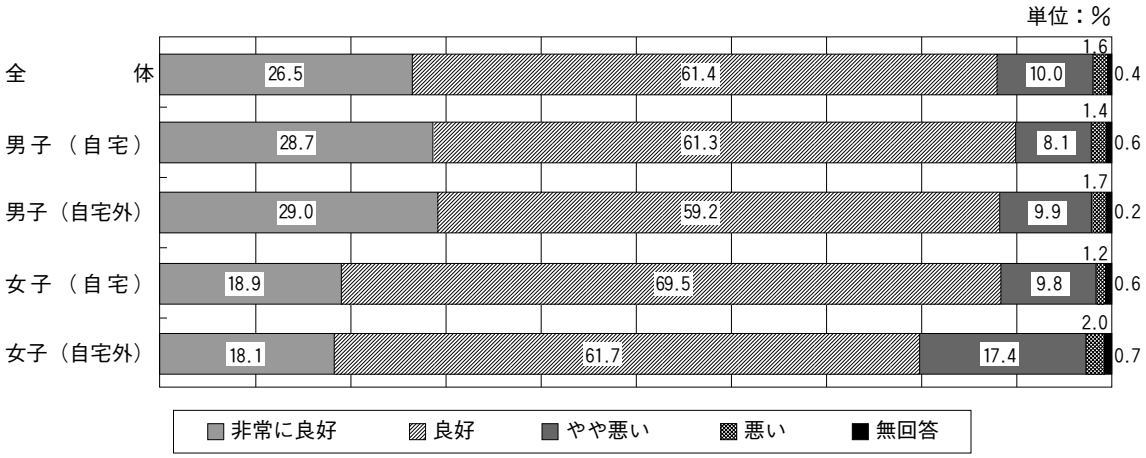


図10　朝食を食べていますか

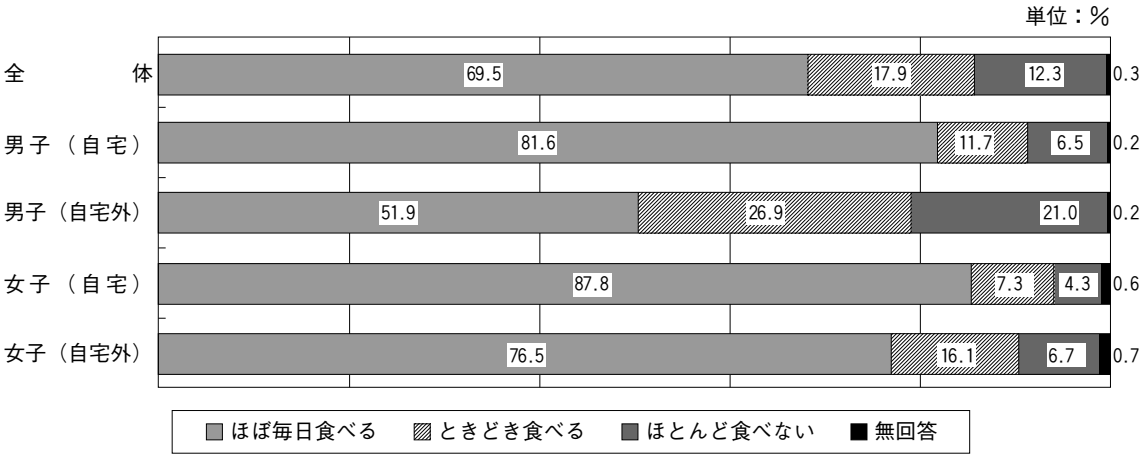
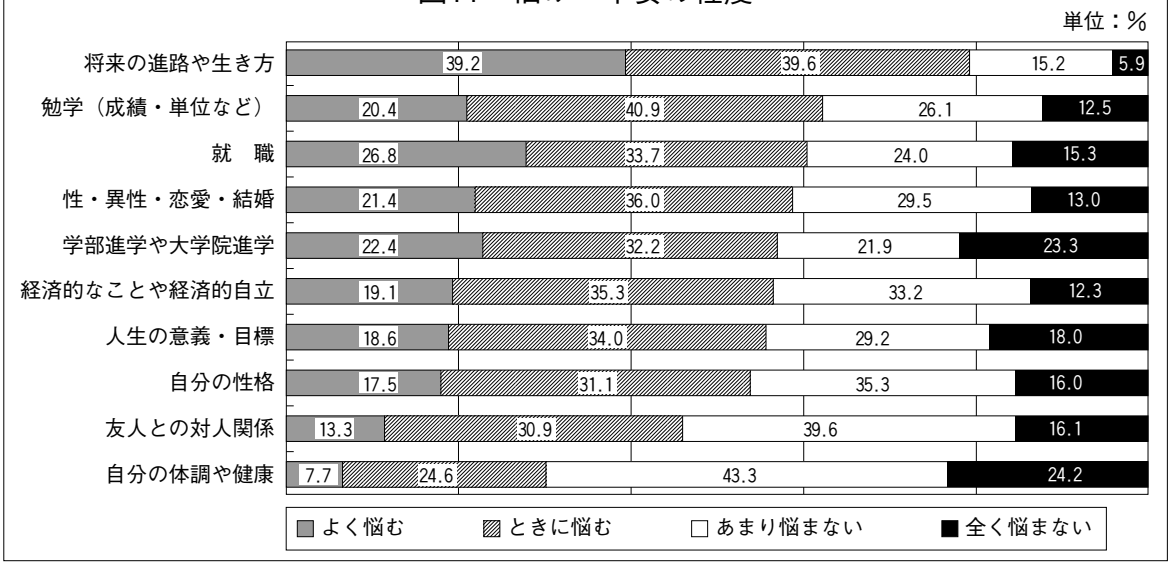


図11　悩み・不安の程度



Ⅷ．入学・進学・学業

Ⅷ－１．入学について

本学に「どうしても入りたかった」は45.6％
第１位に挙げた入学の動機は今回も「社会的評価が高いから」
入学時に進学希望学部を決めていたのは62.2％

東大に入学することを、どの程度希望していたかの問では、「どうしても入りたかった」と回答した学生は45.6％で、前回調査（2001年（第５１回））より1.3ポイント増加した。男女の比較では、男子が45.7％、女子が45.4％で大差なく、「だめなら他大学でもよいと思った」では、女子40.9％が男子33.8％を7.1ポイント上回っている（資料１－Ⅷ－１表）。

第１位に挙げた東大入学の動機は、「社会的評価が高いから」23.4％が1993年（第43回）調査以降最も多かった第48回（1998年）調査及び前回調査を3.5ポイント上回った。続いて、「スタッフ・設備が優れているから」16.0％、「入学後に学部の選択が可能だから」15.3％、「私大に比べて授業料が安いから」9.7％が上位となっている。（図12、資料１－Ⅷ－２表）。

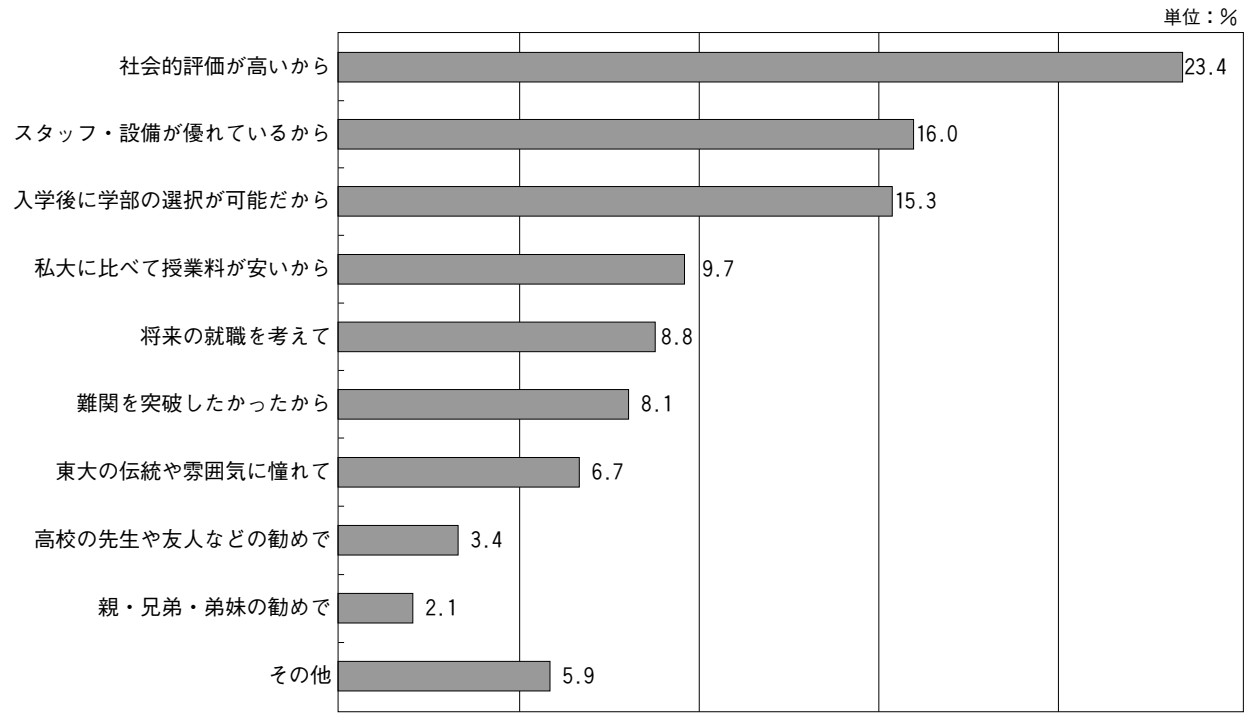
入学時に進学する学部・学科等を決めていた学生は62.2％で、前回調査から0.7ポイント下がった。文科系・理科系の比較では、文科系70.0％が理科系54.9％より15.1ポイント多くなっている（資料１－Ⅷ－３表）。

Ⅷ－２．進学について

「希望通り・ほぼ希望通り」進学決定（内定）したのは93.6％
在籍学部・学科等に「満足・まあ満足」している学生は69.9％
進学振分け制度「現行のままでよい」は36.2％

学部・学科等の選択に際して重視したもの（２つまで選択可）は、「自分が惹きつけられた学問分野であること」が78.1％で、前回調査から1.0ポイント下がったが、次に続く「将来なりたい職業に就くのに必須であること」30.7％、「社

図12　第1位に挙げた東大入学の動機



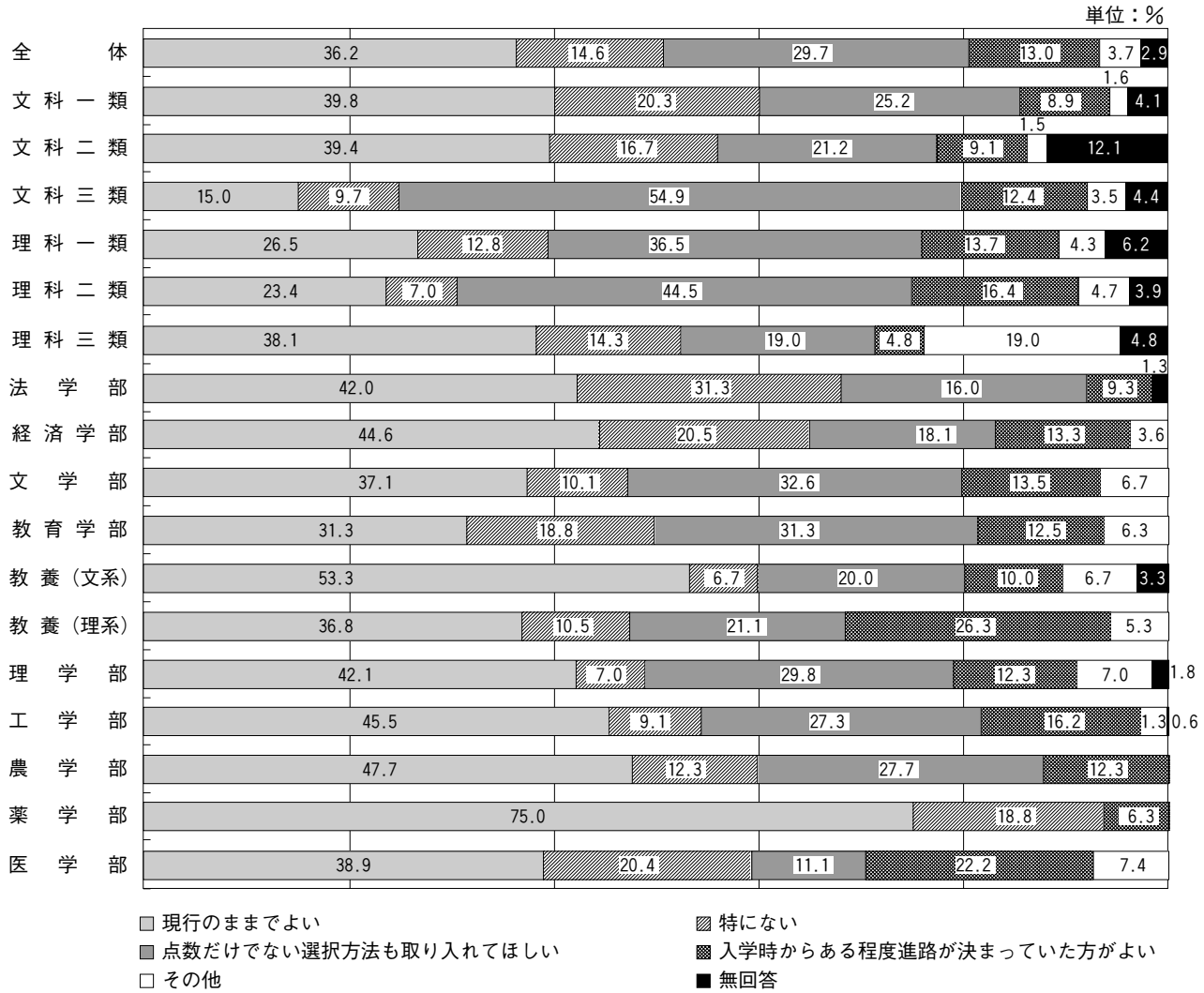
会のためになる分野であること」20.9％等の項目を大きく引き離している（資料１－Ⅷ－４表）。

進学の決定については、「希望通り決定した」79.3％、これに「ほぼ希望通り決定した」14.3％を合わせると、総じて希望通り進学したと回答した学生は93.6％に達し、前回調査より0.2ポイント上回っている（資料１－Ⅷ－５表）。

現在在籍している学部・学科等に満足しているかについては、「満足している」が前回調査より2.8ポイント減の35.0％で、これに「まあ満足している」34.9％を合わせると69.9％となり、94年調査以降、総じて満足している学生が今回70％を切った（資料１－Ⅷ－６表）。

進学振分け制度についてどのように考えているかでは、「現行のままでよい」が前回調査と同じ36.2％で、「特にない」14.6％を合わせると50.8％になるが、半数に近い学生が何らかの変更を希望している。特に前期課程では、必要単位を修得すれば特定学部への進学が可能という仕組みとはなっていない文科三類、理科一類、二類が、後期課程では、文学部と教養学部（理系）が何らかの変更を希望する割合が高い（図13、資料１－Ⅷ－７表）。

図13　進学振分け制度についての要望



Ⅷ－３．カリキュラムについて

カリキュラムに「満足・まあ満足している」は44.6％
カリキュラムの消化が「できる・まあまあできる」は73.1％

現在のカリキュラムに満足しているかでは、総じて「満足している」と回答した学生は44.6％で、総じて不満と回答した30.4％を上回っている。1990年調査では不満が20ポイント程上回ったが、1994年調査以降は逆転し、次第に満足していると回答する学生の方が多くなった。前回調査ではその差が10.8ポイント、今回の調査ではその差はは少し広がり14.2ポイントになった（図14－１、資料１－Ⅷ－８表）。

カリキュラムを消化できるかどうかについては、総じて「できる」と回答した学生は73.1％になり、前回調査より1.4ポイント下がっている。他方、カリキュラムの消化に困難を感じる学生は23.9％で、前回調査より1.4ポイント増え、「医学部」31.5％、「法学部」27.3％、「教養学部（理系）」26.4％が高い割合となっている。（図14－２、資料１－Ⅷ－９表）。

カリキュラムの消化が総じて「困難」と回答した理由第１位は、前回の調査と同様「授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある」を25.7％が挙げている。次いで「授業の準備と復習の時間が十分とれない」が15.9％、「進学・卒業に必要な単位が多過ぎる」が15.0％、「授業に対する自分の意欲や努力が足りない」が13.5％で上位となっている（資料１－Ⅷ－10表）。

図14－1　現在のカリキュラムに満足していますか

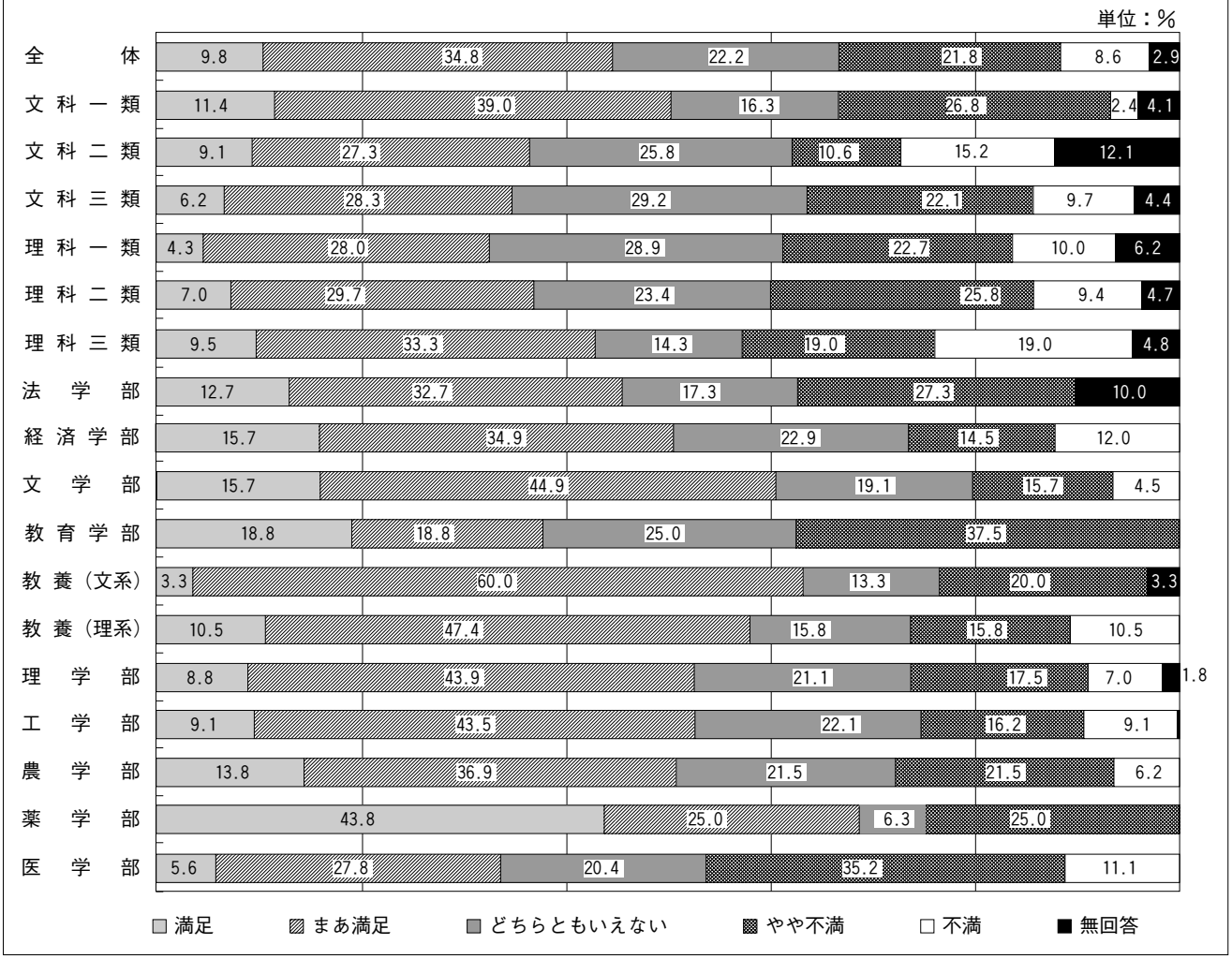
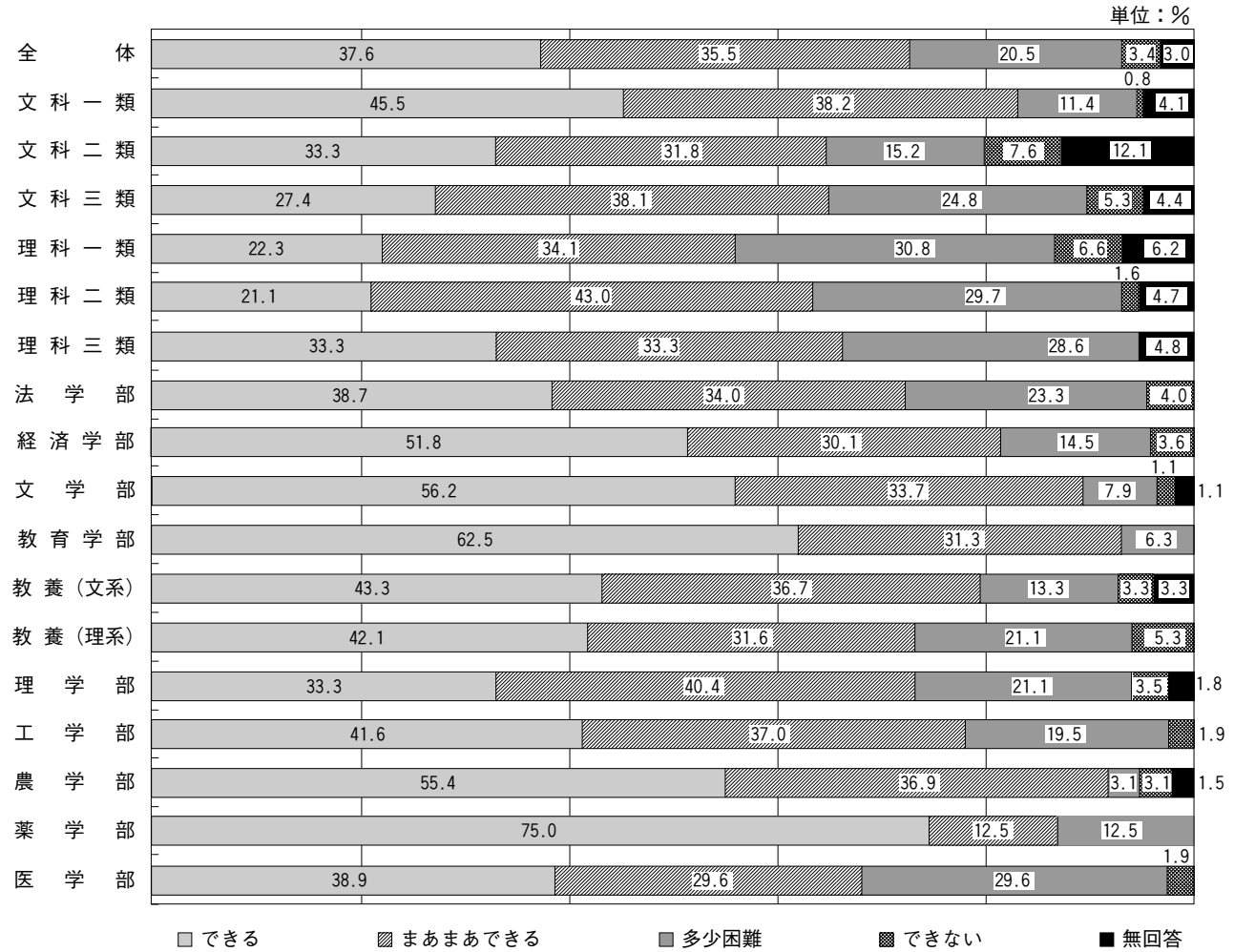


図14ー2　現在のカリキュラムは消化できますか



Ⅷー４．学部卒業後の進路等について

> 文科系は就職希望者がほぼ半数、理科系では進学希望者が６割を超える
> 進学希望者では、文科系は博士課程までがほぼ半数、理科系は修士課程までが６割を超える
> 主な進学の理由第１位は、「高度の専門知識・技術を身につけるため」

学部卒業後、どのような進路を予定しているかについては「進学する」41.2％、「就職する」31.5％、「まだわからない」22.7％で、前回調査より「進学する」が3.9ポイント減少し、「就職する」が2.9ポイント、「まだわからない」が0.9ポイント増加している。文科系と理科系の比較では、「進学する」は理科系64.1％に対し文科系16.4％、「就職する」は文科系49.9％、理科系14.5％と割合が逆転している（図15、資料１－Ⅷ－11表）。

進学予定者のうち「大学院修士課程」までが62.1％、「大学院博士課程」までが36.5％となっている。ただし、文科系は「博士課程」までを48.2％、理科系では「修士課程」までを65.6％の学生が希望している（資料１－Ⅷ－12表）。

大学院へ進学する理由としては（２つまで選択可）、「高度の専門知識・技術を身につけるため」が77.1％で最も多く、次いで「将来研究者になるため」46.0％、「良い就職先を得るため」19.2％、「まだ社会に出たくないから」18.2％と続き、前回調査と同順となっている（図16、資料１－Ⅷ－１３表）。

図15　学部卒業後の進路

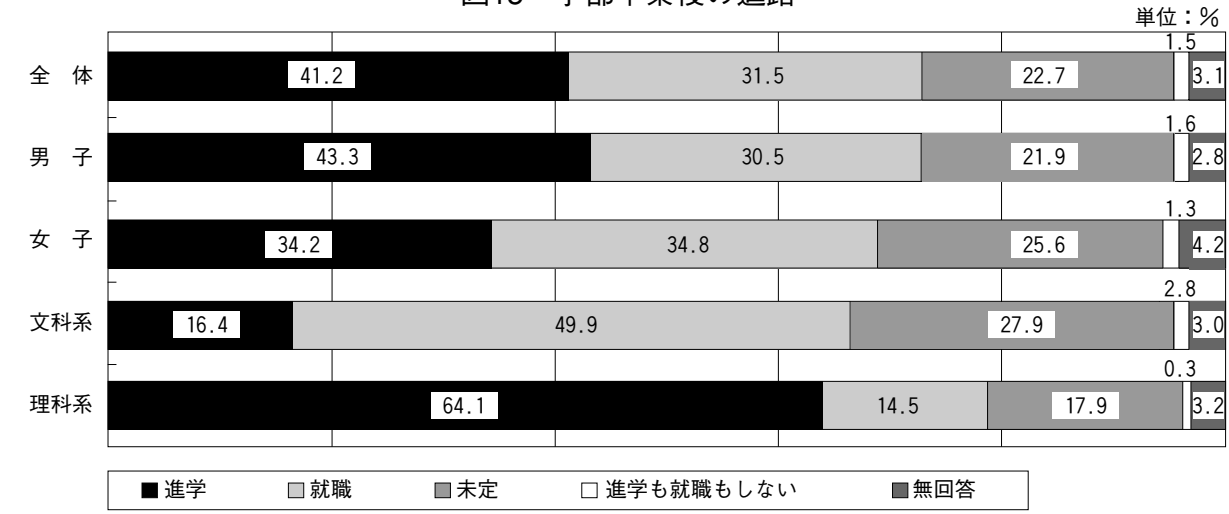
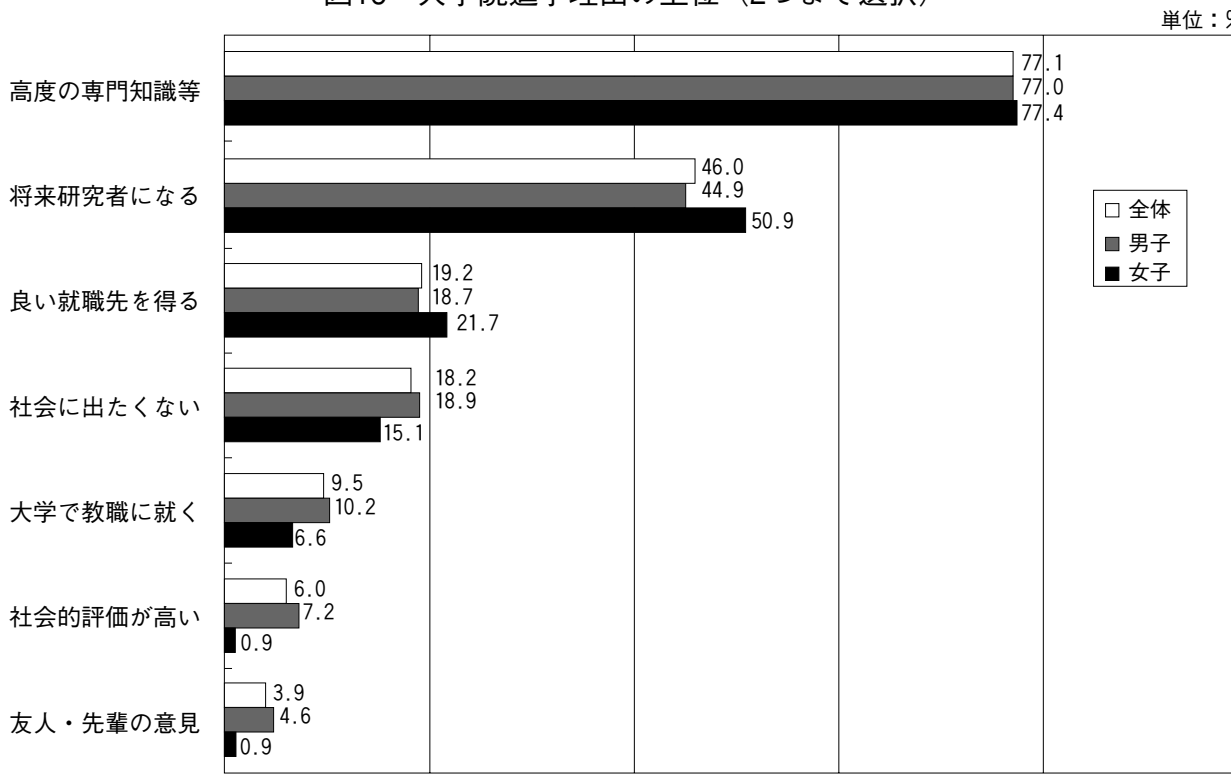


図16　大学院進学理由の上位（2つまで選択）



Ⅸ．教科外学習

教科外に何かを学んでいる31.0％
最も力を入れて学んでいるのは「法律」30.7％、「外国語」21.0％、「音楽・美術」16.2％
その46.9％が「各種学校・カルチャーセンター等」で学ぶ
費用は月額で23,600円

31.0％の学生が、本学の授業以外で何かを学んだり習ったりしている。これを男女別にみると、男子は28.8％、女子は38.7％で、前回調査（2000年（第50回））と比較すると、全体で0.8ポイント、男子で0.1ポイント、女子で3.1ポイント増えている。(図17、資料１－Ⅸ－１表)

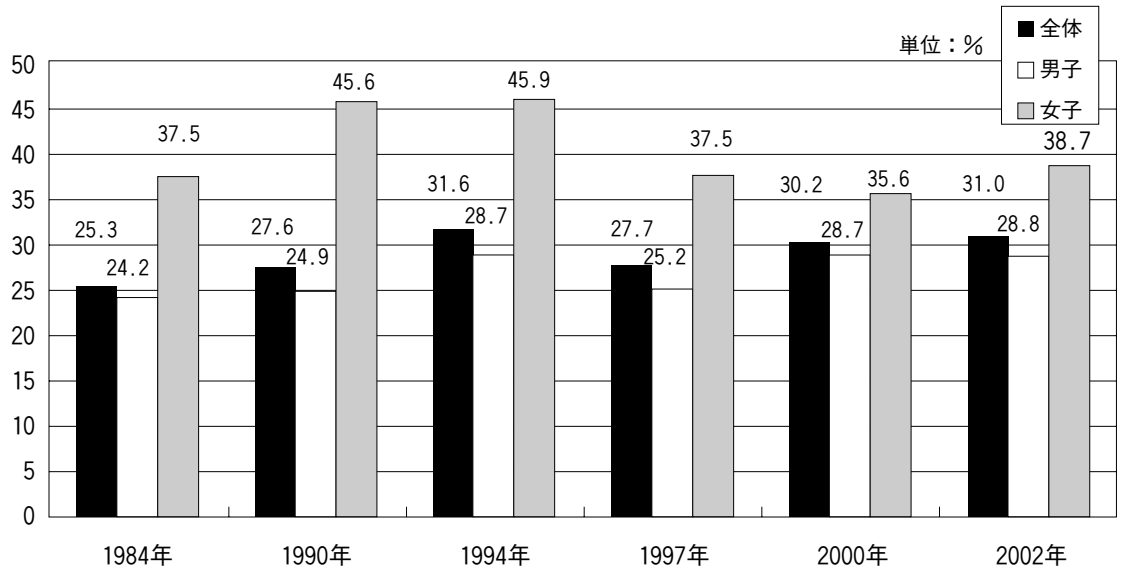
最も力を入れて学んだり習ったりしているものの上位は、「法律」30.7％、「外国語」21.0％、「音楽・美術」16.2％となっている。また、「法律」は男女ともに文科系が理科系より、「外国語」「音楽・美術」は理科系が文科系より高い割合を示している（資料１－Ⅸ－２表)。

その方法は、前回調査と同様、「各種学校・カルチャーセンター等」(前回調査では「学校・塾等」）が46.9％を占め、以下「個人授業」13.9％、「学内外のサークル」11.5％と続いている（資料１－Ⅸ－３表)。

それを始めた理由では、「資格取得のため」が26.8％で最も多く、次いで「趣味を楽しむため」19.9％、「将来進みたい分野で役に立ちそうだから」16.6％と続き、前回調査と同順となっている（資料１－Ⅸ－４表)。

なお、教科外学習の費用（月額）は、23,600円（男子24,700円、女子20,800円）で、前回調査と比べると1,200円の増額（男子は同額、女子は4,700円の増額）となっている（資料１－Ⅸ－５表)。

図17　教科外学習の有無の推移



Ｘ．旅行・スポーツ

海外旅行先は（３つまで選択可）、「アジア」「西ヨーロッパ」「北アメリカ」の順
旅行の形態は、海外旅行は「友人と」、国内旅行は「サークルの合宿等」が第１位
現在しているスポーツは（３つまで選択可）、「テニス」20.4％、「ボディビル・筋力トレーニング」18.2％、「サッカー」17.5％が上位
「御殿下記念館（本郷）」を利用した学生の91.8％が満足

Ｘ－１．海外旅行

大学入学後の海外旅行の経験については、「ある」が36.8％で、「ない」が62.9％となっている。海外旅行経験のある学生を男女別に見ると、男子が33.9％、女子が47.0％となっている。また、課程別では、前期課程の21.4％に対し、後期課程では50.7％で前期課程の２倍強、文理別では、理科系の30.4％に対し、文科系では43.6％で理科系の1.5倍弱となっている（資料１－Ｘ－１表）。

旅行先は（３つまで選択可）、「アジア」56.3％、「西ヨーロッパ」39.2％、「北アメリカ」29.2％に集中している。また、前回調査では、「アジア」と「西ヨーロッパ」が同率（43.5％）であったものが、今回「アジア」が12.8ポイント上がり、「西ヨーロッパ」が4.3ポイント下がっている（図18、資料１－Ｘ－２表）。

旅行の目的は（２つまで選択可）、「観光」が83.0％で圧倒的に多く、「家族や親戚・友人の訪問」19.5％、「語学研修」16.2％と続いている（資料１－Ｘ－３表）。

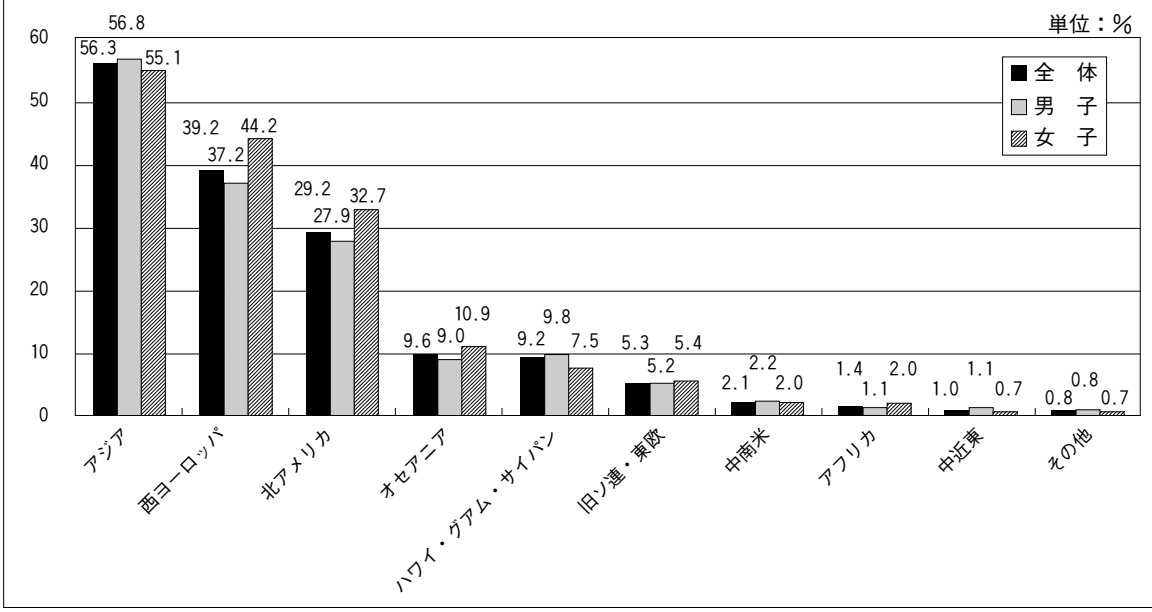
旅行の形態は（２つまで選択可）、「友人と旅行をした」57.1％、「家族と旅行をした」31.8％、「１人で旅行をした」29.6％、「団体旅行に参加した」15.2％の順で、全ての形態で女子が男子を上回っている（資料１－Ｘ－４表）。

Ｘ－２．国内旅行

2002年４月から９月末までの間に一泊以上の国内旅行（帰省を除く）をした学生は75.1％で、前回（1994年）調査（71.6％）を3.5ポイント上回っている。また、旅行回数で最も多いのは、「２回」で21.4％、以下「１回」が20.7％、「３回」が14.1％と続いている（資料１－Ｘ－５表）。

旅行の形態は（２つまで選択可）、「サークルの合宿や試合に参加した」60.4％、「友人と旅行をした」43.0％、「家族と旅行をした」17.2％、「１人で旅行をした」13.3％の順となっているが、とくに、「サークルの合宿や試合に参加した」と答えた前期課程学生は71.9％で、後期課程学生49.8％を22.1ポイント上回っている（資料１－Ｘ－６表）。

図18　主たる海外旅行先（3つまで選択可）



Ｘ－3．スポーツ

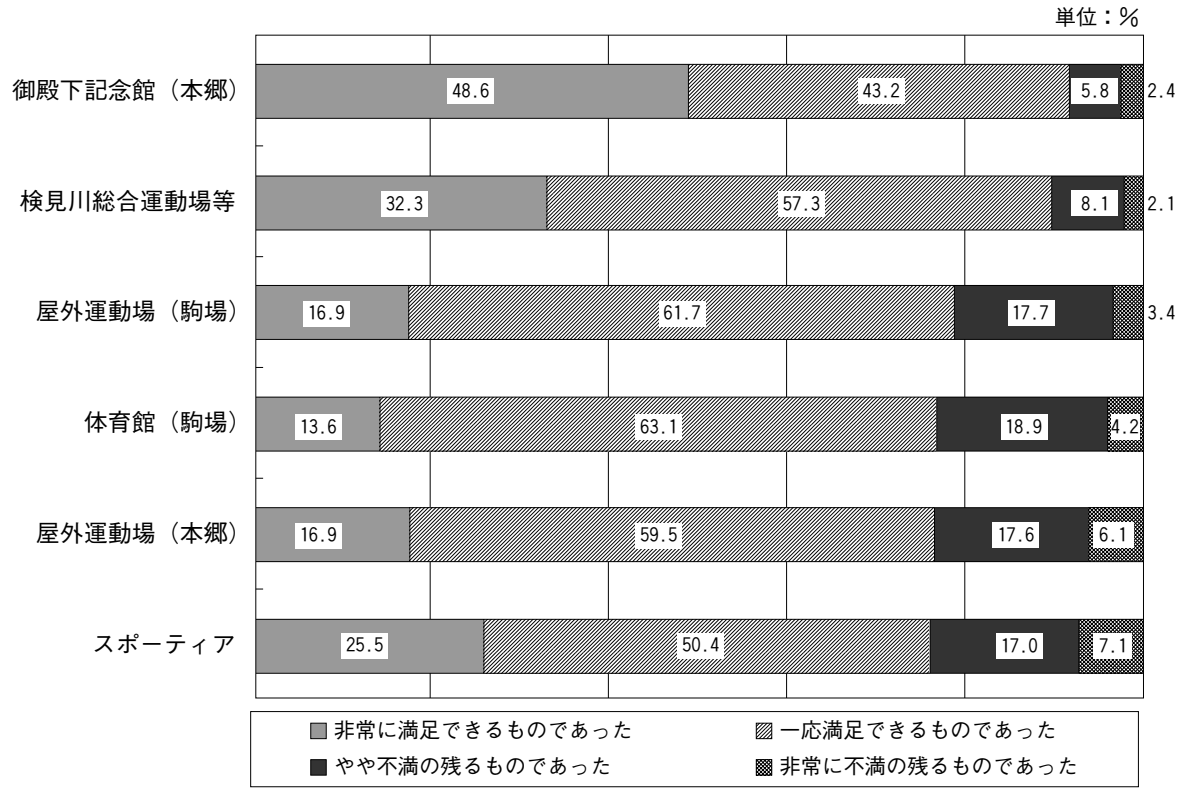
スポーツをしている学生は、「サークル活動でしている」が35.3％、「自主的にしている」が18.7％、「体育の授業でしているが、他にはしていない」が14.5％で合わせて68.5％となる。また、男・女、前・後期課程の比較では男子70.7％が女子61.0％を9.7ポイント上回り、前期課程81.1％が後期課程57.2％を23.9ポイント上回っている（資料１－Ｘ－７表）。

スポーツをしている週当たりの回数は、「週１回」が45.3％、「週２回」が19.4％であり、週３回以上は35.0％となっている（資料１－Ｘ－８表）。

現在しているスポーツは（３つまで選択可）、「テニス」が20.4％、「ボディビル・筋力トレーニング」が18.2％、「サッカー」が17.5％で上位となっているが、前回調査で20.5％あった「スキー」が僅か3.0％に落ち込んでいる（資料１－Ｘ－９表）。

本学の次の各施設を授業以外で利用したことがある学生は、「御殿下記念館（本郷）」38.2％、「屋外運動場（テニスコート、野球場を含む）（本郷）」21.2％、「屋外運動場（テニスコート、野球場を含む）（駒場）」38.2％、「体育館（駒場）」40.6％、「検見川総合運動場・検見川セミナーハウス」31.0％、「スポーティア（戸田寮、山中寮、下賀茂寮、谷川寮、乗鞍寮）」10.1％で、それらの施設を利用して総じて「満足できるものであった」と答えた学生は、「御殿下記念館（本郷）」が91.8％、「屋外運動場（テニスコート、野球場を含む）（本郷）」が76.4％、「屋外運動場（テニスコート、野球場を含む）（駒場）」が78.6％、「体育館（駒場）」が76.7％、「検見川総合運動場・検見川セミナーハウス」が89.6％、「スポーティア（戸田寮、山中寮、下賀茂寮、谷川寮、乗鞍寮）」が75.9％で、全ての施設の利用度は高くはないが、利用後の満足度は高い割合を示している（図19、資料１－Ｘ－10～11表）。

図19　本学施設の満足度



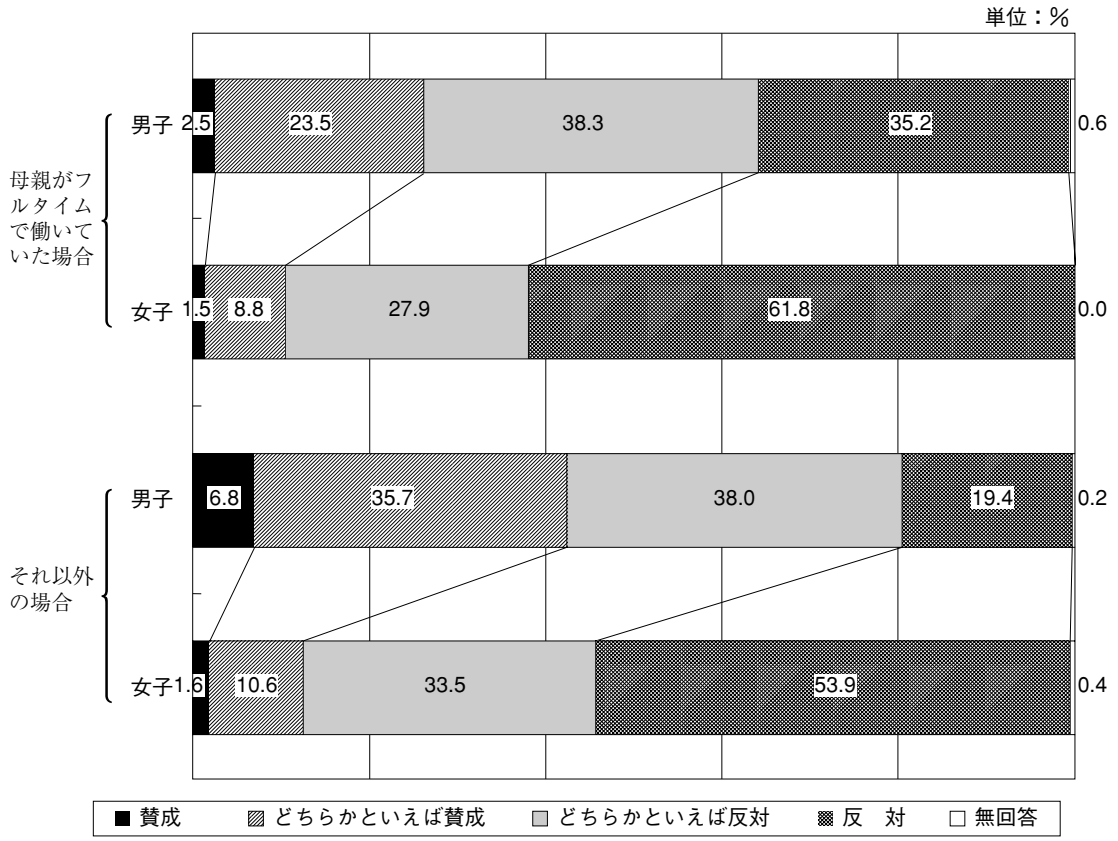
XI．性・ジェンダー観

ジェンダー観については、顕著な男女差。従来の性役割分業を完全に否定する女子と、それに比べれば保守的な男子。性観念については、男女とも「お互いに愛情があれば性交渉もかまわない」が多くを占めた。

出身校についての質問では、男子は男子校出身者の数が共学校出身者を13.3ポイント上回るのに対し、女子は共学校出身者のほうが女子高出身者より22.3ポイント多く、女子のほうが共学校出身の傾向が強いといえる（資料１－XI－１表）。

高校生の時点での母親の職業についての質問では、母親が専業主婦だった家庭は男子では43.1％、女子では40.9％と大きな差は見られなかった。労働力調査で40代女性の労働力率が、70％前後であることを考えると、東京大学の学生の出身家庭が、専業主婦を持つような大都市部上層中産階級に多いことがわかる。母親がフルタイム、パートタイムに関わらず働いていた割合も両者とも約47％と変わらなかった。しかしそのうち母親がフルタイム労働をしていた割合を見てみると男子は15.0％だったのに対し女子では21.7％であり、女子のほうが母親が仕事に専念する姿を見て育った傾向が強い（資料１－XI－２表）。

図20　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについて



以下の質問項目ではすべて全国データと対比させるために、既存の調査における質問を使用した。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という性別役割分業についての質問に対する回答に関しては全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査2002年７月）では男女で10ポイント程度の差にとどまったのに対し、はっきりした男女差がみられた。女子に関しては、反対は（「どちらかというと反対」を含む）約90％近くに上り男子より圧倒的に多く、全国調査の女子の51.1％をも大きく上回っている。母親がフルタイム労働者でなかった女子は「どちらかといえば反対」という回答が33.5％とやや多く、自分の母親をロールモデルにできないことによって生じる戸惑いがうかがえる。一方男子においては、全国調査(51.3%)よりやや低い率(39.8％)ではあるものの女子と比較して性別役割分業を肯定する回答が多く見られた。20代男女の全国平均が38.9％であり、これに近い数値といえる。また母親がフルタイム労働者でなかった男子においては肯定する傾向が特に顕著だった（図20、資料１－XI－３表)。

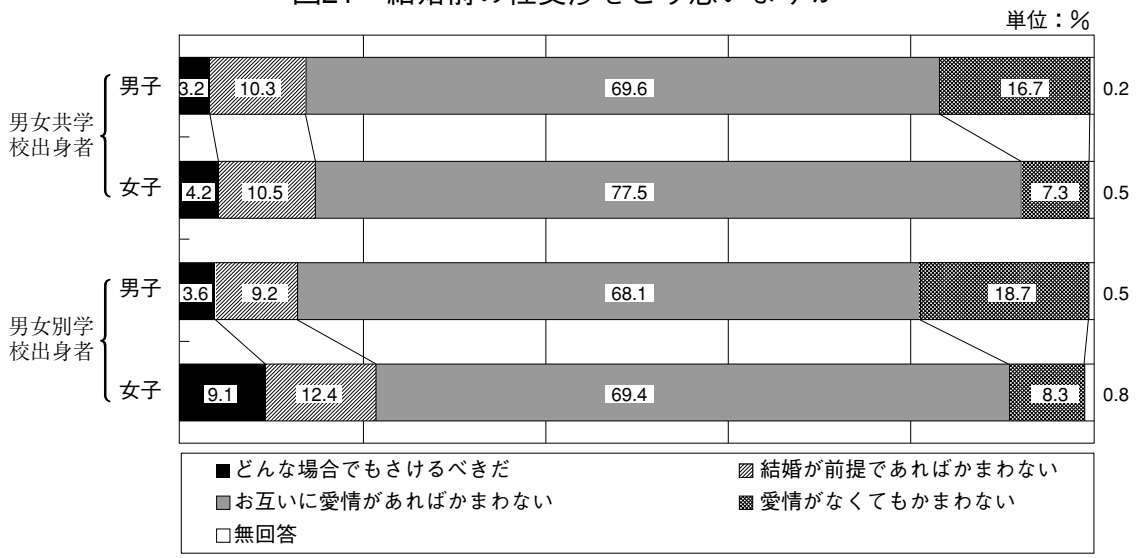
男性の家庭と仕事に関する質問は、男性のライフスタイルを問うた全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査2000年９月）をベースにしたものである。男女ともに仕事より家庭を優先、または家事に専念という回答は比較的低かったものの、母親がフルタイム労働者でなかった女子に関してはほぼゼロに近いほど低かった。逆に母親がフルタイム労働者であった男性に関しては7.4％と比較的高く、家庭におけるロールモデルの有無が大きく影響していることがうかがわれる。また仕事と家庭の両立という回答に関しては女子では78.3％にのぼり、全国調査の20代女性60.1％を大きく上回る。

これに対し男子では両立派が52.5％と男女差が大きいだけでなく、仕事優先、仕事に専念という回答も併せて41.4％を占め、全国調査の20代男性の33.6％を上回っている。男子においては日本の平均的な若者以上に、仕事中心の考え方が根強く残っているということができる（資料１－XI－４表)。

女性が職業をもつことについての質問では、「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」という回答が全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査2002年７月）では男女とも約38％でほとんど差がみられなかったのに対し、本調査では男女差が大きくみられた。男子で36.2％と20代男女の全国平均(37.2％)と同程度なのに対して、女子では62.6％にのぼる。特に母親がフルタイム労働者の女子（72.1％）と母親がフルタイム労働者でなかった男子（33.3％）の間には二倍以上の差があった。一方、母親がフルタイム労働者であった男子ではこの回答は52.5％となっており、ここでもまたロールモデルの重要性があらわれている。また母親がフルタイム労働者ではなかった男子では、「女性は結婚するまでは職業を持つほうがいい」という回答が7.0％あり、前述の二項目の結果と同じく性別役割分業の観念が根強く残っていることを示している（資料１－XI－５表)。

結婚前の性交渉に関する質問では、男女とも「お互いに愛情があればかまわない」という回答が約七割近くを占め、最も多かった。さらに男女を共学出身者、別学出身者に分けて見てみると（図21)、「どんな場合でも避けるべきだ」との回答が女子別学出身者では5ポイント多く、婚前交渉に対する抵抗感が若干強いのに対し、女子共学出身者においては「お互いに愛情があればかまわない」という回答が他を約7ポイント近く上回って77.5％となっており、日常生活における異性との接触の影響が性観念に現れている。また共学、別学出身を問わず、男子においては「愛情がなくてもかまわない」という回答が二割弱を占め、女子を約10ポイント、全国調査（第５回世界青年意識調査1993）を約15ポイントほど上回っている。全国調査とは時間差があるので、これが時代の変遷によるものか、東大生の特殊性によるものかは特定できないが、男子においては性と人格を切り離して考えることに対し比較的抵抗感が少ないことがうかがわれる(図21、資料１－XI－６表)。

図21　結婚前の性交渉をどう思いますか



XII．就職

第１位に挙げた就職希望職種は「大学・官公庁の教育・研究職」24.8％
第１位に挙げた希望職種に就きたい理由は「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」37.1％
第１位に挙げた仕事や職場を選ぶ際に重視することは「やりがいがある」49.2％

どのような職業に就きたいかの問に対し、第１位に挙げられたものは、前回調査（2001年（第51回）と同様「大学・官公庁の教育・研究職」が24.8％で最も多く、これに「企業等の研究職」14.1％、「教育職（大学を除く）」1.1％、を合わせた教育・研究職を望む学生は、前回調査と比較して3.7ポイント減の40.0％である。また、「教育・研究職」を除くと、「専門職（医師、弁護士、公認会計士等）」が21.7％、「行政職（公務員）」が12.0％で続いている。特に理科系は「大学・官公庁の教育・研究職」を望む学生が男子34.0％、女子25.8％と文科系よりかなり多く、文科系は「専門職」が男子で31.7％、女子で29.0％と理科系よりかなり多い。理科系では「大学・官公庁の教育・研究職」、「企業等の研究職」と研究職志向が高い。文科系では「専門職」「行政職（公務員）」に次いで、「大学・官公庁の教育・研究職」となっている。（図22、資料１－XII－１表）。

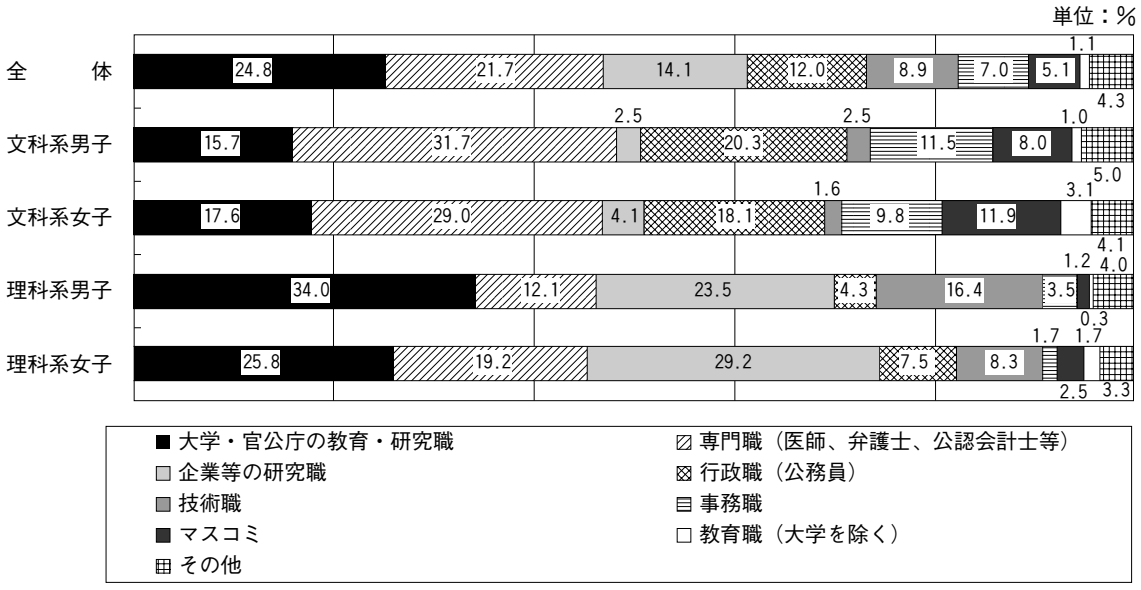
その職業に就きたい理由の問に対し第１位に挙げられたものも前回調査と同様「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」が37.1％で最も多く、「人を助けたり社会に奉仕する」20.8％、「安定した生活が保証されている」9.5％、「独創性や創造性を発揮できる」9.3％が続き、前回調査と同順となっている（資料１－XII－２表）。

仕事や職場を選ぶ際に重視するものとしては、「やりがいがある」が49.2％で、「能力が発揮できる」14.5％、「給料がよい」9.6％、「技術や知識を身につけられる」7.1％と続き、前回調査と同順となっている（資料１－XII－３表）。

就職活動としては、「インターネット等で、情報を収集する」39.1％、「企業等のセミナーや説明会に参加する」22.2％、「職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する」16.8％、「就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する」11.6％と続き、前回調査と同順となっている（資料１－XII－４表）。

就職する場所としては、前回調査と同様に「東京圏（東京近郊）を希望する」が55.1％と過半数を超え、前回を0.7ポイント上回った。男女別では、男子の53.6％に対して女子が60.4％で６割を超えている（資料１－XII－５表）

図22　第１位に挙げた就職希望職種



XIII．大学への要望

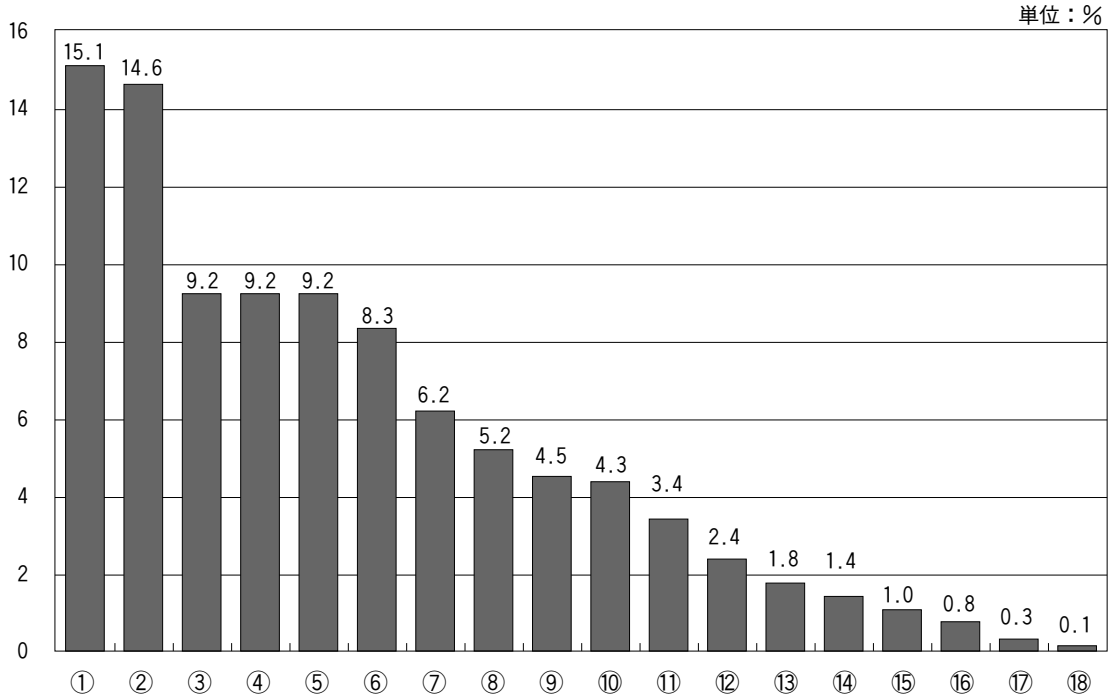
「授業の方法の工夫・改善」が第１位、「カリキュラムの改革」が第２位、「小人数教育の充実」「進学振分け制度の改善」「教室・実験室の充実」が続く

第１位に挙げた大学への要望や期待することは、「授業の方法の工夫・改善」15.1％で、続いて「カリキュラムの改革」14.6％、「小人数教育の実施」9.2％、「進学振分け制度の改善」9.2％、「教室・実験室の充実」9.2％、「教育スタッフの充実」8.3％と順位は若干異なるが前回調査（2001年（第51回））同様上位となっている。

学部・科類別の第１位に挙げた要望を見てみると、文科一類・理科三類・経済学部・教養学部（文系）が「授業の方法の工夫・改善」を、文科二類・理科一類・理学部・医学部が「カリキュラムの改革」を、文科三類・理科二類が「進学振分け制度の改善」を、法学部は「小人数教育の実施」を、文学部が「談話室・学生控室の充実」を、教育学部は同率で「図書館の充実」と「就職対策の充実」を、教養学部（理系）・工学部・農学部が「教室・実験室の充実」を、薬学部が「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」をそれぞれ第１位に挙げている。

上位の選択肢を前回調査と比較すると、「授業の方法の工夫・改善」が1.1ポイント減、「カリキュラムの改革」が0.8ポイント増、「小人数教育の実施」が0.7ポイント減、「進学振分け制度の改善」は同率、「教室・実験室の充実」が1.7ポイント増、「教育スタッフの充実」が0.4ポイント増となっている。（図23、資料１－XIII表）。

図23　第1位に挙げた大学への要望や期待



①授業の方法の工夫・改善　②カリキュラムの改革　③小人数教育の実施　④進学振分け制度の改善
⑤教室・実験室の充実　⑥教育スタッフの充実　⑦単位認定や学年試験を緩やかに　⑧図書館の充実
⑨奨学金等の拡充や増額　⑩談話室・学生控室の充実　⑪就職対策の充実　⑫課外活動諸施設の拡充
⑬体育施設の充実　⑭キャンパスの拡大・移転・統合　⑮単位認定や学年試験を厳しく　⑯福利厚生施設の充実
⑰学生自治の尊重　⑱学生自治に対する適切な助成と助言

特 殊 分 析

1．調査のねらい

今年度の特殊分析は、学生の心身の健康状態について取り上げた。健康状況、不安・悩みについては、過去の本調査でも数年おきに調べており、今回は1998年、2001年の本調査との比較を試みた。また、今年度調査の具体的記述事項として、『「こころの悩み」についてどのような考えを持っているか、また悩みを持つ人がいた場合、社会または個人としてどのような対応をしたらよいと思うか』という質問を行い主な回答を取り上げた。本分析と合わせて、その結果を参照していただきたい。

2．心身の健康状態

⑴ 健康状態

今回の調査では、健康状態について6項目について尋ね、「健康状態」「朝食」「喫煙」「健康維持・増進のために心がけていること」の４項目について1998年の調査と比較した（資料１－Ⅶ－１，２，４，６表)。「健康状態」は、「非常に良好」、「良好」を合わせた数は変化がないものの、内訳として「非常に良好」は7ポイント程減少している。「朝食」を「ほぼ毎日食べる」は1.8ポイント減、「ときどき食べる」は3.2ポイント減、「ほとんど食べない」は5.2ポイント増と、1998年に比べ朝食を食べない傾向にやや動いていることが分かる。喫煙者率は12%と全国平均の30%を大幅に下回るが、全国平均が低下傾向にあるなか、前回からほぼ横ばいという結果となった。「健康維持・増進のために心がけていること」では、「栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している」が、6.6ポイント減であるのに対し、「栄養剤、栄養飲料を取っている」が、5.3ポイント増となっている。栄養のバランスは考えるものの、食事の内容よりはむしろ、最近手軽に手に入るようになったサプリメントなどから栄養素を摂取する人が増えたのかもしれない。

⑵ 日常生活における心身の状態

ここでは、日常生活における設問に「よくあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」の回答を設け調査を行った。一部の設問において1998年の本調査の結果と同一のものを用い比較した（資料１－Ⅶ－７表)。この結果「こころから楽しいと感じるときがある」という質問では、1998年の調査では、「よくあてはまる」が60.8%だったのに対し、今回の調査では45.0%と急減した。一方「ややあてはまる」は24.4%から36.5%に急増している。あてはまると回答した合計は約80%を占め前回とあまり差がないものの「こころから楽しいと感じるとき」は確実に減少している。「朝起きて夜眠る生活のリズムが乱れている」、「いつも頭がぼんやりしている」では、「全くあてはまらない」が減少し、「あまりあてはまらない」が増加する傾向にあるようだ。全体的にみても1998年の結果と比べて、「よくあてはまる」「全くあてはまらない」という回答が減少し、「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」という回答が増加する傾向があり、断定的な回答を避ける傾向が見て取れる。「大学入学前後を比べ、自分の成長を感じる」との設問に関しては、前期課程から後期課程に移行するに従い「よくあてはまる」「ややあてはまる」が68%から79%へと増加しているものの、全体として20%程度の学生が自身の成長に関してやや否定的な主観をもつことが分った。

⑶ 不安・悩み

不安や悩みの程度について資料１－Ⅶ－８表に示すように10項目の質問を設け2001年の本調査の結果と比較した。最も「よく悩む」という回答が多かったのは、「将来の進学や生き方」で全体の39.2%を占めたが2001年の本調査と比較すると、6.8ポイントも減少している。全ての設問において、「よく悩む」は減少しているが、これはこの１年の世相の変化をポジティブに受け取っている者が多いということなのだろうか。不安や悩みの対処法としては、「趣味・スポーツなどで気を紛らわす」が23.9%と最も多く、続いて「友達と雑談などで気を紛らわす」が19.9%、「他人に相談する」が14.6%となった(資料１－Ⅶ－９表)。不安や悩みの相談相手として、学内・学外を合わせ、友達・知人との答えが全体の約半分を占めている。「父親」、「母親」を比較すると圧倒的に母親が多い。興味深いのは「恋人」に相談する割合の高さであり、特に学年の進んだ後期女子では回答数の36%に達する。一方で「大学の教官・職員」「メル友、インターネット上の友人」「カウンセラー、精神科医」はいずれも0.3～0.4%と不安・悩みの相談相手として、距離感があることが分る。(資料１－Ⅶ－10表)

3．「こころの悩み」

今回具体的記述事項に、『現代の日本社会における、ストレス、無気力状態（アパシー)、対人不安、摂食障害などのいわゆる「こころの悩み」についてあなたは、どのような考えを持っていますか。また、身近（家族、友達、恋人）にこのような悩みを持つ人がいた場合、社会または個人としてどのような対応をしたらよいと思いますか。』という設問を設けた。「基本的に高次な贅沢な悩み」、「甘えすぎ」などといった厳しい意見も一部見られたもの、「こころの悩み」は「誰もが持っている」、「誰でも経験することがあるので、もたないようがんばる必要はない」など、「こころの悩み」は人生において必然であるという寛容な意見が多数をしめた。「アパシーは、人間の普通の精神活動の産物であってそれを病理とみて押し込めようとする社会の意識が問題」など、「こころの悩み」それ自身が問題ではなく、それに対する周囲の対応が問題の根源との認識が多かった。社会もしくは個人としての対応としては、「悩みを聞いてあげること」、「家族が本人のために良い住環境を整え、相談相手になるべき」「本を勧める」など自分もしくは身近な人に相談するべきという意見、「専門医の相談を受けるべき」、「自分と向かい合いじっくり考えること」など

専門的なカウンセリングを受けるなどして、自分で回答する方向を示す意見が多くあがった。一方でどのように対応するべきか「分からない」という意見も少なくはなく、「こころの悩み」について誰にでもおこるものと理解しているものの、多くの学生にとって現実感は希薄であるような印象を受けた。

資　料　1

集　計　表

ここでは、「調査票」のそれぞれの設問項目と、所要な基本項目とのクロス集計を行ったものを一括して順次掲載した。また、比較のため1994年（第44回）・2000年（第50回）・2001年（第51回）調査で、今回調査と同じ設定をしている調査項目の数値を、適宜、各集計表の中で（　）内に示した。

表の見方

1．百分率（パーセント）表示については、小数点第一位までを有効数字として算出した。
2．作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。
「全体」‥‥‥‥‥‥回答者全員の比率を示す。
「自宅」‥‥‥‥‥‥自宅通学者（親と同居）の者を示す。
「自宅外」‥‥‥‥‥賃貸マンション、アパート、下宿、学寮、他寮を一括して示す。
「東大学寮」‥‥‥‥本学の学生寮、三鷹国際学生宿舎の居住者を示す。
「その他の寮」‥‥‥地方公共団体等が設置した学生寮の居住者を示す。
「前期課程」‥‥‥‥１、２年生を示す。
「後期課程」‥‥‥‥３、４年生（医学部医学科・農学部獣医学課程は５，６年生を含む。）を示す。
「文科系」「理科系」‥在籍する学部、学科等により二つの系に区分したものを示す。

Ⅰ－１表　課　程

区　分		前期課程		後期課程		合　計	
2001年調査		人	%	人	%	人	%
（51回）		(468)	(49.7)	(474)	(50.3)	(942)	(100.0)
全　体		662	47.5	733	52.5	1,395	100.0
男　子		503	46.5	579	53.5	1,082	77.6
女　子		159	50.8	154	49.2	313	22.4
男子	文科系	202	42.3	275	57.7	477	44.1
	理科系	301	49.8	304	50.2	605	55.9
女子	文科系	100	51.8	93	48.2	193	61.7
	理科系	59	49.2	61	50.8	120	38.3

Ⅰ－２表　出身高校

区　分	国立（大学附属）	公　立	中高一貫型の私立	その他の私立	大学入学資格検定	外国学校	その他	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
（51回）	(8.7)	(37.9)	(49.2)	(3.4)	(—)	(—)	(0.7)	(0.1)	(942)	(100.0)
全　体	11.8	33.3	50.3	3.3	0.2	0.9	0.2	—	1,395	100.0
男　子	10.9	32.8	52.5	3.0	0.2	0.4	0.3	—	1,082	100.0
女　子	15.0	34.8	42.8	4.5	0.3	2.6	—	—	313	100.0
現　役	12.5	29.4	53.8	3.0	0.2	0.8	0.2	—	965	100.0
１　浪	11.5	40.7	43.4	4.1	—	0.3	—	—	366	100.0
２浪以上	4.3	58.7	37.0	—	—	—	—	—	46	100.0
学士入学	—	33.3	33.3	33.3	—	—	—	—	3	100.0
その他	—	20.0	40.0	6.7	6.7	20.0	6.7	—	15	100.0
男女共学	16.3	59.7	18.5	3.5	0.2	1.5	0.3	—	658	100.0
男女別学	7.9	9.6	79.1	3.0	—	0.3	0.1	—	732	100.0

Ⅰ－３表　現役・浪人等

区分	現役		1浪		2浪以上		学士入学		その他		無回答		合計	
2001年調査	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
(51回)	(621)	(65.9)	(274)	(29.1)	(31)	(3.3)	(3)	(0.3)	(13)	(1.4)	(—)	(—)	(942)	(100.0)
全体	965	69.2	366	26.2	46	3.3	3	0.2	15	1.1	—	—	1,395	100.0
男子	744	68.8	285	26.3	43	4.0	2	0.2	8	0.7	—	—	1,082	100.0
女子	221	70.6	81	25.9	3	1.0	1	0.3	7	2.2	—	—	313	100.0

Ⅱ－１表　家庭の所在地（Ａ．地区）

区分	東京都	関東	北海道	東北	中部	近畿	中国	四国	九州沖縄	その他	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)	(22.9)	(32.8)	(1.1)	(4.2)	(12.5)	(9.3)	(3.7)	(3.2)	(9.9)	(0.2)	(0.1)	(942)	(100.0)
全体	24.1	32.5	0.7	2.5	12.3	12.7	4.3	2.8	7.8	0.1	0.1	1,395	100.0
男子	22.9	32.6	0.8	2.5	10.9	14.6	4.4	2.6	8.4	0.1	0.1	1,082	77.6
女子	28.1	32.3	0.3	2.6	16.9	6.1	3.8	3.5	5.8	0.3	0.3	313	22.4

Ⅱ－２表　家庭の所在地（Ｂ．都市規模）

区分	大都市	中都市	小都市	郡部	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	人	%
(51回)	(35.0)	(43.1)	(12.2)	(8.9)	(0.7)	(942)	(100.0)
全体	38.4	43.0	11.2	7.2	0.2	1,395	100.0
男子	38.1	42.3	11.5	7.9	0.2	1,082	77.6
女子	39.3	45.4	10.2	4.8	0.3	313	22.4

Ⅱ－３表　主たる家計支持者

区分	父	母	本人	兄弟姉妹	祖父母	配偶者	だれと一口にはいえない	その他	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)	(91.5)	(4.4)	(0.3)	(0.2)	(0.5)	(—)	(2.4)	(0.5)	(0.1)	(942)	(100.0)
全体	90.4	4.9	0.5	0.1	0.3	0.1	2.9	0.6	0.1	1,395	100.0
男子	90.4	5.5	0.6	0.1	0.3	—	2.4	0.6	0.1	1,082	77.6
女子	90.4	3.2	—	—	0.3	0.6	4.8	0.6	—	313	22.4

Ⅱ－４表　主たる家計支持者の職業

区分		専門的、技術的職業	教育的職業	管理的職業	事務	販売	農・林・漁業	生産工程・採掘作業	運輸・通信・保安・サービス	無職	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(17.4)	(12.8)	(43.0)	(8.3)	(4.5)	(0.7)	(4.2)	(5.4)	(2.7)	(0.6)	(0.3)	(942)	(100.0)
全体		16.8	10.2	47.0	6.2	3.9	0.7	4.5	4.4	3.6	0.1	2.4	1,395	100.0
男子		16.4	9.7	46.2	6.8	4.3	0.7	5.3	4.5	3.5	0.2	2.4	1,082	77.6
女子		18.5	11.8	49.8	4.2	2.9	0.6	1.9	3.8	3.8	—	2.6	313	22.4
男子	文科系	13.0	9.6	48.6	8.0	4.4	0.6	5.9	3.8	2.9	0.4	2.7	477	34.2
	理科系	19.0	9.8	44.3	6.0	4.1	0.8	4.8	5.1	4.0	—	2.1	605	43.4
女子	文科系	17.1	16.1	47.7	3.6	3.1	1.0	2.1	3.1	4.1	—	2.1	193	13.8
	理科系	20.8	5.0	53.3	5.0	2.5	—	1.7	5.0	3.3	—	3.3	120	8.6
男子	自宅	17.6	6.3	55.5	5.7	3.0	—	2.0	4.0	3.6	—	2.4	506	36.3
	分譲マンション	28.6	14.3	47.6	9.5	—	—	—	—	—	—	—	21	1.5
	賃貸マンション(バスつき)	13.8	12.2	42.0	7.9	5.7	1.7	7.2	3.8	3.3	0.5	1.9	419	30.0
	アパート(バスなし)	20.6	5.9	26.5	8.8	5.9	—	11.8	5.9	5.9	—	8.8	34	2.4
	下宿	13.6	27.3	31.8	—	—	—	13.6	9.1	4.5	—	—	22	1.6
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	12.5	16.7	—	16.7	12.5	4.2	25.0	12.5	—	—	—	24	1.7
	その他の寮	21.3	14.9	25.5	6.4	4.3	—	8.5	10.6	2.1	—	6.4	47	3.4
	その他	—	—	57.1	—	—	—	—	14.3	28.6	—	—	7	0.5
	無回答	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.1
女子	自宅	17.1	9.8	59.8	1.2	1.8	—	0.6	2.4	4.9	—	2.4	164	11.8
	分譲マンション	33.3	—	66.7	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.2
	賃貸マンション(バスつき)	20.2	15.6	38.5	5.5	3.7	0.9	4.6	5.5	2.8	—	2.8	109	7.8
	アパート(バスなし)	20.0	20.0	20.0	—	—	20.0	—	—	—	—	20.0	5	0.4
	下宿	20.0	—	40.0	—	—	—	—	40.0	—	—	—	5	0.4
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	—	12.5	37.5	37.5	12.5	—	—	—	—	—	—	8	0.6
	その他の寮	28.6	7.1	42.9	14.3	7.1	—	—	—	—	—	—	14	1.0
	その他	20.0	20.0	40.0	—	—	—	—	—	20.0	—	—	5	0.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

Ⅱ－5表　主たる家計支持者の年収分布

（無回答を除く）

区分		350万円未満	350万円～450万円未満	450万円～550万円未満	550万円～650万円未満	650万円～750万円未満	750万円～850万円未満	850万円～950万円未満	950万円～1050万円未満	1050万円～1150万円未満	1150万円～1250万円未満	1250万円～1350万円未満	1350万円～1450万円未満	1450万円～1550万円未満	1550万円以上	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(6.4)	(4.2)	(5.9)	(5.8)	(7.5)	(9.8)	(6.1)	(23.1)	(3.0)	(8.6)	(3.4)	(1.2)	(5.0)	(9.9)	(826)	(100.0)
全体		6.3	3.8	4.8	7.7	5.7	9.4	5.8	22.6	3.8	9.0	3.7	1.9	5.0	10.6	1,197	100.0
男子		7.3	4.3	4.6	8.2	5.8	10.0	5.7	22.2	3.3	8.8	3.8	1.5	4.9	9.6	931	77.8
女子		2.6	1.9	5.6	6.0	5.3	7.5	6.0	23.7	5.3	9.8	3.4	3.4	5.3	14.3	266	22.2
男子	自宅	5.1	3.2	4.8	4.8	3.9	9.0	4.4	24.7	5.1	11.1	4.1	2.3	6.2	11.3	434	36.3
	分譲マンション	—	5.3	10.5	15.8	—	5.3	—	10.5	—	10.5	5.3	—	5.3	31.6	19	1.6
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	6.8	3.5	3.5	10.0	6.2	11.6	8.1	22.7	2.4	7.6	3.8	1.1	4.9	7.8	370	30.9
	アパート(バスなし)	23.1	7.7	7.7	11.5	11.5	—	7.7	19.2	—	3.8	—	—	—	7.7	26	2.2
	下宿	5.3	10.5	5.3	21.1	10.5	10.5	—	21.1	—	10.5	5.3	—	—	—	19	1.6
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	31.8	27.3	9.1	18.2	4.5	4.5	—	4.5	—	—	—	—	—	—	22	1.8
	その他の寮	16.7	5.6	5.6	11.1	19.4	19.4	5.6	11.1	—	—	2.8	—	—	2.8	36	3.0
	その他	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—	3	0.3
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	2	0.2
女子	自宅	3.5	1.4	2.8	3.5	4.3	2.1	3.5	23.4	5.0	13.5	4.3	5.0	8.5	19.1	141	11.8
	分譲マンション	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	33.3	3	0.3
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	1.1	2.2	7.8	7.8	3.3	15.6	7.8	26.7	6.7	4.4	3.3	1.1	2.2	10.0	90	7.5
	アパート(バスなし)	—	—	—	—	—	—	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	3	0.3
	下宿	—	—	20.0	20.0	20.0	—	—	20.0	—	20.0	—	—	—	—	5	0.4
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	—	—	50.0	—	33.3	—	16.7	—	—	—	—	—	—	—	6	0.5
	その他の寮	—	—	—	23.1	15.4	15.4	7.7	15.4	7.7	7.7	—	—	—	7.7	13	1.1
	その他	20.0	20.0	—	—	—	—	20.0	40.0	—	—	—	—	—	—	5	0.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

Ⅱ－6表　主たる家計支持者の職業別にみた年収平均（単位：十万円）

（無回答を除く）

区分	専門的技術的職業		教育的職業		管理的職業		事務		販売		農・林・漁業		生産工程採掘作業		運輸・通信保安・サービス		無職		分類不能		事例数		主たる家計支持者の年収中央値	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数		
2001年調査(51回)	(115.65)	(148)	(96.67)	(109)	(117.15)	(353)	(65.74)	(70)	(69.31)	(36)	(38.33)	(6)	(58.72)	(36)	(61.43)	(46)	(69.58)	(19.0)	(62.67)	(3)	(100.22)	(826)	全体	1,000
全体	120.11	208	94.58	119	114.65	580	69.48	79	72.57	46	78.89	9	62.07	58	72.27	51	38.10	39	22.50	2	101.57	1,197	男子	1,000
男子	17.71	154	91.53	89	114.05	442	68.40	68	68.55	40	81.25	8	61.21	53	68.33	40	30.58	31	22.50	2	98.83	931	女子	1,040
女子	126.96	54	103.63	30	116.57	138	76.18	11	99.33	6	60.00	1	71.20	5	86.64	11	67.25	8	—	—	111.14	266		

Ⅲ－１表　支出額（１ヶ月平均、単位：千円）

区分		衣料費		食費		住居費		勉学費		教養・娯楽費		通学費		雑費		支出額合計	
		平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
2001年調査(51回)		(10.73)	(794)	(26.90)	(904)	(67.22)	(485)	(10.08)	(862)	(15.07)	(891)	(7.58)	(731)	(12.92)	(868)	(114.76)	(909)
全体		11.31	1,175	26.50	1,345	68.40	675	10.12	1,282	15.65	1,319	7.70	1,102	12.49	1,274	113.14	1,354
男子		9.82	890	27.51	1,043	67.21	536	10.14	992	15.97	1,020	7.66	847	12.18	985	112.72	1,050
女子		15.95	285	23.01	302	72.98	139	10.07	290	14.58	299	7.85	255	13.55	289	114.59	304
自宅		11.21	565	17.36	640	—	—	9.66	602	15.67	631	9.95	580	9.48	599	69.22	648
自宅外		11.40	610	34.79	705	68.20	673	10.53	680	15.64	688	5.21	522	15.16	675	153.46	706
無回答		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
男子	自宅	9.46	417	17.83	483	—	—	9.20	454	15.96	476	9.92	440	8.98	451	67.49	489
	自宅外	10.14	473	35.86	560	66.96	534	10.93	538	15.98	544	5.22	407	14.87	534	152.15	561
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	11.00	18	36.60	20	65.63	8	18.85	20	15.85	20	5.88	17	10.88	17	121.70	20
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	10.62	349	36.60	407	74.46	400	10.78	388	15.53	398	5.01	281	15.76	394	162.81	409
	アパート(バスなし)	8.00	26	32.15	33	55.67	33	8.48	33	16.68	31	4.93	28	15.32	31	136.85	33
	下宿	5.76	17	33.05	22	63.58	19	13.95	21	14.14	22	8.47	17	11.77	22	138.18	22
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	8.77	22	33.63	24	9.61	23	10.54	24	23.36	22	4.84	19	9.32	22	95.21	24
	その他の寮	7.86	35	32.89	46	41.07	46	9.39	44	16.48	44	5.35	40	11.65	40	119.16	45
	その他	19.17	6	46.29	7	62.50	4	10.57	7	18.00	6	5.80	5	19.00	7	147.57	7
	無回答	—	—	18.00	1	45.00	1	5.00	1	20.00	1	—	—	10.00	1	98.00	1
女子	自宅	16.13	148	15.92	157	—	—	11.07	148	14.79	155	10.06	140	10.97	148	74.53	159
	自宅外	15.76	137	30.68	145	72.98	139	9.02	142	14.35	144	5.17	115	16.26	141	158.52	145
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	11.67	3	33.33	3	50.50	2	9.00	3	10.00	3	4.67	3	17.33	3	119.67	3
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	16.64	101	32.45	106	78.22	103	9.14	104	15.48	106	5.47	78	17.47	102	169.61	106
	アパート(バスなし)	12.75	4	23.80	5	78.40	5	15.50	4	12.20	5	7.50	4	16.60	5	159.60	5
	下宿	17.00	5	20.00	5	75.75	4	9.00	5	14.00	5	5.00	4	8.60	5	133.20	5
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	15.14	7	28.38	8	9.75	8	8.88	8	10.43	7	4.00	8	13.13	8	86.50	8
	その他の寮	13.92	12	24.38	13	69.77	13	7.08	13	11.31	13	3.92	13	13.46	13	142.77	13
	その他	6.80	5	29.00	5	76.50	4	6.60	5	9.00	5	4.00	5	10.40	5	127.00	5
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※平均値の算出は該当者平均を求めた(無回答を除く)

Ⅲ－２表　収入額（１ヶ月平均、単位：千円）

区分		家庭からの仕送り・小遣い		奨学金		アルバイト・雑収入		収入額合計	
		平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
2001年調査(51回)		(84.82)	(839)	(52.24)	(207)	(45.30)	(622)	(121.71)	(905)
全体		81.63	1,259	53.81	297	46.66	929	119.46	1,357
男子		81.13	976	53.54	249	47.75	702	120.05	1,050
女子		83.35	283	55.21	48	43.26	227	117.44	307
自宅		32.33	565	48.96	69	48.44	496	70.72	644
自宅外		121.77	694	55.28	228	44.61	433	163.48	713
無回答		—	—	—	—	—	—	—	—
男子	自宅	31.51	430	47.57	58	48.20	367	69.70	486
	自宅外	120.21	546	55.35	191	47.27	335	163.43	564
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	100.71	21	77.00	3	46.67	12	138.38	21
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	130.98	404	55.02	123	48.19	249	174.40	412
	アパート(バスなし)	99.86	29	61.69	13	43.28	18	139.91	32
	下宿	105.55	20	73.17	6	57.56	9	139.45	22
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	59.90	20	46.44	18	60.40	10	114.70	23
	その他の寮	76.52	44	53.43	28	37.31	32	130.91	46
	その他	132.86	7	—	—	32.50	4	151.43	7
	無回答	100.00	1	—	—	50.00	1	150.00	1
女子	自宅	34.93	135	56.27	11	49.13	129	73.85	158
	自宅外	127.52	148	54.89	37	35.52	98	163.66	149
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	106.67	3	—	—	30.00	1	116.67	3
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	136.75	108	54.64	25	36.93	76	173.78	109
	アパート(バスなし)	156.00	5	—	—	41.50	2	172.60	5
	下宿	84.00	5	100.00	1	40.00	2	120.00	5
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	64.13	8	59.00	6	34.40	5	129.88	8
	その他の寮	109.36	14	40.75	4	29.89	9	140.21	14
	その他	108.00	5	48.00	1	13.33	3	125.60	5
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

Ⅳ－１表　現在の居住地

区分		足立区 葛飾区 荒川区	江戸川区 江東区 墨田区	台東区 文京区 豊島区	千代田区 中央区 港区	板橋区 練馬区 北区	中野区 杉並区 新宿区	世田谷区 渋谷区 目黒区	品川区 大田区	東京都 (23区外)	横浜市	川崎市	神奈川県	さいたま 川口 蕨 の各市	埼玉県	千葉 船橋 市川 習志野 の各市	千葉県	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(1.6)	(2.1)	(16.2)	(1.9)	(9.1)	(10.8)	(14.3)	(2.9)	(14.6)	(5.7)	(2.5)	(3.7)	(2.3)	(5.1)	(3.0)	(3.3)	(0.4)	(0.2)	942	(100.0)
全体		2.1	1.3	16.5	1.4	8.5	10.5	15.0	1.9	14.8	7.6	3.8	3.2	2.4	4.2	3.2	2.8	0.8	0.1	1,395	100.0
男子		2.1	1.3	16.9	1.2	8.8	10.1	14.1	2.0	15.0	7.3	3.9	3.2	2.7	4.5	3.1	3.0	0.6	0.1	1,082	77.6
女子		1.9	1.3	15.0	1.9	7.7	12.1	17.9	1.3	14.4	8.6	3.5	3.2	1.3	2.9	3.5	2.2	1.3	—	313	22.4
自宅		1.9	1.8	2.2	2.2	6.4	6.9	7.3	3.1	14.9	14.3	6.3	6.7	4.6	7.3	6.4	5.7	1.6	0.1	670	48.0
自宅外		2.2	0.8	29.7	0.6	10.5	13.9	22.1	0.7	14.8	1.4	1.5	—	0.3	1.2	0.3	0.1	—	—	725	52.0
無回答		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
男子	自宅	1.8	1.8	2.0	2.0	5.5	6.5	7.5	3.4	14.6	13.8	6.5	6.9	5.3	8.1	6.5	6.1	1.4	0.2	506	36.3
	自宅外	2.4	0.9	30.0	0.5	11.6	13.2	20.0	0.9	15.3	1.6	1.6	—	0.3	1.4	0.2	0.2	—	—	576	41.3
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
女子	自宅	2.4	1.8	3.0	3.0	9.1	7.9	6.7	2.4	15.9	15.9	5.5	6.1	2.4	4.9	6.1	4.3	2.4	—	164	11.8
	自宅外	1.3	0.7	28.2	0.7	6.0	16.8	30.2	—	12.8	0.7	1.3	—	—	0.7	0.7	—	—	—	149	10.7
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前期課程	自宅	2.2	1.2	1.9	2.8	5.6	6.5	8.7	2.2	15.8	14.6	5.0	8.1	4.0	8.1	5.9	5.6	1.9	—	322	23.1
	自宅外	—	0.6	12.1	0.3	3.5	17.9	33.8	0.6	25.6	2.4	2.4	—	—	0.9	—	—	—	—	340	24.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後期課程	自宅	1.7	2.3	2.6	1.7	7.2	7.2	6.0	4.0	14.1	14.1	7.5	5.5	5.2	6.6	6.9	5.7	1.4	0.3	348	24.9
	自宅外	4.2	1.0	45.2	0.8	16.6	10.4	11.7	0.8	5.2	0.5	0.8	—	0.5	1.6	0.5	0.3	—	—	385	27.6
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

Ⅳ－２表　現在の住居区分

（自宅外のみ）

区分		分譲マンション	賃貸マンション・アパート（バスつき）	アパート（バスなし）	下宿	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	その他の寮	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
（51回）		(2.0)	(72.7)	(6.5)	(3.1)	(5.3)	(9.2)	(1.2)	(—)	(510)	(100.0)
全体		3.3	72.8	5.4	3.7	4.4	8.4	1.7	0.3	725	100.0
男子		3.6	72.7	5.9	3.8	4.2	8.2	1.2	0.3	576	79.4
女子		2.0	73.2	3.4	3.4	5.4	9.4	3.4	—	149	20.6
男子	前期課程	3.5	65.5	7.0	4.3	7.4	10.9	1.6	—	258	35.6
	後期課程	3.8	78.6	5.0	3.5	1.6	6.0	0.9	0.6	318	43.9
女子	前期課程	1.2	58.5	2.4	6.1	9.8	15.9	6.1	—	82	11.3
	後期課程	3.0	91.0	4.5	—	—	1.5	—	—	67	9.2
男子	文科系	3.2	76.4	5.6	3.2	4.0	7.2	0.4	—	250	34.5
	理科系	4.0	69.9	6.1	4.3	4.3	8.9	1.8	0.6	326	45.0
女子	文科系	2.1	71.9	3.1	5.2	4.2	10.4	3.1	—	96	13.2
	理科系	1.9	75.5	3.8	—	7.5	7.5	3.8	—	53	7.3

Ⅳ－３表　通学に利用している交通機関（「第１位のみの集計」）

区分		電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
（51回）		(78.3)	(0.2)	(—)	(0.5)	(16.9)	(3.8)	(—)	(0.2)	(942)	(100.0)
全体		77.5	0.2	0.1	2.0	16.4	1.9	0.1	1.8	1,395	100.0
男子		75.6	0.3	0.2	2.6	17.9	1.7	0.1	1.7	1,082	77.6
女子		84.0	—	—	—	11.2	2.9	—	1.9	313	22.4
男子	前期課程	86.3	0.4	—	1.4	8.9	1.4	0.2	1.4	503	36.1
	後期課程	66.3	0.2	0.3	3.6	25.7	1.9	—	1.9	579	41.5
女子	前期課程	88.1	—	—	—	7.5	3.1	—	1.3	159	11.4
	後期課程	79.9	—	—	—	14.9	2.6	—	2.6	154	11.0
（第２位）全体		9.5	5.2	2.5	0.9	25.7	—	0.1	56.1	1,395	100.0

Ⅳ－４表　通学所要時間

区分		平均時間	事例数
2001年調査		分	人
（51回）		(48.4)	(942)
全体		49.0	1,395
男子		48.4	1,082
女子		50.8	313
自宅		68.5	670
自宅外		31.0	725
男子	自宅	68.3	506
	自宅外	31.0	576
女子	自宅	69.2	164
	自宅外	30.6	149

片道、単位：分

Ｖ－１表　奨学金を受けていますか

区　　分	受けている	受けたいが受けられなかった	受けたくない	受ける必要がない	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	人	%
(51回)	(22.9)	(17.7)	(5.0)	(54.0)	(0.3)	(942)	(100.0)
全　　体	21.7	14.8	4.9	57.1	1.4	1,395	100.0
男　　子	23.3	13.5	5.4	56.7	1.2	1,082	77.6
女　　子	16.3	19.5	3.5	58.8	1.9	313	22.4

Ｖ－２表　「奨学金を受けたいが受けられなかった」又は「奨学金を受けたくない」と答えた理由

区　　分	事務手続が煩雑だから	掲示等に気がつかなかった	書類を期限までに整えられなかった	出願はしたが採用されなかった	貸与なので申請しなかった	資格がない	その他	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)	(14.0)	(10.7)	(5.1)	(24.8)	(21.5)	(22.0)	(1.9)	(—)	(214)	(100.0)
全　　体	10.5	13.0	4.3	21.4	25.7	22.5	2.5	—	276	100.0
男　　子	12.7	10.3	4.4	22.1	27.0	20.1	3.4	—	204	73.9
女　　子	4.2	20.8	4.2	19.4	22.2	29.2	—	—	72	26.1

Ｖ－３表　受領している奨学金の内訳

区　　分	日本育英会第一種奨学金	日本育英会第二種奨学金・きぼう21プラン奨学金	日本育英会第一種と二種の併用又はきぼう21プラン奨学金の併用	育英会と財団・地方公共団体の併用	財団・地方公共団体等の奨学金	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)	(37.5)	(31.5)	(1.9)	(14.8)	(13.4)	(0.9)	(216)	(100.0)
全　　体	35.6	31.4	4.6	9.2	18.8	0.3	303	100.0
男　　子	36.1	30.2	4.4	9.1	19.8	0.4	252	83.2
女　　子	33.3	37.3	5.9	9.8	13.7	—	51	16.8

Ｖ－４表　奨学金はどんな面で役立っていますか　（２つまで選択）

区　　分	家庭の経済的負担が軽減される	多少ともゆとりのある生活ができる	アルバイトが軽減される	奨学金があるので生活が成り立っている	定期的な収入があるので助かる	その他	無回答	事例数
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	人
(51回)	(81.0)	(26.9)	(25.0)	(28.7)	(16.7)	(2.3)	(0.5)	(216)
全　　体	77.6	34.0	17.5	32.0	19.8	3.0	0.3	303
男　　子	78.2	34.1	17.5	32.5	19.4	3.2	0.4	252
女　　子	74.5	33.3	17.6	29.4	21.6	2.0	—	51

Ｖ－５表　奨学金の主たる支出目的(用途)　（３つまで選択）

区　　分	生活費（衣・食・住居費）	授業料	勉学費	その他	教養・娯楽費	旅行（帰省旅行も含む	技術・資格等取得の費用	耐久消費財購入費用	貯　金	無回答	事例数
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
(51回)	(76.9)	(32.4)	(47.7)	(43.1)	(8.3)	(7.9)	(7.4)	(18.1)	(—)	(0.5)	(216)
全　　体	77.9	30.0	61.7	49.2	9.9	6.3	9.2	14.5	2.0	0.3	303
男　　子	78.6	30.2	63.5	49.2	9.1	5.6	10.3	13.5	2.0	0.4	252
女　　子	74.5	29.4	52.9	49.0	13.7	9.8	3.9	19.6	2.0	—	51

Ⅵ－１表　過去一年間にアルバイトをしましたか

区分		継続的（1ヶ月以上）アルバイトをした	臨時的（1ヶ月未満）アルバイトをした	継続的＋臨時的アルバイトをした	しなかった	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	人	%
（51回）		（53.6）	（10.2）	（15.4）	（20.5）	（0.3）	（942）	（100.0）
全体		53.9	10.1	15.4	20.3	0.3	1,395	100.0
男子		54.3	10.4	13.3	21.6	0.3	1,082	77.6
女子		52.4	8.9	22.7	15.7	0.3	313	22.4
男子	前期課程	52.3	10.9	12.5	23.9	0.4	503	36.1
	後期課程	56.1	10.0	14.0	19.7	0.2	579	41.5
女子	前期課程	49.7	9.4	22.6	17.6	0.6	159	11.4
	後期課程	55.2	8.4	22.7	13.6	—	154	11.0
男子	自宅	59.9	8.1	13.8	18.0	0.2	506	36.3
	分譲マンション	52.4	4.8	14.3	28.6	—	21	1.5
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	52.0	13.1	10.3	24.1	0.5	419	30.0
	アパート（バスなし）	44.1	17.6	17.6	20.6	—	34	2.4
	下宿	31.8	4.5	18.2	45.5	—	22	1.6
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	25.0	16.7	16.7	41.7	—	24	1.7
	その他の寮	46.8	10.6	25.5	17.0	—	47	3.4
	その他	57.1	—	28.6	14.3	—	7	0.5
	無回答	100.0	—	—	—	—	2	0.1
女子	自宅	56.7	6.7	24.4	11.6	0.6	164	11.8
	分譲マンション	33.3	—	33.3	33.3	—	3	0.2
	賃貸ﾏﾝｼｮﾝ・ｱﾊﾟｰﾄ(ﾊﾞｽつき)	45.9	11.9	22.9	19.3	—	109	7.8
	アパート（バスなし）	60.0	—	20.0	20.0	—	5	0.4
	下宿	60.0	—	20.0	20.0	—	5	0.4
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	62.5	25.0	—	12.5	—	8	0.6
	その他の寮	42.9	7.1	21.4	28.6	—	14	1.0
	その他	60.0	20.0	—	20.0	—	5	0.4
	無回答	—	—	—	—	—	—	—

Ⅵ－２表　アルバイトの種類

（２つまで選択）

区分	家庭教師	塾講師	試験監督・採点	特殊技術を要すること	一般事務	販売・セールス・サービス業	肉体労働	宿直・警備	その他	無回答	事例数
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
（51回）	（48.4）	（32.8）	（9.7）	（5.4）	（10.1）	（25.6）	（13.1）	（1.6）	（5.1）	（—）	（746）
全体	50.3	29.6	11.1	6.9	8.7	25.5	11.6	1.7	6.8	0.1	1,108
男子	47.2	30.8	10.4	7.6	8.5	23.6	14.6	2.1	6.0	0.1	845
女子	60.1	25.9	13.3	4.6	9.1	31.6	2.3	0.4	9.1	—	263

Ⅵ－３表　アルバイト所要時間と収入金額

区分	アルバイト所要時間		アルバイト収入金額	
	１週間当りの平均時間	人数	１ヶ月当りの平均収入	人数
2001年調査	時間	人	千円	人
（51回）	（11.13）	（736）	（47.64）	（737）
全体	11.37	1,108	47.77	1,108
男子	11.49	845	48.21	845
女子	10.98	263	46.34	263

Ⅵ－４表　アルバイトの紹介者

（２つまで選択）

区　　分	大学の担当事務	大学の研究室	内外学生センター	新聞広告・アルバイト広告誌	インターネットで	友人・知人等	アルバイト先と直接	スーパー・銀行等の伝言板	その他	無回答	事例数
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
（51回）	(13.1)	(2.5)	(6.2)	(32.3)	(11.1)	(41.8)	(25.9)	(2.1)	(6.2)	(0.3)	(746)
全　　体	10.6	1.5	7.9	27.8	13.6	43.1	30.7	1.9	5.9	0.5	1,108
男　　子	10.8	1.8	7.7	27.5	13.7	44.0	29.1	1.5	5.3	0.6	845
女　　子	9.9	0.8	8.7	28.9	13.3	39.9	35.7	3.0	7.6	—	263

Ⅵ－５表　アルバイトの目的

区　　分	家庭の経済的負担を軽減するため	学生生活を楽しむため	社会経験のため	その他	無回答	事　例　数	
2001年調査	%	%	%	%	%	人	%
（51回）	(28.2)	(38.9)	(26.4)	(6.2)	(0.4)	(746)	(100.0)
全　　体	26.6	42.9	25.4	4.7	0.5	1,108	100.0
男　　子	27.1	43.9	24.0	4.4	0.6	845	76.3
女　　子	25.1	39.5	29.7	5.7	—	263	23.7

Ⅵ－６表　アルバイト収入の主たる使途

（２つまで選択）

区　　分	生活費（衣・食・住居費）	授業料	勉学費	教養・娯楽費	旅行（帰省旅行も含む）	技術・資格等取得の費用	耐久消費財購入費用	貯　金	その他	無回答	事例数
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
（51回）	(52.9)	(2.1)	(12.5)	(71.0)	(20.1)	(2.1)	(4.0)	(21.2)	(0.9)	(—)	(746)
全　　体	52.6	2.2	12.3	68.7	21.5	2.3	3.8	22.2	1.2	0.4	1,108
男　　子	53.0	2.7	12.1	70.9	18.8	1.9	4.4	21.1	1.4	0.5	845
女　　子	51.3	0.4	12.9	61.6	30.0	3.8	1.9	25.9	0.4	—	263

Ⅵ－７表　継続的アルバイトは勉強の妨げになりません（でした）か

区　　分	かなり妨げになった	多少妨げになった	妨げにならなかった	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	人	%
（51回）	(8.6)	(42.6)	(45.2)	(3.5)	(650)	(100.0)
全　　体	8.2	46.5	42.0	3.3	967	100.0
男　　子	8.5	43.9	44.3	3.4	732	75.7
女　　子	7.2	54.9	34.9	3.0	235	24.3

Ⅵ－８表　現在の暮らし向きについてどうお考えですか

区　　分	かなり楽な方	やや楽な方	普　通	やや苦しい方	大変苦しい方	分からない	無回答	事例数	
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	人	%
（51回）	(21.2)	(25.5)	(36.4)	(13.0)	(2.9)	(0.6)	(0.4)	(942)	(100.0)
全　　体	22.7	20.4	37.3	15.0	3.4	0.7	0.5	1,395	100.0
男　　子	22.4	20.2	37.2	15.4	3.3	0.9	0.5	1,082	77.6
女　　子	23.6	20.8	37.7	13.4	3.8	—	0.6	313	22.4

Ⅶ－１表　健康状態

区分		非常に良好	良好	やや悪い	悪い	無回答	事例数	
1998年調査		%	%	%	%	%	人	%
(48回)		(32.9)	(53.9)	(10.8)	(1.9)	(0.4)	(1,185)	(100.0)
全体		26.5	61.4	10.0	1.6	0.4	1,395	100.0
男子		28.8	60.2	9.1	1.6	0.4	1,082	77.6
女子		18.5	65.8	13.4	1.6	0.6	313	22.4
自宅		26.3	63.3	8.5	1.3	0.6	670	48.0
自宅外		26.8	59.7	11.4	1.8	0.3	725	52.0
男子	自宅	28.7	61.3	8.1	1.4	0.6	506	36.3
	自宅外	29.0	59.2	9.9	1.7	0.2	576	41.3
女子	自宅	18.9	69.5	9.8	1.2	0.6	164	11.8
	自宅外	18.1	61.7	17.4	2.0	0.7	149	10.7
男子	前期課程	27.2	63.0	8.2	1.0	0.6	503	36.1
	後期課程	30.2	57.7	9.8	2.1	0.2	579	41.5
女子	前期課程	16.4	64.2	17.6	1.3	0.6	159	11.4
	後期課程	20.8	67.5	9.1	1.9	0.6	154	11.0

Ⅶ－２表　朝食

区分		ほぼ毎日	ときどき	ほとんど食べない	無回答	事例数	
1998年調査		%	%	%	%	人	%
(48回)		(71.3)	(21.1)	(7.1)	(0.5)	(1,185)	(100.0)
全体		69.5	17.9	12.3	0.3	1,395	100.0
男子		65.8	19.8	14.2	0.2	1,082	77.6
女子		82.4	11.5	5.4	0.6	313	22.4
自宅		83.1	10.6	6.0	0.3	670	48.0
自宅外		57.0	24.7	18.1	0.3	725	52.0
男子	自宅	81.6	11.7	6.5	0.2	506	36.3
	自宅外	51.9	26.9	21.0	0.2	576	41.3
女子	自宅	87.8	7.3	4.3	0.6	164	11.8
	自宅外	76.5	16.1	6.7	0.7	149	10.7
男子	前期課程	68.2	19.1	12.5	0.2	503	36.1
	後期課程	63.7	20.4	15.7	0.2	579	41.5
女子	前期課程	83.6	10.7	5.0	0.6	159	11.4
	後期課程	81.2	12.3	5.8	0.6	154	11.0

Ⅶ－３表　お酒

区分		ほぼ毎日	週３・４回	週１・２回	ほとんど飲まない	無回答	事例数	
全体		%	%	%	%	%	人	%
		2.6	5.5	37.6	54.1	0.3	1,395	100.0
男子		3.0	6.6	39.7	50.6	0.2	1,082	77.6
女子		1.3	1.9	30.0	66.1	0.6	313	22.4
自宅		3.0	5.2	37.3	54.2	0.3	670	48.0
自宅外		2.2	5.8	37.8	53.9	0.3	725	52.0
男子	自宅	3.6	6.1	39.7	50.4	0.2	506	36.3
	自宅外	2.4	6.9	39.8	50.7	0.2	576	41.3
女子	自宅	1.2	2.4	29.9	65.9	0.6	164	11.8
	自宅外	1.3	1.3	30.2	66.4	0.7	149	10.7
男子	前期課程	2.4	3.2	39.0	55.3	0.2	503	36.1
	後期課程	3.5	9.5	40.4	46.5	0.2	579	41.5
女子	前期課程	0.6	0.6	26.4	71.7	0.6	159	11.4
	後期課程	1.9	3.2	33.8	60.4	0.6	154	11.0

Ⅶ－４表　喫煙

区分		１日20本以上	１日20本未満	ときどき吸う程度	全く吸わない	無回答	事例数	
1998年調査（48回）		%	%	%	%	%	人	%
		(1.5)	(3.1)	(7.6)	(87.3)	(0.5)	(1,185)	(100.0)
全体		1.5	5.5	4.7	88.0	0.3	1,395	100.0
男子		1.9	6.7	5.2	86.0	0.2	1,082	77.6
女子		—	1.3	3.2	94.9	0.6	313	22.4
自宅		1.0	6.7	4.0	87.9	0.3	670	48.0
自宅外		1.9	4.4	5.4	88.0	0.3	725	52.0
男子	自宅	1.4	8.3	4.5	85.6	0.2	506	36.3
	自宅外	2.4	5.4	5.7	86.3	0.2	576	41.3
女子	自宅	—	1.8	2.4	95.1	0.6	164	11.8
	自宅外	—	0.7	4.0	94.6	0.7	149	10.7
男子	前期課程	1.0	3.4	5.4	90.1	0.2	503	36.1
	後期課程	2.8	9.7	5.0	82.4	0.2	579	41.5
女子	前期課程	—	0.6	2.5	96.2	0.6	159	11.4
	後期課程	—	1.9	3.9	93.5	0.6	154	11.0

Ⅶ－５表　１日の平均睡眠時間

区分		４時間未満	４時間以上５時間未満	５時間以上６時間未満	６時間以上７時間未満	７時間以上	無回答	事例数	
全体		%	%	%	%	%	%	人	%
		1.8	7.1	24.1	38.3	28.5	0.3	1,395	100.0
男子		1.7	6.7	23.9	37.8	29.7	0.2	1,082	77.6
女子		2.2	8.3	24.6	39.9	24.3	0.6	313	22.4
自宅		1.5	9.4	28.2	36.6	24.0	0.3	670	48.0
自宅外		2.1	5.0	20.3	39.9	32.6	0.3	725	52.0
男子	自宅	1.2	8.9	27.7	36.0	26.1	0.2	506	36.3
	自宅外	2.1	4.9	20.7	39.4	32.8	0.2	576	41.3
女子	自宅	2.4	11.0	29.9	38.4	17.7	0.6	164	11.8
	自宅外	2.0	5.4	18.8	41.6	31.5	0.7	149	10.7
男子	前期課程	1.8	7.2	26.0	38.2	26.6	0.2	503	36.1
	後期課程	1.6	6.4	22.1	37.5	32.3	0.2	579	41.5
女子	前期課程	1.3	9.4	27.7	35.8	25.2	0.6	159	11.4
	後期課程	3.2	7.1	21.4	44.2	23.4	0.6	154	11.0

Ⅶ－６表　健康維持増進のために心がけていること

（２つまで選択）

区分		スポーツをしている	なるべく歩くなど体を動かすようにしている	自然・健康食品をとるように心がけている	栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している	栄養剤、栄養飲料をとっている	規則正しい生活をするように心がけている	健康診断を年１回以上受けている	特に心がけていることはない	その他	無回答	事例数
1998年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	人	人	
（48回）		(35.6)	(36.1)	(6.8)	(41.7)	(5.2)	(21.2)	(2.7)	(21.9)	(3.2)	(0.4)	(1,185)
全体		38.2	33.1	7.6	35.1	10.5	22.2	3.4	19.4	0.8	0.6	1,395
男子		41.6	31.9	6.7	33.6	9.6	20.4	3.6	20.9	0.8	0.6	1,082
女子		26.5	37.4	10.5	39.9	13.4	28.1	2.9	14.4	0.6	0.6	313
自宅		42.4	34.6	7.6	29.7	8.7	22.8	4.2	19.9	0.6	0.4	670
自宅外		34.3	31.7	7.6	40.0	12.1	21.5	2.8	19.0	1.0	0.7	725
男子	自宅	46.6	32.6	6.9	28.9	8.7	21.1	3.8	20.8	0.8	0.4	506
	自宅外	37.2	31.3	6.6	37.8	10.4	19.8	3.5	21.0	0.9	0.7	576
女子	自宅	29.3	40.9	9.8	32.3	8.5	28.0	5.5	17.1	—	0.6	164
	自宅外	23.5	33.6	11.4	48.3	18.8	28.2	—	11.4	1.3	0.7	149
男子	前期課程	45.3	27.4	7.8	29.8	10.5	20.9	1.6	21.7	1.6	1.0	503
	後期課程	38.3	35.8	5.9	37.0	8.8	20.0	5.4	20.2	0.2	0.2	579
女子	前期課程	31.4	33.3	9.4	39.6	16.4	28.9	1.9	11.3	1.3	0.6	159
	後期課程	21.4	41.6	11.7	40.3	10.4	27.3	3.9	17.5	—	0.6	154

2003. 12. 11 No.1277

Ⅶ－７表　日常生活における心身の状態

注：平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区　分	よく あてはまる	やや あてはまる	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
毎日が充実している	全　体	% 24.2	% 49.1	% 22.6	% 3.7	% 0.4	人 1,395	% 100.0	2.94
	男　子	23.6	48.0	24.0	4.2	0.3	1,082	77.6	2.91
	女　子	26.5	53.0	17.6	2.2	0.6	313	22.4	3.05
	自　宅	26.3	49.3	20.1	3.9	0.4	670	48.0	2.98
	自 宅 外	22.3	49.0	24.8	3.6	0.3	725	52.0	2.90
	前期課程	23.0	47.7	24.8	4.1	0.5	662	47.5	2.90
	後期課程	25.4	50.3	20.6	3.4	0.3	733	52.5	2.98

	区　分	よく あてはまる	やや あてはまる	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
こころから楽しいと感じるときがある	1998年調査	%	%	%	%	%	人	%	
	（48回）	（60.8）	（24.4）	（9.5）	（2.5）	（2.7）	（1,185）	（100.0）	（3.48）
	全　体	45.0	36.5	14.8	3.4	0.4	1,395	100.0	3.24
	男　子	43.7	36.0	16.0	4.0	0.3	1,082	77.6	3.20
	女　子	49.5	38.0	10.5	1.3	0.6	313	22.4	3.37
	自　宅	47.5	37.0	13.0	2.1	0.4	670	48.0	3.30
	自 宅 外	42.8	36.0	16.4	4.6	0.3	725	52.0	3.17
	前期課程	44.3	37.2	15.3	2.9	0.5	662	47.5	3.23
	後期課程	45.7	35.9	14.3	3.8	0.3	733	52.5	3.24

	区　分	よく あてはまる	やや あてはまる	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
大学入学前後を比べ、自分の成長を感じる	全　体	% 36.6	% 37.3	% 19.4	% 6.4	% 0.4	人 1,395	% 100.0	3.04
	男　子	36.7	37.2	19.2	6.6	0.3	1,082	77.6	3.04
	女　子	36.1	37.4	20.1	5.8	0.6	313	22.4	3.05
	自　宅	36.3	37.8	19.6	6.0	0.4	670	48.0	3.04
	自 宅 外	36.8	36.8	19.3	6.8	0.3	725	52.0	3.05
	前期課程	29.9	37.8	23.3	8.6	0.5	662	47.5	2.89
	後期課程	42.6	36.8	16.0	4.4	0.3	733	52.5	3.18

Ⅶ－７表　日常生活における心身の状態

注：平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

よく眠れて、朝は爽快な気分で目覚める	区　分	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
	1998年調査	%	%	%	%	%	人	%	
	(48回)	(15.4)	(31.2)	(37.6)	(13.1)	(2.7)	(1,185)	(100.0)	(2.50)
	全　体	9.7	29.5	43.7	16.7	0.4	1,395	100.0	2.32
	男　子	9.3	30.1	43.3	16.9	0.3	1,082	77.6	2.32
	女　子	10.9	27.5	45.0	16.0	0.6	313	22.4	2.33
	自　宅	9.9	28.7	46.3	14.8	0.4	670	48.0	2.34
	自宅外	9.5	30.3	41.4	18.5	0.3	725	52.0	2.31
	前期課程	8.9	27.2	45.3	18.1	0.5	662	47.5	2.27
	後期課程	10.4	31.7	42.3	15.4	0.3	733	52.5	2.37

朝起きて夜眠る生活のリズムが乱れている	区　分	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
	1998年調査	%	%	%	%	%	人	%	
	(48回)	(24.8)	(23.5)	(23.9)	(25.1)	(2.7)	(1,185)	(100.0)	(2.49)
	全　体	22.3	28.7	29.8	18.9	0.4	1,395	100.0	2.55
	男　子	24.7	28.7	28.5	17.9	0.3	1,082	77.6	2.60
	女　子	14.1	28.8	34.5	22.0	0.6	313	22.4	2.35
	自　宅	19.1	28.5	31.3	20.6	0.4	670	48.0	2.46
	自宅外	25.2	28.8	28.4	17.2	0.3	725	52.0	2.62
	前期課程	18.4	32.2	29.2	19.8	0.5	662	47.5	2.49
	後期課程	25.8	25.5	30.4	18.0	0.3	733	52.5	2.59

いつも頭がボンヤリしている	区　分	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
	1998年調査	%	%	%	%	%	人	%	
	(48回)	(4.2)	(16.8)	(38.3)	(38.0)	(2.7)	(1,185)	(100.0)	(1.87)
	全　体	2.9	23.1	49.5	24.2	0.4	1,395	100.0	2.05
	男　子	3.0	23.4	47.3	26.0	0.3	1,082	77.6	2.04
	女　子	2.2	22.0	57.2	17.9	0.6	313	22.4	2.09
	自　宅	2.5	21.5	51.2	24.3	0.4	670	48.0	2.02
	自宅外	3.2	24.6	48.0	24.0	0.3	725	52.0	2.07
	前期課程	3.0	22.4	50.5	23.7	0.5	662	47.5	2.05
	後期課程	2.7	23.7	48.7	24.6	0.3	733	52.5	2.05

Ⅶ－７表　日常生活における心身の状態

注：平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区　分	よく あてはまる	やや あてはまる	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
自分のしていることに自信がもてない	1998年調査	%	%	%	%	%	人	%	
	(48回)	(11.1)	(26.1)	(36.8)	(23.4)	(2.6)	(1,185)	(100.0)	(2.26)
	全　体	10.0	33.0	36.8	19.8	0.4	1,395	100.0	2.33
	男　子	9.2	31.7	37.3	21.4	0.3	1,082	77.6	2.29
	女　子	12.8	37.4	35.1	14.1	0.6	313	22.4	2.49
	自　宅	8.5	31.8	39.3	20.0	0.4	670	48.0	2.29
	自 宅 外	11.4	34.1	34.6	19.6	0.3	725	52.0	2.37
	前期課程	11.0	34.6	36.6	17.4	0.5	662	47.5	2.39
	後期課程	9.1	31.5	37.1	22.0	0.3	733	52.5	2.28

	区　分	よく あてはまる	やや あてはまる	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
自分の将来といっても現実感がない	1998年調査	%	%	%	%	%	人	%	
	(48回)	(24.5)	(31.9)	(25.7)	(15.3)	(2.6)	(1,185)	(100.0)	(2.67)
	全　体	16.8	36.5	29.9	16.5	0.4	1,395	100.0	2.54
	男　子	16.6	36.4	30.2	16.5	0.3	1,082	77.6	2.53
	女　子	17.3	36.7	28.8	16.6	0.6	313	22.4	2.55
	自　宅	14.8	36.6	30.0	18.2	0.4	670	48.0	2.48
	自 宅 外	18.6	36.4	29.8	14.9	0.3	725	52.0	2.59
	前期課程	21.8	37.3	26.7	13.7	0.5	662	47.5	2.67
	後期課程	12.3	35.7	32.7	19.0	0.3	733	52.5	2.41

	区　分	よく あてはまる	やや あてはまる	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答	事例数		平均値
		4	3	2	1				
自分が本当になにをやりたいのかわからない	1998年調査	%	%	%	%	%	人	%	
	(48回)	(18.1)	(30.9)	(28.0)	(20.4)	(2.6)	(1,185)	(100.0)	(2.48)
	全　体	15.4	31.0	30.4	22.8	0.4	1,395	100.0	2.39
	男　子	14.8	31.2	30.7	23.0	0.3	1,082	77.6	2.38
	女　子	17.6	30.4	29.4	22.0	0.6	313	22.4	2.44
	自　宅	13.4	31.8	31.6	22.7	0.4	670	48.0	2.36
	自 宅 外	17.2	30.3	29.2	22.9	0.3	725	52.0	2.42
	前期課程	19.0	33.2	27.5	19.8	0.5	662	47.5	2.52
	後期課程	12.1	29.1	33.0	25.5	0.3	733	52.5	2.28

Ⅶ－８表　悩み・不安の程度

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
勉学（成績・単位など）	2001年調査（51回）		% (21.8)	% (44.9)	% (22.0)	% (11.0)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.77)
	全体		20.4	40.9	26.1	12.5	0.1	1,395	100.0	2.69
	男子		18.3	40.3	26.2	15.1	0.1	1,082	77.6	2.62
	女子		27.5	42.8	25.6	3.8	0.3	313	22.4	2.94
	男子	前期課程	17.7	43.7	26.8	11.5	0.2	503	36.1	2.68
		後期課程	18.8	37.3	25.7	18.1	—	579	41.5	2.57
	女子	前期課程	31.4	44.7	22.6	1.3	—	159	11.4	3.06
		後期課程	23.4	40.9	28.6	6.5	0.6	154	11.0	2.82
	男子	文科系	19.3	39.8	27.5	13.4	—	477	34.2	2.65
		理科系	17.5	40.7	25.3	16.4	0.2	605	43.4	2.59
	女子	文科系	26.9	42.5	26.4	4.1	—	193	13.8	2.92
		理科系	28.3	43.3	24.2	3.3	0.8	120	8.6	2.97

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
学部進学や大学院進学	2001年調査（51回）		% (23.9)	% (35.0)	% (19.6)	% (21.1)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.61)
	全体		22.4	32.2	21.9	23.3	0.2	1,395	100.0	2.54
	男子		20.1	32.5	21.7	25.5	0.2	1,082	77.6	2.47
	女子		30.4	31.0	22.7	15.7	0.3	313	22.4	2.76
	男子	前期課程	22.5	40.2	23.1	14.1	0.2	503	36.1	2.71
		後期課程	18.0	25.9	20.6	35.4	0.2	579	41.5	2.26
	女子	前期課程	35.2	36.5	22.0	6.3	—	159	11.4	3.01
		後期課程	25.3	25.3	23.4	25.3	0.6	154	11.0	2.51
	男子	文科系	19.7	24.1	21.6	34.6	—	477	34.2	2.29
		理科系	20.3	39.2	21.8	18.3	0.3	605	43.4	2.62
	女子	文科系	30.6	28.5	23.3	17.6	—	193	13.8	2.72
		理科系	30.0	35.0	21.7	12.5	0.8	120	8.6	2.83

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
就職	2001年調査（51回）		% (29.0)	% (31.4)	% (23.8)	% (15.5)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.73)
	全体		26.8	33.7	24.0	15.3	0.2	1,395	100.0	2.72
	男子		25.3	33.5	24.2	16.7	0.2	1,082	77.6	2.68
	女子		31.9	34.2	23.3	10.2	0.3	313	22.4	2.88
	男子	前期課程	19.1	33.2	31.6	15.9	0.2	503	36.1	2.56
		後期課程	30.7	33.9	17.8	17.4	0.2	579	41.5	2.78
	女子	前期課程	25.2	34.0	31.4	9.4	—	159	11.4	2.75
		後期課程	39.0	34.4	14.9	11.0	0.6	154	11.0	3.02
	男子	文科系	35.0	35.0	15.7	14.3	—	477	34.2	2.91
		理科系	17.7	32.4	30.9	18.7	0.3	605	43.4	2.49
	女子	文科系	37.3	37.3	18.7	6.7	—	193	13.8	3.05
		理科系	23.3	29.2	30.8	15.8	0.8	120	8.6	2.61

Ⅶ－８表　悩み・不安の程度

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
将来の進路や生き方	2001年調査（51回）		% (46.0)	% (34.9)	% (13.4)	% (5.4)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(3.21)
	全体		39.2	39.6	15.2	5.9	0.1	1,395	100.0	3.12
	男子		37.5	39.8	15.7	6.8	0.1	1,082	77.6	3.08
	女子		45.0	38.7	13.4	2.6	0.3	313	22.4	3.27
	男子	前期課程	31.8	41.7	19.1	7.2	0.2	503	36.1	2.98
		後期課程	42.5	38.2	12.8	6.6	—	579	41.5	3.17
	女子	前期課程	42.1	40.3	15.1	2.5	—	159	11.4	3.22
		後期課程	48.1	37.0	11.7	2.6	0.6	154	11.0	3.31
	男子	文科系	44.9	37.1	11.3	6.7	—	477	34.2	3.20
		理科系	31.7	42.0	19.2	6.9	0.2	605	43.4	2.99
	女子	文科系	49.7	36.3	11.9	2.1	—	193	13.8	3.34
		理科系	37.5	42.5	15.8	3.3	0.8	120	8.6	3.1

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
友人との対人関係	2001年調査（51回）		% (14.6)	% (32.8)	% (37.7)	% (14.5)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.47)
	全体		13.3	30.9	39.6	16.1	0.1	1,395	100.0	2.41
	男子		12.8	30.5	39.2	17.4	0.1	1,082	77.6	2.39
	女子		14.7	32.3	41.2	11.5	0.3	313	22.4	2.50
	男子	前期課程	14.7	32.2	38.0	14.9	0.2	503	36.1	2.47
		後期課程	11.2	29.0	40.2	19.5	—	579	41.5	2.32
	女子	前期課程	18.9	32.1	39.0	10.1	—	159	11.4	2.60
		後期課程	10.4	32.5	43.5	13.0	0.6	154	11.0	2.41
	男子	文科系	13.0	29.4	39.0	18.7	—	477	34.2	2.37
		理科系	12.7	31.4	39.3	16.4	0.2	605	43.4	2.41
	女子	文科系	14.0	30.1	42.5	13.5	—	193	13.8	2.45
		理科系	15.8	35.8	39.2	8.3	0.8	120	8.6	2.60

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
性・異性・恋愛・結婚	2001年調査（51回）		% (24.3)	% (38.2)	% (27.2)	% (10.0)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.76)
	全体		21.4	36.0	29.5	13.0	0.1	1,395	100.0	2.66
	男子		21.6	35.4	29.9	12.9	0.1	1,082	77.6	2.66
	女子		20.4	38.0	28.1	13.1	0.3	313	22.4	2.66
	男子	前期課程	23.5	33.4	30.0	12.9	0.2	503	36.1	2.68
		後期課程	20.0	37.1	29.9	13.0	—	579	41.5	2.64
	女子	前期課程	25.2	34.6	24.5	15.7	—	159	11.4	2.69
		後期課程	15.6	41.6	31.8	10.4	0.6	154	11.0	2.63
	男子	文科系	21.8	36.3	26.6	15.3	—	477	34.2	2.65
		理科系	21.5	34.7	32.6	11.1	0.2	605	43.4	2.67
	女子	文科系	19.2	35.8	32.1	13.0	—	193	13.8	2.61
		理科系	22.5	41.7	21.7	13.3	0.8	120	8.6	2.74

Ⅶ－８表　悩み・不安の程度

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
経済的なことや経済的自立	2001年調査		%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(21.9	(35.4)	(30.0)	(12.4)	(0.3)	(942)	(100.0)	(2.66)
	全体		19.1	35.3	33.2	12.3	0.1	1,395	100.0	2.61
	男子		18.6	34.4	33.6	13.3	0.1	1,082	77.6	2.58
	女子		20.8	38.7	31.6	8.6	0.3	313	22.4	2.72
	男子	前期課程	16.5	34.8	36.2	12.3	0.2	503	36.1	2.56
		後期課程	20.4	34.0	31.4	14.2	—	579	41.5	2.61
	女子	前期課程	24.5	34.0	33.3	8.2	—	159	11.4	2.75
		後期課程	16.9	43.5	29.9	9.1	0.6	154	11.0	2.69
	男子	文科系	23.7	31.7	31.7	13.0	—	477	34.2	2.66
		理科系	14.5	36.5	35.2	13.6	0.2	605	43.4	2.52
	女子	文科系	21.8	40.4	29.0	8.8	—	193	13.8	2.75
		理科系	19.2	35.8	35.8	8.3	0.8	120	8.6	2.66

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
自分の性格	2001年調査		%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(19.9)	(28.2)	(34.8)	(16.8)	(0.3)	(942)	(100.0)	(2.51)
	全体		17.5	31.1	35.3	16.0	0.1	1,395	100.0	2.50
	男子		16.3	29.5	36.5	17.7	0.1	1,082	77.6	2.44
	女子		21.7	36.7	31.0	10.2	0.3	313	22.4	2.70
	男子	前期課程	16.3	32.0	38.0	13.5	0.2	503	36.1	2.51
		後期課程	16.2	27.3	35.2	21.2	—	579	41.5	2.39
	女子	前期課程	26.4	34.0	32.1	7.5	—	159	11.4	2.79
		後期課程	16.9	39.6	29.9	13.0	0.6	154	11.0	2.61
	男子	文科系	15.9	31.2	32.9	19.9	—	477	34.2	2.43
		理科系	16.5	28.1	39.3	15.9	0.2	605	43.4	2.45
	女子	文科系	19.2	37.8	34.2	8.8	—	193	13.8	2.67
		理科系	25.8	35.0	25.8	12.5	0.8	120	8.6	2.75

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
自分の体調や健康	2001年調査		%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(11.4)	(21.0)	(41.5)	(25.8)	(0.3)	(942)	(100.0)	(2.17)
	全体		7.7	24.6	43.3	24.2	0.1	1,395	100.0	2.16
	男子		7.3	22.6	43.9	26.2	0.1	1,082	77.6	2.11
	女子		9.3	31.6	41.2	17.6	0.3	313	22.4	2.33
	男子	前期課程	6.8	22.3	45.5	25.2	0.2	503	36.1	2.11
		後期課程	7.8	22.8	42.5	26.9	—	579	41.5	2.11
	女子	前期課程	11.9	26.4	45.3	16.4	—	159	11.4	2.34
		後期課程	6.5	37.0	37.0	18.8	0.6	154	11.0	2.31
	男子	文科系	8.8	23.5	39.2	28.5	—	477	34.2	2.13
		理科系	6.1	21.8	47.6	24.3	0.2	605	43.4	2.10
	女子	文科系	8.8	34.2	39.9	17.1	—	193	13.8	2.35
		理科系	10.0	27.5	43.3	18.3	0.8	120	8.6	2.29

Ⅶ－8表　悩み・不安の程度

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
人生の意義・目標	2001年調査（51回）		% (24.5)	% (33.5)	% (27.2)	% (14.4)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.67)
	全体		18.6	34.0	29.2	18.0	0.1	1,395	100.0	2.53
	男子		19.1	32.2	29.4	19.2	0.1	1,082	77.6	2.51
	女子		16.9	40.3	28.8	13.7	0.3	313	22.4	2.61
	男子	前期課程	16.3	35.0	30.2	18.3	0.2	503	36.1	2.49
		後期課程	21.6	29.7	28.7	20.0	—	579	41.5	2.53
	女子	前期課程	20.1	42.8	23.9	13.2	—	159	11.4	2.70
		後期課程	13.6	37.7	33.8	14.3	0.6	154	11.0	2.51
	男子	文科系	21.4	29.4	29.6	19.7	—	477	34.2	2.52
		理科系	17.4	34.4	29.3	18.8	0.2	605	43.4	2.50
	女子	文科系	17.1	40.4	26.9	15.5	—	193	13.8	2.59
		理科系	16.7	40.0	31.7	10.8	0.8	120	8.6	2.63

Ⅶ－９表　不安・悩みの対処法

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		よくあてはまる 4	少しあてはまる 3	あまりあてはまらない 2	全くあてはまらない 1	無回答	事例数		平均値
			%	%	%	%	%	人	%	
他人に相談する	全体		14.6	36.4	28.8	20.0	0.1	1,395	100.0	2.46
	男子		11.9	34.5	31.1	22.5	0.1	1,082	77.6	2.36
	女子		24.0	43.1	21.1	11.5	0.3	313	22.4	2.80
	男子	前期課程	10.7	37.4	29.8	21.9	0.2	503	36.1	2.37
		後期課程	13.0	32.0	32.1	23.0	—	579	41.5	2.35
	女子	前期課程	20.8	40.9	22.0	16.4	—	159	11.4	2.66
		後期課程	27.3	45.5	20.1	6.5	0.6	154	11.0	2.94
	男子	文科系	12.2	35.2	29.8	22.9	—	477	34.2	2.37
		理科系	11.7	33.9	32.1	22.1	0.2	605	43.4	2.35
	女子	文科系	28.0	37.8	22.8	11.4	—	193	13.8	2.82
		理科系	17.5	51.7	18.3	11.7	0.8	120	8.6	2.76

	区分		よくあてはまる 4	少しあてはまる 3	あまりあてはまらない 2	全くあてはまらない 1	無回答	事例数		平均値
			%	%	%	%	%	人	%	
友人と雑談などで気を紛らわす	全体		19.9	44.9	22.1	13.0	0.1	1,395	100.0	2.72
	男子		19.7	44.8	21.3	14.0	0.1	1,082	77.6	2.70
	女子		20.8	45.0	24.6	9.3	0.3	313	22.4	2.78
	男子	前期課程	17.9	44.3	22.5	15.1	0.2	503	36.1	2.65
		後期課程	21.2	45.3	20.4	13.1	—	579	41.5	2.75
	女子	前期課程	20.1	42.8	25.2	11.9	—	159	11.4	2.71
		後期課程	21.4	47.4	24.0	6.5	0.6	154	11.0	2.84
	男子	文科系	20.1	45.5	21.2	13.2	—	477	34.2	2.73
		理科系	19.3	44.3	21.5	14.7	0.2	605	43.4	2.68
	女子	文科系	25.4	40.9	22.3	11.4	—	193	13.8	2.80
		理科系	13.3	51.7	28.3	5.8	0.8	120	8.6	2.73

	区分		よくあてはまる 4	少しあてはまる 3	あまりあてはまらない 2	全くあてはまらない 1	無回答	事例数		平均値
			%	%	%	%	%	人	%	
趣味・スポーツなどで気を紛らわす	全体		23.9	41.4	23.7	10.8	0.1	1,395	100.0	2.79
	男子		26.1	41.3	21.5	11.0	0.1	1,082	77.6	2.83
	女子		16.6	41.9	31.3	9.9	0.3	313	22.4	2.65
	男子	前期課程	25.0	43.1	21.1	10.5	0.2	503	36.1	2.83
		後期課程	26.9	39.7	21.9	11.4	—	579	41.5	2.82
	女子	前期課程	17.0	42.8	27.0	13.2	—	159	11.4	2.64
		後期課程	16.2	40.9	35.7	6.5	0.6	154	11.0	2.67
	男子	文科系	23.5	43.6	21.8	11.1	—	477	34.2	2.79
		理科系	28.1	39.5	21.3	10.9	0.2	605	43.4	2.85
	女子	文科系	18.1	40.9	31.1	9.8	—	193	13.8	2.67
		理科系	14.2	43.3	31.7	10.0	0.8	120	8.6	2.62

Ⅶ－９表　不安・悩みの対処法

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
勉学、研究に打ち込むことで気を紛らわす	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			7.5	21.5	38.9	31.9	0.1	1,395	100.0	2.05
	男子		6.8	20.9	38.8	33.4	0.1	1,082	77.6	2.01
	女子		9.9	23.6	39.3	26.8	0.3	313	22.4	2.17
	男子	前期課程	6.2	18.5	38.8	36.4	0.2	503	36.1	1.94
		後期課程	7.4	23.0	38.9	30.7	—	579	41.5	2.07
	女子	前期課程	9.4	27.0	35.8	27.7	—	159	11.4	2.18
		後期課程	10.4	20.1	42.9	26.0	0.6	154	11.0	2.15
	男子	文科系	6.7	22.0	37.5	33.8	—	477	34.2	2.02
		理科系	6.9	20.0	39.8	33.1	0.2	605	43.4	2.01
	女子	文科系	11.4	24.4	37.3	26.9	—	193	13.8	2.20
		理科系	7.5	22.5	42.5	26.7	0.8	120	8.6	2.11

	区分		よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
旅に出るなど環境を変えてみる	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			5.7	18.2	30.1	45.8	0.1	1,395	100.0	1.84
	男子		5.7	17.9	28.8	47.4	0.1	1,082	77.6	1.82
	女子		5.8	19.2	34.5	40.3	0.3	313	22.4	1.90
	男子	前期課程	3.8	15.3	28.6	52.1	0.2	503	36.1	1.71
		後期課程	7.4	20.2	29.0	43.4	—	579	41.5	1.92
	女子	前期課程	3.8	17.0	36.5	42.8	—	159	11.4	1.82
		後期課程	7.8	21.4	32.5	37.7	0.6	154	11.0	1.99
	男子	文科系	6.5	19.3	27.7	46.5	—	477	34.2	1.86
		理科系	5.1	16.9	29.8	48.1	0.2	605	43.4	1.79
	女子	文科系	7.3	17.6	34.2	40.9	—	193	13.8	1.91
		理科系	3.3	21.7	35.0	39.2	0.8	120	8.6	1.89

	区分		よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
お酒を飲んだり食事をしたりして気を紛らわす	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			12.0	32.0	26.5	29.4	0.1	1,395	100.0	2.27
	男子		11.8	31.8	25.7	30.6	0.1	1,082	77.6	2.25
	女子		12.5	32.9	29.1	25.2	0.3	313	22.4	2.33
	男子	前期課程	8.5	28.6	28.2	34.4	0.2	503	36.1	2.11
		後期課程	14.7	34.5	23.5	27.3	—	579	41.5	2.37
	女子	前期課程	11.3	30.2	27.0	31.4	—	159	11.4	2.21
		後期課程	13.6	35.7	31.2	18.8	0.6	154	11.0	2.44
	男子	文科系	13.6	35.8	23.7	26.8	—	477	34.2	2.36
		理科系	10.4	28.6	27.3	33.6	0.2	605	43.4	2.16
	女子	文科系	13.5	30.6	31.1	24.9	—	193	13.8	2.33
		理科系	10.8	36.7	25.8	25.8	0.8	120	8.6	2.33

Ⅶ－９表　不安・悩みの対処法

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		よくあてはまる 4	少しあてはまる 3	あまりあてはまらない 2	全くあてはまらない 1	無回答	事例数		平均値
宗教や自己啓発セミナーなどの活動に参加する	全体		% 0.2	% 0.9	% 2.9	% 95.8	% 0.1	人 1,395	% 100.0	1.05
	男子		0.3	0.6	3.0	96.0	0.1	1,082	77.6	1.05
	女子		—	1.9	2.9	94.9	0.3	313	22.4	1.07
	男子	前期課程	0.4	0.6	3.2	95.6	0.2	503	36.1	1.06
		後期課程	0.2	0.7	2.8	96.4	—	579	41.5	1.05
	女子	前期課程	—	1.9	1.9	96.2	—	159	11.4	1.06
		後期課程	—	1.9	3.9	93.5	0.6	154	11.0	1.08
	男子	文科系	—	0.4	2.5	97.1	—	477	34.2	1.03
		理科系	0.5	0.8	3.3	95.2	0.2	605	43.4	1.06
	女子	文科系	—	0.5	3.6	95.9	—	193	13.8	1.05
		理科系	—	4.2	1.7	93.3	0.8	120	8.6	1.10

五月祭

Ⅶ－10表　不安・悩みの相談相手（「第１位のみの集計」）

区分		父親	母親	兄弟姉妹	恋人	大学の教官・職員	学内の友人・知人	学外の友人・知人	メル友、インターネット上の友人	カウンセラー、精神科医	無回答	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体		4.5	18.4	3.5	17.9	0.3	36.2	15.0	0.4	0.4	3.4	1,395	100.0
男子		5.2	16.2	3.2	15.2	0.4	38.4	16.2	0.5	0.6	4.2	1,082	77.6
女子		2.2	25.9	4.5	27.2	—	28.4	10.9	—	—	1.0	313	22.4
自宅		4.0	20.4	3.0	16.1	0.3	37.5	14.5	0.4	0.4	3.3	670	48.0
自宅外		5.0	16.4	4.0	19.6	0.3	35.0	15.4	0.3	0.4	3.6	725	52.0
男子	自宅	4.3	17.2	2.4	13.4	0.4	41.1	15.8	0.6	0.6	4.2	506	36.3
	自宅外	5.9	15.3	4.0	16.8	0.3	36.1	16.5	0.3	0.5	4.2	576	41.3
女子	自宅	3.0	30.5	4.9	24.4	—	26.2	10.4	—	—	0.6	164	11.8
	自宅外	1.3	20.8	4.0	30.2	—	30.9	11.4	—	—	1.3	149	10.7
男子	前期課程	5.0	18.7	3.6	10.1	—	39.4	18.5	0.4	0.4	4.0	503	36.1
	後期課程	5.4	14.0	2.9	19.7	0.7	37.7	14.2	0.5	0.7	4.3	579	41.5
女子	前期課程	3.1	30.2	4.4	18.9	—	27.7	14.5	—	—	1.3	159	11.4
	後期課程	1.3	21.4	4.5	35.7	—	29.2	7.1	—	—	0.6	154	11.0
男子	文科系	5.5	16.4	2.7	15.9	0.6	35.8	17.6	0.2	1.3	4.0	477	34.2
	理科系	5.0	16.0	3.6	14.7	0.2	40.5	15.0	0.7	—	4.3	605	43.4
女子	文科系	2.6	27.5	6.7	25.9	—	29.0	7.8	—	—	0.5	193	13.8
	理科系	1.7	23.3	0.8	29.2	—	27.5	15.8	—	—	1.7	120	8.6
(第2位)全体		5.7	16.3	4.6	8.6	0.6	28.0	25.2	1.0	0.8	9.2	1,395	100.0

Ⅷ－１表　東大入学をどの程度希望していましたか

区　　分		どうしても入りたかった	だめなら他大学でもよいと思った	なんとなく	無回答	事　例　数	
2001年調査		%	%	%	%	人	%
(51回)		(44.3)	(34.6)	(20.6)	(0.5)	(942)	(100.0)
全　　体		45.6	35.4	18.6	0.4	1,395	100.0
男　　子		45.7	33.8	20.1	0.4	1,082	77.6
女　　子		45.4	40.9	13.1	0.6	313	22.4
男子	前期課程	47.1	31.4	20.9	0.6	503	36.1
	後期課程	44.4	35.9	19.5	0.2	579	41.5
女子	前期課程	46.5	38.4	14.5	0.6	159	11.4
	後期課程	44.2	43.5	11.7	0.6	154	11.0
男子	文 科 系	48.8	32.9	17.8	0.4	477	34.2
	理 科 系	43.1	34.5	22.0	0.3	605	43.4
女子	文 科 系	47.7	36.8	14.5	1.0	193	13.8
	理 科 系	41.7	47.5	10.8	—	120	8.6

Ⅷ－３表　入学時に進学する学部・学科等を決めていましたか

区　　分	学科等まで決めていた	学部のみを決めていた	学部、学科等は決めていなかった	無回答	事　例　数	
2001年調査	%	%	%	%	人	%
(51回)	(29.4)	(33.5)	(36.7)	(0.3)	(942)	(100.0)
全　　体	27.6	34.6	37.4	0.4	1,395	100.0
男　　子	26.2	36.0	37.4	0.4	1,082	77.6
女　　子	32.6	29.4	37.4	0.6	313	22.4
文　科　系	26.3	43.7	29.4	0.6	670	48.0
理　科　系	28.8	26.1	44.8	0.3	725	52.0

五月祭

Ⅷ－２表　東大入学の動機（「第１位のみの集計」）

区　　分		社会的評価が高いから	スタッフ・設備が優れているから	将来の就職を考えて	難関を突破したかったから	私大に比べて授業料が安いから	東大の伝統や雰囲気に憧れて	入学後に学部の選択が可能だから	親・兄弟・姉妹の勧めで	高校の先生や友人などの勧めで	その他	無回答	事　例　数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(19.9)	(15.4)	(6.8)	(8.1)	(10.4)	(7.1)	(15.9)	(3.3)	(4.7)	(8.0)	(0.5)	(942)	(100.0)
全　　体		23.4	16.0	8.8	8.1	9.7	6.7	15.3	2.1	3.4	5.9	0.6	1,395	100.0
男　　子		24.0	16.9	9.0	8.6	10.0	5.2	15.3	2.1	2.7	5.6	0.6	1,082	77.6
女　　子		21.4	12.8	8.3	6.4	8.9	11.8	15.0	1.9	5.8	7.0	0.6	313	22.4
男子	前期課程	21.3	17.7	8.5	7.6	9.1	5.0	17.3	3.0	3.6	6.0	1.0	503	36.1
	後期課程	26.4	16.2	9.3	9.5	10.7	5.4	13.6	1.4	1.9	5.4	0.2	579	41.5
女子	前期課程	22.6	8.2	6.9	6.9	11.9	13.2	17.6	1.3	5.7	5.0	0.6	159	11.4
	後期課程	20.1	17.5	9.7	5.8	5.8	10.4	12.3	2.6	5.8	9.1	0.6	154	11.0
男子	文科系	28.9	13.2	12.2	10.1	10.3	7.8	7.3	2.3	2.7	4.6	0.6	477	34.2
	理科系	20.2	19.8	6.4	7.4	9.8	3.1	21.7	2.0	2.6	6.4	0.5	605	43.4
女子	文科系	20.7	13.5	11.4	7.3	9.8	13.0	8.8	1.6	5.7	7.3	1.0	193	13.8
	理科系	22.5	11.7	3.3	5.0	7.5	10.0	25.0	2.5	5.8	6.7	—	120	8.6
(第2位)全体		10.8	14.0	11.7	8.8	18.9	7.8	14.2	3.5	4.6	1.9	3.7	1,395	100.0
(第3位)全体		12.3	8.1	10.5	7.0	17.1	9.2	11.5	4.2	8.5	2.9	8.7	1,395	100.0

Ⅷ－４表　学部・学科等の選択に際してどのような点を重視しましたか（しますか）

（２つまで選択）

区分		最先端の学問が学べること	自分が惹きつけられた学問分野であること	その学部・学科等の教官に魅力を感じること	社会のためになる分野であること	就職の際に有利であること	将来なりたい職業に就くのに必須であること	選択に際し特に考えなかった（ない）	無回答	事例数
2001年調査（51回）		%	%	%	%	%	%	%	%	人
		(13.4)	(79.1)	(12.3)	(22.6)	(13.9)	(28.1)	(8.1)	(0.3)	(942)
全体		14.6	78.1	11.2	20.9	14.9	30.7	9.5	0.5	1,395
男子		16.5	76.1	10.0	21.8	14.5	30.1	10.5	0.5	1,082
女子		8.0	85.3	15.3	17.9	16.3	32.6	6.1	0.6	313
男子	前期課程	15.9	79.5	9.7	20.7	14.1	31.4	8.7	0.8	503
	後期課程	17.1	73.1	10.2	22.8	14.9	29.0	12.1	0.2	579
女子	前期課程	8.2	84.9	13.8	17.0	19.5	38.4	3.8	0.6	159
	後期課程	7.8	85.7	16.9	18.8	13.0	26.6	8.4	0.6	154
男子	文科系	5.7	65.6	11.1	20.5	21.6	38.2	13.2	0.4	477
	理科系	25.1	84.3	9.1	22.8	8.9	23.8	8.4	0.5	605
女子	文科系	6.7	82.4	14.0	20.7	19.7	31.1	7.8	1.0	193
	理科系	10.0	90.0	17.5	13.3	10.8	35.0	3.3	—	120
前期課程	文科一類	2.4	64.2	5.7	24.4	21.1	60.2	6.5	0.8	123
	文科二類	4.5	63.6	10.6	22.7	30.3	37.9	12.1	1.5	66
	文科三類	11.5	86.7	15.9	15.9	19.5	22.1	8.0	0.9	113
	理科一類	20.4	87.2	11.4	19.9	9.0	21.8	8.1	0.9	211
	理科二類	22.7	92.2	11.7	15.6	11.7	25.8	5.5	—	128
	理科三類	9.5	66.7	—	28.6	—	76.2	4.8	—	21
後期課程	法学部	2.0	50.0	7.3	22.0	28.0	56.0	16.7	—	150
	経済学部	3.6	62.7	8.4	36.1	27.7	25.3	14.5	—	83
	文学部	9.0	94.4	19.1	5.6	6.7	11.2	14.6	—	89
	教育学部	25.0	93.8	31.3	—	—	6.3	12.5	—	16
	教養(文系)	10.0	90.0	26.7	23.3	6.7	6.7	3.3	3.3	30
	教養(理系)	42.1	94.7	31.6	—	—	10.5	—	—	19
	理学部	50.9	86.0	10.5	5.3	3.5	14.0	5.3	1.8	57
	工学部	20.1	83.8	11.7	25.3	13.0	22.1	9.1	—	154
	農学部	9.2	81.5	9.2	27.7	10.8	21.5	15.4	—	65
	薬学部	56.3	81.3	6.3	31.3	12.5	6.3	6.3	—	16
	医学部	13.0	74.1	—	38.9	3.7	59.3	3.7	—	54

Ⅷ－５表　進学の決定(内定)について

区分		希望通り決定した	ほぼ希望通り決定した	希望通りでなかった	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	人	%
(51回)		(79.9)	(13.5)	(4.8)	(1.9)	(690)	(100.0)
全体		79.3	14.3	4.8	1.6	1,021	100.0
男子		80.1	13.4	5.0	1.5	801	78.5
女子		76.4	17.7	4.1	1.8	220	21.5
前期課程(進学内定者)	文科一類	94.4	5.6	—	—	54	3.9
	文科二類	87.0	4.3	8.7	—	23	1.6
	文科三類	73.1	21.2	5.8	—	52	3.7
	理科一類	87.4	9.5	3.2	—	95	6.8
	理科二類	54.7	34.0	11.3	—	53	3.8
	理科三類	100.0	—	—	—	11	0.8
後期課程	法学部	94.0	4.0	1.3	0.7	150	10.8
	経済学部	90.4	6.0	3.6		83	5.9
	文学部	69.7	25.8	2.2	2.2	89	6.4
	教育学部	50.0	37.5	6.3	6.3	16	1.1
	教養(文系)	80.0	6.7	3.3	10.0	30	2.2
	教養(理系)	68.4	15.8	10.5	5.3	19	1.4
	理学部	70.2	21.1	5.3	3.5	57	4.1
	工学部	74.0	16.9	6.5	2.6	154	11.0
	農学部	58.5	27.7	13.8	—	65	4.7
	薬学部	100.0	—	—	—	16	1.1
	医学部	87.0	5.6	3.7	3.7	54	3.9

Ⅷ－６表　現在在籍している学部・学科等(科類)に満足していますか

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(37.8)	(33.3)	(10.5)	(10.1)	(5.0)	(3.3)	(942)	(100.0)
全体		35.0	34.9	12.9	9.1	4.6	3.5	1,395	100.0
男子		34.3	34.8	12.8	9.9	4.9	3.3	1,082	77.6
女子		37.4	35.1	13.4	6.4	3.5	4.2	313	22.4
男子	前期課程	29.8	30.0	16.3	11.7	5.2	7.0	503	36.1
	後期課程	38.2	39.0	9.7	8.3	4.7	0.2	579	41.5
女子	前期課程	32.1	31.4	17.6	7.5	3.8	7.5	159	11.4
	後期課程	42.9	39.0	9.1	5.2	3.2	0.6	154	11.0
男子	文科系	34.0	33.8	12.6	12.4	5.0	2.3	477	34.2
	理科系	34.5	35.7	12.9	7.9	4.8	4.1	605	43.4
女子	文科系	36.3	36.3	14.5	5.2	2.6	5.2	193	13.8
	理科系	39.2	33.3	11.7	8.3	5.0	2.5	120	8.6

Ⅷ－７表　進学振分け制度についてどのように考えていますか

区分		現行のままでよい	点数だけでない選択方法も取り入れてほしい	入学時からある程度進路が決まっていた方がよい	特にない	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(36.2)	(30.9)	(10.7)	(13.7)	(5.6)	(2.9)	(942)	(100.0)
全体		36.2	29.7	13.0	14.6	3.7	2.9	1,395	100.0
男子		37.2	28.5	12.6	15.4	3.8	2.6	1,082	77.6
女子		32.9	33.9	14.4	11.5	3.5	3.8	313	22.4
前期課程	文科一類	39.8	25.2	8.9	20.3	1.6	4.1	123	8.8
	文科二類	39.4	21.2	9.1	16.7	1.5	12.1	66	4.7
	文科三類	15.0	54.9	12.4	9.7	3.5	4.4	113	8.1
	理科一類	26.5	36.5	13.7	12.8	4.3	6.2	211	15.1
	理科二類	23.4	44.5	16.4	7.0	4.7	3.9	128	9.2
	理科三類	38.1	19.0	4.8	14.3	19.0	4.8	21	1.5
後期課程	法学部	42.0	16.0	9.3	31.3	1.3	—	150	10.8
	経済学部	44.6	18.1	13.3	20.5	3.6	—	83	5.9
	文学部	37.1	32.6	13.5	10.1	6.7	—	89	6.4
	教育学部	31.3	31.3	12.5	18.8	6.3	—	16	1.1
	教養(文系)	53.3	20.0	10.0	6.7	6.7	3.3	30	2.2
	教養(理系)	36.8	21.1	26.3	10.5	5.3	—	19	1.4
	理学部	42.1	29.8	12.3	7.0	7.0	1.8	57	4.1
	工学部	45.5	27.3	16.2	9.1	1.3	0.6	154	11.0
	農学部	47.7	27.7	12.3	12.3	—	—	65	4.7
	薬学部	75.0	18.8	—	—	6.3	—	16	1.1
	医学部	38.9	11.1	22.2	20.4	7.4	—	54	3.9

Ⅷ－８表　現在のカリキュラムに満足していますか

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(12.1)	(31.5)	(20.8)	(22.9)	(9.9)	(2.8)	(942)	(100.0)
全体		9.8	34.8	22.2	21.8	8.6	2.9	1,395	100.0
男子		9.2	34.8	21.4	21.8	10.2	2.6	1,082	77.6
女子		11.8	34.8	24.6	21.7	3.2	3.8	313	22.4
前期課程	文科一類	11.4	39.0	16.3	26.8	2.4	4.1	123	8.8
	文科二類	9.1	27.3	25.8	10.6	15.2	12.1	66	4.7
	文科三類	6.2	28.3	29.2	22.1	9.7	4.4	113	8.1
	理科一類	4.3	28.0	28.9	22.7	10.0	6.2	211	15.1
	理科二類	7.0	29.7	23.4	25.8	9.4	4.7	128	9.2
	理科三類	9.5	33.3	14.3	19.0	19.0	4.8	21	1.5
後期課程	法学部	12.7	32.7	17.3	27.3	10.0	—	150	10.8
	経済学部	15.7	34.9	22.9	14.5	12.0	—	83	5.9
	文学部	15.7	44.9	19.1	15.7	4.5	—	89	6.4
	教育学部	18.8	18.8	25.0	37.5	—	—	16	1.1
	教養(文系)	3.3	60.0	13.3	20.0	—	3.3	30	2.2
	教養(理系)	10.5	47.4	15.8	15.8	10.5	—	19	1.4
	理学部	8.8	43.9	21.1	17.5	7.0	1.8	57	4.1
	工学部	9.1	43.5	22.1	16.2	9.1	—	154	11.0
	農学部	13.8	36.9	21.5	21.5	6.2	—	65	4.7
	薬学部	43.8	25.0	6.3	25.0	—	—	16	1.1
	医学部	5.6	27.8	20.4	35.2	11.1	—	54	3.9
文科系		11.5	35.4	20.9	21.5	7.9	2.8	670	48.0
理科系		8.3	34.2	23.3	22.1	9.2	2.9	725	52.0
男子	前期課程	5.8	31.4	23.7	22.7	11.1	5.4	503	36.1
	後期課程	12.3	37.7	19.5	21.1	9.3	0.2	579	41.5
女子	前期課程	11.3	27.7	28.3	22.6	3.1	6.9	159	11.4
	後期課程	12.3	42.2	20.8	20.8	3.2	0.6	154	11.0

Ⅷ－９表　現在のカリキュラムは消化できますか

区分		できる	まあまあできる	多少困難	できない	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(37.8)	(36.7)	(18.9)	(3.6)	(3.0)	(942)	(100.0)
全体		37.6	35.5	20.5	3.4	3.0	1,395	100.0
男子		38.3	34.8	20.5	3.7	2.7	1,082	77.6
女子		35.1	37.7	20.4	2.6	4.2	313	22.4
前期課程	文科一類	45.5	38.2	11.4	0.8	4.1	123	8.8
	文科二類	33.3	31.8	15.2	7.6	12.1	66	4.7
	文科三類	27.4	38.1	24.8	5.3	4.4	113	8.1
	理科一類	22.3	34.1	30.8	6.6	6.2	211	15.1
	理科二類	21.1	43.0	29.7	1.6	4.7	128	9.2
	理科三類	33.3	33.3	28.6	—	4.8	21	1.5
後期課程	法学部	38.7	34.0	23.3	4.0	—	150	10.8
	経済学部	51.8	30.1	14.5	3.6	—	83	5.9
	文学部	56.2	33.7	7.9	1.1	1.1	89	6.4
	教育学部	62.5	31.3	6.3	—	—	16	1.1
	教養(文系)	43.3	36.7	13.3	3.3	3.3	30	2.2
	教養(理系)	42.1	31.6	21.1	5.3	—	19	1.4
	理学部	33.3	40.4	21.1	3.5	1.8	57	4.1
	工学部	41.6	37.0	19.5	1.9	—	154	11.0
	農学部	55.4	36.9	3.1	3.1	1.5	65	4.7
	薬学部	75.0	12.5	12.5	—	—	16	1.1
	医学部	38.9	29.6	29.6	1.9	—	54	3.9
文科系		42.2	34.8	16.6	3.4	3.0	670	48.0
理科系		33.2	36.1	24.1	3.4	3.0	725	52.0
男子	前期課程	29.8	37.2	23.3	4.4	5.4	503	36.1
	後期課程	45.6	32.8	18.1	3.1	0.3	579	41.5
女子	前期課程	25.2	36.5	27.7	3.8	6.9	159	11.4
	後期課程	45.5	39.0	13.0	1.3	1.3	154	11.0

Ⅷ—10表 「多少困難」・「できない」と答えた理由（「第１位のみの集計」）

区分		進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる	授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある	カリキュラムの組み方に問題がある	教育上の指導助言が十分でない	高校までの勉強のやり方ではうまく適応できない	大学入試の受験科目として取らなかった	授業の準備と復習の時間が十分にとれない	授業に対する自分の意欲や努力が足りない	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(13.7)	(32.5)	(8.5)	(5.2)	(0.9)	(2.8)	(13.7)	(19.3)	(3.3)	(—)	(212)	(100.0)
全体		15.0	25.7	12.3	7.2	6.0	1.5	15.9	13.5	2.7	0.3	334	100.0
男子		14.5	26.0	12.6	7.6	5.7	1.1	14.5	14.9	2.7	0.4	262	78.4
女子		16.7	25.0	11.1	5.6	6.9	2.8	20.8	8.3	2.8	—	72	21.6
前期課程	文科一類	13.3	20.0	—	26.7	20.0	—	6.7	13.3	—	—	15	4.5
	文科二類	6.7	20.0	13.3	6.7	6.7	—	33.3	13.3	—	—	15	4.5
	文科三類	17.6	17.6	23.5	2.9	11.8	—	17.6	8.8	—	—	34	10.2
	理科一類	15.2	36.7	2.5	6.3	3.8	—	20.3	12.7	2.5	—	79	23.7
	理科二類	12.5	20.0	12.5	12.5	10.0	10.0	10.0	12.5	—	—	40	12.0
	理科三類	16.7	50.0	16.7	16.7	—	—	—	—	—	—	6	1.8
後期課程	法学部	9.8	22.0	22.0	2.4	7.3	—	19.5	14.6	2.4	—	41	12.3
	経済学部	33.3	20.0	13.3	6.7	6.7	—	13.3	6.7	—	—	15	4.5
	文学部	25.0	12.5	12.5	12.5	—	—	25.0	—	12.5	—	8	2.4
	教育学部	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	1	0.3
	教養(文系)	—	20.0	—	—	—	—	—	40.0	40.0	—	5	1.5
	教養(理系)	—	20.0	—	—	20.0	—	40.0	20.0	—	—	5	1.5
	理学部	14.3	14.3	7.1	7.1	—	—	7.1	35.7	7.1	7.1	14	4.2
	工学部	18.2	36.4	9.1	9.1	—	—	9.1	15.2	3.0	—	33	9.9
	農学部	25.0	25.0	25.0	—	—	—	—	25.0	—	—	4	1.2
	薬学部	50.0	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	2	0.6
	医学部	11.8	23.5	35.3	—	—	—	17.6	5.9	5.9	—	17	5.1
(第２位)全体		7.8	16.5	7.8	11.7	6.9	3.0	18.9	17.4	1.8	8.4	334	100.0
(第３位)全体		5.1	13.2	8.1	12.6	5.7	2.1	10.8	22.8	2.4	17.4	334	100.0

Ⅷ－11表　学部卒業後の進路予定

区　　分		進学する	就職する	まだわからない	進学も、就職もするつもりはない	無回答	事　例　数	
2001年調査		%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(45.1)	(28.6)	(21.8)	(1.8)	(2.8)	(942)	(100.0)
全　　体		41.2	31.5	22.7	1.5	3.1	1,395	100.0
男　　子		43.3	30.5	21.9	1.6	2.8	1,082	77.6
女　　子		34.2	34.8	25.6	1.3	4.2	313	22.4
前期課程		39.3	22.2	32.2	0.3	6.0	662	47.5
後期課程		43.0	39.8	14.2	2.6	0.4	733	52.5
文科系		16.4	49.9	27.9	2.8	3.0	670	48.0
理科系		64.1	14.5	17.9	0.3	3.2	725	52.0
男子	文科系	15.9	52.0	26.6	3.1	2.3	477	34.2
	理科系	64.8	13.6	18.2	0.3	3.1	605	43.4
女子	文科系	17.6	44.6	31.1	2.1	4.7	193	13.8
	理科系	60.8	19.2	16.7	—	3.3	120	8.6

Ⅷ－12表　学部卒業後の進学予定

区　　分	大学院修士課程	大学院博士課程	その他(学士入学等)	無回答	事　例　数	
2001年調査	%	%	%	%	人	%
(51回)	(59.8)	(36.9)	(2.8)	(0.5)	(425)	(100.0)
全　　体	62.1	36.5	1.4	—	575	100.0
男　　子	63.7	34.8	1.5	—	468	81.4
女　　子	55.1	43.9	0.9	—	107	18.6
前期課程	53.5	45.8	0.8	—	260	45.2
後期課程	69.2	28.9	1.9	—	315	54.8
文科系	47.3	48.2	4.5	—	110	19.1
理科系	65.6	33.8	0.6	—	465	80.9

Ⅷ－13表　大学院進学の理由

（２つまで選択）

区分		高度の専門知識・技術を身につけるため	大学で教職に就くため	将来研究者になるため	良い就職先を得るため	まだ社会に出たくないから	周囲にすすめられたから	社会的評価が高いから	友人・先輩の意見	大学での進路指導	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
（51回）		(81.5)	(7.5)	(45.5)	(16.8)	(16.5)	(2.7)	(5.1)	(3.6)	(1.7)	(2.9)	(0.5)	(411)	(100.0)
全体		77.1	9.5	46.0	19.2	18.2	2.6	6.0	3.9	0.7	4.2	0.5	567	100.0
男子		77.0	10.2	44.9	18.7	18.9	2.0	7.2	4.6	0.9	3.5	0.4	461	81.3
女子		77.4	6.6	50.9	21.7	15.1	5.7	0.9	0.9	—	7.5	0.9	106	18.7
男子	前期課程	76.9	10.6	47.1	20.2	12.5	1.9	9.1	3.8	—	2.9	—	208	36.7
	後期課程	77.1	9.9	43.1	17.4	24.1	2.0	5.5	5.1	1.6	4.0	0.8	253	44.6
女子	前期課程	76.0	8.0	70.0	14.0	8.0	6.0	2.0	—	—	6.0	—	50	8.8
	後期課程	78.6	5.4	33.9	28.6	21.4	5.4	—	1.8	—	8.9	1.8	56	9.9
男子	文科系	75.0	30.6	41.7	4.2	18.1	—	5.6	1.4	1.4	8.3	—	72	12.7
	理科系	77.4	6.4	45.5	21.3	19.0	2.3	7.5	5.1	0.8	2.6	0.5	389	68.6
女子	文科系	75.8	21.2	51.5	12.1	18.2	—	3.0	—	—	12.1	—	33	5.8
	理科系	78.1	—	50.7	26.0	13.7	8.2	—	1.4	—	5.5	1.4	73	12.9

Ⅸ－１表　教科外学習の有無

区分		ある(運転・操縦免許取得を除く)	ない	無回答	事例数	
2000年調査		%	%	%	人	%
(50回)		(30.2)	(68.5)	(1.2)	(1,042)	(100.0)
全体		31.0	68.3	0.6	1,395	100.0
男子		28.8	70.4	0.7	1,082	77.6
女子		38.7	61.0	0.3	313	22.4
男子	前期課程	21.1	78.5	0.4	503	36.1
	後期課程	35.6	63.4	1.0	579	41.5
女子	前期課程	34.6	65.4	—	159	11.4
	後期課程	42.9	56.5	0.6	154	11.0
男子	文科系	40.9	58.1	1.0	477	34.2
	理科系	19.3	80.2	0.5	605	43.4
女子	文科系	47.7	51.8	0.5	193	13.8
	理科系	24.2	75.8	—	120	8.6

Ⅸ－３表　最も力を入れている教科外学習の学習方法

区分		各種学校・カルチャーセンター等	通信教育	インターネット	ラジオ・テレビ	個人授業	学内外のサークル	その他	無回答	事例数	
2000年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(50回)		(44.8)	(6.3)	(—)	(6.0)	(14.9)	(9.8)	(14.9)	(3.2)	(315)	(100.0)
全体		46.9	6.9	3.0	4.8	13.9	11.5	12.5	0.5	433	100.0
男子		46.5	6.7	4.2	4.8	11.5	10.9	14.7	0.6	312	72.1
女子		47.9	7.4	—	5.0	19.8	13.2	6.6	—	121	27.9
男子	前期課程	43.4	2.8	0.9	5.7	13.2	17.0	16.0	0.9	106	24.5
	後期課程	48.1	8.7	5.8	4.4	10.7	7.8	14.1	0.5	206	47.6
女子	前期課程	41.8	3.6	—	7.3	23.6	16.4	7.3	—	55	12.7
	後期課程	53.0	10.6	—	3.0	16.7	10.6	6.1	—	66	15.2
男子	文科系	57.4	7.2	3.1	3.6	7.2	9.7	11.3	0.5	195	45.0
	理科系	28.2	6.0	6.0	6.8	18.8	12.8	20.5	0.9	117	27.0
女子	文科系	56.5	9.8	—	3.3	15.2	10.9	4.3	—	92	21.2
	理科系	20.7	—	—	10.3	34.5	20.7	13.8	—	29	6.7

(今回調査では選択肢の「学校・塾等」を「各種学校・カルチャーセンター等」に変更し、「インターネット」を新たに加えた)

Ⅸ－５表　教科外学習にかかる費用

区分		費用（月額）	
		平均	事例数
2000年調査		円	人
(50回)		(22,369)	(279)
全体		23,600	433
男子		24,710	312
女子		20,790	121
男子	前期課程	24,570	106
	後期課程	24,780	206
女子	前期課程	17,550	55
	後期課程	23,480	66
男子	文科系	31,530	195
	理科系	13,370	117
女子	文科系	24,150	92
	理科系	10,100	29

＊平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答は除く）

Ⅸ－２表　最も力を入れている教科外学習の分野

区分		外国語	コンピュータ	法律	経済・会計	医・薬・獣医	一般教養	音楽・美術	文芸・演劇・舞踊	その他	無回答	事例数	
2000年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(50回)		(14.0)	(3.2)	(18.1)	(6.0)	(1.0)	(1.3)	(11.7)	(3.8)	(3.8)	(35.9)	(315)	(100.0)
全体		21.0	4.2	30.7	10.2	0.7	6.0	16.2	4.4	6.5	0.2	433	100.0
男子		20.5	5.4	31.7	11.2	1.0	7.4	13.5	1.9	7.1	0.3	312	72.1
女子		22.3	0.8	28.1	7.4	—	2.5	23.1	10.7	5.0	—	121	27.9
男子	前期課程	18.9	1.9	20.8	14.2	0.9	12.3	18.9	2.8	9.4	—	106	24.5
	後期課程	21.4	7.3	37.4	9.7	1.0	4.9	10.7	1.5	5.8	0.5	206	47.6
女子	前期課程	23.6	—	25.5	7.3	—	3.6	23.6	10.9	5.5	—	55	12.7
	後期課程	21.2	1.5	30.3	7.6	—	1.5	22.7	10.6	4.5	—	66	15.2
男子	文科系	13.3	2.1	48.2	13.8	—	6.7	8.2	1.5	6.2	—	195	45.0
	理科系	32.5	11.1	4.3	6.8	2.6	8.5	22.2	2.6	8.5	0.9	117	27.0
女子	文科系	21.7	1.1	35.9	9.8	—	1.1	19.6	8.7	2.2	—	92	21.2
	理科系	24.1	—	3.4	—	—	6.9	34.5	17.2	13.8	—	29	6.7

（今回調査では選択肢から「マスコミ」「宗教関係」「政治関係」を除いた）

Ⅸ－４表　最も力を入れている教科外学習を始めた理由

区分		現在の勉学の上でプラスになるから	将来進みたい分野で役に立ちそうだから	技術・能力を身につけたいから	資格取得のため	受験のため	実生活に役立たせたいから	探究心を満足させるため	趣味を楽しむため	教養を身につけるため	大学での教育に満足できないため	その他	無回答	事例数	
2000年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(50回)		(4.4)	(14.6)	(11.1)	(20.6)	(5.4)	(3.8)	(2.2)	(19.0)	(3.2)	(1.3)	(3.8)	(10.5)	(315)	(100.0)
全体		5.1	16.6	8.8	26.8	6.9	2.5	3.9	19.9	4.8	2.1	2.3	0.2	433	100.0
男子		5.4	18.9	7.4	27.6	7.4	2.9	4.2	16	4.5	2.9	2.6	0.3	312	72.1
女子		4.1	10.7	12.4	24.8	5.8	1.7	3.3	29.8	5.8	—	1.7	—	121	27.9
男子	前期課程	6.6	17.0	7.5	18.9	3.8	3.8	6.6	20.8	8.5	3.8	2.8	—	106	24.5
	後期課程	4.9	19.9	7.3	32.0	9.2	2.4	2.9	13.6	2.4	2.4	2.4	0.5	206	47.6
女子	前期課程	3.6	10.9	14.5	25.5	—	1.8	7.3	29.1	5.5	—	1.8	—	55	12.7
	後期課程	4.5	10.6	10.6	24.2	10.6	1.5	—	30.3	6.1	—	1.5	—	66	15.2
男子	文科系	5.1	16.9	6.7	41.0	10.8	0.5	3.6	8.2	3.6	1	2.6	—	195	45.0
	理科系	6.0	22.2	8.5	5.1	1.7	6.8	5.1	29.1	6	6	2.6	0.9	117	27.0
女子	文科系	5.4	12.0	9.8	32.6	7.6	1.1	4.3	19.6	5.4	—	2.2	—	92	21.2
	理科系	—	6.9	20.7	—	—	3.4	—	62.1	6.9	—	—	—	29	6.7

Ｘ－１表　大学入学後の海外旅行経験

区　　分	１回	２回	３回	４回以上	ない	無回答	事例数	
1994年調査	%	%	%	%	%	%	人	%
(44回)	(18.1)	(5.8)	(2.6)	(2.6)	(53.2)	(17.7)	(1,215)	(100.0)
全　　体	19.0	8.6	3.9	5.3	62.9	0.4	1,395	100.0
男　　子	18.5	7.7	3.6	4.1	65.7	0.5	1,082	77.6
女　　子	20.8	11.8	4.8	9.6	53.0	—	313	22.4
前期課程	14.7	3.9	1.1	1.7	78.4	0.3	662	47.5
後期課程	22.9	12.8	6.4	8.6	48.8	0.4	733	52.5
文 科 系	21.3	9.9	5.4	7.0	56.3	0.1	670	48.0
理 科 系	16.8	7.4	2.5	3.7	69.0	0.6	725	52.0

Ｘ－４表　海外旅行の形態

（２つまで選択）

区　　分	１人で	友人と	家族と	団体旅行	無回答	事例数
全　　体	%	%	%	%	%	人
	29.6	57.1	31.8	15.2	0.2	513
男　　子	29.5	56.3	29.8	14.5	—	366
女　　子	29.9	59.2	36.7	17.0	0.7	147
前期課程	22.0	45.4	33.3	21.3	0.7	141
後期課程	32.5	61.6	31.2	12.9	—	372
文 科 系	31.8	57.5	31.8	15.8	—	292
理 科 系	26.7	56.6	31.7	14.5	0.5	221

Ｘ－５表　一泊以上の国内旅行の回数（４月から９月末までの間で帰省を除く）

区　　分	１回	２回	３回	４回	５回以上	旅行はしなかった	無回答	事　例　数	
1994年調査	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(44回)	(23.5)	(16.0)	(15.6)	(6.0)	(10.5)	(27.3)	(0.9)	(1,215)	(100.0)
全　　体	20.7	21.4	14.1	7.2	11.7	24.0	0.9	1,395	100.0
男　　子	22.1	20.3	13.2	7.0	11.0	25.1	1.2	1,082	77.6
女　　子	16.0	24.9	17.3	7.7	14.1	20.1	—	313	22.4
前期課程	18.9	20.8	15.4	8.2	12.1	23.9	0.8	662	47.5
後期課程	22.4	21.8	13.0	6.3	11.3	24.1	1.1	733	52.5
文 科 系	20.1	19.7	15.5	7.0	11.6	25.2	0.7	670	48.0
理 科 系	21.2	22.9	12.8	7.3	11.7	22.9	1.1	725	52.0

X－2表　主たる海外旅行先

（3つまで選択）

区　　分	アジア	中近東	アフリカ	北アメリカ	中南米（メキシコを含む）	西ヨーロッパ	旧ソ連・東欧	オセアニア	ハワイ・グアム・サイパン	その他	事例数
1994年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
（44回）	(43.5)	(1.4)	(2.0)	(29.9)	(1.7)	(43.5)	(2.3)	(7.3)	(9.0)	(2.0)	(345)
全　　体	56.3	1.0	1.4	29.2	2.1	39.2	5.3	9.6	9.2	0.8	513
男　　子	56.8	1.1	1.1	27.9	2.2	37.2	5.2	9.0	9.8	0.8	366
女　　子	55.1	0.7	2.0	32.7	2.0	44.2	5.4	10.9	7.5	0.7	147
前期課程	57.4	—	1.4	24.8	—	29.8	2.8	8.5	6.4	0.7	141
後期課程	55.9	1.3	1.3	30.9	3.0	42.7	6.2	9.9	10.2	0.8	372
文 科 系	58.6	0.3	1.7	29.1	2.1	39.0	7.9	8.6	9.9	1.4	292
理 科 系	53.4	1.8	0.9	29.4	2.3	39.4	1.8	10.9	8.1	—	221

X－3表　海外旅行の目的

（2つまで選択）

区　　分	語学研修	学術調査	留学	スポーツ等の活動	ホームステイ	家族や親戚・友人の訪問	観光	その他	事例数
全　　体	%	%	%	%	%	%	%	%	人
	16.2	4.9	2.9	4.7	4.7	19.5	83.0	5.1	513
男　　子	13.4	5.2	1.9	6.0	3.6	18.9	83.3	5.5	366
女　　子	23.1	4.1	5.4	1.4	7.5	21.1	82.3	4.1	147
前期課程	18.4	2.1	1.4	2.8	8.5	22.0	77.3	7.1	141
後期課程	15.3	5.9	3.5	5.4	3.2	18.5	85.2	4.3	372
文 科 系	19.5	4.8	3.4	4.5	5.5	18.2	81.2	5.5	292
理 科 系	11.8	5.0	2.3	5.0	3.6	21.3	85.5	4.5	221

X－6表　国内旅行の形態

（2つまで選択）

区　　分	サークルの合宿や試合に参加した	ゼミ旅行に参加した	1人で旅行をした	友人と旅行をした	家族と旅行をした	その他	無回答	事例数
全　　体	% 60.4	% 9.2	% 13.3	% 43.0	% 17.2	% 5.0	% 0.4	人 1,047
男　　子	63.0	8.8	14.9	40.9	14.7	4.6	0.3	797
女　　子	52.0	10.4	8.0	49.6	25.2	6.0	0.8	250
前期課程	71.9	2.2	13.8	36.5	19.0	4.4	0.4	499
後期課程	49.8	15.5	12.8	48.9	15.5	5.5	0.4	548
文 科 系	58.7	11.3	12.5	45.8	17.1	4.2	0.4	496
理 科 系	61.9	7.3	14.0	40.5	17.2	5.6	0.4	551

X－7表　スポーツはしていますか

区　　分	全くしない	体育の授業でしているが、他にはしていない	サークル活動でしている	自主的にしている	無回答	事　例　数	
全　　体	% 30.3	% 14.5	% 35.3	% 18.7	% 1.1	人 1,395	% 100.0
男　　子	27.9	13.8	37.4	19.5	1.4	1,082	77.6
女　　子	38.7	16.9	28.1	16.0	0.3	313	22.4
前期課程	17.2	29.0	42.3	9.8	1.7	662	47.5
後期課程	42.2	1.4	29.1	26.7	0.7	733	52.5
文 科 系	31.6	13.7	31.9	21.5	1.2	670	48.0
理 科 系	29.1	15.2	38.5	16.1	1.1	725	52.0

X－8表　スポーツはどの程度していますか

区　　分	週1回	週2回	週3回	週4～5回	週6回以上	無回答	事　例　数	
全　　体	% 45.3	% 19.4	% 15.1	% 13.2	% 6.7	% 0.4	人 956	% 100.0
男　　子	43.5	19.6	15.4	14.0	6.9	0.5	765	80.0
女　　子	52.4	18.3	13.6	9.9	5.8	—	191	20.0
前期課程	44.3	17.7	16.8	13.6	7.1	0.6	537	56.2
後期課程	46.5	21.5	12.9	12.6	6.2	0.2	419	43.8
文 科 系	47.1	19.3	14.4	12.7	6.2	0.2	450	47.1
理 科 系	43.7	19.4	15.6	13.6	7.1	0.6	506	52.9

X－9表　現在しているスポーツ

（3つまで選択）

区分	バスケットボール	ハンドボール	バレーボール	バドミントン	ボクシング	水泳	卓球	テニス	サッカー	ラグビー	アメリカンフットボール	野球	ソフトボール	陸上競技	アーチェリー	ゴルフ
1994年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
(44回)	(11.0)	(1.1)	(3.7)	(10.0)	(1.1)	(17.0)	(7.2)	(28.0)	(11.4)	(1.9)	(1.9)	(8.7)	(4.2)	(1.6)	(0.7)	(5.7)
全体	8.7	1.0	4.4	11.5	0.5	8.7	7.1	20.4	17.5	0.5	1.4	6.3	3.0	3.0	0.4	1.4
男子	8.8	1.3	4.2	10.6	0.7	8.8	7.6	19.1	21.6	0.7	1.7	7.7	3.7	3.3	0.3	1.6
女子	8.4	—	5.2	15.2	—	8.4	5.2	25.7	1.0	—	—	0.5	0.5	2.1	1.0	0.5
前期課程	11.2	1.3	6.0	14.7	0.6	3.9	8.4	20.5	17.5	0.4	0.7	6.1	3.5	2.0	0.7	0.9
後期課程	5.5	0.7	2.4	7.4	0.5	14.8	5.5	20.3	17.4	0.7	2.1	6.4	2.4	4.3	—	1.9
文科系	8.4	1.3	4.4	8.9	0.4	10.2	6.2	18.9	15.6	0.7	1.3	6.0	2.4	3.1	0.4	1.1
理科系	8.9	0.8	4.3	13.8	0.6	7.3	7.9	21.7	19.2	0.4	1.4	6.5	3.6	3.0	0.4	1.6

区分	ジョギング・ランニング	ハンググライダー	ラクロス	ダンス	エアロビクス	ボディビル・筋力トレーニング	体操	ボーリング	スキー	スケート	フィールドホッケー	アイスホッケー	スキューバダイビング	サーフィン	ウィンドサーフィン	ボート
1994年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
(44回)	(8.5)	(—)	(1.4)	(1.1)	(1.5)	(4.0)	(0.7)	(8.2)	(20.5)	(1.2)	(—)	(0.5)	(2.4)	(—)	(0.1)	(0.9)
全体	9.3	—	1.2	3.2	1.4	18.2	1.3	1.8	3.0	0.6	0.2	0.1	1.0	0.5	—	0.9
男子	9.8	—	1.0	1.7	0.5	19.9	0.9	2.2	3.5	0.7	0.3	0.1	1.0	0.7	—	1.2
女子	7.3	—	1.6	9.4	4.7	11.5	2.6	—	1.0	0.5	—	—	1.0	—	—	—
前期課程	6.0	—	0.9	3.0	0.4	16.6	1.7	2.0	2.2	0.9	0.4	—	1.3	0.2	—	1.1
後期課程	13.6	—	1.4	3.6	2.6	20.3	0.7	1.4	4.1	0.2	—	0.2	0.7	1.0	—	0.7
文科系	10.9	—	1.3	3.3	1.6	19.6	1.3	2.0	3.6	0.4	0.2	—	0.9	0.7	—	0.4
理科系	7.9	—	1.0	3.2	1.2	17.0	1.2	1.6	2.6	0.8	0.2	0.2	1.2	0.4	—	1.4

区分	ヨット	登山	馬術	自転車	剣道	合気道	柔道	空手	太極拳	少林寺拳法	弓道	フェンシング	レスリング	相撲	その他	無回答	事例数
1994年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
(44回)	(2.0)	(4.2)	(—)	(5.6)	(2.1)	(2.4)	(0.2)	(3.0)	(0.6)	(1.5)	(0.5)	(—)	(—)	(—)	(8.5)	(—)	(808)
全体	0.3	1.9	0.1	2.7	1.8	2.3	0.4	1.3	0.3	1.0	1.4	—	0.2	0.1	6.4	0.6	956
男子	0.3	2.1	0.1	2.9	1.6	1.7	0.5	1.4	—	0.9	1.3	—	0.3	0.1	5.8	0.7	765
女子	0.5	1.0	—	2.1	2.6	4.7	—	0.5	1.6	1.6	1.6	—	—	—	8.9	0.5	191
前期課程	0.2	0.9	0.2	2.2	1.7	3.0	0.2	1.3	0.4	0.9	2.0	—	—	0.2	6.0	0.9	537
後期課程	0.5	3.1	—	3.3	1.9	1.4	0.7	1.2	0.2	1.2	0.5	—	0.5	—	6.9	0.2	419
文科系	—	1.8	0.2	2.7	2.0	2.0	0.7	1.1	0.4	0.4	1.3	—	0.4	0.2	6.9	0.7	450
理科系	0.6	2.0	—	2.8	1.6	2.6	0.2	1.4	0.2	1.6	1.4	—	—	—	5.9	0.6	506

1．今回調査では、1994年（第44回）調査の選択肢から「特にない」を除き、新たに「フィールドホッケー」「サーフィン」「フェンシング」「レスリング」「相撲」の5種類を加えた
2．今回調査との比較のため、1994年（第44回）調査の「特にない」を除き各種目の数値を算出しなおした

Ｘ－10表　本大学施設の利用状況

平均値は利用したことがあるもののみで算出

区分		利用したことはない	1回	2回～3回	4回～5回	6回～9回	10回以上	平均値	無回答	事例数	
御殿下記念館（本郷）	全体	%	%	%	%	%	%	回	%	人	%
		61.4	7.2	6.6	3.7	2.1	18.6	6.6	0.4	1,395	100.0
	男子	61.0	6.8	6.3	3.4	1.8	20.1	6.9	0.5	1,082	77.6
	女子	62.6	8.6	7.7	4.8	2.9	13.1	5.6	0.3	313	22.4
	前期課程	83.1	5.6	3.3	2.1	0.6	5.0	4.7	0.3	662	47.5
	後期課程	41.7	8.7	9.5	5.2	3.4	30.8	7.2	0.5	733	52.5
	文科系	61.8	7.9	6.4	3.4	1.9	18.2	6.5	0.3	670	48.0
	理科系	61.0	6.6	6.8	4.0	2.2	18.9	6.8	0.6	725	52.0
屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（本郷）	全体	%	%	%	%	%	%	回	%	人	%
		78.2	3.6	5.2	2.1	0.7	9.6	6.3	0.6	1,395	100.0
	男子	75.7	3.9	5.5	2.4	0.8	11.2	6.5	0.6	1,082	77.6
	女子	86.9	2.6	4.5	1.0	0.3	4.2	5.1	0.6	313	22.4
	前期課程	90.2	2.7	0.9	1.2	0.3	4.4	6.1	0.3	662	47.5
	後期課程	67.4	4.4	9.1	2.9	1.1	14.3	6.4	0.8	733	52.5
	文科系	80.1	3.7	5.4	1.5	0.3	8.4	6.0	0.6	670	48.0
	理科系	76.4	3.4	5.1	2.6	1.1	10.8	6.6	0.6	725	52.0
屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（駒場）	全体	%	%	%	%	%	%	回	%	人	%
		61.2	2.5	4.7	2.6	1.4	27.0	3.3	0.6	1,395	100.0
	男子	60.4	2.7	5.3	2.6	1.4	27.1	3.4	0.6	1,082	77.6
	女子	64.2	1.9	2.9	2.6	1.3	26.5	3.2	0.6	313	22.4
	前期課程	61.9	3.2	3.3	3.9	1.1	26.3	3.2	0.3	662	47.5
	後期課程	60.6	1.9	6.0	1.4	1.6	27.6	3.4	1.0	733	52.5
	文科系	60.1	3.1	4.5	3.0	1.0	27.8	3.4	0.4	670	48.0
	理科系	62.2	1.9	5.0	2.2	1.7	26.2	3.3	0.8	725	52.0
体育館（駒場）	全体	%	%	%	%	%	%	回	%	人	%
		58.6	3.1	5.2	2.7	2.1	27.5	8.5	0.8	1,395	100.0
	男子	58.5	3.0	5.3	3.0	2.1	27.3	8.4	0.8	1,082	77.6
	女子	59.1	3.2	4.8	1.9	1.9	28.4	8.7	0.6	313	22.4
	前期課程	55.9	3.3	6.3	2.9	2.0	29.3	8.4	0.3	662	47.5
	後期課程	61.1	2.9	4.1	2.6	2.2	25.9	8.6	1.2	733	52.5
	文科系	60.0	3.3	5.8	2.8	2.1	25.4	8.2	0.6	670	48.0
	理科系	57.4	2.9	4.6	2.6	2.1	29.5	8.7	1.0	725	52.0
検見川総合運動場・検見川セミナーハウス	全体	%	%	%	%	%	%	回	%	人	%
		68.4	10.5	7.6	4.2	3.1	5.7	4.0	0.6	1,395	100.0
	男子	66.3	10.6	7.8	4.4	3.5	6.8	4.3	0.6	1,082	77.6
	女子	75.7	10.2	7.0	3.2	1.6	1.6	2.6	0.6	313	22.4
	前期課程	76.7	10.6	6.0	2.9	1.4	2.0	2.7	0.5	662	47.5
	後期課程	60.8	10.5	9.0	5.3	4.6	9.0	4.7	0.7	733	52.5
	文科系	68.5	11.0	7.9	3.6	3.6	4.9	3.8	0.4	670	48.0
	理科系	68.3	10.1	7.3	4.7	2.6	6.3	4.2	0.7	725	52.0
スポーティア（戸田寮、山中寮、下賀茂寮、谷川寮、乗鞍寮）	全体	%	%	%	%	%	%	回	%	人	%
		89.0	6.5	1.9	0.7	0.1	0.9	1.9	0.9	1,395	100.0
	男子	88.4	6.8	2.0	0.7	0.1	1.0	2.0	0.9	1,082	77.6
	女子	91.4	5.1	1.6	0.6	—	0.6	1.8	0.6	313	22.4
	前期課程	91.2	5.1	1.8	0.5	—	0.8	1.9	0.6	662	47.5
	後期課程	87.0	7.6	2.0	1.0	0.1	1.1	2.0	1.1	733	52.5
	文科系	89.3	5.8	2.5	0.4	—	1.3	2.3	0.6	670	48.0
	理科系	88.8	7.0	1.4	1.0	0.1	0.6	1.6	1.1	725	52.0

X－11表　本大学施設の満足度

区分		非常に満足できるものであった	一応満足できるものであった	やや不満の残るものであった	非常に不満の残るものであった	無回答	事例数	
御殿下記念館（本郷）	全体	% 48.6	% 43.2	% 5.8	% 2.4	% —	人 533	% 100.0
	男子	47.2	42.9	6.7	3.1	—	417	78.2
	女子	53.4	44.0	2.6	—	—	116	21.8
	前期課程	49.1	39.1	7.3	4.5	—	110	20.6
	後期課程	48.5	44.2	5.4	1.9	—	423	79.4
	文科系	52.8	40.2	3.9	3.1	—	254	47.7
	理科系	44.8	45.9	7.5	1.8	—	279	52.3
屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（本郷）	全体	% 16.9	% 59.5	% 17.6	% 6.1	% —	人 296	% 100.0
	男子	18.3	58.0	17.1	6.6	—	257	86.8
	女子	7.7	69.2	20.5	2.6	—	39	13.2
	前期課程	7.9	55.6	22.2	14.3	—	63	21.3
	後期課程	19.3	60.5	16.3	3.9	—	233	78.7
	文科系	15.5	62.0	16.3	6.2	—	129	43.6
	理科系	18.0	57.5	18.6	6.0	—	167	56.4
屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（駒場）	全体	% 16.9	% 61.7	% 17.7	% 3.4	% 0.4	人 532	% 100.0
	男子	17.3	59.5	19.0	3.8	0.5	422	79.3
	女子	15.5	70.0	12.7	1.8	—	110	20.7
	前期課程	14.4	62.0	19.6	3.2	0.8	250	47.0
	後期課程	19.1	61.3	16.0	3.5	—	282	53.0
	文科系	16.3	62.9	17.0	3.8	—	264	49.6
	理科系	17.5	60.4	18.3	3.0	0.7	268	50.4
体育館（駒場）	全体	% 13.6	% 63.1	% 18.9	% 4.2	% 0.2	人 566	% 100.0
	男子	13.4	63.6	18.2	4.5	0.2	440	77.7
	女子	14.3	61.1	21.4	3.2	—	126	22.3
	前期課程	12.1	65.5	17.2	4.8	0.3	290	51.2
	後期課程	15.2	60.5	20.7	3.6	—	276	48.8
	文科系	14.0	61.7	19.3	4.9	—	264	46.6
	理科系	13.2	64.2	18.5	3.6	0.3	302	53.4
検見川総合運動場・検見川セミナーハウス	全体	% 32.3	% 57.3	% 8.1	% 2.1	% 0.2	人 433	% 100.0
	男子	32.0	56.5	8.9	2.2	0.3	359	82.9
	女子	33.8	60.8	4.1	1.4	—	74	17.1
	前期課程	29.8	58.9	7.9	2.6	0.7	151	34.9
	後期課程	33.7	56.4	8.2	1.8	—	282	65.1
	文科系	33.2	57.7	7.2	1.9	—	208	48.0
	理科系	31.6	56.9	8.9	2.2	0.4	225	52.0
スポーティア（戸田寮、山中寮、下賀茂寮、谷川寮、乗鞍寮）	全体	% 25.5	% 50.4	% 17.0	% 7.1	% —	人 141	% 100.0
	男子	25.0	51.7	16.4	6.9	—	116	82.3
	女子	28.0	44.0	20.0	8.0	—	25	17.7
	前期課程	13.0	50.0	25.9	11.1	—	54	38.3
	後期課程	33.3	50.6	11.5	4.6	—	87	61.7
	文科系	23.5	50.0	19.1	7.4	—	68	48.2
	理科系	27.4	50.7	15.1	6.8	—	73	51.8

XI－1表　出身高校は男女共学でしたか、別学でしたか

区　　分	男女共学	男女別学	無回答	事　例　数	
全　　体	% 47.2	% 52.5	% 0.4	人 1,395	% 100.0
男　　子	43.2	56.5	0.4	1,082	77.6
女　　子	61.0	38.7	0.3	313	22.4

XI－2表　高校生の時に、お母さんは職業に就いていましたか

区　　分		フルタイムで働いていた	パートタイムで働いていた	自営業または農業など家の事業を手伝っていた	専業主婦だった	その他	無回答	事　例　数	
全　　体		% 16.5	% 31.0	% 8.1	% 42.6	% 1.6	% 0.2	人 1,395	% 100.0
男　　子		15.0	32.3	8.0	43.1	1.4	0.3	1,082	77.6
女　　子		21.7	26.8	8.3	40.9	2.2	—	313	22.4
男女共学	男子	17.1	31.9	9.6	39.8	1.3	0.2	467	33.5
	女子	25.1	26.7	7.9	38.2	2.1	—	191	13.7
男女別学	男子	13.4	32.7	6.7	45.7	1.5	—	611	43.8
	女子	16.5	27.3	9.1	44.6	2.5	—	121	8.7

XI－3表　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

区　　分			賛　成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	無回答	事　例　数	
全　　体			% 5.1	% 28.5	% 36.6	% 29.4	% 0.4	人 1,395	% 100.0
男　　子			6.1	33.7	37.9	21.8	0.5	1,082	77.6
女　　子			1.6	10.2	32.3	55.6	0.3	313	22.4
男女共学		男子	7.1	31.9	38.3	22.7	—	467	33.5
		女子	1.0	9.4	33.5	55.5	0.5	191	13.7
男女別学		男子	5.4	35.2	37.6	21.3	0.5	611	43.8
		女子	2.5	11.6	30.6	55.4	—	121	8.7
母の職業	フルタイムで働いていた	男子	2.5	23.5	38.3	35.2	0.6	162	11.6
		女子	1.5	8.8	27.9	61.8	—	68	4.9
	パートタイムで働いていた	男子	6.6	32.4	40.4	20.3	0.3	349	25.0
		女子	1.2	6.0	38.1	54.8	—	84	6.0
	自営業または農業など家の事業を手伝っていた	男子	5.7	28.7	43.7	21.8	—	87	6.2
		女子	—	3.8	34.6	61.5	—	26	1.9
	専業主婦だった	男子	7.3	39.7	35.0	17.8	0.2	466	33.4
		女子	2.3	14.1	31.3	51.6	0.8	128	9.2
	その他	男子	—	26.7	40.0	33.3	—	15	1.1
		女子	—	28.6	14.3	57.1	—	7	0.5

XI －4表　男性の仕事と家庭の両立について

区分			家事や地域活動は妻に任せ、仕事に専念する	家庭や地域活動を尊重するが、あくまでも仕事を優先させる	家事や地域活動に妻とともに参加し、仕事と両立させる	どちらかといえば、仕事よりも、家庭や地域活動などを優先させる	仕事は妻に任せ、家事や地域活動に専念する	無回答	事例数	
			%	%	%	%	%	%	人	%
全体			2.4	34.2	58.3	3.7	0.6	0.9	1,395	100.0
男子			2.7	38.7	52.5	4.3	0.7	1.0	1,082	77.6
女子			1.3	18.5	78.3	1.6	—	0.3	313	22.4
男女共学		男子	1.7	37.3	54.2	5.1	1.1	0.6	467	33.5
		女子	1.6	18.8	77.5	1.6	—	0.5	191	13.7
男女別学		男子	3.4	39.9	51.4	3.8	0.5	1.0	611	43.8
		女子	0.8	18.2	79.3	1.7	—	—	121	8.7
母の職業	フルタイムで働いていた	男子	1.2	34.0	56.8	6.2	1.2	0.6	162	11.6
		女子	2.9	17.6	75.0	4.4	—	—	68	4.9
	パートタイムで働いていた	男子	3.2	40.4	52.1	3.2	0.6	0.6	349	25.0
		女子	—	13.1	85.7	1.2	—	—	84	6.0
	自営業または農業など家の事業を手伝っていた	男子	3.4	40.2	51.7	4.6	—	—	87	6.2
		女子	—	26.9	73.1	—	—	—	26	1.9
	専業主婦だった	男子	2.8	38.6	52.1	4.5	0.9	1.1	466	33.4
		女子	1.6	19.5	77.3	0.8	—	0.8	128	9.2
	その他	男子	—	53.3	33.3	6.7	—	6.7	15	1.1
		女子	—	42.9	57.1	—	—	—	7	0.5

XI－5表　一般的に、女性が職業をもつことについて

区分			女性は職業をもたない方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	子供ができるまでは、職業をもつ方がよい	子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	子供ができても、ずっと職業を続ける方がよい	無回答	事例数	
			%	%	%	%	%	%	人	%
全体			1.0	5.0	10.7	39.6	42.2	1.6	1,395	100.0
男子			1.2	6.1	12.8	42.1	36.2	1.6	1,082	77.6
女子			0.3	1.3	3.5	30.7	62.6	1.6	313	22.4
男女共学		男子	1.7	4.7	11.6	40.5	40.0	1.5	467	33.5
		女子	0.5	1.0	3.7	30.4	63.4	1.0	191	13.7
男女別学		男子	0.8	7.0	13.7	43.7	33.4	1.3	611	43.8
		女子	—	1.7	3.3	31.4	61.2	2.5	121	8.7
母の職業	フルタイムで働いていた	男子	1.2	1.2	6.2	35.8	52.5	3.1	162	11.6
		女子	1.5	—	—	26.5	72.1	—	68	4.9
	パートタイムで働いていた	男子	1.4	5.2	7.4	49.9	35.2	0.9	349	25.0
		女子	—	1.2	1.2	27.4	70.2	—	84	6.0
	自営業または農業など家の事業を手伝っていた	男子	1.1	1.1	11.5	33.3	52.9	—	87	6.2
		女子	—	—	7.7	15.4	76.9	—	26	1.9
	専業主婦だった	男子	1.1	9.7	18.9	40.8	28.3	1.3	466	33.4
		女子	—	2.3	6.3	37.5	50.0	3.9	128	9.2
	その他	男子	—	—	26.7	33.3	33.3	6.7	15	1.1
		女子	—	—	—	42.9	57.1	—	7	0.5

XI－6表　結婚前の性交渉をどう思いますか

区分			どんな場合でもさけるべきだ	結婚が前提であればかまわない	お互いに愛情があればかまわない	愛情がなくてもかまわない	無回答	事例数	
全体			%	%	%	%	%	人	%
			4.0	10.0	70.0	15.5	0.6	1,395	100.0
男子			3.4	9.6	68.7	17.7	0.6	1,082	77.6
女子			6.1	11.2	74.4	7.7	0.6	313	22.4
男女共学		男子	3.2	10.3	69.6	16.7	0.2	467	33.5
		女子	4.2	10.5	77.5	7.3	0.5	191	13.7
男女別学		男子	3.6	9.2	68.1	18.7	0.5	611	43.8
		女子	9.1	12.4	69.4	8.3	0.8	121	8.7
母の職業	フルタイムで働いていた	男子	0.6	6.2	67.9	24.1	1.2	162	11.6
		女子	4.4	5.9	82.4	7.4	—	68	4.9
	パートタイムで働いていた	男子	2.3	9.5	73.4	14.6	0.3	349	25.0
		女子	3.6	10.7	77.4	8.3	—	84	6.0
	自営業または農業など家の事業を手伝っていた	男子	2.3	11.5	72.4	13.8	—	87	6.2
		女子	7.7	19.2	69.2	3.8	—	26	1.9
	専業主婦だった	男子	4.9	10.9	65.5	18.5	0.2	466	33.4
		女子	8.6	13.3	68.0	8.6	1.6	128	9.2
	その他	男子	20.0	—	53.3	26.7	—	15	1.1
		女子	—	—	100.0	—	—	7	0.5

XII－1表　就職希望職種（「第1位のみの集計」）

区　分		大学・官公庁の教育・研究職	企業等の研究職	技術職	事務職	教育職（大学を除く）	行政職（公務員）	専門職（医師、弁護士、公認会計士等）	マスコミ（新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等）	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(26.2)	(16.1)	(10.2)	(5.3)	(1.4)	(12.7)	(19.1)	(4.1)	(4.2)	(0.5)	(942)	(100.0)
全　体		24.8	14.1	8.9	7.0	1.1	12.0	21.7	5.1	4.3	1.1	1,395	100.0
男　子		26.0	14.2	10.3	7.0	0.6	11.4	20.7	4.2	4.4	1.2	1,082	77.6
女　子		20.8	13.7	4.2	6.7	2.6	14.1	25.2	8.3	3.8	0.6	313	22.4
男子	前期課程	29.8	14.3	11.1	2.6	0.8	10.7	19.5	4.4	5.2	1.6	503	36.1
	後期課程	22.6	14.2	9.5	10.9	0.5	11.9	21.8	4.0	3.8	0.9	579	41.5
女子	前期課程	26.4	10.7	3.8	2.5	1.9	17.6	27.0	5.7	3.8	0.6	159	11.4
	後期課程	14.9	16.9	4.5	11.0	3.2	10.4	23.4	11.0	3.9	0.6	154	11.0
男子	文科系	15.7	2.5	2.5	11.5	1.0	20.3	31.7	8.0	5.0	1.7	477	34.2
	理科系	34.0	23.5	16.4	3.5	0.3	4.3	12.1	1.2	4.0	0.8	605	43.4
女子	文科系	17.6	4.1	1.6	9.8	3.1	18.1	29.0	11.9	4.1	0.5	193	13.8
	理科系	25.8	29.2	8.3	1.7	1.7	7.5	19.2	2.5	3.3	0.8	120	8.6
(第2位)全体		15.6	20.6	9.1	7.0	4.4	10.4	10.0	6.5	1.2	15.2	1,395	100.0
(第3位)全体		11.9	6.3	12.9	7.6	6.3	8.6	6.2	7.9	1.4	30.9	1,395	100.0

XII－2表　その職業に就きたい理由（「第1位のみの集計」）

区　分		人を助けたり社会に奉仕する	安定した生活が保証されている	十分な収入が期待できる	自分の特技・能力や専門知識が活かせる	華やかで、世間からもてはやされる	社会的な地位・名声が得られる	組織にしばられず、自由な活動ができる	人や組織を動かすことができる	独創性や創造性を発揮できる	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(19.0)	(10.5)	(7.0)	(40.1)	(0.2)	(1.3)	(5.4)	(2.4)	(9.2)	(3.3)	(1.5)	(942)	(100.0)
全　体		20.8	9.5	6.9	37.1	0.8	1.7	7.2	2.4	9.3	3.1	1.1	1,395	100.0
男　子		20.3	9.1	7.0	35.7	0.7	1.9	8.1	2.8	10.0	3.0	1.2	1,082	77.6
女　子		22.4	10.9	6.4	42.2	1.0	1.0	4.2	1.0	7.0	3.2	1.0	313	22.4
男子	前期課程	16.7	10.5	6.0	39.6	0.2	2.4	8.5	2.6	10.1	1.8	1.6	503	36.1
	後期課程	23.5	7.9	7.9	32.3	1.2	1.6	7.8	2.9	9.8	4.1	0.9	579	41.5
女子	前期課程	23.3	13.2	7.5	39.0	1.9	0.6	3.1	1.3	6.3	2.5	1.3	159	11.4
	後期課程	21.4	8.4	5.2	45.5	—	1.3	5.2	0.6	7.8	3.9	0.6	154	11.0
男子	文科系	24.9	10.1	10.3	24.1	1.3	3.6	10.7	4.0	6.5	2.9	1.7	477	34.2
	理科系	16.7	8.4	4.5	44.8	0.3	0.7	6.1	1.8	12.7	3.1	0.8	605	43.4
女子	文科系	25.4	12.4	6.2	34.2	1.6	1.6	5.2	1.0	7.8	3.6	1.0	193	13.8
	理科系	17.5	8.3	6.7	55.0	—	—	2.5	0.8	5.8	2.5	0.8	120	8.6
(第2位)全体		9.8	11.7	11.3	19.7	1.1	4.2	10.6	4.3	17.3	0.9	9.2	1,395	100.0
(第3位)全体		9.5	10.7	10.6	11.3	1.1	7.2	8.5	4.9	11.5	0.9	23.7	1,395	100.0

XII－3表　仕事や職場を選ぶ理由（「第1位のみの集計」）

区分		給与がよい	休みをとりやすい	責任が軽い	失業の心配がない	福利厚生が充実している	出世の見込みが多い	技術や知識を身につけられる	権限が大きい	やりがいがある	能力が発揮できる	人から評価される	仕事を行う上で男女の差別がない	将来発展する見込みがある	職場が都心のオフィス街にある	職場が自然環境のよい郊外にある	海外勤務の機会が多い	転勤が少ない	いろいろな人と知り合える	オフィスが新しくてきれい	職場の人間関係がよい	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(10.4)	(2.8)	(0.1)	(4.2)	(1.1)	(0.3)	(5.7)	(0.4)	(48.7)	(14.5)	(1.4)	(1.2)	(1.1)	(0.1)	(0.1)	(0.6)	(0.5)	(1.2)	(—)	(2.7)	(1.8)	(1.1)	(942)	(100.0)
全体		9.6	2.6	0.9	3.9	0.8	0.5	7.1	0.5	49.2	14.5	1.1	1.1	2.0	0.1	0.1	0.6	0.3	0.9	—	1.6	1.4	1.0	1,395	100.0
男子		10.1	3.0	1.0	4.1	0.9	0.6	7.8	0.6	47.4	15.3	1.3	—	2.3	0.1	0.1	0.6	0.2	1.0	—	1.3	1.2	1.0	1,082	77.6
女子		8.0	1.3	0.3	3.5	0.3	—	4.8	—	55.6	11.5	0.6	5.1	1.0	0.3	—	0.6	0.6	0.6	—	2.9	1.9	1.0	313	22.4
男子	前期課程	11.3	2.2	1.4	4.4	0.8	0.2	5.0	0.4	49.5	14.9	1.4	—	3.2	—	0.2	0.2	0.2	0.8	—	1.2	1.6	1.2	503	36.1
	後期課程	9.0	3.6	0.7	3.8	1.0	1.0	10.2	0.9	45.6	15.7	1.2	—	1.6	0.2	—	1.0	0.2	1.2	—	1.4	0.9	0.9	579	41.5
女子	前期課程	11.3	1.3	0.6	5.0	0.6	—	1.9	—	54.7	13.8	0.6	4.4	0.6	0.6	—	0.6	—	—	—	1.9	1.3	0.6	159	11.4
	後期課程	4.5	1.3	—	1.9	—	—	7.8	—	56.5	9.1	0.6	5.8	1.3	—	—	0.6	1.3	1.3	—	3.9	2.6	1.3	154	11.0
男子	文科系	11.3	3.6	1.3	4.8	1.0	0.8	5.7	1.0	47.0	14.5	1.7	—	1.5	0.2	0.2	1.0	0.2	1.0	—	0.6	1.3	1.3	477	34.2
	理科系	9.1	2.5	0.8	3.5	0.8	0.5	9.4	0.3	47.8	16.0	1.0	—	3.0	—	—	0.3	0.2	1.0	—	1.8	1.2	0.8	605	43.4
女子	文科系	8.3	1.0	0.5	3.6	—	—	5.7	—	52.3	11.9	0.5	6.7	1.0	0.5	—	1.0	0.5	1.0	—	2.6	2.1	0.5	193	13.8
	理科系	7.5	1.7	—	3.3	0.8	—	3.3	—	60.8	10.8	0.8	2.5	0.8	—	—	—	0.8	—	—	3.3	1.7	1.7	120	8.6
(第2位)全体		10.2	3.2	0.9	3.7	2.6	0.8	8.2	1.7	15.6	22.1	3.9	3.3	6.0	0.5	0.4	1.3	1.3	4.8	0.1	6.2	0.4	3.0	1,395	100.0
(第3位)全体		14.6	3.8	0.6	5.3	3.0	0.9	7.2	1.4	7.5	9.3	4.8	3.0	5.6	1.3	0.8	3.0	1.6	7.9	0.6	9.1	0.5	8.0	1,395	100.0

XII－4表　就職活動として、どのようなことをしていますか

（複数選択）

区分		インターネット等で、情報を収集する	企業等のセミナーや説明会に参加する	就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
（51回）		(37.3)	(20.9)	(11.9)	(17.2)	(2.5)	(50.4)	(942)	(100.0)
全体		39.1	22.2	11.6	16.8	2.2	49.5	1,395	100.0
男子		38.5	22.4	10.9	16.6	1.9	51.0	1,082	77.6
女子		41.2	21.7	14.1	17.3	2.9	44.4	313	22.4
男子	前期課程	21.9	6.6	6.8	10.1	1.4	70.0	503	36.1
	後期課程	53.0	36.1	14.5	22.3	2.4	34.5	579	41.5
女子	前期課程	24.5	8.8	11.9	14.5	1.9	60.4	159	11.4
	後期課程	58.4	35.1	16.2	20.1	3.9	27.9	154	11.0
男子	文科系	50.7	34.2	17.0	29.4	2.1	31.7	477	34.2
	理科系	28.9	13.1	6.1	6.6	1.8	66.3	605	43.4
女子	文科系	47.2	26.4	19.7	27.5	2.6	34.2	193	13.8
	理科系	31.7	14.2	5.0	0.8	3.3	60.8	120	8.6

XII－5表　就職する場所はどこを希望しますか

区分		東京圏(東京近郊)を希望する	東京圏(東京近郊)以外を希望する	出身地に近いところを希望する	東京圏、東京圏以外どちらでもよい	その他	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
（51回）		(54.4)	(2.0)	(5.7)	(32.1)	(3.8)	(2.0)	(942)	(100.0)
全体		55.1	1.4	6.2	32.8	2.5	1.9	1,395	100.0
男子		53.6	1.6	6.7	34.1	2.1	1.9	1,082	77.6
女子		60.4	0.6	4.8	28.4	3.8	1.9	313	22.4
男子	前期課程	51.3	2.0	7.4	35.2	2.4	1.8	503	36.1
	後期課程	55.6	1.2	6.0	33.2	1.9	2.1	579	41.5
女子	前期課程	57.2	—	7.5	28.3	5.0	1.9	159	11.4
	後期課程	63.6	1.3	1.9	28.6	2.6	1.9	154	11.0
男子	文科系	60.0	0.8	6.3	29.8	1.5	1.7	477	34.2
	理科系	48.6	2.1	6.9	37.5	2.6	2.1	605	43.4
女子	文科系	63.7	0.5	4.1	25.9	4.1	1.6	193	13.8
	理科系	55.0	0.8	5.8	32.5	3.3	2.5	120	8.6

XIII表　大学への希望や期待（「第１位のみの集計」）

区分	カリキュラムの改革	教室・実験室の充実	教育スタッフの充実	進学振り分け制度の改善	小人数教育の実施	授業の方法の工夫・改善	単位認定や学年試験を緩やかに	単位認定や学年試験を厳しく	キャンパスの拡大・移転・統合	図書館の充実	談話室・学生控室の充実	課外活動諸施設の拡充	体育施設の充実	福利厚生施設の充実	学生自治に対する適切な助成と助言	学生自治の尊重	奨学金(育英資金)・育英貸付金などの拡充や増額	就職対策の充実	その他	無回答	事例数
2001年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
(51回)	(13.8)	(7.5)	(7.9)	(9.2)	(9.9)	(16.2)	(4.2)	(2.1)	(0.7)	(7.4)	(3.4)	(2.7)	(1.6)	(1.2)	(0.1)	(0.3)	(7.6)	(2.9)	(—)	(1.2)	(942)
全体	14.6	9.2	8.3	9.2	9.2	15.1	6.2	1.0	1.4	5.2	4.3	2.4	1.8	0.8	0.1	0.3	4.5	3.4	2.0	1.0	1,395
男子	15.6	9.3	8.3	8.6	9.3	14.3	6.6	1.2	1.5	4.4	4.2	2.2	1.9	1.0	0.1	0.3	4.8	2.6	2.6	1.1	1,082
女子	10.9	8.9	8.3	11.2	8.9	17.6	5.1	0.3	1.0	8.0	4.8	3.2	1.3	—	—	0.3	3.5	6.1	—	0.6	313
文科系	11.3	6.1	7.0	9.0	13.9	15.8	7.2	1.2	1.3	6.3	4.5	2.1	1.8	0.7	0.1	0.3	4.2	4.5	1.9	0.7	670
理科系	17.5	12.1	9.5	9.4	5.0	14.3	5.4	0.8	1.4	4.3	4.1	2.8	1.8	0.8	—	0.3	4.8	2.3	2.1	1.2	725
前期課程	12.7	8.0	8.9	15.6	7.9	16.5	6.9	0.8	1.2	3.5	3.8	2.6	2.7	0.3	0.2	0.5	3.5	1.8	2.0	0.9	662
後期課程	16.2	10.4	7.8	3.4	10.5	13.8	5.6	1.2	1.5	6.8	4.8	2.3	1.0	1.2	—	0.1	5.5	4.8	2.0	1.1	733
前期課程 文科一類	8.9	7.3	8.1	4.9	17.9	18.7	8.1	0.8	1.6	4.9	3.3	3.3	4.1	0.8	0.8	—	4.1	—	1.6	0.8	123
前期課程 文科二類	18.2	7.6	6.1	3.0	9.1	15.2	7.6	1.5	1.5	6.1	6.1	—	3.0	—	—	—	1.5	10.6	3.0	—	66
前期課程 文科三類	5.3	7.1	4.4	33.6	4.4	14.2	6.2	0.9	0.9	4.4	4.4	2.7	1.8	—	—	0.9	5.3	—	2.7	0.9	113
前期課程 理科一類	15.6	9.5	13.3	13.7	6.6	15.2	4.7	—	1.4	2.4	4.7	1.4	1.4	0.5	—	0.5	3.3	1.9	2.4	1.4	211
前期課程 理科二類	14.1	7.8	7.0	19.5	3.9	18.0	9.4	1.6	—	0.8	1.6	5.5	4.7	—	—	0.8	3.1	0.8	0.8	0.8	128
前期課程 理科三類	19.0	4.8	14.3	14.3	—	23.8	9.5	—	4.8	9.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21
後期課程 法学部	15.3	4.0	4.0	—	23.3	22.7	7.3	0.7	2.0	8.0	2.0	1.3	—	0.7	—	—	4.0	2.7	1.3	0.7	150
後期課程 経済学部	13.3	2.4	13.3	1.2	13.3	15.7	13.3	2.4	—	7.2	1.2	2.4	1.2	1.2	—	—	3.6	4.8	2.4	1.2	83
後期課程 文学部	11.2	6.7	9.0	10.1	9.0	3.4	2.2	—	2.2	6.7	13.5	2.2	2.2	1.1	—	—	5.6	12.4	1.1	1.1	89
後期課程 教育学部	—	6.3	—	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	—	18.8	—	6.3	—	—	—	—	—	18.8	6.3	—	16
後期課程 教養(文系)	10.0	13.3	10.0	6.7	13.3	20.0	3.3	3.3	—	—	3.3	—	—	3.3	—	3.3	6.7	3.3	—	—	30
後期課程 教養(理系)	5.3	21.1	15.8	5.3	5.3	10.5	5.3	—	—	5.3	5.3	—	10.5	—	—	—	10.5	—	—	—	19
後期課程 理学部	15.8	8.8	7.0	5.3	8.8	7.0	7.0	—	—	7.0	1.8	1.8	1.8	1.8	—	—	12.3	3.5	7.0	3.5	57
後期課程 工学部	16.9	20.8	7.8	3.2	3.9	13.6	5.2	1.9	2.6	5.2	5.2	2.6	—	0.6	—	—	5.2	2.6	1.3	1.3	154
後期課程 農学部	16.9	20.0	4.6	3.1	3.1	13.8	3.1	—	1.5	9.2	6.2	4.6	1.5	1.5	—	—	3.1	6.2	1.5	—	65
後期課程 薬学部	18.8	6.3	—	—	6.3	6.3	—	6.3	6.3	—	—	6.3	—	6.3	—	—	31.3	6.3	—	—	16
後期課程 医学部	40.7	3.7	13.0	—	3.7	13.0	—	—	—	7.4	7.4	1.9	—	1.9	—	—	—	1.9	3.7	1.9	54
(第2位)全体	7.3	9.2	7.6	5.9	6.7	15.8	5.5	1.5	1.1	7.7	6.7	2.8	2.9	0.9	0.2	0.5	6.6	5.0	1.4	4.7	1,395
(第3位)全体	8.3	6.7	6.3	4.0	5.0	11.0	3.4	1.1	2.0	6.3	4.8	3.9	5.2	1.9	0.7	1.6	6.9	7.8	1.7	11.3	1,395

具体的記述（抜粋）その1

現代社会における「こころの悩み」とその対応策について

〔文一男子〕

○　「こころの悩み」というのは生活にゆとりができたから生まれたと思う。私は楽観的だし、悩みをもったとしても大抵のことは自分で考えて解決しています。身近な人でこころの悩みをもつ人がいたら、参考になるような本を紹介したり、生活環境をかえるようにアドバイスをすべきだと思います。個人的な考えとしては、特に周りがこころの悩みをもつ人に過度に配慮をする必要はないと思います。やはりこころの悩みは自分の問題であり、自分で答えを探すべきだからです。

○　「こころの悩み」は、人間なら誰もが抱えるものだが、その程度が甚しくなると、上に列挙されているような不具合を生じると考えている。だから、昨日まで明朗な人だと思っていても、今日、実は深い悩みを抱えていることを知る、なんて事態もあるかも知れない。そのような状態になるきっかけは実際傍目から見れば、至極些細なものだと思う。そして、万一、そのような状態になったら、本人の努力や他人からの助言も効果的に機能しにくい。私も、何人もの友人が悩み苦しんでいたのを見て来たし、6年前には、母もそのような病気にかかったが、そのような考えのもと、普段通りを心がけた。ただひとつ、普段と違えたのは、夜遅くに電話したり、遊びに誘い出したりしていた。直接悩みについて聞き出すのは事態を悪化させるだけだが、相談をする環境を整備することは必要だと思う。大学側でも、学生相談所の存在をもう少しアピールした方が良い。又、民間レヴェルに任されている「お悩み相談的」な事業への助成金の充実も強く望む。

○　本来は、子供への教育に社会的な能力の育成をも含めるべきであり、むしろ最近の親は子供を人の中ではなく物の中へばかり放り込んでいるために、このようなことが増えてきたのではないか。まあ、そのような弱さは誰しも持っているものであるから、責めるべきは結果ではなく原因であると思う。現在の状況では、ほとんどの場合、精神病院がこのような悩みを引き受けているようだが、いまだ「精神病」というものに対する偏見は根強く残っているし、人間を追いつめる要因について、あまり考慮されておらず、改善すべき点は数多くある。特にコンピュータ関係の仕事は労基法をないがしろにすることが多いと聞く。このような点について、社会、政府がはたらきかけるべきだと考える。身近な人の悩みの場合は、とにかく原因をなくすことを最優先にして、余裕を持たせてあげたい。

○　「こころの悩み」の中には少なからずその人の心の中に「甘え」が存在しているような気がする。社会等の周囲の責任にしても根本的には解決しないのではないか？真の社会人たるためには「甘え」からの自立が必要であると思うから、その実現を目指してアドバイスをすべきだと思う。

○　「こころの悩み」の原因となる事象は現代日本社会に限って存在するわけではないが、それが社会問題化するほど激しくなっている。そして「こころの悩み」として蓄積されているということは、近代的文明化に伴う不可避なものだったと考えられる。社会としてこれらの問題を根絶しようとすることは大きな無理を生じさせることになろう。従って、特に目立った要因については社会政策的対策を講じることも必要だが、それを解消するのは個人的手段によるしかない。

　具体的対応としては、信用できる人に悩みを聞いてもらう、助言を受けるといった個人的なもの、社会生活の中で追い詰められた人を一旦逃避させる選択肢を設けるといった社会的なものが考えられる。

○　自分のイメージとしては、「自分が今何をしたらいいのかわからない」というところからくるものである。やるべきこと、熱中できることがはっきりわかっている時、そうは悩まない。今という時点から先のもの、それに無数の選択肢が与えられているか、それに対してどう対処していいかわからない。はっきりした自分の信念がなくて、やることに自信が持てない、周りに氾濫している情報に惑わされる、そのような時、自分で解決しきれない時に他人の力を借りるのは有効である。しかしコミュニケーションが希薄化し他人との距離が遠くなりつつある今、その悩みをぶつけられるほど認められる他人を持たず、また持っていても自分のコミュニケーション能力の弱さから自己表現しきれない。その結果、自分にたまって深刻化してきたのではないだろうか。

　「心の悩み」を持つ人に対してできること、まずは勇気をもって他人との距離を縮め「聞いてあげる」こと、この姿勢が個人としても、今の社会としても大切であると思う。

○　基本的には、個人の問題だから、あまり興味がない。だが、身近にいたら、やれることはやる。社会が対応する必要はないが、個人としては、相談にのるとかするつもりです。

○　現代社会では、避けられないものだと思います。それに対し、いかなる対応策が用意されているかが重要だと考えます。社会で何らかの対策が用意されていることより、まわりの人間が解決に協力することの方が大切ではないでしょうか。私自身としては、「相談室」のようなところに行こうという発想ではなく（利用したことがないからかもしれませんが）、友人に相談します。他人に対して、相談に乗ってあげられる人になることを志すべきだと思います。

○　「こころの悩み」は風邪の様に誰もがかかる可能性のあるものである。世間ではこうした考えの共有が進んでおらず、「心の悩み」を持つ人が手助けや適切な

治療を受ける機会を逃す場合が多い。「こころの悩み」についてもっとオープンに話す事のできる環境が必要である。

また、こうした「こころの悩み」の原因は各人一様であり、療法も共通ではない。「こころの悩み」の原因を社会の風潮だけに求めるのは、「こころの悩み」の解決を困難にし、採るべきでない。

○　自分自身、「こころの悩み」を持っていた経験からすると、当人はかなり絶望的な気持ちになっていて、自分からは心を開けない。かといって外からの働きかけにも素直に対応できない。じっと苦しい時間に耐えて、希望を捨てなければチャンスが訪れるかもしれない。周りからの能動的な働きかけは効果的でないばかりか、プレッシャーを与えて当人を苦しめることになるかもしれない。働きかけの方法にもよるだろうが、もしかしたら改善のきっかけになるかもしれない。ただ、基本的には「そっとしておいてほしい」と思っている人が多いのではないかと思う。「暖かい目差しで見守る」のが有難いと思うのではないだろうか。大学の４年間は、なにより精神的に成長できる可能性を秘めているという点で、重要なモラトリアムだと思う。

○　これらの現象を「こころの悩み」として１つに括ることに違和感を覚えるのは私だけだろうか。それぞれの主な原因を私なりに考えてみた。

○ストレス……環境との不調和と感情の過大評価。

○（ステューデント・）アパシー……新しい答えや意見を作り出すことを求めず用意された答えを覚え、それに従うことを強いる現行の科目教育。

○対人不安……自己表現の未熟さや苦い経験を処理できない意思薄弱さ。

○摂食障害……過剰（・病的）な「細さ」への指向から起こる過った減量。

これらは、いずれも現在の日本社会が抱える問題に根を持つ、言うなれば「社会の病」である。しかし、上記で各々の原因を考えてみたように、これらの現象は、実は具体性を持ったものであると私は考える。ゆえに対応も具体的に、対話や観察を有効に利用しつつ、本人が自分の問題とその原因に向きあうようになることを第一の目標として、少しずつ行っていくことだと考える。

○　最近病院の労働実態を知るためのFW（フィールドワーク）に参加しましたが、看護師さんは半分以上の方がヘビースモーカーでした。やはりストレスが原因でしょうか。日本では労働環境のあり方が原因で、必要以上のストレスがたまる状況があちらこちらでつくられていると思います。はやりこの改善には国家レヴェルでの労働者の立場に立った政策が不可欠です。そのためにはまず一人一人が声を何らかの形であげていく努力が必要です。私の身近に心のやまいの人がいたら、話を丁寧に聞くなどして癒してあげたいと思います。

○　これほど多忙で、しかも頭脳労働に著しく偏った世界に生きていれば、精神が疲労しても当然であるという気がします。いまだに精神疾患に対する偏見が根強いことは大変に遺憾です。偏見を怖れ医師に相談しないでいるうちに「こころの悩み」が悪化しひどい症状に至ってしまうこともあるのではないかと思います。仮に身近に「悩み」を抱える人がいたならば、個人として、親身に相談に乗ってあげるのはよいことだと思います。しかし励し方を間違えれば致命的な場合もある。やはり専門知識をもつ人、医師なり、カウンセラーなりの診療・助言を受けつつ、親身に話しを聞いてあげるということができれば最良でしょう。社会としては、前述のように、精神疾患や“精神科に通うこと”への偏見を除く努力が先決ではないでしょうか。

○　私自身、摂食障害に陥りかけたが自力で立ち直った、と思っている（専門的にみるとそれが正しいかどうかはわからない。摂食障害だと思いこんでいただけかもしれない）。私がそのとき感じたことは、身近な人間が積極的に介入しても、事態はあまり良くならないということだ。身近な人間は、近づきすぎず離れすぎず、相手に関心を持ち続けただ見守るしかないと感じた。あるいは、相手にセラピスト等の専門家をすすめることもよいと思う。私の経験から推測して（あくまで推測）、専門家が介入した方が、事態の改善ははやいと思う。社会は、そのようなこころの専門家の充実を急ぐことが必要なのではないか、と今、考えている。

〔文一女子〕

○　ストレスに関しては、常に時間にせかされ、義務的にやらされることが多いために生じるものだと思う。ストレスを抱える人からは、できる限り仕事などを取り除き、ゆったりと何もしない時間を作ってあげるべきだと思う。

無気力や対人不安などは、小さい時の家庭環境などにも影響されているように感じられる。小さい時に親が子供と様々な話をする時間をとることで、子供の頃から、何かに対してやる気を出すということや、人と接していくことを覚えられるのではないかと思う。実際に対人不安をかかえる人にどのように対応すべきかは考えたことが少なくあまりよく分からない。

○　こうした状況というのは、個人の問題ではなく、社会そのものの問題だと思う。恵まれ過ぎた環境の中で親や社会が、一人一人に、「世の中に生まれ出た以上、懸命に生きていこうとする責任がある」、というあたり前のことを、伝えたり期待したり、しなくなった。忍耐強く、人間と向き合うということの経験がないまま、大人になっている人が多い。やはり、小さい頃、自然の中でたくさん遊び学んでいれば、「生きていく中で、うまくいかないことが多くある」ということに気づくことができ、そのことが後に、面倒な人間関係や社会とのやりとりを避けるなどといった事態につなぐことを防ぐのであると思う。

〔文二男子〕

○　近代から続くこの規格化社会に対して、その基準に柔軟に対応できない人が出てくるというのは、不思議なことではなくむしろ、慣れきってしまっている我々の方がおかしいのではないかと思うことすらある。もし身近な人にこのような悩みを持つ人がいたら、とにかく話しをして、彼／彼女が何をどのように考え、感じているのかを聞いてやり、理解し、それについての自分の意見を述べる、というのが、自分のできる一番の対処法であると思う。

○　別に現代だけでなく、昔からあっただけでそれがより良く見えるようになっただけだと思う。対応は、無理にせかさず、ゆっくりと回復していくよう見守っていくのみ。

○　「こころの悩み」がないのでよく分かりません。

　ただ、そういう悩みを持っている人は、少し考えすぎのところがあるのではないかと思います。

　与えられた立場で与えられた仕事（勉強）に打ち込み、達成感を得ることができれば、「こころの悩み」など考えることがあるはずはないと思っています。

　ストレスなんていうのは持つのがあたりまえだし、無気力状態になれるというのは与えられたJobがないという幸せな状況だし、対人不安といっても人と接することに慣れていない、いわば食わず嫌いであるし、摂食障害なんていうのは餓死する恐れのない豊食な国に生きている傲慢さ以外の何ものでもないし、そんなことで悩む余裕があれば違う分野に労力を注ぐべきでしょう。

○　気合です。甘えすぎ、身近な人に相談するとかなめたこと言ってないで、まず自分でなんとかすべき。大抵のことは一人でなんとかなる。

〔文二女子〕

○　実は私自身も「こころの悩み」のために、摂食障害とまではいかないけど、ごはんをほとんど食べずに過ごして体中にじんましんができる、という恐ろしい体験をしました。今でも、いつ再発するかわからないじんましんにびくびくしながら過ごしています。そして、ごはんをあまり食べないことの反動で、時折、ドカ食いをする、という悪循環がまだ続いています。夏休みに、付き合い始めた人ができたんですが、太ったらこの人にきらわれるんじゃないかと思って、やせなきゃ・やせなきゃ…って思って無理なダイエットをしたのが原因です。夏前に付き合ってた人と別れて、そのことをクラスの先パイに相談したら、「そりゃあおまえの外見じゃフラレるのも無理ないよ。顔とか、ブクブクしてヤバイじゃん。」と言われ、それがすごくショックで、また太ったせいでフラレるんじゃないかと思うと、どんどんごはんを食べなくなっていきました。私自身が「こころの悩み」におかされているので、他人のことまで考える余裕がない、というのが本音です。

〔文三男子〕

○　評価基準などが画一的で一方向からのものが多いので、多様な価値観が許される社会を創造していくべきだと思う。

○　一言で言えばモラルの低下だと思う。良くも悪くもこれまで社会に一定の秩序を与えていた規範が失われてしまって、個人がばらばらになってモラルが崩壊したのだと思う。身近な人が「こころの悩み」をもっていたらできるだけ補助してあげたいが結局はその人の力に帰せられると思う。

○　うつという概念を大学で知ったせいでもあるし、一人暮らしを始めたせいもあると思うのですが、大学生活でしばしばうつ状態に落ち入ります。しかし、そのこと自体は決してマイナスなことだとは思わないし、色々と考えをめぐらせる時間も無駄だとは思いません。一方で、自分の家族や恋人がうつだったら、それはそれでやっかいなことだと考えてしまう自分がいるのも事実です。

○　私も一時期軽いうつ病になったが、結局は自分ひとりで治した。悩みを持っている人へのサポートは確かに必要かもしれないが、それが甘やかしとなってはならないと思う。悩みを克服するのは最終的には自分いかんなのだから。また、まわりのサポートばかりに頼っていては、その人自身も強くはなれない。

○　私は、考えが古いとは言われるが、根性論派である。中・高と部活ばかりやり、失神するくらいまでの練習を何度もしてきた。部活に行きたくないと何度思ったかわからない。だけど、根性、負けたくない気持ちでやってこれた、と思う。心の悩みについては、よくわからない。

〔文三女子〕

○　「こころの悩み」を他人事と思ってはいけないと思う。自分がどんなきっかけで「こころの悩み」を持つようになるかを自覚して、自分が少しでも落ち込んでいたりするのに気付いたら、気分転換をするなど、早めに対策をとるべきだと思う。また、カウンセラーに相談したり、病院に行くことに対しても抵抗や引け目を感じるような社会であってほしくない。他人の目を気にしながら治療を続けるのは辛いと思うから。

　身近に「こころの悩み」を持つ人がいたら、悩みを聞いてあげたい。立派な答えは出せないけれど、身近にいるからこそ、その人と一緒に行動したり、一緒にいる時間を増やして、気を紛らわすお手伝い程度ならできると思う。

○　こころの悩みを持つ人に対するカウンセリング体制は徐々に整ってきており、学校や社会が一体となって、このような人々を支援していく体制および心構えはとても心強いと思います。しかし問題は、こころの悩みを持つ人がその悩みを表に出そうとせず自分一人でかかえこんで苦しんでいる事態あるいは、誰かに相談したいと思っていても恥ずかしくて人に言えないという

事態にどう対応していくかということだと考えます。これではいかにカウンセリング体制が整っていても、それを有効に利用することができません。このようなこころの悩みを持つ人はしばしば助けてほしいというサインを生活の中で何気なく行動で表しているものです。そこで彼らのことをよく知る周囲の家族や友人はこのようないつもとちがった彼らの何気ない行動の変化、性格の変化を彼らとの会話や生活の中で感じ取り、彼らが最も信頼している人物を中心として少しずつ悩みを聞き出していけばよいと思います。この過程で専門のカウンセラーとこまめに連絡をとり合い、彼らを支えていくことが大切だと考えます。

○　現代の日本社会は、何もかもに名前をつけて、形あるものにして、すべて管理がいきとどくようにしているように見えます。だから、流動性や自由やはみ出すことが社会に認められなくなって、自分はどの部類にも属さないという気持ちがストレスになり、いろいろな「こころの悩み」になるのだと思います。またその悩みも、「対人不安」や「摂食障害」といった名前がついています。もっと、それぞれが自由に、思うように生きていけて、世間の評判や価値基準がもっとゆるくなればいいと思います。もし自分の身近な人に「こころの悩み」を持つ人がいたら、その人もその悩みも全て肯定して、治そうとするようにはうながさないようにするのがいいと思います。

○　新しい学部へ内定が決まり、今学期から専門科目が始まったのですが、難しすぎて早くもついていけない状態で、自信喪失し、10日おきくらいにものすごくうつになります。私のような気持ちになる人も多いのでしょう。そういう状態の時は、自分が苦しんでいることを誰かに話すだけでだいぶ楽になるので、カウンセリングなどに気軽に行ける雰囲気があると良いと思います。身近にこのような人がいた場合、やはり、親身に話を聞いてあげて、励ます勇気づける、など自信をとり戻してあげるようにするとよいと思います。

○　社会が、一人一人の人間存在を尊重するものとは言い難いものであったツケが、まわってきたのだと思う。しかし、今の風潮から言って、サブカルチャーの辺りからローカルな人間のつながりを求める傾向がかなり広がっているし、わりと楽観的に考えてもよいのではないだろうか。あとは企業、教育などがその流れについてゆけばよい。スローフードの見直し、日本の伝統文化の尊重、時代はより温もりを求める方向へと向かっている。それに、愛情や気力といったものは元来人間にごく自然に備わっているのだから、いわゆる「人間関係の希薄」にも自然と歯止めがかかるのではないだろうか。

　身近にそんな悩みを持つ人がいるならば、場合によるけれど、何となくそばにいてあげると思う。

○　「こころの悩み」は、独力でもって、自分の中で自分の論理によって初めて解決されるものだと思います。他人の説得や、既に論理の組み立てられた宗教のようなものでは、心からの解決は難しいし、他者の目から見てもそれは疑わしい。納得の仕方が美しくないし、それによってその後の自分の言動に100％責任感が伴うのかも疑わしいと思います。「悩み」を持つ人々に対して、他者は解決できるような環境をつくること、試行錯誤させる又は解決へと導く糸口を与えることが重要であり、それ以上手出しするのはよくないと感じます。だから私も、身近に「悩み」を持つ人がいても、共に試行錯誤し、させるのみです。

○　いわゆる「こころの悩み」は誰もが持ち得るものではないかと思います。私も実際ストレスをためやすく、また、受験直後から数ヶ月は無気力状態や対人不安、特にバスや電車に乗る恐怖症に悩まされました。他の人にとっては何でもないささいな事がひどく心配になったりして、またそんな自分は精神的に何か変なのではないかと考え、よけいに苦しい思いをしました。私は他にもそういう人がいるということを知り、自分だけが苦しんでいるのではないということを知ることによって一種の安心感を得て、症状は軽くなっていきました。対応としては、よくその人の言う事を聞いてあげ、その事実を受けとめ、安心を与えてやることがよいのではないかと思います。

○　私も摂食障害とか、リストカットとか、どうしてもやってしまうけれど、誰にも相談できないし、したくない。一人暮らしなので家族には相談して心配かけたくない。それでも家族と暮らしていれば助けてくれるとは思うけれど。学校の保健センターの精神科かどこかに行った方が良いとは思うけど、自分でもどうしたらいいかとか、何を話せば良いかわからない、あんまり自分のことを話したくない。たぶん当分このままなんだろうなあ、とは思う。

　早く地元に帰りたい。

〔理一男子〕

○　「こころの悩み」などが生じる理由は、現代の日本社会が豊かになりすぎ、また自由になりすぎる（何でも選択できる）ために、何をしてよいのか分からないために起きると思う。

　このような人に対しては、何らかの事柄に関心を持たせるように周囲の人が気を配るべきだと思う。

○　昔は「心の弱い人がなるものだ」と割り切っていたが、自分にも多少その傾向が出てきたので、そのように切り捨てるわけにはいかないと今では思っている。物事に完璧を求めたり、気になることについて深く考え始めたりするとそのような病的な性質を持ち始めるように思うので、適当なところで考えるのをやめるのがよいと考えている。逆説的だが、自分の「悩み」について考えると悩みが大きくなるというのが私の経験に基づいた考えである。しかしこればかりは個々人に依存すると思うので、身近にそういう人がいたら、その人をよく見てその人に合った助言をするしかないと思う。

○　正直なところストレス等に負けるのは弱いと思いますが、東京に来て、いろんな信じられない事を身近に感じたこともあり、そのような症状になるのも仕方ないとも思うようにもなりました。急激に重度の負荷がかかるとなってしまうものかもしれません。原因は人それぞれだと思います。しかし、やはり軽度の段落で悩みを吐き出していくのが一番の改善策であるでしょう。ですから、身近に悩みを持つ人がいた場合は、優しくゆっくりとほぐしていってあげるのが良いと思います。

○　「こころの悩み＝本人の強い意志をもつ努力不足」といった考えをしてはならないと思う。しかし、やはり本人の努力なしに解決できる問題ではないので、甘えも許されないと思う。

○　悩みを持つのは当然だし、自分の成長のためには悩んだ方がいいと思う。それを乗り越えてこそ成長があると思う。だから、身近な人はその人の気持ちをちゃんと理解して、その人にとって身近な存在がいることを気づかせてあげるべき。

○　・原因究明とカウンセリングが必要

・このような問題の原因の多くは社会システムそのものか幼少期の教育にあるのではないか。とくに小学校等におけるマス教育のためにその時期における心の傷がいやされないままになる可能性が高いように思われる。

○　中学の時、登校拒否になった私の友人は、大人しく、勉強や運動もあまり得意ではなかったが、唯一絵には自信があり暇さえあれば描いていた。しかし、親から「絵ばかり描いてないで勉強しないと立派な大人になれない」と言われ続け、全てにやる気がなくなってしまったと言う。

人は一人一人、興味をもつ分野や、得手不得手が異なる。だが現在「たくさん勉強→いい学校→いい会社→安泰」という誤った認識のもとに教育をほどこす大人達があまりに多過ぎるのではないだろうか。

反対に、「のびのびと自由に」と言って、完全に放任してしまう親も最近増えている。だが学校という場は、対人関係の構築や社会性の修得のためにも多人数制であるし、またそうあるべきだと思う。したがって個々の才能や興味をもつ分野を発見するのは家庭以外にないのではないか。一般の大人一人一人が「親＝教育者」なのだという認識をもち、教育にもっと高い関心をもってほしい。たとえ、いい学校に入ったとしても、勉強が趣味でなく義務であったとしたら、それは苦痛以外の何物でもないのだから。

大学に入った途端、勉強しなくなってしまう友人の多さを見て痛感しました。

○　社会が、価値観が、多様化しすぎたためでないか。
男性の（父の）相対的権力低下からでないか。
核家族化がすすんだことによるのでないか。
励まさないこと。

○　私は１月頃から３月頃までが特にひどかったのですが、最近まで「うつ病」にかかっていました。今はだいぶ克服したし、病気にかかっている間も学校には来れていたので、症状は軽度な方だと思います。でも夜気がつくと小指を歯でくいちぎったりしてしまったこともありました。なんで相談する気になれたのか今でも不思議ですが、母親に相談することでだいぶ楽になり、しばらくして仲のいい友達にうちあけてからというものかなり楽になりました。

一生懸命聞いてもらい、理解してもらうことが一番いいことが経験から分かったので、全部打ちあけてほしいです。その人をまず理解してあげたいです。こういう病気にかかってしまう人には責任はないと思うので、そこのところを理解してあげることが大切だと思います。

○　「こころの悩み」は、自分自身、高校時代に経験しており他人事と考えることは決してないです。私は大学入学ということで、「合格」という成功をおさめ、生活環境を一変させることで解決できました。ただ、現在再びいろんなことに悩んでいるのですが、それは対人関係と将来への不安です。自分の生活が正しかったのか、と疑問に思うことが時々あります。

もし、身近な人がこのような悩みを抱えていたとしたら、ぜひとも相談相手になりたいです。直接的に何かしてあげることはないとしても「話せる相手がいる」ことがなによりの励みになるはずなので。

○　場合によりますが、親の育て方、周りにいる人々が悪いなどの要因があるのではないでしょうか。自分がおかしくなるほど抑圧されているのなら、親に反発してもよいし、対人環境を変えてしまっていいと思います。自分もそういう時期があったのでよく分かります。悩んだ時は読書に限ります。本から得られる自信は量り知れないと思います。まとめると、自分がどういう人なのかを自分でよく知り、長所・短所を理解し、それらをありのままに発揮し、人にどう見られるかは気にしない、といったことができれば、以上のような悩みはもたないのではないでしょうか。まず自分を第一に考えましょう。日本は集団主義なので、集団内で変わった人を認めない傾向が強いでしょう。特に関東では。そういうのに流されずに自分らしく生きましょう、といった考えです。自分は全くこころの悩みを持っていない自信がありますので、身近にそういう人がいたら、自分が実践してることを教えたり、考えを伝えたりして、とにかく親身になって、治すに協力したいと思います。

〔理一女子〕

○　「こころの悩み」は、ほとんどが弱さや甘えから生じていると思う。日本が平和で豊かすぎるからこのような問題が生じるのであって、そのような人々は一度明日食べるものにも困るような、生きるか死ぬかの問題に直面してみるべきだ。事実、戦時中には精神病の人の数は少ないらしい。ただ、弱いことは悪いことで

はないので、他人に迷惑をかけないかぎりはべつにどうでもいい。

悩みがあるのは自然なことだが、病的な悩み方をするのはまわりにとっても迷惑なこともあるので、自分でなんとかしてほしい。自分の身近な人の場合は相談にのったりもするが、物理的キョリは近いが精神的キョリの遠い人で病的な悩み方をしている人がいると、不気味。

〔理一男子〕

○　現代の日本社会は、ますますストレスのたまる生活へ向かっていると感じる。そして日常のストレスに疲れ切った多くの人が無気力状態に陥っている様にも感じる。何か日本全体が疲れ切っている様に感じる。この様な状況から脱却する為に、特に政治家が努力しなければならないと思う。やはり日本を牽引する政治家が、社会制度をがらりと変え、少しでも多くの国民が満足できる社会を作るべきだと思う。

○　自分は運動会に所属している。ストレスがたまったり、むしゃくしゃする時に、体を動かすと「すっ」とする、というのは多かれ少なかれ万人に当てはまる感覚だと思う。いわゆる「こころの悩み」を解決するために深刻になると負の循環に陥り易いように思う。無責任なようだが、スポーツでもしてパーッと忘れてしまえば良いのではないか。考えてもわからんことは考えんでいい。「こころ」の世界なんて自分で感じて、信じてることが全てなんだから、そういうもんなんやって納得してしまうことにしている。もし、周りに悩みをもつ人がいたら「評価する」ことを意識する。その人の行動に対するレスポンスを誠実に返すことでその人の生活にハリがでるのではないかと思う。

○　何か信じられるものがあれば、それを頼りに強く心を持てると思う。身近な誰かを信じてもいいし、自然法則の美しさを信じてもいいし、内外に神の存在を信じたって良いと思うし、いかなる思想・宗教の信奉さえ自由だと思う。

ここで大切なのは自分の頭で考えること。次に、現実を正しく見ること。最後に、他人にも同様の権利が存在することを忘れないこと。これらを保てる限りにおいて、何かを（盲信でなく）信じられれば、心の悩みの大半は解決すると思う。

心の悩みを持つ人に対しては、まずその人のありのままを受け入れてあげることが必要だと思う。

〔理二男子〕

○　昔とは違い、現代の日本は（日本だけじゃなく、世界は）情報が行きかい過ぎている。余計な情報やいらない情報を一方的に受けとったりしていたらストレスもたまるし、アパシーになってしまったりするのは仕方のないことだと思う。現代病とも言えるだろう。身近に見守ってくれる人が必要であると思う。元恋人がたまに何の理由もなくウツになることがあった。ウツといっても少し暗くなるだけであったが…。そんな時はとりあえず近くにいるようにして、相手の話に耳を傾けるようにした。話を聞いてあげることが一番重要であると思う。

○　これらがいいこととはいわないが、それだけ日本が世界からみても、かなり高い水準の文化レベルにあることの証では？と思う。腹が減っていたら、このようなことを考える余裕がないと感じるからだ。なんでも悪い方に考えて、これらが社会問題と思ってしまうことが問題な気がする。身近に悩みを持っている人がいた時、友人としては旅行に誘ったりするなど、少し気を使ってあげるべきだと思う。でも、あまりにも気を使うのはやはりダメだと思う。社会としては、電話相談を中心に相談する場を作るべきでは？どこかに場所をおくのは（そこで相談するのは）行くことに勇気が必要で、心の悩みを抱えている人にその勇気があるんだろうか、と少し疑問に思うので、とにかく「これらの悩みは解決できるといえば、できると思うので、何かの対応をすべき」という考えをもってしまって、本人に押しつけるような形での対応はよくないと思う。

○　①まず、巨視的観点から見て、＜社会の人々、全て誰も「こころの悩み」を持っていない＞などということは、ありえないだろうと思う。むしろそんな社会があったら異常だ。

②しかし、現実にまわりの親しい人や自分が「こころの悩み」を抱えるのは、つらい。特に、物質的豊かさがかなり飽和状態になりつつある今の日本では、生活に困らない分、こころの問題を持つことになりやすいであろうと思う。また、社会の変化のスピードが速くなっていること、今が高度経済成長時代から成熟経済時代への過渡期であることもこころの問題を発生させやすくしていると思う。

③他人のこころの問題を解決することは、なかなか難しい。相談にのる、医者を紹介する、くらいのことしかできないと思う。なぜなら、最終的にはこころの問題は本人で解決するしか解決の方法はない、と考えるからである。

④但し、うつ病などの、心のもちようの問題ではなく、明らかな脳の機能の異常の場合は薬によって確実に改善するので、そのような時は医者を薦めることは大切だ。また、さらなる新薬の開発も望む。

○　自分としても大学に入ってから、大変なストレスを感じている。というのも講義を受けるために移動を繰り返し、毎回決まっていない席に座り、親しくない人々と講義を受けるのだが、人が多すぎる上、周りの人が足をゆさぶる、ペンまわしをする、携帯電話を鳴らす等さまざまなストレスの要因をつくり、とても悩んでいる。しかも、このような人間関係の希薄な状況では、悩みを伝える人が少なく、たとえ伝えてもストレスの要因をとり除けるわけではない。そのためか、

腹痛、頭痛、病気になりやすくなった。

現代の日本社会でも同様のことが言えるのではないか。現代では、生産のみならず、人間関係においても大量生産が行われており、個々が軽んじられているように思える。そんな社会だから、無責任な人が増え、「こころの悩み」が起こるのではないか。

大量生産ではなく、ゆとりをもった社会、そして個を大切にしようという思いが、このような「こころの悩み」に効く、最も有効な特効薬ではないだろうか、と考える。

○　心の悩みについては、地域社会での関係が疎になり、人間が個人個人で壁を作るような世の中で、そういった不安を自分一人で抱え込んでしまうために起こるものだろうと思われる。故に、身近にそういう人がいる場合は、その人の気が済むまで話を聞いてあげることにより、不安から解放の方向へといざなうようこころがけたらよいと思われる。

○　「こころの悩み」の原因の一つに、「自分の居場所」を見つけられないことがあると思う。学校や職場でいじめられる、友達がいないというのはもちろん、その一例だが、それ以上に「自分を活かす場がない」という意味での場所がなさが現代のこころの悩みの中心だと考える。この解決策は、特効薬があれば、もうすでにお偉いさんが見つけていると思うが、学生レベルで言えば自分が諦めないことだろうか。人のせいにせず、自分の納得がいくまで考えることであろう。そのため、身近な人はその時間と環境を与えることが大切だと思う。あせらず、カウンセラーを紹介するなど。また、社会的には、こころの病気を世間に一般教養レベルで浸透させる必要がある。

〔理二女子〕

○　こころの悩みは、自分のもとからの性格なのか、または環境に由来するものなのか、はっきりとした区別がつけにくく、その根本の原因の特定と解決をなさないまま安易に病院へ行き、もっともらしい病名をつけられ薬をもらう、というやり方には多少の疑問が残る。

けれども、それは客観的な意見であり、主観的に見れば心を病んだ人達は実際わらをもすがるおもいであると思う。だから、そのやり方を非難することは出来ないけれど、それと同時に、原因の解決あるいは上昇も手助けできればと思う。

○　自分は中・高生の頃、大変悩みやすい性格でしたが、家族の温かい愛情や友達の存在のおかげで今に至ることができました。特に大学受験の悩みを乗り越えた（もちろん周りの人に助けてもらいつつ）おかげで今では精神的に強くなり、以前とは比べものにならないほど悩まないようになりました。

私は自分の経験から、悩んでいる人には周りの人が真剣に耳を傾けてアドバイスをしてあげる（決して甘やかしではなく）ことが大切だと思います。個人的に相談できる人がいない人のために、公的機関などの団体がもっと身近な存在になればよいと思います。小学生のいじめに関しても、もちろん防ぐ努力はすべきだが完全になくなるのは難しいと思うので、教師・家族など周りの愛情が大切だと思います。一人で悩みをかかえることほどつらいものはありません。

○　それは比較的東京のような都会に、そのようなことに悩む人が多いと思う。そういう人は、１度旅行するとか、全く違う環境でボランティアするとか（ホスピスとか）すれば、人生観とかものの見方がかわっていいと思う。そういうことで悩む（悩みやすい）人は自分だけの世界にどんどんはまり込んでしまいやすいと思うので、相談できる相手（何でも）を少なくとも１人は見つけるのは大切。

そういう人が身近にいたら、いっしょに旅行（大自然、ロッキー山脈とか）に行ってあげる。また、自分はいつでも、その人のことを心配し、何でも聞ける、ということを態度で示す。

○　私自身も経験していますが、偏見をもつことなく、あくまで普遍に接して問題はないし、そうすべきだと思う。特に身近な人は、そのリスクに注意しつつ回復を見守ってほしい。

〔理三男子〕

○　どのようなケースであれ、極度のものは病の一種であると思うので、現在のところ関心はない。勿論、病理として原因の研究、療法の確立は必要であると考えるが、自分の身近にある問題として捉えることはできない。

軽度のものについては、人間が社会生活を営む上で生じる当然の葛藤であり、時代・地域を問わず存在するものであると思う。あらゆるケースについて現代的要因に帰責させる風潮には好感が持てない。

対応の仕方については、極度であれば専門家に相談すべきであるし、そこまでに至らない場合は、通常の人間関係の枠内で処理できる（i.e.優しく接する、相手を認めてやるetc）問題であると思う。

○　「悩み」の程度により分けて考えなければならない。初期は、カウンセリング程度で治せるもの。これは、ものごとの考え方を練り上げることで対処出来ると思う。つまり、周囲からの評価に依った自己評価を内発的自我に変えること、自分の内の感情や論理への一方的な偏りの修正などで解決出来ると考える。（もちろん、それには相当の時間と忍耐が必要だが。）

しかし、体調まで、影響を及ぼす段階では、カウンセリングだけではなく、薬物などによる治療も必要だと思う。

身近な人間にこのような症状が出る場合、およそ初期の段階で気付くと思われるから、私なら、充分な時間を（時には電話代とを）かけてよく話し合うと思う。大切なのは、人の思考は全て脳の活動だという認識、十分な内省をうながすような態度だと思う。（それを

共感と言うか、愛と呼ぶかは人による。）

○　たしかに現代社会では不規則な生活やハードスケジュール・ハードワークなどによって、肉体的にも精神的にもストレスがたまりやすい。そしてそのストレスに立ち向かうことができる人はわずかであろう。しかし、現実的にストレスを目の前にしたとき、結局のところ向かっていくことしか残されない。そこで挫けてしまう人が、多いと思う。原因は、幼稚園・小学校・中高での人間形成の時期に様々な人間関係を経験せず、挫けそうになることも向かっていくこともしたことがない人、あるいは逃げることに慣れきってしまっている人が多くなっているからだと思う。そしてそれは教育機関の責任もあるだろうが、大事なのは親・家族だと思う。親・大人が弱くなっているから、子供もそれを感じて弱くなる。その悪循環である。それによって、過分に「こころの悩み」が生じてしまっている。ただし、そのような人を突き放すのは最悪の手だてであり、相談に乗る、とにかく話を聞いてあげるのが大事で、その上でしっかりした人が立ち向かう勇気を与えるのが必要である。

〔法学部男子〕

○　自分自身もこのような「こころの悩み」を抱え込んでしまう時があります。そのような時期は本当につらいです。自分に自信が持てず、悩んで悪循環に陥ってしまいます。

身近にこのような悩みを持つ人がいた場合、個人としては、その人を、よいところを見つけて評価したり、新しい事に挑戦するよう誘ったりするのがよいと思います。

社会の対応としては次のことが大切だと思います。第１に、「こころの悩み」を持つ人を「精神的に弱い奴」というような目で見る風潮を変えていくこと。第２に、（これは、私の新しいことを始めることで悩みを解消という方法に関係するのですが、）悩みを持つ人は現在の自分や自分のいる環境に満足できていないことが多いので、今より良くなる、という可能性を見出せる新しい環境を社会の中に多くし、それに悩みを持つ人がアクセスし易くすること、です。

○　自分だけでも。

もっと明るく生きていけば、まわりも明るくなるのではないでしょうか。

個人としては、悩みをきいてあげるくらいのことしかできないと思う。いつでも元気よく精力的に物事に接するという態度でいることが、周りの人に対してもプラスになるものだと言いきかせています。

○　自分がいるべき、いてもよいという居場所があるということがやはり重要であると思う。

○　基本的には個人的な問題なので、自分で解決するしかないと思いますが、解決を支援するために周りの人の協力が必要不可欠だと思います。協力というのは、励ますだけではなくて、泣く・笑う・怒るなど色んな感情をぶつけた方がよいと考えます。悩んでいる人のことが好きであるか嫌いであるかに関わらず、根気よく一緒にいることが必要だと思います。「我慢・忍耐・努力」が肝心だと認識して、社会としては嫌なことはやらないという歪んだ合理的思考を変えるべきだと思います。

○　自分が受けとめられる範囲を越えた不快な状況や事実を持つと頭で整理して受け入れることができずに自分を責めたり、自信喪失からこころの悩みを抱えるようになる。個人的には高校から大学初期にかけての失恋がそのような経験だった。人と話したり、小説を読んだりすることで自分の問題を相対化できる場合が、特に青年期には多いと思う。悩みを抱えている時は自分を過小評価しがちであるので、周囲の人が以前と変わらず自然に接してくれると救われるものではないか。人に話をすることで自分の問題を客観視して受け入れられるし、話している相手から受け入れられたと感じることは悩みからの進歩につながると思う。

○　中学時代のいじめや、体系・顔…そうしたもののコンプレックスから私は人と話すのが苦手である。嫌なことがあるたびに、母親や友達に愚痴をこぼしては迷惑をかけていた。そんな自分を反省して、まずダイエットを始め、25kgもの減量に成功した。そして、少し自信を回復できたこともあって、少しずつ自分から話しかけていくこともできるようになってきた。時に落ち込むことはあるけれど、確実に解決の方向へ向かっていると思っている。だから、同じようなことで悩んでいる人がいたら、まず努力することから始めるようにと伝えたい。努力せずに落込んでいるだけでは絶対にそこからぬけ出せないと。

○　たしかに、モバイル機器等の普及により通信手段が発達し、人々の生活は便利になった。しかし、その反面その便利さに依存してしまい人と接する事が軽視されるようになった気がする。例えば、チャット、メール依存症等。その弊害として「こころの悩み」は、確実に増えているであろう。実際、私の家庭教師先の教え子が登校拒否児であった。その子に感じていたのは、同世代の仲間の必要性。同世代の個を結び付けるという意味で改めて学校教育の重要性いやむしろ学校での対人環境の向上の必要性を感じた。

○　本質的には個々人の問題なので関与しない。

自分との関わりの大きい人間であれば、何とかしてあげたいが、中途半端な介入は、事態を悪化させるだろうから、やはり基本的には、距離をおいて見守る。

本人が時間をかけて解決するしかない。何年かけても。

○　視野がせまい人が多いように思う。視野の狭さから、失敗した時に希望を失ってしまうのである。自分の進む道、選択肢はいくらでもあるのに。法学部では４年の試験失敗でうつ病にかかる人が少なからず周りにいる。民間に就職するという選択肢が視野にないからだ。自分の友人にもそういう人がいるが、自分は積極的に

連絡をとろうとしたが無理だった。結局は本人の立ち直り、家族の支えによるしか解決方法はない。

○　「こころの悩み」は基本的に自分で解決するものだと思います。他人はその解決のきっかけになれれば良いですが、あまり干渉しすぎるのも問題ではないかと考えます。身近にこういう人がいる場合、安易になぐさめたりほめたりせずに、どうすることが一番良いかをじっくり考えてから、言葉を選んで接していきたいです。

学校にカウンセラーの方が常駐し、気軽に相談できると良いのではないでしょうか。

○　これからは、現在以上に、「こころの悩み」に増える日本人が増加していくと考えます。高齢社会と並んで大きな社会問題となるのではないでしょうか。基本的には、「家族」が中心になってケアをしていくべきだと思います。「家族」の絆が薄れ、またそうした価値観も薄らぎつつあるのは由々しき問題です。むしろ、今後は今まで以上に、家族を一つの単位として、お互いに支え合っていく必要があると考えます。

○　前段について；人間関係の希薄化を最近強く感じる。このような状況の下では、過度の干渉（深すぎる関係）か、全くの上べの関係（浅すぎる関係）しかとり結べない。

人間関係の二極分化によるストレスを自分自身、感じている。

後段について；個人としては、話を聞いてやるのが一番だと思う。

○　自力で消化すべき事柄。

他力本願で解決するとは思えません。

〔法学部女子〕

○　何事も「ストレス」という言葉で片付けるのは良くないと思います。社会人として生活すれば、他人との関係において悩むのは当然であり、それを乗り越え、考え、自分を相手の立場におくことで、人間的に成長するものだと思います。

自分を可愛がり過ぎるのは甘えです。人間最後は１人ですが、その時に頼りになるのは、自分以上に、他人に信頼され、信頼するコトが出来たという経験です。相手の立場に立て、物事を考えられるようになるべきです。

何が人生において一番大切なのかを間違えなければ、その他のことは、良い意味であきらめがつくでしょう。

○　後輩で精神的にまいる子がいれば何時間でも一緒にいて、話を聞き、自分が必要とされている人間であることを理解してもらうようにしています。東大は、課外活動があまり活発でなく、友人でフツーに一日中誰とも話さない日があるなど、社会的に適合できるか不安な人も多い。やはり、もっと他者と関わりあいをもたせるような活動に対し、大学は積極的になるべきだと思う。社会で関わるよりも、その人間の所属する集団がcareしていけば、「こころの悩み」を抱えても生きていけると思う。

見捨てられたと思う人が自殺したり、ひきこもって犯罪的衝動にかられてしまうのだと思う。

○　私も私の友達も、自分そして相手が、多かれ少なかれ「こころの悩み」のようなものを抱えていることを知っていると思うし、そのことに対する気配りをするようにしていると思う。自分のことも大切に、相手のことも大切にして、「こころの悩み」がひどくなった時には、とりあえず大丈夫だと言いきかせてそばにいるしかないだろう。個人としてはこの通りである。社会としては、「居場所を作る」ことが考えられる。例えば東京大学のキャンパスで、屋外のベンチがもう少し多くあってもよいと思う。「そのままでそこに存在していてよい」というメッセージを送ることが大切だろう。

○　「こころの悩み」において、最終的には、本人自身、つまり問題を抱える本人が直したいという意識を持っていないと、真の解決には至らないのではないかと思う。冷たい言い方かもしれないが、本人の何とかしたいという気持ちがなければ、周囲がいくら力を貸しても駄目だと思う。私の周りに、１人、うつ病になってしまった子がいたけれども、私は、彼女が話すことで元気になればと思って、彼女の長電話に、いつも付き合っていた。しかし、彼女の悩みは減るどころか増え、私自身も疲れてしまったので、彼女にきつい事を言って、結果的に、関係が悪化してしまった。さりげなく支えることが大事であり、何よりも本人の立ち直りたい気持ちを引き出すことだと思う。

○　現代人でこのような「悩み」を全く持っていない人はいないのではないでしょうか。私も、そのどれもにあたる時もあります。月並みな考えでしょうが、日々あふれていく情報にさらされ、無意識的にそれらについて行こう、遅れまいとするプレッシャーがこのような現代病の原因なのではないでしょうか。

はっきり言って、なくすことは無理と私は思います。ならばこれらとつきあって行かざるを得ないわけで、私はそういう時は、携帯電話、テレビなどあらゆる情報伝達媒体のスイッチをOFFにして、好きな音楽を聞きながら、おいしい物を食べ、確実に感動できる本を読むようにしています。

○　「無気力状態」について述べると、例えば自分の能力に限界を感じ、それを打開しようと努力するも成功しないといったことを繰り返すと深刻化していくと思う。「現代の日本社会」という広い視点ではとらえにくいが、例えば東大に入ってきて自分の能力に自信を失い無気力になる人は少なくないと思うし、おそらく社会の中の競争から敗れたと感じる時（そしてその努力が報われない時）にも同様の感情を抱くと思う。それに対して、社会としては、個人の能力を発見し、促進する働きかけをする場をもつことが必要だと思う。そのような意義から各種スクールや講座をみとめられ

るのではないか。また、個人としては、まずは友人・家族などの話を聞いてあげることが必要だと思う。何らかのコンタクトをとりつづけていくべきだと思う。人間は完全に独りでこもってしまってはそうした無気力状態から脱しえないと私は考える。

○　私自身、中学生の時期に「こころの悩み」を抱えて登校拒否を経験し、また大学の友人が入学後の学生生活におけるストレスから精神科に通院するという経験もしたが、いずれの場合も、単独ではない、複数の人間が当人との関係を保ちつづけたことが解決の糸口だったと思う。

〔医学部男子〕

○　自分自身が２年間ほど無気力状態で学校に行きたくなかったので、こころの悩みで苦しむ人の気持ちは少しわかるつもりだ。大学生というのは、高校までとは違って担任はいてもいないのと同然で、企業のように上司もいない。独り暮らしをしていたら、友人がいなければ誰も助けようとする人が周囲にいないことになる。自分で立ち直れるのならば良いが、そのまま沈んでいって立ち直れないこともけっこうあると思う。その辺どうにかできたらいいなと感じて、現在の学部に在籍してるんですけど、まだどうして良いか分かりませんね。うつ状態の人って自分から色々行動を起こせないから、呼びかけとかではなく、もっとふみこんだ対応をすべきでしょう。

○　「こころの悩み」は、人間的過程の中で最も大切な経験の１つだと思う。悩むことで成長すると思う。死なない程度に一生懸命悩むべきだと思う。

　身近に悩みを持つ人がいれば、話し相手になれればなる。本、映画、音楽、旅行など、適当な何かを勧めてみたりする。

　社会としての対応……分からない。

○　人間には高い適応能力がある。時代背景の中で生じて来たものであり、「現代人は心が弱い、情報があふれすぎているせいだ」というように大騒ぎする必要はない。いつの時代にもその社会に合わない人はいるものであり、それはそれとして受けとめるべきである。身近にはそういう人がいるが、それを“病人”のように大げさにあつかわず、今まで通り、接していくのがいいと思う。

○　こころの悩みは、外的な要因はあくまで契機（きっかけ）に過ぎず、殆どは本人の気質が関与しているところが大きい。従って、環境の改善よりも本人のsupportやカウンセリングが重要だと考える。また、重いこころの悩みを持つ人は、友人を持たず、ひとり殻にこもるケースが多い為、積極的なカウンセリングが必要。私から見ると、現在のカウンセリングシステムは、近づきづらい感があるので、より身近な場所に（あるいは簡単に電話しやすいような雰囲気）設けるべき（e.g.　気軽なことからでも関わるような“相談センター”の充実）だと思う。友人にいた場合、最大限、気長に相談をうける（としか言えないデスネ…）。

○　個人と個人の関係の希薄化が、それらの問題を助長させた原因の１つと思う。早期に異常に気付き介入することが重要であると思うが、そのための環境として、個々の学生に目の配れる大学の環境が必要なのではないかと思う。

〔医学部女子〕

○　現在の社会にはゆとりがないから（不況とはいえ）物質的に豊でもこころの問題を抱える人が多いのかもしれない。

　身近にそういった人がいれば、周囲の人間は黙って訴えを聴き、共感し、ねぎらい、そして待つ姿勢を示すのが良いだろう。社会としては、気安く相談できる窓口を設けることは良いと思う。他、行政であれば健康についての教育・啓発活動を行うなど。

○　精神科医志望。大きな関心を持つ。

　周りのサポートが大切。大学は冷たいところという印象。

　東大はみな優秀なだけに他人を支える、支えられるという気持ちをもつ人が少ない。制度としてauthorizeされたサポート機関が欲しいものだ。しかし大学の機関だとプライバシーが問題で二の足をふむ人が多いだろう。外部への紹介を充実させる等が良いだろうか。

　サポートする学生同士のサークルのようなグループがあるようですが、もっと宣伝した方がいいでしょう。

○　全てに対し“病気である”というようなレッテルを貼るのはよくないが、ある程度日常生活において問題となるような場合には専門的な対応が必要であると考える。

　個人としては、その人との関わりを常に持ち、その人が孤立し独りでかかえこまないようにすることが必要であると考えるが、それと同時に重症さを増した場合には気軽に専門家に相談するという道も示したい。社会としては、相談員、カウンセラー、精神科医などへの相談の敷居を低くするようなシステムが必要であると思う。こころの悩みを持つ人は悪循環におちいりがちであり、それをたち切るためにも専門家の役割も重要であると思う。もちろん、非専門家（友人など）の働きかけで立ち直れるようであれば、それにこしたことはないが…。

〔工学部男子〕

○　現在の日本社会の状態では「こころの悩み」を抱える人が大半であっても全くおかしくない。自分は教養時代から同じ悩みを抱えている。以前の自分は心身ともに全く健康であったが、都会の物質主義、大学の権威主義に悩み、結果としては、自分でどのように解決するかも分からず、また、他人の助言も役に立たず、投薬したにもかかわらず、ひたすら病に倒れている状

態である。現在、そういった悩みを持たない人は「自分の居場所」を見つけ出しているか、もしくは私のような悩みを克服した人であろうと思う。自分としては、このように世の中がおかしくなったのは、政府や大学、大企業があるべき姿を失っているからだと思う。

○　基本的にそのような悩みをもつ者は、社会に淘汰されるべき存在であり、救済の必要は無い。そのような悩みに陥ったことは、私もあったが、結局最後は個人の精神力が物を言う。即ち、現代社会における「こころの悩み」は、長い生物史に見られてきた「淘汰圧」の一種であり、それに打ち勝つことができたものが、時代を生き抜ける。無理に救う必要などない。死にたければ死なせてやればよい。

以上を基本的な考え方として、次の問いに答えたい。「悩み」を、「生じてはいけないもの」としてとらえていること自体に誤りがある。人間は考える。「悩み」は、「考えて判断のつかない状態」であり、生きていることの証明である。他人の悩みは、結局、他人の中で答えを見つけ出すことができなければ消滅しない。何がきっかけになるかは十人十色であるから、一個人レベルでの対応としては、素直な自分の意見を述べる。これ以外に存在しえない。先段とは支離滅裂かもしれないが、結論としては、「悩みは自分で解決すべし。」…暴言乱筆御免。最後は自分が何とかしなさい。

○　「悩み」には何らかの悩む原因があるので、それを見つけて、改善することが大切だと思う。周囲の人が「原因を見つけて改善できる」のであれば、協力した方が良いと思う。しかし、悩みは本人だけの問題なので、周囲からの協力にも限界があるだろうし、いつもその悩みの原因を解決できるとも限らないので、本人にも、悩みを割り切らないといけないと思う。

○　自分は全く「心の病」にはなったことがないのではっきりいってわからない。できる限り自分の心の中は自分で対処すべきであると思う。そんな心の病なんてものは、はっきり言って「弱さ」の表れであるというのが僕の考えだ。

○　携帯電話やインターネットの普及によって、人間どうしの接し方はかなり変わったように思う。それらを利用しきれるかどうか、または適応できるかどうかによって、もしかしたらストレスの原因になっている人もいるのかもしれない。でも、学校に来れば友人には会えるので、あまり関係ないかも。本人の心がけ次第で変わるものなので。

誰でもどの時代でも“悩み”はかかえているものだと思う。大切なのは、その事を相談したり、打ちあけられる相手がいるかどうかではないかと思う。

○　社会を生き抜いていくためには、必ずストレスなどをかかえるものである。これをいかに発散するか、解消するかがその人の強さとも言えると思う。又、これを乗りこえて、成長していくと思う。自分の心の内をさらけ出すことができる人間関係を創っておくことが大切だと思う。又、悩んだ人が身近にいた時は、親身になって受け止め、話を聞いてやろうと思う。人に話すだけでも、ずい分楽になるものだと思う。

○　「こころの悩み」は誰しも多かれ少なかれ持っているものなのだから重要なのはいかに消化していくかということだと思う。そのためにも何か１つでもいいから打ちこめるものを探すべきだと思う。自分は運動会に所属している。勉強が追いつかない、試合で勝てない、といったストレス、本当にこのままでいいのか、結果が残せるのか、といった不安でいつも押しつぶされそうだが、振り返って後悔したくないの一心で日々厳しい練習に没頭している。これは１つの例にすぎないが、「こころの問題」とはやはり自分自身の問題であるので、自分が問題を解決しようと努力する、その一歩が一番大事だと思う。

○　現在、うつな生活を送っているが、「こころの悩み」を持ったとき、誰かに話したいというのもあるが、あまり励ましてもらいたくない、というのが実感である。がんばりたいのにがんばれない状態は、本当につらい。なぜなら、がんばれるものが見つからないからである。もし、自分のまわりで同じような人がいれば、あせらないことを第１に考えて接していきたいと思う。当人にとってベストな環境を提供できれば、とりあえず回復に近づくのは明らかだから、落ち着いて現状を見つめ直すことが大切だと思う。

○　人が必ずぶつかり、のりこえていくものだと思う。特に東大生は多いと思うが、自分でのりこえていくべきだと思う。必要以上に手助けすべきではない。通常通り、扱うべきだと思う。

○　「こころの悩み」は自分達の世代の弱さの為かもしれないが、ともかく存在している事は間違いないと思う。その理由を分析するより具体的な対策が必要である。

実際に身近にこのような悩みを持つ友人が２～３人いたが、その人と自分の普段からの距離、そして自分自身の余裕を考えて対応しないといけないと実感した。例えば何でもして上げたいと思っても、結局は相手の話しを聞くだけで十分な事もある。相手の相談にのることで自分が逆に満足してしまう嫌な結果もあった。相手の意思が第一である。

○　悩みというのは、現実と自分の理想とが一致しないときに生まれると思う。ただ悩みたくないだけならば、無気力なままでいつづけるとか、対人関係をせばめるというように理想を捨てればいいと思う。無理して理想を求めると、悩みは深まるのだと思う。一時理想を捨てても、そのうちにきっと考え方が変わり、別の理想に出会うなり、理想への異なるアプローチを見出すときが来るだろう。ひたすら悩みつづけるよりはその方が良いと思う。

○　現代社会において、特に東大においては学生の人間関係の範囲が非常に狭いと思う。サークルでは学内のみ、バイトは家庭教師と同じようなカテゴリーに所属する人々としか接することがない。

だから就活や留学等で全く異なる世界と触れると驚き、戸惑う。

しかし、この戸惑いは必ず経験し、克服しなくてはならないものであり、踏み出すことを恐れてはならないと思う。

自分も、友人も悩みを持つことはあるだろうが、そのときにその場にとどまってはいけないと考えている。勇気を出して一歩を踏み出すことが大事だ。友人がもし、上記のような状態に陥っていたら、その原因を聞いて、正しかろうが正しくなかろうが前へ進めるような環境をサポートしてあげたい。

○　私自身は「難しいこと」を考えるのはあまり好きではないので、何事も決して重く感じ過ぎないようにしている。人生の上で考えるべき物事については、*読書することにより、物の考え方の選択肢を増やすことができると考えている。

最近気づいた事だが、「人と面と向かって話す」ということは非常に重要な行動である。それまでは表面だけ（他人と話す言葉やしぐさ）見て感じたことも、いざ自身の言葉に対する反応によって見方が180°転換することがある。だから、まずは「自分の声」を相手にぶつけてみることが第一の処方であると私は思う。こういうアドバイスをしてあげるべきだと思う。

＊特に漱石や鷗外、ゲーテが好いと思う。

○　人それぞれ程度の差こそあれ、皆がかかえている問題だとは思いますが、私としては、それを乗り越えられないのは甘えだと思います。あきらめてしまえば、楽になるのはわかっていても、立ち向かわざるをえない人達がいるのですし。

もしも身近にそのような人がいる場合は、社会がどうするとかではなく、個人的に時間をかけて少しずつ自信を持てるようにしていくしかないのではないでしょうか？結局は本人が生きる意志を持って努力をすることを覚える以外に解決の道はないと思います。

○　「こころの悩み」というよりも私の場合は「こころの病気」としてとらえた方が正しいと認識だと考える。医学的に解明（判断）しにくいと思うが、現代病の１つを成している。実際、私もアパシーかメランコリーかよく分からないが、何もやる気がしない時期があった。大抵の場合は（普通の人なら）１日で済むような話なのだが、それが１ヶ月以上となると生活にも支障をきたす。病気としての認識が社会的に持てるようにならなければならない。周りにそういう人がいたら助けてあげたいが、実際にはどうすればいいのか分からない。ただ、人というものは言葉を発したり、ジェスチャーしたり、絵を描いたり、文章を書くことによって表現する。

だから、まずは１対１でその人の心を顕わにする必要性がある。

また私が思うのは、確かに今の社会では休みをとることが難しいと思うが、もう少し好きな時に休みをとればストレスなどは解消できるのではないかと思う。

○　現在の日本社会は、非常に強いストレスにさらされる構造になっています。道をふみはずすといわゆる「落ちこぼれ」となってしまい、大きな心の悩みを抱えることになります。競争社会において、勝ち組が成功するのはあたり前でいいのですが、一度敗れた者にも敗者復活戦のような機会が与えられるべきであり、そういう社会構造であるべきです。現在は、失業率の高さが問題になっていますが、再雇用の流れを早々に確立する必要があります。

個人として、相談に乗ってあげることも確かに気持ちの面で重要ですが、大きな解決にはならない場面もあり、社会的に支援してもらえるような体制づくりを望みます。

○　戦後世代の裕福な家庭に育った子供たちが精神的に弱いのは仕方がないと思う。このまま弱い若者が社会を担うようになると、日本は国際社会の競争に勝てなくなると思うが、そして貧困の時代がおとずれれば、また日本人は強くなると思う。歴史はくり返すのではないだろうか。来たるべき時代のために自分も強くならなければいけないと思うが、気力だけが空回りしている感が否めない。

身近に悩みを持つ人がいたら、真剣に悩んでいる場合は、相談して悩みを分かち合うように努力する。そうでなければ基本的に放置する。

○　こころの悩みは現代においては避けがたいものだと思っている。無論、自分にも思いあたる節もある。が、自身についてそれは特別「病気」であるという意識は無く、そういうものは普通のことであると考えている。暑ければ汗をかくし、ずっと起きていたならばいずれ眠くなるように、忙がしかったり、思うように事が運ばなかったりすればストレスも溜まる。そういう時は少し息抜きなどすれば、いつもの自分に戻ることができる。

身近な人にこのような人がいた場合に、社会でどうこうという気持ちは起こらないが、個人としては、「そういうこともありえる」くらいに考え、特別に何かすることはせず、普通に接したら良いと思う。もちろん専門の医者にかかった方が良い場合もあるだろうから一般には言えないが、それくらいで構わないと思う。

何より、本人があまり問題を自分の中のひとつの場所に抱え込んで、それだけに拘泥しないことが大切で、そのためにも「特別」の意識を持たせないことである。

〔工学部女子〕

○　中学の頃、自分がそのような状態にあったことがある。別に他人ができることなんてないと思うし、社会としてどう対応するかという質問の意味が分からない。友人にはそういう人が実際にいるが、話したりすることくらいしかできないし。

人に対して自分がしてあげられることなんか殆どな

いような気がする。専門職の人は別にして、自分が他人の心の悩みをどうこうできると考えるのは思い上がりです。

○ 「こころの悩み」は別に今に始まった事ではないと思うし、マスコミがあおっている部分が大きいと思う。でも、もし友人がそういう状況になった時（実際に友人に２人いたが）は、こちらから無理に何かを働きかけようとするのではなく、向こうがいつでも頼りたい時に頼れるよ、という事をアピール（知らせる）ようにしておくのがいいと思う。

相手のタイミングで行動できるようにあわせる。

〔文学部男子〕

○ 私は「こころの悩み」というものが、日常生活の不変さがもたらすものと考える。日常生活において新しい出来事があれば、その出来事に対する行動が自らへの刺激となり、脱力感などの精神的苦痛を緩和していくことができると思う。

○ 悩みに対し、個人としてはなりゆきに任せる姿勢をとるのがよいのではないでしょうか。経済的なことならともかく、心の悩みについてはこれがベストだと思います。社会としては、とりたててケアをする姿勢をとると、逆にそれに甘える者も発生するので、特に対応する必要はないでしょう。

○ 心の悩みを持ったときは、それについて深く考えず、あせらず、立ち止まってリラックスことが大切だと思う。何事もプラス思考で行ければ、それがベストだと思う。ただ、あまり自分や周囲を良くとらえすぎて、もしそうでなかった場合に、そのギャップに深く落ち込むこともあるので、ある程度マイナス思考的部分も必要だと思う。

○ 「こころの悩み」を病気などと見て、目をそむけることはしたくない。社会だとか現代人の生活スタイルだとか、そういったものに理由を求めず、それが人間だと見つめてみたい。

そういった「こころの悩み」が文化的なものに昇華するようなこともあるように思う。

身近な人間がそのような悩みを抱いた時は、どんな対応ができるかわからないけど、一方的な強制ではなく向き合いたい。

○ アパシー、対人不安については自分にも身に覚えがある。私が大学に入って強いアパシーを感じたのは、それまでの「大学合格」という「強い目標」が達成され、次の目標が見つけられなかったためだと思う。対人不安はしばしば感じるが、それは生得的な性質・気質によるものと、幼少時における対人関係の希薄さが影響していると思う。

身近にこういう人がいたら、社会はそういう人を助けるような機関を充実させ、もっと気軽にそれらが使えるよう配慮すべきだろう。個人としては、それらの人に関係のある家族や友人が彼らのことを支えてあげるように助ける必要があると思う。

○ 「こころの悩み」を持つ人を我々の勝手な尺度でアブノーマルだとみなすのではなく、それも個性の１つとして接することができる社会を築けたらすばらしい。

○ 幼い頃に地域コミュニティ内で遊ぶ機会が減少し、対人関係を上手く築き上げる訓練が不足していることが原因の１つであると思う。その結果、皆、他人に対して、どこかで常におびえているのかもしれない。個人差はあるが、誰にでも起こりうるものだろう。

社会、および個人としても、やはり真摯な態度で「聞く」こと、相手の気持ちを分かろうとする姿勢が必要だと思う。

○ このような問題を解決する上で、鍵になるのは「多面的な自分」の創造、及びその管理を行うことだと思う。あくまで私見ではあるが、今の日本の社会では、この部分で落伍者が多くなる構造的な問題を内包しているように感じる。「今後の教育はどうあるべきなのか？」抜本的な改革を求める。

また、現実にいる場合、対応は困難を伴うものとなるだろう。一番の理想は、今の日本社会からの逃避だと思うが、勿論現実的ではない。従って今後、現行制度における、介護、福祉の分野でのさらなる充実が求められると考える。

○ この夏に、うつになりました。うつはその対処法が様々に広告されているにもかかわらず、家族にとってはやはり受容しがたいものだということを、自分の家族の反応から知りました。「こころの悩み」は多かれ少なかれ、誰もが抱えていて、それを抱えている状態がむしろ正常であり、嫌悪するようなものではないことを、まず皆がしっかりと認識するべきです。

悩んでいる人を他人が救うのは、本当に難しい。精神科に行ったからといって、簡単に治らないケースも多い。でも、その人が苦しみから抜け出すための環境作りはできる。様々な治療法の紹介（人によって効果はまちまちだから）、周りの人の対処の仕方など、様々な機関の広報は欠かせない。

○ 「つながり」のある場所を積極的に創ること。大学はそうしたことに関して無関心で、またそれで良いとしていることが多い。もう少し柔軟に考える必要があるのではないかと感じた。例えば、私は駒場寮について良い印象はなかったが、あそこにあったクラスルームは、クラスの結束、つながりに重要な役割を果たしていたと思う。

○ ある程度の心の悩みは誰もが抱えていると思う。特に、アパシーに関して言えば、高度成長を終えた現代社会では社会全体の大きな目標は失われており、誰もが明確な目標を持ってそれに打ち込むというのは難しいだろう。個人で対処するならば、スポーツをしてみたり、食生活を改善していくことが必要になるだろう。特に食生活は重要で、ジャンクフードばかりの食生活が精神に悪影響を与えることは良く知られている。身近な人が悩んでいたら、上記のようなアドヴァイスを

するだろう。

社会的には、何か無理な働きかけは特に必要ないと思う。心の悩みに関しては、そっとしておくことが一番本人の為になると思う。

○　私は高校３年の時、ストレスによって軽い「うつ」になったことがあります。何に対してもやる気が出ずに家に引きこもっていました。ストレスについている本なども読みましたが、特に手助けにはなりませんでした。解決策として、私は敢えてそのストレスの原因（おそらくは受験）に立ち向かいました。今まで以上に勉強に力を入れたのです。そうすることによってストレスは徐々に緩和されていきました。自分の生き方、暮らし方に本当に自信が持てればストレスも多少は減るのではないでしょうか。これは私の体験談ですが、一人一人がストレスとの上手い付き合い方を見つけると良いと考えます。

〔文学部女子〕

○　自分が「こころの悩み」を抱える身としては、やはり経験者でないと、なかなか理解してもらうのは難しいと感じる。現在は東大では保健センターで治療が受けられるが、カウンセリング機関などを充実させるとよいと思う。

○　現在、友人（学内）が軽いうつ状態にあり、休学しています。私の方からは定期的（週一回程度）に電話をして、世間話をしたり、相手の話を聞いたりして、“いつも気にかけていますよ”ということをそれとなく伝えるようにしています。（電話口に本人が出られない／出たくない時には御家族の話を聞いています。）このような接し方が良い方法なのか、かえって相手のプレッシャーになっていないか、私も不安で模索している状態で、何か妙案があれば教えていただきたいように思います。

ただ、こういったことはケースバイケースであり、一般論として「こうした方が良い」と言えるようなことではないように思います。（相手によって逆効果になることもあるでしょうし）本当に難しい問題ですが、私は上に書いたような方法を含めて、ずっと友達として（家族なら家族、恋人なら恋人として…）付き合っていきますよ、という態度を伝えていくようにしようとは思います。

○　様々なことが複雑化される一方である現在、このような問題は、深刻化することさえあれ、消えることはないだろうと思う。これから大切になってくるのは、社会や学校がそれをどう受け入れていき、或いはフォローしていくかということだと思う。すでに会社などでも、カウンセラーを招いたり、あるいは研修を行ったりしているようだが、一番危険なのは、‘How to’ばかりがマニュアル化されて、おしつけられていくことだ。「どうすればストレスを回避しやすいか」が、いつの間にか「こうこうこうすればストレスに対処できるはずである。対処すべきである」にかわっていく。こういったマニュアルのもとでのアドバイスは、どんなアドバイスでもストレスを受けている本人をよけいに追いつめる。何より忘れてならないのは、本人こそが誰よりもストレスを克服したいと願い、あらゆることを試み、にもかかわらず克服できない自分にイラ立ち、絶望し、苦しんでいるということである。本人が何より求められているのは中途半端なアドバイスではなく、真の理解である。

○　どんな人でも、小さなきっかけで心の病になる可能性をもっている。複雑化した社会の中で、最低限の生活を支える経済的基盤が揺らいでいたり、「競争」に勝たなければ生き残れない場が広がったり（企業、学校など）する中で、心に悩みをもたずにはいられない環境ができあがっているように感じる。それは「自分」という無二の存在を自分自身で認めにくい社会になっているともいえる。社会から与えられたものさしではない、自分の判断で自分を認め、自分自身を愛することができて、はじめて他人を受け入れ、思いやるゆとりを得ると考えるが、現在は、「自分を受け入れる自信」の得られにくい“相対的社会（他と比べて価値が決まる）”であるために、自分も、他人も受け入れにくい状態になりやすいのではないか。

だが、自分を無条件に受け入れてくれる家族や友人、先生などの存在によって、人は大きく支えられ、生きていく力を得られる。ということは、社会が変わっても、決して変わらない真理であると考える。どんなに小さい子であっても、また年をとっても、人から受け入れてもらい必要とされていると感じられることで、人は満たされ、人を愛することもできる。そのような人間関係をまず家庭から、社会へと広げていくことができればよい。そして、そのために特に小さい時の学校教育も、大切だと考える。

〔理学部男子〕

○　日常生活に支障が出るほどの「こころの悩み」を持たない私などのような人間は、身近にそのような人がいても、自分の感覚で「それは逃げでしかない。」だとか「弱すぎる。」などと言ってしまいがちだし、考えがちだと思う。自分の感覚を排除して、相手の立場に立って考えることは難しいが、まずは相手を認め受け入れることから始めたい。

○　「こころの悩み」への特効薬は存在しないが、その悩みをもつ人へのケアとして、社会全体の価値観の多様性が必要である。現代社会において、マスコミなどによる情報操作の影響力は計り知れないが、そこで唱えられる価値観の多様性の必要性は、あくまで口先だけのように思われる。頭でわかっていても、行動に移す人が少ないからである。

身近に「こころの悩み」を抱える人がいた場合、基本的にその人は周囲の人々との会話が少ないことが多い。個人としては、その人の出すサインを敏感に読み取り、その人と会話をするなり、そっとしておくなど

の行動をとる。そして、長い目でその人を見守ることが重要である。

上で書いたように、特効薬が存在しないからである。

○ 「生物」としての人間にとって現代の社会というのは極めて不自然なものであり、「こころの悩み」が出るのは必然。それに対してバランスをとるために「カウンセリング」という技術を生み出したわけであるから、そうした技術を積極的に提供、利用していくのが、社会・個人として自然な対応だと思う。

〔理学部女子〕

○ 家庭環境が大きく影響していると思う。

カウンセリングをもっと軽い気持ちで皆がうけに行けるようにするといいと思う。精神分析医・心理カウンセラーの診察をうけることが、一種社会のステイタスになるかんじだといいと思う（アメリカの様に）。

○ 自分もそうなってしまったことがあるので、どんな人でもなりうることだ、と思う。やはり、そういう状態になる人が多い中、もっと話を聞いてくれる人がいる場は必要だと思う。また、一人暮らしの人は、そのような心の悩みを一人で抱えてしまうことが多い。それをよく考えて、ほしい。東大は他の大学よりもきついカリキュラムのことが多いし、性格的にもあまり挫折しないできた人も多い。また、男子校、女子校出身の人も多い。やはり精神的にまいってしまうことも多いだろう。その状態であることをよく考え、大学の方では考えてほしい。(再三言うが)

〔農学部男子〕

○ 心の悩み自体はいつの時代にもあることだが、近年とくに問題が大きくなっているのは、現代社会がひとつの行き詰まりに直面していることと関連していると思う。明治以降、或いは戦後、我々は物質的な豊かさを追求してきた。豊かさは飽和を迎えるほどであるが、それに対し、我々は精神的な余裕を失い、人生そのものを楽しむということを忘れてしまう人もいる。心ゆたかに生活するビジョンを社会が呈示できていないので、ひきこもり等の問題を抱える人がふえているのだと思う。

そのような人にさしあたりどう接するべきか。それは、その人の環境や性格による所が大きいので一概にはいえない。だたひとついえることは、その人とつねに連絡をとれる状態にしておくことが重要である。自殺は終電のなくなったあと、明け方に多く発生するという。ひとりで追いつめられてしまうという状況はさけねばならない。ビンボーでも心豊かに、気楽に（≠無責任に）生きるモデルを周囲の人々が示せれば、心の悩みを軽減することもできるかもしれない。

○ 自分にその様な悩みが無い場合、悩みを抱えている人に思いやりを持つという事は非常に難しい事であり、無関心になる事が多くなります。何故その様な「心の悩み」が生じるのかは興味のある所ですが、やはり、生活が豊かになり別に何の工夫もせずに多くの物が手に入る環境も関係しているのではないでしょうか。いささか教科書的ではありますが。

さて、もし身の辺りにその様な人がいたらどうするか？残念ながら、私には少々の時間を割いて（本人が悩んでいるなら）受動的に話を聞くこと位しか出来ないでしょう。その様な経験も、専門知識も無いのですから、下手なアドバイスもそう出来ません。そして、恐らくは、本人がどうにかしよう、と問題意識を持ち、苦しみながら、自分で道を探さなければならない事なのでしょうから、主体的には何も出来ません。しかし、（個人的な好みかも知れませんが）自分以外の物事に触れる事はたのしいもの。他を知って初めて自己を相対化出来るものであれば「心の悩み」を持った人にはそれらの楽しさを味わって欲しいし、私の知っている楽しさの断片を拙い言葉で知らせる事が私に出来る精一杯の対応だと思います。

○ 誰でも悩みや不安は抱えているが、それが「こころの悩み」になるかどうかは精神的な強さを持っているかどうかに関わっていると思う。確かに現代社会はストレスの多い社会だと思うが、「こころの悩み」は単にストレスに耐えられない人間が増えてきていることが原因なのではないだろうか。現代人は以前の人と比べて精神的な強さを鍛える訓練を怠っているのではないだろうか。

身近に悩みを持つ人がいたら、その人の話をしっかりと聞いた上でその原因を取り除けるように協力し、それが再び生じないようにする。

○ 大学が強制的に運動会応援部に入部させれば「こころの悩み」なんて持つヒマなくなる気がする。というのは冗談にしても、荒療治が必要なこともある、というよりむしろ荒療治が必要だと思うので、積極的に悩みを持つ人の内面に介入していくのが重要。

○ 話をとにかく聞いてやる。

大学が何かの助けになってやれるかはギモン。カウンセラーや相談員を置いたとしても、小中高の保健のオバさんみたいに、心を開ける存在たりえないと無意味。

○ 医者に行くべき。

精神的な健康を害し、医者にかかるということに対して未だに敷居が高く、理解のない人達がいることは悲しい。東大という権威のある立場から、そういった観念を改革していただきたい。

○ 私自身たまに無気力状態になり、全て投げだしたくなり、ぼーっとすることが多いです。とりあえず話をする相手がほしいです。

〔農学部女子〕

○ 友人や家族への相談を含め、心の悩みは重症になりすぎる前に自分で対処できると良いが、やはり私の身近にも１年以上無気力だった人や、家から出られない

人がいる。摂食障害など専門医の治療が必要でも行きにくい人が多いため、病院を紹介するだけでもよいので無料相談電話窓口が必要だと思う。人目を気にする人でも平気なよう電話番号は覚えやすくし、専門医・家が保険証がなしでも（二親に相談できない）対応してくれる仕組みがあるとよいと思う。

また、無気力の人に“がんばれ”は逆効果など、気を付けるべきことなどがあれば知っていたい。

○　私も摂食障害になったことがあります。友人が摂食障害になったときには、できるだけ時間を一緒にすごし、強制ではなく楽しい食事をとれるよう努力し、自分もそうして助けてもらいました。一つの答えにまとまるものではないけれど、理解、信頼しあえる立場の人間がいることはたいへん重要であると思います。

〔経済学部男子〕

○　現代社会の、あまりに強大になりすぎた効率性観念が人間の心を傷つけることによって起こる心の病気である。本来、人が幸せに生きるために作り出された社会システムが人間を排除しようとするのは許しがたいことであり、我々は自らのもつ「常識」を変えてゆく必要がある。そのためには、社会システムが効率性重視によって何を達成しようとしたのか、あるいは何を達成したのかを考え、それらを損なうことなく人々の活力をもり上げるような、新しいメカニズムを導入する必要があるだろう。さしあたっては、体の病気と心の病気に対する医療の格差を縮小し、健康診断のような方法で早期発見・予防・広報に努めるとともに、万一病気になった時には正当な医療を受けられるようにしなくてはならない。特に精神科の質については改善が必要である。また、休暇をとりやすくするなど経済システムの変更も必要となるだろう。

○　結局は、自分に甘いだけ。

自らの信念を貫き、自ら解決すべきである。

○　以前の恋人が摂食障害を持っていた。また友人はうつ病がきっかけで自殺してしまった。もちろん社会に出ても、そのような悩みを持つ人は多いが、高校から大学にかけて、そのような病気や症状について専門的に治療・アドバイスしてくれる機関が少なすぎる。特に、教師のそれに対する無責任、無知が問題であると思う。現状でも相談機関はあるが、病気を抱えていてもそこに相談する人は少ないはず。社会と漠然と言うよりも、まず教育機関が健全な精神をもった人間を育成することにもっと真剣に取り組むべき。

○　自分にも経験があるが、やはり人に相談することが重要であると思う。一人で考え込むとますます落ち込んでいく。

○　現代の日本社会における「こころの悩み」の原因は、主に対人関係にあり、それを解決するものもまた、対人関係によってであると考える。従って、社会としては地域活動や家族の生活における困難を軽減する対策が求められる。具体的には育児休暇制度の充実や、職住近接を実現する街づくり等が必要と考える。

○　ストレスのない社会というものは存在せず、とりわけ現代の日本社会がストレス社会になっているとは言えない。むしろストレスについて考察することが増えて、対処法などが生み出されている。最新のシステムを利用してストレスを少しでも少なくするようにアドバイスする。

○　まあそういう人もいるんだなという程度の認識。

相手が自分にとって大切な人だったら。

そのときになってみなきゃ分からないと思う。

こころの問題は本当にケース・バイ・ケースだと思うから。

〔経済学部女子〕

○　人にはそれぞれ事情があり、個人が抱える悩みは本人以外の人間には測り知れないものが多いと思います。専門家以外の人間が解決に手を貸そうとするためにはその症状に対する充分な知識が必要となり、中途半端な対応は返って本人を傷付けます。結局は本人が乗り越えることが唯一の解決方法でしかなく、周囲の人間はじっとそれを待つのみです。

実際私の恋人が軽度のうつ状態にあり通院していますが、私が良かれと思い言ったこと、行ったことはほとんどが裏目に出ました。結局は風邪と同じように誰にでもかかる可能性がある症状であり、本人の回復を、いたわりながら気長に待ち続けることが最善であると思います。また、自分の勝手な判断ではなく、専門家の指示を受けて動くことが大切であると思います。

○　自分自身が非常にメンタル面が弱く、保健センターにお世話になっているような状況なのだが、特に大学のように一人暮らしの人が多い所には、このような症状をきたらす人もまた多く発生することになるだろう。よく、「病は気から」と言われるように、「甘えてる」とか「弱いからいけない」とか「がんばれ」という言葉を、そのような人々にかけるのを見るが、私自身、自分が一番どうにかしたくてたまらないのに、そういった言葉は新たなストレスになるということを周りの人間が分かっていない。

精神科にかかることは、そう非常識なものではないのに、相変わらず変な偏見ばかりが往行していて辛い。普通の人ならばこそ、このようなココロの問題をかかえることになるのだという、温かくも、差別しないような態度が必要だと思う。

○　社会の発展によってうまれてくる一種の現代病であると考えている。病原菌が理由でおこる病気とは異なり、これらの精神病は、手術や投薬では治癒出来ない。一度浪人時にストレスから摂食障害を経験したが、その時は恩師と哲学や倫理や宗教について語り、自己分析をして解決した。しかし、この方法が全てとも言えないし、またアパシー、対人不安などの悩みをもつ人が身近にいないので、上手な対処法はわからない。

だが、仮に身近にいたとしたら、大自然と触れ合う

機会を作る。何故なら以前テレビでイルカなどが精神病の回復を手伝うという話をみたから相手の生きやすい場所を一緒に探してやることで、相手の精神や考え方を解放できると考えているから。

○　「こころの悩み」は誰しも内に秘めていると私は考えます。ただ、本人が気付いているか、気付いていないかやその悩みの度合いが人によって大きく違うため、「こころの悩み」と言っても誰しもが他人事のように考えてしまうのです。重要なことは「こころの悩み」を持っていてもそれを非と感じることなく、解消できるような環境づくりです。そのような環境づくりのため、私たちはお互いをもっと知ろうとすることが必要になってくるかもしれません。時にそれをわずらわしく感じることもあるでしょうが、他を知ることで自分自身がよく見えるようになることもきっとあるでしょう。私自身のことについて考えるとき、個人としては自分のことを話すだけでなく、相手（友人・家族・恋人）のことを聞きたいと思います。ストレスフルな生活を送る経験を持つ私の意見です。

〔教養学部男子〕

○　こころの悩みは、物理的欲求がほぼ満たされた現代で最も切実な問題だと思う。改善には、やはり他人との交流の中で本人に実感を持たせるのが良く、外へ出られるように、周りの人が手助けしながら、協力活動の中に参加させて交流をさせる必要があると思う。社会としては、あれこれ細かい方法論を展開するのでなく、やる気になった人達が自由にアイデアを出してケアをしていけるような場とか制度づくりが必要だと思う。そしてケアする人達を財政的に支援すると共に、根本的には雇用の流動化を可能にするような制度づくりと教育をもって個人の自由意志でケアをしやすい・されやすい状態を保証することが、社会の役割だと思う。

○　戦後民主主義の中で、命より大事なものはないと教えられて育った現代人は、精神的に弱いのだと思う。また、昔の人は生活にそれ程ゆとりがなかった分、苦しくてもぐずぐず悩んでいる暇がなかったのに対し、現代は豊であるためつまらないことに悩めるだけの余裕があるのではないか。「衣食足りて礼節を知る」の言葉通り豊かである分、治安はよいが、貧しい国では見られないような「異常な」犯罪が見られるのは、「小人閑居して不善を為す」ということであろう。

　身近にそのような人がいた場合、当人の性質に応じて、適切と思われる処置を個人的にするだろうが、最終的には自分でどうにかしてもらうしかない。社会的な受け皿は必要な気がするが、臨床心理学などの知識があまりないし、そもそもそういうものをあまり信用していないので何とも言えない。

○　現在自分が様々なストレスによってうつ病・精神不安症・心因性皮フ炎の治療を受けている身なので一般的な立場から記述することが難しいが、まず思っていたよりもこのような「こころの悩み（病）」にかかりやすく、また相談や治療に踏み出すのが大変であることを実感した。個人的には冬に裸でいれば風邪をひくのと同様に、自分のこころが環境に合わないか、環境が酷であるか、こころが十分に対応しきれていない（順応していない）かによって誰もが陥る類のものだと実感している。しかしながら、どこに話を持ってゆけばよいのかはっきりしない上、精神科に通うことに対する社会の冷たい目も感じる。また「全ての原因は本人の怠慢である」式の説教を垂れる人も未だに少なくはない。メディアを通じているほど皆理解はしておらず「頭では分かっているんだけど」式の人間が多いのではないだろうか。また、仮に身近に悩みを持つ人がいたら何はともあれ本人が満足のゆくまで話を聞いてあげることが必須であると思う。

○　自分もストレスを感じたり、無気力状態に陥ったりすることがあるので、現代それらが、社会的に認められ、余計な不安を感じずに済んだのは幸いなのかな、と思う。しかし、これらの「こころの悩み」は個人が人間社会を相手に生きていく上では避けられないものであるから、とにかく本人がもがくしかないのかな、と結局のところ考えてしまう。

　結局はみな、ひとりひとり孤独であることに違いはないのだけれども、悩みを持つ人がいたなら、それを感じさせないよう、親身になって接してゆきたい（ベタベタするとか一方的に声をかけ続ける、というのではなく、相手に必要だなと思うことをやる）

　「実は私も同じ悩みを抱えているんだよ」と同調するよりは、（少なくともその人の前で）明るく元気一杯ふるまって前向きに仕向けられたらいいかな、と思っています。（自分にそれだけの余裕があればの話になりますが）

〔教養学部女子〕

○　人間は好きなことをしているときが一番幸せで、そうしたゆとりをもつことでストレスを感じずに暮らすことができると思う。ストレスを感じたときは、まずストレスの原因が何かよく考え、ストレスを生みだす原因を取り除くことにつとめるとともに、自分の好きなことをする時間をつくって、自助努力によりあまりこころの負担にならない程度にストレスを軽減できるようにつとめる。

　ただし、ある程度のストレスというものは、人を成長させると思う。大切なのは自身がストレスを感じていることに気づき、そのことにより自分のこころをよく分析して、もしこころあるいは周りの環境に問題がある場合には問題解決に取り組むことである。こうした過程を経ることにより、人は問題解決能力を身に付け精神的に成長していくのだと思う。

○　私の恋人は約１年間に渡って無気力状態、対人不安におちいっていた。私に出来たことは、話を聞き傍らにいることだけだったが、やがて症状は回復した。そ

の時私が感じたことは、もし大学が中学・高校の時のような環境であったら良かったのに、ということだった。大学は自主的な勉学の場であることは承知しているが、東大はあまりにも各人間の関係が希薄であると思う。（特に文系）ゼミ、教室でのふれあい、そういったものがすくなく、友人を得るにはサークルetc.他の活動に頼っていると思う。大学側が大学としてのコミュニティをもっと密にしてほしいと私は考える。

〔教育学部男子〕

○　現在の日本では、生きる意義について考える機会が乏しいと思う。

　悩みを持つ人には、広い世界を見せてあげたい。

〔教育学部女子〕

○　こころの悩みとは、現代の日本社会の正常・異常の基準などが厳しくなった結果であり、価値観が多様化したと言いつつも、「はずれ値」の範囲が狭くなってきた結果だと考える。自分のできることをすればよいとアドバイスする、現状を受け入れてあげることが大切だと思う。

○　このような症状が増えていることは、現在の日本の社会的な状況から必然的に生まれたものだと思う。どこへ向かうのかわからない経済的現状、日本の未来など社会に広がる漠然とした不安感のようなものが、個人レベルでも起きてしまう。

　私はストレスを感じた時、スポーツで気を紛らわすが、それで一時的に解消できても原因を絶つことはできない。原因をみつけ、解決するには時間が必要な時が多いと思う。

　特に、ストレスや無気力を感じた時、それは抽象的なあせりや不安が原因であることが多い。そのような状況下におわれた際、さらなる焦りを生みださないよう、たっぷり時間をかけ、その間で一歩ずつ前進できることが大切だと思う。会社・学校などではそのことを考慮した保障期間なども考え、また、全面的にバックアップできるようなセラピーなども気軽に受けいれることをアピールすべき。

○　「こころの悩み」が、以前よりも認知され、人々に受け入れられやすくなってきた反面、より重大な問題となっている気がする。

　自分が、ストレスをためやすく、発散できずにいるため、やや摂食障害気味（というのも変だが）であるが、社会に何か対応できるとは思わない。（これが「こころの悩み」だとも思っていない。）

　ただ、他の「悩みを抱えている人」に対しては、専門機関をもっと開かれたものにすることや、病気の詳しい知識（症状など）などを広めることが大切ではないかと思う。本人が、「自分はこころの悩み」を抱えていることに自分で気づくことができるようにするのが必要なことだと思う。（私も含めてかもしれないが。）

〔薬学部男子〕

○　こころの悩みは、出来る限り自分の中で解決するべきだ。

　他人に相談してもよいが、それはあくまで参考程度、最後に信用できるのは自分以外に有り得ない。

　身近に心の悩みを持っている人がいたら、アドバイスはするが強制はしない。最終的には自分で判断してもらいたい。

○　人は誰もが悩みを持つが、自分にとって重大な悩みをかかえると、周囲が同じように思い苦しんでいることが見えなくなり、自分だけが世界中で唯一の苦労を持った人間であるかのように考えて益々深みに入り、見えなくなる。

　悩みの種類は人により千差万別ではあるが、誰もが持っているもの。あまり深く考えすぎず、ある程度の楽観主義で生きていくことが、結果的に実りある人生になると思う。

具体的記述（抜粋）その２

大学への要望やこの調査に対する自由な意見

〔文一男子〕

○　授業について。明らかに単位を取り易い教官と、そうでない教官とに分けられており、どの授業を取るかで生徒間に差別が生まれている気がします。進振りの際に、問題になると思いますが、どうでしょう。あと、大学の教官は仕方ないとは思うのですが、もう少し熱意と教える技術を身につけて欲しいです。

　施設について。男子用ロッカーは、もう少し何とかならないものでしょうか。教務課・学生課のお昼休みは、無くして欲しいと思います。一番利用し易い時間に開いていないのは、少し問題があると思います。学生会館横のグラウンドについて。雨など降っても大丈夫なよう、水はけのよい土や人工芝などは使えないのでしょうか。あと、もう少し広くして欲しいです。

　不満ばかり述べてまいりましたが、図書館の新築など、いつもご苦労様です。これからも頑張って下さい。

○　情報処理の授業は苦痛だった。パソコン既修者、未修者の習熟度別授業は是非実施していただきたい。

・独立行政法人になること自体は反対ではないが、その分、奨学金制度の充実を図るべきだろう。

○　第１グラウンドの照明設備をもっと整えて欲しいです。

○　（特に教養学部において）自治会が、学生の自由意志によって成るのではなく、逆に自治会が勝手気ままに学生を束縛しているように思える。ごく普通の（政治的に中立の）自治的役割も果たしてはいるようだが、現在の状況では、学生の意志と自治会の意志の乖離が激しすぎるのではないかと思う。しかし、その性質上大学側は手を出しにくいであろうし、どうしたら良いのか分からない。

　暫定的な案として、大学側が学生の意見を個人から直接吸い上げられるようなシステムを作ってみてはどうだろうか？

○　トイレが汚く、かつ和式便所が９割以上を占める駒場キャンパスの現状は、改善すべきだと思う。

○　自分は法学部に進学予定なのですが、法学部の前期課程における教育はかなり不満があります。スタッフの数にも差があって比べにくいですが、前期の授業での理系（工学部etc.）の教官が多くの魅力的な授業・ゼミを開いているのに比べて法学部はルーチンワーク的に専任講師を出すていど。これは、進振りがなくて学生をとりあう必要が文系にはないためにくるのかもしれませんが、教官側に社会・教育に貢献する気持ちがあまり見えないのが残念です。若い時期から様々な先端的な教育をうけ、一流の研究者に触れる事は将来的に大きな意味を文系学生にも与えるはずです。同様に、ある程度はやむを得ないとは言え、法学部はマスプロ授業ばかりの現情を肯定するだけというのも非常に残念です。そのような授業ばかりでは、授業に出ず予備校通いに走る学生を批判する資格はないと思います。

○　講義（特に語学）においてもっと学生に勉強を要求すべきではないか。（例えば、予習や宿題などで）もちろん勉強は自主的にやるもので、教官が強制すべきでないとは思うが、厳しい授業が自主的な勉強の契機になることもあると思う。たいして勉強しなかった者が容易に卒業し、高い社会的地位につくのは大きな問題だと思う。

○　調査の結果、多様な答えがでてくると思う。その中で、多くの人の要望はやはり実行をもって反映してほしいと思う。

○　法学部の専門科目として駒場で２年生用に開講されている講義がありますが、何故か１コマの授業時間が100分となっていて、他の前期課程の授業よりも10分長いのです。長所も色々あると思うのですが、ここではデメリットについて述べようと思います。まず、100分授業が２コマ連続で開講されている場合。同じ科目ならまだしも異なる講義の場合、学生は休憩もとれず、トイレにも行けません。２つ目。理論上は上記のような事態が起こるのですが、そこらへんは教官も心得ているらしく、授業の終了を少し早めてくれることもあります。ところがそこらへんの基準があいまいで、ときには休憩が20分近くなることもあります。結果として100分どころか90分にも満たないような授業内容になっていることが往々にしてあります。以上のように100分授業にして休憩をおかないことは逆に授業の進行の弊害になる点が多々ありますので、改善を待つばかりです。

○　教務課の職員と接するときに、相手の対応がすごく機械的で人間味を感じない。様々な事務でお忙しく、多数の学生と接する必要があるという事情はあれ、ちょっと冷たいなぁと感じる。対応の人間味のなさとは「書類の提出期限の厳格さがひどい」とかいうことではなく、我々学生と接するときの職員の方の無表情や感情のない言葉・接触のことを指す。もう少し改善してくれても良いのではないか。なれ合いは良くないし、職員の方も威厳は必要である。しかし、これは今の社会全体にも言えることかもしれないが、互いに気持ち良く構成員として大学という団体の中で過ごせることは、とても大切で、個人の様々な活力を生み出す大きな要因の一つだと思う。大学の構成員１人１人が考えていきたい問題だ。

○　留学生を、留学生同士で固まるようなSystemから解放させたい。多文化理解が英語帝国主義におされている。というのが、駒場後期課程で少なからず持つ印象である。もっと多元化を！

○　スポーツ活動への大学のバックアップを求めます。

具体的には、資金援助やラクビー場の全面、芝のうえつけが望ましいです。私学と比べて、バックアップがあまりにも乏しくて、東大という名前のために戦っている身として、(別に大学に頼まれているわけではないのですが) 寂しいです。

○　大学は授業の教官の教える能力を充分に審議しているのか。私は今年度から法学部の授業を受け始めたが、授業の進め方が下手としかいいようがなく、学生に授けるべき内容を伝える能力のない教官が多い。このような状態を放置したまま学部の授業内容を厳しくするといってもお笑いにしかならない。学生による授業内容評価はどう生かされているのか。結果を各教官別に公表してほしい。(授業内容は教官に大きく依存する) 学生による授業評価が頼りにならないならば、大学側で授業内容、教官の能力を審査する仕組みを作ってもよい。教える能力のない教官が授業を行う状態を放置する事は学生の意欲を減退させるだけであり、時間、税金、授業料の無駄使いである。優秀なスタッフのもとで授業を受けられることが学生の切実な願いである。

〔文一女子〕

○　大教室講義を批判する声も多くあるが、私は個人的には好きです。無理に少人数授業を増やす必要はないと思います。人数が多ければ、その分各学生の自主学習（参考文献にあたる、など）の自由度が高くなる。しかし少人数授業であれば、どうしても毎回の授業の準備に追われ、結局高校までの授業と変わりません。勿論語学や基礎演習等の科目は少人数の方がよい。しかし、大規模授業にも少人数授業と同等のメリットがあると考えてよいと思います。○駒場生が本郷の授業に出るには大きな時間的制約があります。本郷での総合科目は土曜日にもっとやって頂けると有り難い。○「リガール・イングリッシュ入門」の授業の拡大・増強をお願いします。出来ればポリティカル・イングリッシュ入門も設置して下さい。英文論文（報道文でなく）を読むような国際コミュニケーション演習でもいいです。

○　大学に対する意見を直接的に受け付けてくれる所があるとよいと思う。(受け付けなくとも聞いてもらえる所。)

　勉学に関して、少人数クラスならば、個人の質問などに答えてもらえるというような余裕もあるが、大人数だと難しい。英語Ｉなどで実施されているような質問を受け付ける制度を充実させてほしい。よく、講義では、内容理解のために多くの参考文献が挙げられるが、時間的に辛いものである。もう少し、内容理解のフォロー体制を作ってほしい。

○　校舎が古く、汚ない。“研究エリア”と予算配分のかけ方が大きく異なるのが明白。学生を教育する場、学生が教育を求めて来る場としての意識ももっと持ってほしい。

○　私のような自宅生にとって、通学時間は大きな負担です。90分かけて大学までたどり着き、掲示板を見てその日の授業が休講で、また90分かけて帰る、ということが今まで何度かありました。休講・補講情報などをネットでも確認できるようにしていただけると、非常に助かります。

　もう１つ、駒場に新図書館ができたことは非常に感謝しています。自分自身も含め、空き時間に勉強する人が増えたと思います。今後も、自主スペースの充実化を継続していただけると、有り難いです。

○　総合科目の授業がつまらない。教授に授業をする気が見られない。学生の自主性に頼りすぎて得るものが少なくなっている。

　方法論基礎の必要性が感じられない。専門の知識がゼロの状態で概論だけ論じても無駄だと思う。こんな事をする位なら専門の授業を早めに導入したり、専門知識と平行して概論の授業をすればよい。特に社会科学基礎の法Ｉ、法Ⅱ。

○　学内を禁煙にしてほしいです。夏に窓を開けていると近くの喫煙所からタバコの煙が風に乗って入ってきて嫌な思いをしたり、歩きタバコ・ポイ捨てを見ると非常に不愉快になります。特に駒場は未成年も多いはずなのに、喫煙所があちこちにあるのは変だと思います。

○　自分勝手かもしれませんが、もう少し早い時期に暖房が入るようにして下さい。

〔文二男子〕

○　僕は文科系の学生だが、文科系の学生に対して理科系の科目の履修を強いることに疑問を感じる。僕自身リベラルアーツは非常に重要だと思うけれども、果たして単位や点数だけのための、孤立した科目を学んだ結果が教養となりうるだろうか。それは授業方法や評価方法にもつながることだが、僕は教養というものは自分の興味・関心から適度に限られた範囲において深められ、そこから広がっていくものではないかと思う(適度に限られたというのは、対象となる学問の性格によって分けられ、現代の学問のように極端に専門化していないという意味である)。したがって具体例には物理学・化学・地学・生物学・文学・経済学・法学に科目を分け、そこから２、３選択することから始まるカリキュラムの仕組みが良いと僕は考える。

○　第１には、カリキュラムに改善を求めたいです。経済学部の専門科目Ｉは、９科目中７科目の単位を取得しなければならないのですが、２年の夏学期に取得できるのは３科目分で、冬学期には残り６科目の勉強をしなくてはなりません。これでは、冬に負担が大きくなりすぎます。夏学期に取得できる単位を増やすべきです。また、これに関連して、時間割りの組まれ方にも改善が必要と思います。必修科目である語学の授業が１時限あるだけであとは何もない日がある一方で、１限から５限まで束縛する日があったりします。１限

から５限までまともに出席できる人などそうそういません。もっとバランスよく授業を配置していただきたいものです。

第２には、専門科目になって急に授業の進め方、教え方が下手になった点が不満です。確かに自分の努力不足という点も否めないことですが、教室の後ろ半分にいた場合には少しも読めないほど小さい字で板書したり、思いついたことを殴り書きのように、とりとめもなく板書するような授業は自分の努力とは無関係でしょう。授業評価のアンケートをとったりして、そうした授業をする方の意識を改善させてあげて下さい。

○　１年生の時から早く専門分野の勉強をしたい。現在開講されている様な専門系授業は中途半端で理解できる人はごく限られた人のみであると思う。

○　必須外国語の意義がわからない。特に英語二列に関しては自分の希望（絶対にとりたい、または絶対にとりたくない）の授業にならなかったら単なる“苦行”にすぎなくなる。

私は大学に入ってから専門分野を決めようと思い、東京大学ならば点数次第でどこにでもいけるということを聞いて東京大学に入った。しかし、将来の選択の為の勉強をしている最中に「必修だから」という理由で時間が盗まれていくのは耐えられない。まぁ、高校のうちに決めないといけない他大学よりはマシだと思いますが、改善して欲しいものです。

○　大学が４年しかない、というのが非常に残念である。近年は学術領域が格段に広大化・細分化され、たった４年では、自分の学びたいことが、十分に学べない気がする。また、学生のうちにしかできないような旅、読書などをする時間が削られる、というのが悔やまれる。もっとゆとりのある学生生活を営みたい。また、現在東京大学駒場キャンパス近辺には、食堂が生協のみの独占状態であり、値段や質が悪いと思う。周辺に競争相手の多い本郷と異なり、手を抜いているいるのではないかとすら疑われる。構内に競争相手の参入を求める。

〔文三男子〕

○　71番に関して御殿下記念館上の御殿下グランドですが、人工芝なのにでこぼこが目立つし、グランドがめくれているところも多く、あまり使い心地がよくない。特に砂が多く、非常にすべりやすいので、早急になんとかしてもらいたい。また、シャワーやロッカーなどの付属施設の充実をはかってほしい。駒場に関しても、サッカーグランドとラクビー場が同じであるため、サッカーをやるには土が最悪。それにせまい。

最後の大学への要望のところは、たくさんあるので、３つだけとかに限定されたくない。もっと自由に書く場所があってもいい。

○　進学振り分けという、選択の余地を残すという制度はありがたいが、点数至上主義の弊害は非常に大きいと思った。志望に合わせて学科のキャパシティを増減するくらいのスタンスにしなければ、学びたいことを学べない人がでてきて、大学の意味がなくなってしまう。また、転学部なども最大限認められるようであって欲しい。

○　大学（教養学部）への要望

●前期教養は暇以外あまりメリットがない。単位認定を厳しくするならば、その前に授業の小人数化と雑学程度にすぎない授業レベルの改善が必要。雑学は授業ではなく本から得られます。

●点数のみによる進振りは馬鹿らしい。論文審査、教養時代に受講できるゼミ教官の推セン等シケプリで点を取ってどんぐりを比べるのよりも良い方法がいくらでもあるはず（教官の労力はかかりますが）。

●教養学部の学生活動への徐々の規制強化は、自治会不支持の人にとっても学生ならば誰でも腹立たしいです。宿泊施設等もっと自由を認めて下さい。

●法学部に対して

法学部は、「大人数授業にはその良さが、少人数授業にはその良さがある」とうそぶいてきたことについて、「法科大学院設置に伴って400人に定員を削減する」旨を決定しておきながら、何か釈明することはないのか。

○　喫煙をしない人のため、キャンパス美化のために分煙の導入を強く求めます。

学生のモラル向上のためにも、出席や遅刻をもっと厳しくとり締まるべきだ。１時間以上も遅刻して来る学生を注意しないということは教官側も責められなければならないのではないだろうか。磁気の入った学生証やユーティリティーカードが発行されるようになったのだから、それを有効に活用すればよいと思う。遅刻や欠席を平気で行う学生と同じ大学に通っている自分がとても恥ずかしい。

○　スポーツの位置づけをもっと重要視してほしい。

施設、環境の整備は不十分であると思う。現行の研究に投資するのも確かに必要であるが、将来を担う人材の育成への投資を更に進めて欲しい。

○　是非、中高一貫校から東大へきた人と、地方で公立中、公立高のパターンで東大へきた人の違いを調査してほしい。最近、考え方に大きなギャップを感じます。私は地方出身ですが、中高一貫の人たちは、色々なことを知らなさすぎるような気が……。

○　検見川総合運動場…サッカーグランドを全部、芝をきっちり張ってほしいです。セミナーハウスで泊まる時、部屋の換気が悪すぎます。もっと換気システムを充実させて下さい。

〔文三女子〕

○　大学への要望というか、三鷹宿舎の平日勤務の職員に対しての要望です。苦情への対応が非常に遅く、こちらからの連絡がなければ何の措置も講じないようで

す。具体的に言うと、水道の欠陥を申し出ても、水道に関する知識を持たない職員が修理らしきことをしたため、更に水道の状態は悪化し、私の最初の申し出から約３ケ月後にようやく水栓を変えてもらいました。私の最初の申し出から約１ケ月後に、職員は、水道業者を呼んでもらい、根本的な修理を教養学部に依頼すると言いましたが、結局その時点では依頼をしなかったのです。たしかに600人以上の学生を数人の職員で管理するのは容易ではないと思いますが、無責任な行動や発言をせずに、具体的な対応を心がけてほしいと思います。

○　進学振り分け制度が、文科三類、理科一、二類だけに主に適用されるのは不公平だと思います。毎年の進学内定者の基準点、最低点を見てみると、文科一類は60点代でも法学部にそのまま進学できるのに対し、文科二、三類は定員が少ない上90点前後でなければ進学できないなど、文科一・二類と文科三類の間の差が大きすぎるような気がします。そのため現状では、文科三類で高得点をねらう学生は高得点が容易にとれる授業ばかり多くとり、その一方で文科一・二類の学生の多くは単位取得を重要視し、試験が近くなるとどの科類の学生も「シケプリ」などというものをまわし合うなど緊張感が欠けているように見受けられます。緊張感を取り戻し、また単位を取得することを目的として「シケプリ」を交換し合うというおろそかな学習態度・雰囲気を改善するためにも、文科系・理科系の中に「類」という枠を設けず、全員が進学振り分け制度の対象となる仕組みを作っていくのがよいと思います。また試験の点数だけによる評価ではなく、出席や努力も評価されれば学生の向上心も高まると思います。

○　このような調査を頻繁に行なって結果を大学の様々なシステムの改善に目に見える形でどんどん役立てていってほしいと思います。とにかく、保守的な体勢を変えていくことが１番の課題だと思います。

○　文系・理系の区別のない学科をもっと増やしてほしい。

○　冷房と暖房がつく時期が遅すぎます。日付によってつく、つかないというのはおかしいです。平均気温を見て、つけられるように設定して下さい。夏はまだいいけれど、冬は厳しいです。ポンと気軽にコートを買えるような経済的余裕はないです……。お願いします。

○　生活状況を知るために必要なのだろうが、親の収入区分で自分も区分されるかと思うと、あまり気もちのよいものではない。提供した情報が生かされるような制度ができるのを期待する。

○　トイレをキレイにしてほしい。生協が、お昼に混みすぎる。

教室が秋、寒すぎる。

この調査に謝礼がでてもいいと思う。

女の先生を増やそうとか、そんなことは生徒からはどうでもいいことで、いい先生を増やしてくれればいいです。

○　東大には、おそらく、立派な研究をなさっている先生方が多くいらっしゃるのでしょうし、シラバスの授業案内を見ても、興味深い内容の授業が多く載っています。けれど、授業自体を受けてみて、「本当におもしろいな」と思える授業は少ないのです。それは、先生方の、話し方の単調さや、話を全部聞いても結局どういうことを言いたいのかがわからないような、めりはりの無さや、難しいことをわかりやすく説明する努力の欠如のせいではないかな、と思います。なので、もう少し、先生方に、’showmanship’を身につけて頂ければ、授業に出ようとする学生も、ずいぶん増えるのではないかなぁ、と思います。研究論文のように、すぐに社会評価につながるものではありませんが、“教えることの重要さ”を、もっと認識していただければな、と思います。

〔理一男子〕

○　学期末に授業に関するアンケートを行っているが、その結果が授業に反映されているかどうか非常に疑問があると思う。また、授業の内容も教官ごとに大きく異なり、特に必修の授業では学生側に選択権がなく不利益を受けている人も多いのではないかと思うので、そこを考慮してほしい。

○　金額を回答する箇所がありましたが、細かい金額を聞かれていたのには閉口しました。（結局適当に答えました）。「○円以上　△円未満」のようないくつかの範囲から回答を選ぶ方式にしてほしかったです。

○　大学への要望：先生によって授業の説明の仕方が、まちまちというか極端である。つまり、説明を丁寧にしてくれる先生もいれば、いい加減だったり、説明しにくい（逆に学生に分かりずらい）ところの説明をあいまいにする先生がいる。後者のような先生の場合、本来やる気があった授業であっても、やる気がなくなってしまうので、もう少し、先生方には説明の工夫などをしてもらえる様にしてほしい。

○　秋期休業が長すぎる。理系にとって冬学期期末試験の日程は、必修科目のあたりがきつすぎる。秋期休業を短くして、その分冬期休業を長くするか、あるいは冬学期期末試験の総合科目と必修科目の間をもう少し開けてほしい。

○　授業での想定される生徒のレベルが低すぎる。高い意識を持った学生に対して、全く予習・復習を前提としていない授業を行うことはマイナスに働いている。大学なのだから、上の１割程度に合わせた授業を行ってもよいのではないか。また、専門に入るのがあまりにも遅いため他大との差が大きく開きすぎている。（京大や東工大のカリキュラムを見てほしい）特に化学などはこのことが影響しているのか、日本国内レベルでも相当低い評価を受けている。このことから、改善すべきは　①授業のレベルの向上

②自習室の確保
③公正なデータを元にした大学評価を真摯な態度で受けとめてほしい。

あと、loanを奨学金と詐称し、奨学金制度の充実をうたうのはやめてほしい。

○　調査に協力した見返りが欲しい！

○　最近良く学生と大学側の対立を耳にする。記憶に新しいのが駒場寮問題である。僕は経緯を詳しくは知らないのでどちらを支持することも無いが、大学をより良い物にするためには、学生と大学側が手を携える必要があることだけは間違いない。兎に角学生と話し合う姿勢だけは、どんな時でも忘れないでいただきたい。あと、独立行政法人化は強く拒否していただきたい。各大学を統率する立場である東京大学にこそ、何者にも侵すことの出来ない「大学の自治」を強く主張する義務があるのではないかと思う。

○　相対評価をやめて絶対評価にして下さい。やる気がなくなります。気が詰まります。点数に縛られてしまいます。進振りのやり方を考えて下さい。進振り制度そのものは良いと思いますが、これでは全く利点を殺してしまっているとしか思えません。

○　本当に楽しいと思える授業はまず少ない。その理由としては、
・自分の興味範囲がまだ狭いこと
・自分の理解能力が低いこと
・先生が教育に力を入れていない／いれることができない
・授業の人数がすくない　等
・SFCのクラスター制度のように、授業間の連携を入れてみる（解決策の仮説）
・少人数制クラスを増やす
・学生に対するアンケート、インタビュー等の調査
・教務課、学生課のサービスの見直し
・大学の状況を批判的にとらえて、分析し、常に解決策を考えるような自己改善能力を身につけてほしい

○　高校の授業で使わないような用語をたいした説明もなく利用して授業を進めるのはやめてほしい。一部の人間にはわかるかもしれないが、高校の授業しか受けず、何とか合格した自分のような人間には、いくら大学が「己で学ぶ場所」であるとしても理解しがたい。

○　生協の食堂や購買部の営業時間をのばして欲しいです。また、駒場に新しい建物をつくりそこに新しい食堂とかを作る計画を聞きましたが、早く着工して欲しかったです。駒場の新図書館には満足しています。それ以外の点では今の東京大学に満足していますが、強いて言えば教養学部１、５、７号館の机といすを改善して欲しいです。狭くて座りにくいです。

○　調査の結果だけを整理して終わらせるのではなく、その結果に対する対応や対処等をしっかりしてほしい。

○　駒場での勉強がどのように役に立つのかよくわかりません。だから勉強も、試験を乗り切る為にってかんじです。

○・大学の机や椅子は、現在の男子学生には小さいと感じる。私は、身長177cmだが、例えば駒場の576教室の机では、足がつかえて辛い。576の机・椅子は見た目、比較的新しそうで、大学側は、良いと勘違いをしているのではないだろうか。机と机の間隔も狭すぎる。
・大学の授業では、もっと学生の知的好奇心を呼び起こすものにしてほしい。ただ90分間、ひたすら黒板を写すのは、「人生の無駄」と感じることもある。友人の中でも、かなり勉学に対して無気力な人が多い。一度、知的好奇心や将来の展望が生じたら、東大生は自ら積極的に学ぶと思う。つまらない、基礎的なことの重要性も分からなくはないが、今の授業では、あまり将来への展望が見えてこない。

○　出席を点数に入れるのはやめてほしいです。自分で勉強した方が集中できる人もいるのだし、テスト・レポートで評価するのが一番いいと思います。あと、卒業に必要な単位数を減らしてほしいです。忙しすぎて、大学以外（自分の教養を深めるための）勉強ができません。自分でやった結果は自分に振りかかってくるんだし、もっと生徒にとって自由にしてほしいものです。

○　東京大学入学後、夢や将来の希望がなくなっています。いまの大学のシステムに問題点があるのでは？教授の態度もどうかと。めんどくさいなら、留年なんかさせずにどんどん単位をあげては。高校までのように教授と親しくなろうとさえ思いません。

〔理二男子〕

○　大学ではもっとちゃんと授業をやってくれると思っていたがそうではなかったのでがっかりしている。シケプリ制度やレポートのコピーなどが野放しになっているのに一方では単位や進振りなどで中途はんぱに生徒をしばっている。シケプリを使ったりしないといい成績がとれないようになってしまっている。ちゃんとしているようでいいかげんであるように見える。これでいいのだろうかと思ってしまい、自然と学校から離れてしまう人も多いと思う。学外の人から見れば何が東大だと言われてしまうのではないだろうか。もっといいかげんなようでちゃんとしているというようにしてほしい。

○　今の１年理２の必修・準必修課目は受験時に物理を選択しなかった人間にとってつらすぎる。物理学、構造化学など授業に全くついていけない。不可能である。準必修なのに「物理選択者であることを前提に授業をします」などと堂々のたまわれた教授もおられる。そんなにやる気を殺ぎたいですか？

○　対象とする人の数が多いのだからある程度は仕方ないが、この調査はきめ細かさに欠け、色々な場合に対

応できていない部分がある。例えば僕の場合、両親が共働きで収入が同程度のため、「主たる家計の支持者」はだれとは決められないが、収入の所ではその人の年収を書け、とある。この設問は「あなたの家族の年収は？」とすればいいと思う。加えて今どき共働きなど珍しくもないのだから選択肢に加えるべきだと思う。

大学に対して、設備や授業に関してはこれまで答えた通りだが、もう１つ気になるのは、最近大学への外部からの力が強くなっているのではないか、ということだ。学生の自治を尊重し、政治的な力をかけるのは最小限にしてほしい。政府が大学を意のままにするのは短期的には政府にとってよいかもしれないが、長い目で見れば大きな損失になると思う。

○・この調査が単なる調査に終わらず、きちんと大学の改善に役立つことを望む。

・僕は、大学に過度の期待をしすぎて入学したために、大学の授業のつまらなさ、進振りのいやらしさ、まわりの学生のアホさに、幻滅し、夏頃うつ病になってしまった。「くだらない知識をつめこむ点数競争」である受験競争が終わって、ようやく「自分の興味・意欲を大切にして学べる環境」が得られるのかと思っていたのに、入ってみれば進振りは受験の延長のような点数競争だし、講義はやる気のない教官がイミフメイのことをたらたらしゃべっているばかりだ。（もちろん全ての教官がそうだとは言わない。一部のすばらしい教官も存在する）

本当に＜「東大というブランド」魅かれて＞ではなく＜東大には学問をするのに最高の自由と環境があるから＞という理由で受験競争が起こるような、真に魅力ある大学となってほしいと思う。（できれば、ぼくが在学している間に変わってほしいものだ^^;）…まあムリであろうが。）

○　もっと楽に単位が来るようにしてほしい。
ていうか勉強したくない。
大学行くのがだるい。

○　本当に早急にまともな留学制度を整えて下さい。私大の方はしっかりしているのに、日本一と言われている東大に留学制度がないのはおかしすぎます。単位互換制度も整えて、もっと世界に開けた大学にしていってほしいです。本学の学生としては、これは本当に切に願います。お願いします。

○　自治会（学友会）の「統治ゴッコ」につきあう必要はありません。留年ばっかしている駒寮メンバーに拠占されつつあります。

大学で学ぶ気のない人には退場していただくのは当然のこと。

〔理二女子〕

○　カリキュラムの改善について。教養学部前期課程総合科目Ｂの第三外国語やＦ計算機プログラミングなどの講義は、現在実質通年であり、Ⅱの講義は必然的に受講者数が減少する。そこで、冬学期からの第三外国語Ⅰ、夏学期からの計算機プログラミングⅠ（２年生向け）を開講してほしい。第三外国語は多くの講義が開講されていて、一見充実しているように思われるが、一度挫折したり、時間割の関係上取れなくなると、もう一年待たなければならない不便な制度になっている。

○　教官によって教える熱意のある先生とない先生に分かれており、必修科目で熱意のない教官が多かった夏学期は少しモチベーションが下がってしまいました。

図書館の充実が素晴らしいです。

昼休みに自主トレをしようとトレーニング体育館（駒場）に行ったが狭すぎる（結構サークルに団体で使用しているため人数多い）。また、スポーツ愛好会ばかり体育館を練習場所として使えるのに不公平を感じる。「自分のサークルも真剣に頑張っているのに」と思ってしまう。

東大生の“シケ対”などの雰囲気はよくないと思う。こんな雰囲気に慣れてしまうと、ずる賢い官僚へとつながりそうな気がする程ひどい。もっと勉強の差が現れるような試験にすればよいと思う。

○　夏の冷房は、教室のドアを開け放してすごい低温でガンガンやっているが、エネルギーの無駄使いだと思う。気付いた時に温度を上げたりなどしてきたが、私１人がこんなことをやっていてもきりがなく、教授などスタッフ側に徹底させておくべきだし、学生側も意識する必要がある。大学は巨大な設備があるのだからもっCO_2の排出等にも責任をもってほしい。

あと進振りについて、「点の低い学科」というのがあるがイコール「バカな学科」という見方がまん延している。本来学問に優劣などないはずでは？　最初行こうと思っていた学科が底点があまりに低いので「もったいないから」行くのをやめた友人もいる。何か歪んでいませんか？　自分の将来はそうやって決めるものなのか？　進振りをやめろと言う気はさらさらないが、こういう頭の悪い学生が多いことを大学側は知っているのだろうか。

〔理三男子〕

○　大学の教官の方々の人間としての人格が理解できない人が少なからず、いらっしゃるような気がします。もっと普通の人間らしい人を教育スタッフにつけて欲しいです。（勝手なことを申し上げてすみません。）

○　どこの管轄か知らないが、この調査が送られたときの私の住所が変更されていない。（今年の３月ごろに申請したのに。）

数学や物理については、駒場のうちに週３～４コマ＋演習くらいのコースをつくってほしかった。（外国語にはintensive courseがあるのに！）

外国人留学生との交流の場がイマイチ少ない。

○　本来学習・研究を本分とする学生が、少なくとも一日に２時間も通学に浪費している状況は何とかならないだろうか。

あと、時代は生物学だというのに、進振りの振り分け人数がずっと同じままで、物理・工学に傾きまくっているのも改善できないだろうか。(物理・工学系が重要であることは間違いないが。) 進振り振り分け人数というものは、そのまま数十年後の学問の様相に影響を与え得る要素であることを考え、数年に一回くらいで調整するようにするべきだと思う。(特に理系分野において)

〔理三女子〕

○ 医学部は6年教育なのにそれを4年半でするというのは無茶です。カリキュラムがきつすぎます。理三がなくなるという話を聞きますがそうなると本当に大変だと思います。

一・二年の時からもっと専門科目を入れてほしいです。進振りをなくせとは言いませんが医学部進学予定者、希望者で一・二年の間から専門科目をすべきです。また医学部希望者は生物受験であるべきという意見を聞いた事がありますが、医学部に入ってから生物は十分学ぶ機会があるのでむしろ物理選択の方がよい気がします。

〔法学部男子〕

○・法学部の授業について、もう少し人数を減らして、双方向的な授業をしてほしい。(学期ごとの科目分配により、多くの人が同じ科目を取るので、教室が大きすぎて教官とのつながりが希薄)

・成績評価について、基準を明確に示すか、点数を開示するなどの対応をしてほしい。(優～不可の評価だけだと味気なさすぎる)

○ 駒場―本郷という区分けを改められないか。これでは教養が身につかない。すなわち教養の大切さは専門をやるようになって初めて気づく者が多いと思う。駒場時代はそれらが分からないので教養を身につけようとしないし、本郷に来て後悔しても駒場の充実した教養科目に接するのはもはや困難である。

それから事務の面で分離されているのも気になる。私は一枚の成績証明書を取るために3回駒場まで行った(そのうち2回は窓口が閉まっていたから。) こういうことがないように、事務が統合されたら便利なのにといつも思う。

○ 基本的に、授業で使用していない教室、グラウンド等は学生が自由に使えるようにしてほしい。授業時間の内外を問わず、特に駒場のトレーニング室。

○・学内の夜道があまりに暗く、女の子の場合だと怖いと思う。

・駅までバスを出して欲しい

・生協のごはんがまずくて食べられない

・図書館の近くに、自販機を設置して欲しい

・性教育の講座を増やして欲しい(一橋はあるらしいので)

○ ロッカーを設置して欲しい。(使い易いものを全学生に)

学生ラウンジを快適にして欲しい。

○ 法学部なのですが、学部の段階からもっとゼミをふやしてよいのでは、と思います。特に、現状のようにレベルの高い議論をするゼミばかりではなく(それはそれで必要ですが) それとは別に、もっと簡単な、教科書の内容を理解しているか、確認する程度の演習があった方が勉強もすすむと思います。友達も学部内でふえることになり、お互いはげましあいながらできるのではないでしょうか。そういう意味では二年通しでのゼミも、教育効果の点を度外視すれば、よいと思います。

○ 100分の授業時間は長すぎます。1コマ80分にすべき。

○ 法学部に関して:・内容が高度過ぎる。学説に偏りすぎ。
基本的なことを1年次からやるべき(判例、通説中心で)
・資格へのバックアップが少ない。もっと動機づけを行うべき。
学閥のような組織・まとまりが欲しい

大学に関して :就活に関する情報が少なすぎる。
制度的なバックアップがなさすぎる。

組織としてもしくは自発的にでも、人的なまとまりをもっていかないと他の大学などとの関係で優位を保ちつづけることは難しいと思う。

○ 学生内でよく言われていることですが、法学部の学部生だけ、他の東大生と比べ、学内で施設を利用したり、教授と交流したり、といった機会が圧倒的に少ないと思われます。そういった面での改善をお願いしたいと思います。(ゼミ全員にするとか、卒論を取り入れるとか…) 今のままでは予備校とかわらないので……

○ 個人的には就職活動が授業・テスト期間と重なったことが大きな負担になりました。社会全体にも関わってくることですが、何か対策はないものでしょうか。

○ 本郷、駒場とも屋外で自由に運動するスペースが少ないと思います。特に芝生のグラウンドがあればいいです。

○ 法学部における教育環境に不満があります。マスプロ講義が多く、教育の設備等も旧式で、ラウンジも汚い。経済学部が新館建設や自前の図書館をもっているのに比して、冷遇されている気がしてならない。

○ 文系、特に法学部等の学校施設の向上を希望です。理系と同レベルの学費で施設が違いすぎます。総合図書館の24時間開館は無理としても、24時間勉強できる教室がほしい。

○ 駒場の古い方の体育館はもっと新しくしてほしい。

〔法学部女子〕

○　○３年生の間に全ての単位を取得できるようなカリキュラムにしてほしい。

○８：30開始はやめてほしい。帰るのが30分遅くなってもいいが、自宅生以外にとって朝の開始が早いのは辛い。

○法学部自習室・ラウンジの充実を望む。（ラウンジのパソコンにプリンタが必須）

○学部が休みの日に21：00まで開いているのは嬉しい。続いてほしい。

○駒場の旧図書館の大きな壁画のような絵をなくさないでほしい。悲しい。

○　非常に具体的なことですが、図書館の冷暖房をもっと柔軟に調節してほしいです。今年の夏は暑い日がかなり早くから始まりましたが、決められた日からしか冷房が始まらないのがすごく辛かったです。

　また、スポーティアに関してですが、私は戸田のスタッフをしています。そこで毎年思うことは年々客の施設はよくなっていくのに、なぜスタッフ用の建物の畳は何年たっても変わらないのだろうか、ということです。以前いつ変えたのかという代物で、あの畳の上で眠るなら、廊下で眠る方がまだ衛生的では…という感じです。（現に、そうしている人もたくさんいます。）

○　教養学部のカリキュラムは、進振りのない人にとっては楽すぎです。つい２年生の夏学期にだらけてしまいました。本郷に来て、このくらいの厳しさで昔からやればよかったと後悔しています。だらける方が悪いのですが、理系にとっての実験のような科目が教養学部の文系にもあるとよいと思います。

○　法学部におけるゼミの数が少ないので増やして欲しい。

○　法学部だけなぜこんなにコストパフォーマンスが悪いのだろう。せめて、希望者は何らかのゼミに入れるようにする、とか、コースを細かく分けて小人数授業を実現する、などの工夫がほしい。

　法学部図書館も自由には利用できず、接することの教授もごく少数に限られているのでは、多くの学生の学習意欲をそいでしまっているのではないか。

○　法学部の授業について。

　演習への参加可能人数が少なすぎる。開講科目を増やし、学部在籍者が全員演習に参加できる、あるいは複数の演習に参加できるようにすべきである。

　また、駒場での演習形式の授業も増やされるべきであると思う。大学四年を通して、自分の成長に最も役立った場は演習であったと感じていることから、これらを進言するものである。

○・施設に関してですが、法学部ラウンジのイスが大変汚れているので入れ換えをお願いしたいです。また、法学部の女子トイレも少ない、汚ないという難点があるので改装をお願いしたいです。

・図書館の利用について。法学部図書館の蔵書を学部生にも貸し出して頂きたいです。総合図書館の空調についてですが「日にち」ではなく「気温」を基準にしていただけませんでしょうか。例えば、暖房は11月25日開始らしいのですが、11月の気温は暖房を使うに十分な程低いと思います。また、12月でもあたたかい日はあり、暖房をつけるとあつくて頭がぼーっとしてしまうこともあります。是非「気温」を基準にして下さい。

○　今思うと、大学でほとんど友人ができなかった。特に法学部では、ゼミが半年で終わってしまい、人間関係が極めて希薄であった。サークル等以外で、大学内の関係性を高めるために、大学側からも是非考えてもらいたい。

〔医学部男子〕

○　教務課の方々にもっと柔軟な姿勢をとってほしい。仕事を右から左へとこなすだけという感じの対応をされることが多いです。こちらが困っている時にそのような対応をされるというのはとても悲しいものです。

○　入学直後から、教官や大学院生との交流があれば良いと思う。

○　学生の自治を尊重すべき。駒場のキャンプラをはじめ、全て学生の管理にまかせてほしい。また部活、サークルに使える施設を充実・拡大してほしい。

○　カリキュラムは学生を束縛する方へと、動いているようで、自主的な勉強の余地がなくなくつつあると思う。高校ではないのだから、出席などとるのは、尋常なこととは思えない。

　教官が教育に力を入れられる環境を大学はつくるべきだと思う。自分の研究ばかりに熱心で教育が二の次になっているような教官が多い状況で、学生は育たないと思う。

○　学部教育は、まだしも、大学院教育をもっと改善して欲しいと思う。理系では、教官が相変わらず授業中心のままで、大学院卒業後必要になる技術、論文を書くことや、研究計画をたてることなどトレーニングが、研究室まかせで、実際には全然行われていないと思う。一般に教育カリキュラムが昔から全く変わっていない。

○　もしも東京大学が日本一の大学であるという自負を持つのなら、基礎知識の講義は最小限にとどめ、本では学べない知識の応用、技術の修得、議論などに力を入れ、卒業する際に学生が、「誰にもできないような努力をしてようやく卒業した」と誇れるような濃密なカリキュラムをつくって頂きたいです。同時に、学生の意見を反映できるように、カリキュラムを作成する先生方と学生の意見交換の場を作って頂きたいと思います。

○　教育スタッフを３倍くらいにしてほしい。医学部だと、なかなか面倒をみてくれないことがある。

　部活動だけでなく、一般の人も自由に使える体育施設をつくるべきだ。部活動のみが優先して使えて、サ

ークル個人は使うことが難しいのでは不満が出る。

この調査は、学生のケアのために有意義なものだと思いますので、続けて下さい。

○　２年前くらいにもこのアンケートを書いた覚えがあり、自由記載欄にも記入したのに、学内広報ではその意見がのっていなかった。たしか「あなたはどのような形で社会の役に立とうと思ってますか」という質問に、「そのように役に立たねばと思うのは危険であり、まず自分が何に向いているかを第一に考えるべきだろう」とまともに答えたはずである。このように恣意的にバイアスをかけて意見を掲載する態度はアンケート集計としてはあるまじき姿勢ではないだろうか。

〔工学部男子〕

○　まず、授業の過度な単位主義をやめて欲しい。教官がまともな授業をせず、単位でおどすのは、ヤクザといっしょである。こういった風潮がシケプリなどの酷い機能を生みだしている。それから、国立大学の学生はすべての学費や学生寮を無料にして欲しい。大学は国の有能な人材を養成する機関である。一部の金持ちしか大学院で進んだ教育を受けられないのはおかしい。また、故郷の両親を思うと、都会の物価が高すぎて胸が痛む。あと、産学共同で授業を行って欲しい。工場見学などに行っても感じるが、大学で学んだことが社会で役に立っているとは必ずしも言いがたい。以上、殆どまとまっていないが、検討していただけたら幸いに存じます。

○・学部の教務科及び事務室の開室時間がおかしい。少なくとも朝は8：00から、学生の昼休み時間帯は開室しておいてほしい。
・教養学部のように、学生による授業評価を導入し、授業の改善をした方がよい。
・本郷の放置自転車は撤去してほしい。また、自転車乗り入れは許可制にした方がよい。
・学部（あるいは科類）間の交流が少なすぎる。
・この調査は東大生全員を対象に行うべき。

○　飲食店をもっとキャンパス内に誘致して欲しい。食堂のメニューにはもう飽きた。あと３年以上昼食等をあそこでとると思うとゾッとする。

○　工学部の実験・実習は、３年時に集中しすぎている。理論を実際に実験等で確認するのだから、現在習っている理論と同時に進行できるのが理想だけど、今は、あまりにも３年に集中しすぎ。レポートの作成にも手間がかかるのだから、もっと分散しないと、一つ一つのレポートの質が下がってしまう。やはり、一年、二年のうちから、専門授業と実験・実習をやるべきだと思う。

○　御殿下のグラウンドにナイター施設をとりつけて下さい。冬は日没が早いのでスポーツをする際には大変危険です。あと、人工しばがめくれあがってたまに足をひっかけます。整備して下さい。

検見川のグラウンドなどを利用する際、電話予約ができるようにして下さい。学期中は構わないのですが、休み中は本郷まで行くのが面倒なので。

○　うちの大学は運動会はあまり優遇されない。（当然といえば当然だが）勉強がつらく単位が取りにくくなるのは自業自得だから仕方ないと思うが、せめて七帝戦は試験期間をはずしてほしい。僕等は成績上位の人からすれば勉強時間は少ないかもしれないが、少しの暇な時間を使って将来に対するビジョンを持って勉強の努力をしていることは大学側にもわかってほしい。

○　サークル活動を行う場所を十分に確保してほしい。

○　伝統ある大学なのだからもう少し景観に気を使ってほしい。

安田講堂を正面から見ると理学部の無機質なビルディングが見えてしまっている。他にも、駒場の新図書館、柏の諸建物など、殺風景すぎる。本郷の正門から安田講堂までの銀杏並木のような素敵な景色を他の場所にも作ってほしい。

○　時代の風潮かもしれないが今の学生は芯が弱いと思う。学生が自主的に考えて行動する、勿論学生の方こそ努力すべきであるが、大学側の環境整備を期待したい。そういった意味では総長賞の創設は歓迎すべきものだと思う。

また、大学側はある程度権限を持ってよいと思う。独裁であってはならないが学生が畏敬の念を抱けるような威厳があればよい。

うちの大学にないとは言わないが早慶のように今なお多くの学生が愛校心をもっているのをみるとうらやましく思う。

○　東大内での動きがよく分からない、広報などは、もっと目のつくところにおいてほしい。

○　先日駒場キャンパスに行きましたが、その際に新図書館をみてきました。一目で、所詮駒場は駒場だと感じました。新築した意味がどこにあるのか、僕にはわかりかねます。そもそも、僕自身がコンクリート打ちっぱなしを嫌っている所為もありますが、これでは10年、20年と経つにつれ単に薄汚ない図書館になり下がる気がします。せっかく金をかけて建物を造るのだから、長く使えて、いいものを造っていただきたいものです。本郷の総合図書館の方が、古くはありますが、余程趣があってよいものだと思います。折角、モノや制度を作るのなら、やっつけ仕事のような扱いにせず、それを上手く使って、いい方向に導いていただきたいものです。

○　教養学部と専門課程との間のよりスムーズな連けいが必要だと思う。一貫した教育スケジュールがないので、くり返し等があり非効率。また、先生によって、教えたり教えていなかったりするので、困ることがある。教科書等も統一し、きちんと何を教えるのかハッキリさせた方がいいのではないか。

○　教養課程はもっと圧縮して良いと思う。専門課程にもう少し時間をかけないと、他大学や海外の学生に差がつかない。

○　教養前期課程で使用する教室のひとりあたりのスペースが狭い。あまり学生が来ないような講義はさほどでもないが、必修科目の講義特に数学等は、窮屈すぎて講議に集中することができない。ただでさえ内容の理解が易しくないのに、なおさら頭に入れることができない。必修等はあらかじめ受講する学生の人数がわかっているのだから、使用する教室は丁度の座席数ではなく、定員の五割増くらいの場所を選んでもらえると非常にありがたく思う。

〔文学部男子〕

○　駒場の授業レベルが低い。大学に入ってまで「一般常識」を学ぼうとは思わない。進振り制度自体には大いに賛成だが、現状は只の「単位取りゲーム」である。

　学生の質が下がっている、というならば入試を絶対評価にして質の低い生徒は取らなければよい。

　東大といえども過去の名声にすがっていられる時ではない。もっと実のある教育を求める。大学は学問の府であるということを大学自身が忘れてしまってはいないか。

　後期課程に関して言えば、教授のレベル、設備などの学科間格差が大きすぎるように思う。何とかならないか。

○　キャンパス整備の方針転換を望む。新築中の建物や駒場寮の破壊（廃寮ではなく）を見ていると、「学びたい」と思わせるキャンパス造りを大学側は見据えるべきだと思われて仕方がない。見事な銀杏並木や、国威をかけて建てたのであろう総合図書館の荘麗な姿を見上げる時というのは、学問、研究や、若しくは学内の友人等と並んで、「この大学に学んでいて良かった」と思わせるファクターであり、これを軽視するという事は、それ即ち大学としての魅力の面を自ら削いでいると言わざるを得ない。独立行政法人化を控えた現在に必要なのは人材の確保であり、それを果たす為の大学としての魅力の向上とアピールであると言える。学問内容や、研究施設の拡充は既に認識の事と思うが、以上の様な点には、未だ認識を疑いたくなる節があるため、ここに私見を述べた次第である。

○　どうしようもない教え方をして、改善の要望があってもその成果がみられない教官に対しては具体的に減給などの処分を課すべきでしょう。特に文学部の教官に対してはプレゼンの教育をすべきだと思います。

○　現在卒業論文を執筆しているが、本当に大変な作業だと思う。まず、テーマを決めるのにとても悩んだ。

　どう考えても、専門課程を二年でこなすのは無理があると思う。三年は必要だ。

○　今となってはもう遅いが、学生寮等をもう少し充実させて欲しかった。なんとか通学範囲内とはいえ、１日に３～４時間も通学にかかるのは、勉学にも差しつかえるし、何より学校へ行くのがおっくうになる。

○　大学への要望

○就職課を設置していただきたい。

○文学部をはじめとする人文社会系の学問全般に、大学院に行っても将来の見通しが立たないという空気がただよっているように思われます。

　受け入れ先（研究職など）の拡充を求めます。

○こういう調査をWeb上で行うことはできませんか？

　集計も楽になるでしょうし、解答する側としてもその方が楽です。

○　今年、卒業論文執筆なのだけれど、夏休みに駒場・本郷ともに図書館が使えなかったのは閉口した。そういうことはやめてほしい。

　通年の授業はできる限りやめてほしい。せめて半期づつに分けて、授業選択を柔軟にできるようにしてもらえるとありがたい。

　保健センター、健康診断、教務課など、昼休みに利用できないのが難点。授業をつぶさなくてはならなくなるので、少しずらしてほしい。

〔文学部女子〕

○　嫌がらせを受けているので相談に行ったが、カウンセリングをしようとするだけで解決には到らなかった。悩みを持つ人のための施設は必要かもしれないが、具体的に行動を起こせる機関を作ってもらいたい。自分の授業料や国の税金でできている相談所なのに全く役に立たないのは納得できない。

○　いろんな情報（大学のシラバスや講演会の開催についてetc）をもっとインターネットで公開してほしい。

　できれば休講情報なんかも。

　学校の掲示板は古いものもはりっぱなしとかになってみにくいので。

○　運動会に対しての姿勢があまりにも他人事だと思います。私はアメリカンフットボール部でアスレティックトレーナーを４年間していました。まず部屋は駒場の旧物理倉庫をあてがわれ（あまりにもひどい状態です）ラクビー部のような部室を自費でいいから建てさせて欲しいという申し出は「国有地だから一切禁止」とつっぱねられ、代替案も全く示されませんでした。夏は東京という土地である以上熱中症がどうしても多発しますし、怪我人の治療のためにも大量の氷が必要なのですが、製氷機を設置するようなお金もありません（水道と機械本体を両方設置しなければならないのです）。自分達で中古屋をめぐり冷凍庫を購入してそれで製氷皿に氷をつくっています。冬も、１年中大きなクーラーボックスいっぱいの量の氷を毎日そうやって作っているのです。熱中症で死人を出さないため、怪我を早く治し日本一を目指して強くなるため、というモチベーションのみからです。それでも夏は氷が足りなくなるなることもあり、体育課にもらえるよう頼みにいくと、「熱中症予防？そんなもののために氷やれるか！」と教官に怒鳴られ、追い返されました。これが教官の態度なのでしょうか？　関東ベスト４（あと３回勝てば日本一）という実績を残し世間的にもい

っぱしの評価をもらっているとしても、やはり運動会への待遇は改善されないのでしょうか？

○　奨学金について疑問を感じる。審査がいまひとつ不適当だ。なぜこんなに暮らし向きの楽な人が奨学金をもらえるのだろうかと不思議に思ったことが何回もある。友人によると、実家が自営業であったりすると、両親の収入をごまかしやすいというのだが本当だろうか。そんなうわさを信じてしまうくらい、奨学金をもらってぜいたくな生活している人をよく目にする。間違っているとしか思えない。

学内に、学生のための仮眠室を作ってほしい。また、文学部生にも、個人のロッカーを作ってほしい。

男子学生に、避妊に関する知識を教育してほしい。あきれるほど無知な人が多いので、パンフレットを配るなど対策をし、責任ある性生活を指導したほうがいいと思う。

○　保健センター（本郷）の閉室時間が３時というのは早すぎる。授業を受けている間に気分が悪くなったりもするので、小中高の保健室のような、内科外科の応急手当を施してもらえるような部屋を一部屋、夕方くらいまで開けておいてほしい。歯科などは今まで通りでよいと思うが。

○　文学部３号館は、新しい建物にも関わらず、暖房を建物全体でフル稼動させるとエネルギー消費量が限度を超え、暖房のきき目が全くなくなるという設備の問題点（欠陥工事とききました）を改善していただければと思います。現在、石油ストーブで代用していますが、空気が汚れ、安全上も問題があると考えます。

学部・大学院ともに、特に文系学部の研究環境を充実させてほしいです。大学のみの問題ではないと思うが、理系では学会発表者の旅費・宿泊費などが支給されるのに、文系では自己負担であったり、研究室のスペースが狭かったり、研究費の学部・学科間の差が大きかったりすることは、全てではないが一部の学生にとっては重大な問題といえます。難しい問題ではあると思いますが､改善していただけるとありがたいです。細かい問題はありますが、広い学問分野を学べる環境はすばらしいと思います。

アンケートについて…生活費は変動が激しく、１ヶ月の平均値を出すのは難しかったです。

○　○教員免許、学芸員資格が取得しにくいシステムになっている。具体的には、他学部で年に１コマしか開講されておらず、自分の所属するゼミのコマと重なり、全く受講できない。掲示も不親切。もう少し配慮してほしい。

○学部・学科によって環境が違いすぎる。ロッカーも居場所もなく不便である。

○教養学部開講の体育@本郷を受講すると、教養学部の時間割での登録になり、実際には時間的に可能であるのに、時間がたった10分重なるだけで前後のコマが履修できない。

○　文科系の課外活動施設を充実させて欲しい。院に進学すると駒場よりもずっと長い期間を本郷で過ごすことになるので、特定の団体に所属しなくても楽器や歌の練習ができる部屋や、サークルの部室が欲しい。

また、図書館の充実について、岩波文庫以外の文庫本、特に小説の類を扱うようにして欲しい。近年文庫本でしか出版されない本が増えているし、大衆的・中間的な小説の価値が、純文学に対して劣るとも言えない。

〔理学部男子〕

○　構内に学外の人間をなるべく入れないでほしい。盗難や暴力などの掲示がされているし、最近、教室で授業中でも非常に騒がしいことがよくあって全く集中できません。

○　学生から質問内容を提案してもらってはどうでしょうか。この調査の質問内容は良くないとは思いませんが、質問内容を募集・分析する事で見えてくる実態も多くあると思います。又、その様なものこそ本質的という部分もあると思います。

大学には長期を見据えた大学・大学院経営を要望します。

○　大学院での学生への経済的援助を行って欲しい。

卒論、修論などで忙しいこの時期にこの量のアンケートはつらいものが。

○　国立なのに授業料が高すぎる。免除制度をもっと充実させるべきだと思う。

〔農学部男子〕

○　進振り制度は、大学に入ってからゆるむ学生に勉強させることにおいてのみしかその目的を果たしてないと思われます。点数ではなく、その学部の先生が欲しい人が採れるような制度はないのでしょうか。

自宅生で、あまり自分でお金の管理をしない（←アホ）人なので、お金のことに関する質問に答えるのにやや苦労しました。自分なりの家計ボをつけるべきかも知れません。

○　研究者養成を重視しているのはわかるが、就職するもののためにもガイダンス（企業の人事やOB、OGを招いて）などをきちんとやってほしい。また、各学部に就職掛のようなものを設置してほしい。とにかく、東大には就職に役立つ情報が少なすぎるように感じる。

あと、カリキュラムもめちゃくちゃすぎる。集中講義を数科目登録したあとに、その日程がかぶっているということを知らされてもムリです。また、成績についてであるが、基準が不明瞭な上に、期日までに成績が出ない科目が多すぎる。遅くとも履修登録（←次学期の）までには出してほしいのに、今（11/18）現在（前期の）成績の出ていない科目がいくつもある。

ムダに科目を多く登録しなければならないし、学生の負担も大きい。教官や職員は提出物の期限にうるさいのに、自分が学生の成績をきちんと出さないのには

腹が立つ。成績が出せないのなら、試験を早めるとかしてください。ホントにいいかげんにして。

○・駒場にバイクの入場ができないのはなぜ？禁止するなら完全にしてほしい。よく10号館わきにバイクがとめられているのを見かけるが、あれは一体どういう理由で入場が許されているのか……

・事務系窓口の営業時間が学生の生活とマッチしていない。昼休みにその事務室にいる全員が同時に休む必要ってほんとうにあるの？前に聞いたら「全員で食事をとることで親睦を深める」だと言っていた。あぜんとして何も言えなかった。べつにサービス業ってわけじゃないのはわかるけど、もう少し利用者のこと考えた方がいいのでは……

・運動会の部活動への援助（施設の優先的な利用・公式戦での授業の欠席は公欠あつかいにする等）

○　事務室の昼休みを何とかしてほしい。学生の昼休みの時間は大概事務室も昼休みで、様々な手続きをするために授業に遅れて行かねばならなかった。対応もお役所風で、不快にさせる人もいる。

○　修士、博士に進学する際に、奨学金という形ではなく、生活できるような給料をもらえる制度の充実を望みます。また、修士や博士在学中に結婚などもできるような環境があれば良いと思います。（例えば、保育所など）

また、研究室などで、スタッフは学生の指導により専念でき、学生が研究室などで雑務を行なわなくて良いように、秘書やアルバイトの雇用が促進されれば良いと考えています。

○　社会と大学が乖離している。

インターン制など授業の単位として認め、学生時代に職業教育を東大でも充実させるべきだと思う。

○　もっと民間からの人が授業をやれるような仕組みをつくってもらいたい。

多様性を求めるなら、社会人、民間人、公務員、外国学生が交流できるような場、雰囲気にしなければならないと思う。

就職など仕事について考えられるようなカリキュラムをつくってもらいたい。幅広い分野に、卒業生が進出するようになるにちがいない。学生は大学において学問をがんばればいいんだというだけではなく、卒業後に社会貢献をめざすという視点にたてば、今までのような狭い価値感にこだわるべきでないと思う。

〔農学部女子〕

○　（調査の目的とは関係なく申し訳ないのですが、他に出す所が分からないので）

・環境問題に大学として、もっと積極的に取り組んでほしいです。駒場の１号館はテスト期間中誰もいない教室までドアの開いたままよく暖房がかかっていました（大学全体から見れば関係ないのかもしれませんが）。講義に使うマイクの電池を充電式にしたり、駒場生協でも袋はやめるなど（スーパーの袋を有料にするお店も出てきていますし、パンとジュース１本のために数分の使用でごみ箱を一杯にする袋は減らしたいです）できると思います。

男子は家庭でごみの分別などに関らないので、あまり意識がないかもしれませんが、男子の多い大学でやってこそ将来に渡り効果が大きいのではないかと期待しています。学園祭では環境三四郎が中心に活躍していますが、教職員と学生のみから成る大学という団体は、区や市に比べ新しいルールを本来広めやすく、また私達も敏感でありたいと思います。ごみに関らず、テレビの中の社会問題が大学にも当てはまる場合、他に先がけ大学を小さくてもスピーディな実験場として、社会に出ていく私達の世代を含めた積極的取組みがあるといいです。

・母親と同じ位の人が夜働いていると家族の夕食は間に合うのかと申し訳ない気持ちになってしまいますが、食堂や図書館の時間延長、外の手洗設置はとても便利です。また十分とは言えなくても、セクハラや問84のような取組があり良いと思いました。

・本当は大学全体禁煙がよいのですが、特に駒場食堂外の（今は本郷生です）テーブル周辺は禁煙にしてほしいです。ドラム缶のような灰皿ののった煙と灰で一杯のテーブルでは食事はおろか近付くのも気持ちよくありませんし、掃除してくださる方（テーブルを拭くのは食堂の人でしょうか）も大変だと思います。

○・奨学金制度の充実を強く望みます。

・企業と大学が連ケイしたインターンシップの制度があるといいと思う。

〔経済学部男子〕

○　経営学科をもっと充実させて欲しい。

みんなダブルスクールに行き、大学に来ない。

東大と言えども、ダブルスクールにはかなわない。

その原因をさぐるべき。

不況だから仕方がないのか。

アホな東大生が多すぎるので、半分に減らしてもかまわない。

○　事務窓口が開いている時間が短すぎる。労働時間を守るのは大切なことだが、図書館や生協などはもっと長い時間に対応している。シフトを工夫するなどして、もう少しましな対応をして欲しい。

本郷は学部どうしの交流が少ない。特に化学部講義の時間割を入手するのは困難である。できれば図書館などに置いておくとか、まとめて比較できるようなサイトをインターネット上に構築してほしい。また、これからは文系・理系の別を問うべきではない。本当に他学部の人には理解できないような講義は恐らく学部レベルでは存在しない。授業料や教室の収容能力など問題はあるかもしれないが、ぜひ検討してみて欲しい。

食事をする場所が少ない。教室で食べるわけにもい

かないので難しいとは思うが、座席さえあれば何とかなると思うのでラウンジのようなものをつくって欲しい。

大学構内を禁煙に。空間的に隔離された喫煙所をつくるべき。また生協に煙草をおくべきではない。

○　事務窓口の「昼休み」が長すぎる。交代で休みをとるなどして、12：00～13：00は全く手続きはできないといった状況を無くすべき。

○　新校舎が建つのはいいことだが、あまりにも非効率的な部分が多すぎるので、もう少し現場（教官、事務員）の意見を聞いて計画して下さい。本当に天下の東大のキャンパスとしては、ずさんすぎます。特に経済。

○　駒場の教養課程は廃止すべきである。駒場の２年間はほとんどの学生が堕落してしまう。あのキャンパスには授業を真面目にうけようとする気力を喪失させる雰囲気がある。教養課程の２年間は全く無意味である。大学は遊ぶところでない。たとえ他大学でそれが当然という状況があったとしても、我が大学は決してそうなってはならない。教養課程は無駄という意見は学生の大半が思っていることである。我々学生の声にも耳を傾けていただきたい。

○・進学振分の前に“体験授業週間”を設け、駒場の授業をすべて休みにして、進学したいと思っている学科の授業を受けられるようにする。

・学部（特に前期課程）の時間割を見やすくする。
私の友達にも「見にくい」といっていた人が多かったので。

・チューター制度をもうけ、授業での質問などをいつでも聞けるような人を学校に常時待機させる。（図書館とか、教科ごとに何人かいるとよい）

・教養学部以外でも交換留学の制度を導入する。

○　①教務職員の対応意識の改善
窓口事務は外部委託で、対応を民間レベルに

②図書館の閉館時間延長
研究のため

③教育カリキュラムの改善
誰のためのカリキュラムか。自分勝手なカリキュラムか。教官は不要

④既存の教官に教育ができない人なら、教育専従教官を採用すべき

〔経済学部女子〕

○　帰国入試で入学して早３年近く、ただ、今の大学のカリキュラムは元々上昇志向で、１年目からバリバリ勉強したいと思っていた我々にとって、萎えさせる以外の何でもなかった。例えば英語の講義１つをとってもそうだが、我々に出席するincentiveが湧くはずもない。

また場合によっては大学の教養課程以上のもの、もしくは同等のものを高校の時点でこなしていることもあるわけで、そうすると教養科目は全くといっていい程、自分の為にはなっていない。まだやる気のある駒場の時代におもしろい高度な授業に接することはできないのか？　これでは、イギリス・アメリカの大学に負けるのは当たり前の気がする。どうにか、もっと知的好奇心を与えるものを、初期に展開するべきだと強く思う。

○　駒場時代に、もう少し専門性の高い授業を入れてほしいです。専門分野に触れる程度の授業だけでも、勉強のインセンティブが増すし、将来の選択にとても役立つからです。私は、駒場の４学期に単位の余ゆうがあった（ほとんどの生徒がそうであると思う）ので、食品感性工学や経営戦略論の授業をうけ、楽しくて仕方ありませんでした。そして、今就職活動をするにあたり、その時の授業の楽しさが活きています。医学や工学など文系の人が３年以降だとなかなか触れる事のできない授業を、ほんのわずかな専門性をもたせたクラスでもよいので駒場時代にうけられたらもっと将来のchoiceが広がると思います。

〔教養学部男子〕

○　進学振り分け制度は良いと思う。ただ後期課程で具体的に何をしているのかもっと知りやすければ良かったかもしれない。ただ、過剰な情報供給は大学側の負担増となるばかりでなく、学生の受け身の姿勢をつくり、結局大学側の骨折り損となるおそれが大きい。具体的には、教務課の広報に加え、各学部が各々魅力をアピールし、先輩の率直な意見を公表しておくなど、アクセスし易い状況を作っておく必要があると思う。

ついでなので書くと、第一体育館（駒場）のシャワールームは２つを除いて湯が出ずムダになっている。直すか何かして改善して頂きたいと思う。

それから学寮をもっと充実・拡大してほしいと思う。私は今年三鷹寮に残れなかったが、今年は三鷹寮生の教養進学者が多かったので枠を増やして欲しかった。それに残れた友人も今は留学してしまっているので、結局空き状況になっていたりするのではないか。

○　履習登録etc.の電子化を進めてほしい。

○　本郷に立派な体育設備があるのに駒場の体育設備が貧弱なのには不公平感を感じなくもない。

駒場の新しくなった図書館であるが、このご時世にあんなにデザインを重視した図書館は国立大学ものとしていただけないと思う。ふきぬけの空間がもったいないし、階段が２つあるのも実用上の視点からは余計である。

学生課や教務課の昼休みの時間が12：30～1：30であるが、学生の昼休みが12：10～1：00であることを考えれば12：10までにするか1：00からにするかする方が妥当である。

この調査については、選択肢中に当てはまるものがない場合がいくつかあり、答えにくかった。改善してほしい。

○　まず、本郷地区と駒場地区の福利厚生施設の差を何

とかしていただきたい。幸い図書館に関しては改善が見られたが、スポーツクラブ、食堂、談話場所に至るまで駒場地区ではあまりに質が低い。学生自身もどうせ２年間しか過ごさないからとたかをくくっているきらいがあり、後期へ進学する一部の学生および院生にとっては環境は決してよいとは言えない。またせっかく図書館やトイレ等の改修を行っても清掃の不行届が目立ち、すぐに薄汚くなったり臭いがしたりしている。

建物内の禁煙も徹底されず非常に不満である。建物内の談話空間（ピロティなど）＝喫煙空間（灰皿がある）となっており、たばこを嫌う私にとっては学内の談話空間はないに等しい。特に只でさえ狭い駒場地区の徹底した分煙を強く望みたい。

また、この調査には集計に一年近くが要されているようだが、この１頁以外はOCRやマークシートの利用などによる効率化は不可能なのだろうか。前回からずっと思っている。

○　教養学部後期課程在籍のため、駒場キャンパス以外のことを詳しく知っているわけではないが、就職活動に必要な情報を提供する場所を駒場にも充実させて欲しいと感じた。図書館など勉学に利用するための施設は、（新図書館の開設により）わりと充実していると思われる。

○　家庭観・結婚観のところは特になのですが自分にぴったりくる選択肢がなかったので無難そうなものを選んでしまいました。

あと、「理由を選んで…」のところは「どれもその通りかなぁ」と思えてしまうところがあったので私の回答はアテにならないような気がします。

〔教育学部男子〕

○　サークル活動等で後期課程進学後も駒場キャンパスに出入りする機会が多いのだが、課外活動施設（具体的にはキャンパスプラザＡ～Ｃ棟）が建てっぱなしという感が強く、施設の維持・管理費があまりにも貧弱だと思われる。施設そのものの運営を学生に任せるのは良いことだが、学部側から金銭的補助がないと、せっかくの設備も荒れる一方である。そういった専門的知識をもった職員を採用してほしい。大学における研究活動等を学校教育と考えると、課外活動施設は偶発的学習の場であったり社会教育の場であったりするはずだ。なるほど東京大学は前者の機能は果たしているのだろうが、後者の偶発的学習・社会教育的機能はあまり備わっていない。

○　現在の所属学部での単位認定が非常に甘いケースが多い。甘いし言うよりは「ザル」と表現した方が良いかもしれない。学生にとっては良いかもしれないが、東大にとっては自分の首をしめることになっていることがわかっているのだろうか。例えば、授業に一回も出てないのに「可」が来たり、出席の代筆が横行していたり、大幅な遅刻が容認されていたりする。学生の意識も問題だがそれ以上に教官側の意識に問題がある。そして、明らかに指導力に欠ける教官がわずかだが存在している。非常に腹立たしい。

それから御殿下グランドでの盗難多発についてだが、大学側は注意を呼びかけるだけでなく、照明の設置、ロッカーの設置など具体的な措置をするべきだ。

最後に、授業での試験、大学院入試では答案の返却、採点基準の公表をすべきだ。それは学生、大学にとっても有益なことだと思う。

〔教育学部女子〕

○　今、就職で悩むことが多いが、他大学の友人の話を聞いて、東大では就職に対する大学側の対応がうすい気がする。今まではそれでも、学生たちは就職していっただろうが、今後大学ブランドがなくなり、就職活動の時期がはやまっていく中で、時代に応じた対策をたててほしい。

〔薬学部男子〕

○　調査にきっと大きな金がかかっていると思うから、これを決して無駄にしないでほしい。よりよく活かすためにはどうしたらよいのか？　もっともっと広い場へ発信できたらいいと思う。また、調査に協力した人に対しても適切なfeed backを願う所である。

御殿下記念館の運営はなかなか良いものだと思う。自分の学校の自慢である。東大病院、保健センター等の施設も学生の環境を非常に豊かにするものであると思う。大切にしたい。

独法化を控えた現状で大学の予算が今まで以上に適切に有効に使われる事を強く望む。

〔薬学部女子〕

○　駒場の教務課の、学生に対する態度がひどい。成績疑議申し立て制度が存在しているにもかかわらず、教務課が受け付けてくれないため、実質的に機能していない状態にある。どうにかしてほしい。

※紙面の都合で、一部の方の回答のみ掲載しております。
※特定の個人名等を挙げた部分については、削除させていただきました。

資　料　2

第52回（2002年）学生生活実態調査票

Ⅰ.基本的事項について伺います。

1．性　別	1．男	77.6％	2．女	22.4％		
◎科　類　（1･2年生の方は右の1から6までの該当する番号を記入してください。）	1．文Ⅰ	8.8％	2．文Ⅱ	4.7％	3．文Ⅲ	8.1％
	4．理Ⅰ	15.1	5．理Ⅱ	9.2	6．理Ⅲ	1.5
2． ◎学　部（3年生以上の方は右の11から21までの該当する番号を記入 してください。）	11．法	10.8％	12．経済	5.9％	13．文	6.4％
	14．教育	1.1	15．教養（文系）	2.2	16．教養（理系）	1.4
	17．理	4.1	18．工	11.0	19．農	4.7
	20．薬	1.1	21．医	3.9		
3．あなたの出身高校は、どれに該当しますか。	1．国立（大学附属）	11.8％				
	2．公立	33.3				
	3．中高一貫型の私立	50.3				
	4．その他の私立	3.3				
	5．大学入学資格検定	0.2				
	7．外国学校	0.9				
	6．その他（　）	0.2				
4．現役・浪人等	1．現役	69.2％	2．１浪	26.2％	3．2浪以上	3.3％
	4．学士入学	0.2	5．その他（　）	1.1		
5．現在の学年	1．1年	24.7%	2．2年	23.0％	3．3年	22.0％
	4．4年	28.4	5．5年（医学・獣医）	0.8％	6．6年（医学・獣医）	1.1％
6．入学年度	「西暦」で記入してください。					
7．◎進学年度（後期課程の方のみ）	「西暦」で記入してください。					

Ⅱ．家庭の状況について

8．家庭の所在地はどこですか。	A．地区					
	1．東京都	24.1％	2．関　東	32.5％	3．北海道	0.7％
	4．東　北	2.5	5．中　部	12.3	6．近　畿	12.7
	7．中　国	4.3	8．四　国	2.8	9．九州・沖縄	7.8
	0．その他	0.1	無回答	0.1		
都市規模が不明の場合は具体的に都市名を記入してください。	B．都市規模					
	1．大都市＝人口100 万人以上	38.4%	2．中都市＝人口10万人以上	43.0%		
	3．小都市＝人口10万人未満	11.2	4．郡　部	7.2		
			無回答	0.2		
9．主たる家計支持者はだれですか。	1．父	90.4%	2．母	4.9％		
	3．本人	0.5	4．兄弟姉妹	0.1		
	5．祖父母	0.3	6．配偶者	0.1		
	7．だれと一口にはいえない	2.9	8．その他（　）	0.6		
	無回答	0.1				

10．主たる家計支持者の職業はどれにあたりますか。	1．専門的、技術的職業	科学研究者、技術者、医師、薬剤師、裁判官、検察官、弁護士、公認会計士、税理士、芸術家、宗教家、著述家、記者、俳優、職業スポーツ家、プログラマーなどの方	16.8％
	2．教育的職業	大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授などの方、小・中・高校の教員（校長・教頭を含む。）その他の教員（私塾等）	10.2
	3．管理的職業	会社役員、課長以上の会社員、課長以上の公務員などの方	47.0
	4．事　　務	〔一般事務（3を除く）などの方〕	6.2
	5．販　　売	小売店主、卸売店主、飲食店主、行商人、保険代理人、販売店員などの方	3.9
	6．農・林・漁業		0.7
	7．生産工程・採掘作業	金属工業、機械工業、繊維工業などの工程従事者の方、洋服仕立職、大工、印刷工、菓子製造工などの方、建設作業員、倉庫作業員、運搬作業員、配達作業員などの方、採掘作業員などの方	4.5
	8．運輸・通信・保安･サービス	鉄道・自動車の運転手、車掌、船舶乗組員、無線通信士、電話交換手などの方、自衛官、警察官、消防士、守衛などの方、理容師、美容師、料理人、クリーニング職、給仕、下宿・アパート等の管理人、清掃員などの方	4.4
	9．無　　職	〔不動産収入・金利・年金生活者などを含む。　〕	3.6
	0．その他	（　　）	0.1
	無回答	（　　）	2.4
11．主たる家計支持者の勤務先（設問10の職業分類）の規模はどれにあたりますか。（無職の場合は「0」と記入してください。）	A．職業が「1及び3～8」の方は次の中から選んでください。		
	1．従業員が1,000人以上の企業及び官公庁		44.8％
	2．　〃　100人以上1,000人未満の企業		15.6
	3．　〃　10人以上100人未満の企業		11.2
	4．　〃　10人未満の企業		11.1
	B．職業が「2.教育的職業」の方は次の中から選んでください。		
	5．大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授		4.3
	6．小・中・高校の校長・教頭		1.6
	7．上記５、６以外の教員		4.0
	無　職		3.6
	無回答		3.9
12．主たる家計支持者の雇用形態は大きく分けてどれにあたりますか。（無職の場合は「0」と記入してください。）	1．自分１人（だれにも雇用されていない、まただれも雇用していない。）		5.2％
	2．民間企業に勤務（民間企業・団体の職員等）		57.1
	3．官公庁に勤務（国・自治体、公共企業体の職員等）		21.2
	4．経営者・役員又は人を雇用している		10.8
	無　職		3.6
	無回答		2.2

13．主たる家計支持者の年収（税込み）はどれくらいですか。 （給与生活者の場合はボーナスも含めてください。）	年収を単位「十万円」で記入してください。……101.6十万円 （十万円未満は、四捨五入して記入）

Ⅲ．生活費の状況について

14．右の各欄に金額を記入してください。
（最近3ヶ月の実績から、平均1ヶ月の収支額を記入してください。）

（注）食　費
自宅生は外食代（費）を記入する。
勉学費
勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具代、実習旅費等（授業料等の学校納付金を除く。）
教養・娯楽費
教養・娯楽費のための書籍代・サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、映画・演劇・音楽会の 入場料等。
雑　費
理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、電話代、医療費、水・光熱費等。

支出額を単位「千円」で記入してください。

衣料費	11.31 千円
食　費	26.50
住居費	68.40
勉学費	10.12
教養・娯楽費	15.65
通学費	7.70
雑　費	12.49
支出額合計	113.14

家庭からの仕送り・小遣い
親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い等。

収入額を単位「千円」で記入してください。

家庭からの仕送り・小遣い	81.63 千円
奨学金	53.81
アルバイト・雑収入	46.66
収入額合計	119.46

Ⅳ．通学・住居について

15．現在どこに住んでいますか。	1．足立・葛飾・荒川	2.1％	2．江戸川・江東・墨田	1.3％
	3．台東・文京・豊島	16.5	4．千代田･中央･港	1.4
	5．板橋・練馬・北	8.5	6．中野・杉並・新宿	10.5
	7．世田谷・渋谷・目黒	15.0	8．品川・大田	1.9
	9．東京都（23区外）	14.8	10．横浜市	7.6
	11．川崎市	3.8	12．神奈川県（「10」･「11」を除く）	3.2
	13．さいたま・川口・蕨の各市	2.4	14．埼玉（「13」を除く）	4.2
	15．千葉・船橋・市川・習志野の各市	3.2	16．千葉県(「15」を除く）	2.8
			無回答	0.1
	17．その他の県	0.8		
16．居住形態はどれにあたりますか。	1．自宅	48.0％	2．自宅外	52.0％
17．◎自宅外の方に伺います。現在住んでいる住居の区分はどれにあたりますか。	1．分譲マンション			3.3％
	2．賃貸マンション・アパート（バスつき）			72.8
	3．アパート（バスなし）			5.4
	4．下宿			3.7
	5．東大学寮・三鷹国際学生宿舎			4.4
	6．その他の寮			8.4
	7．その他（　　　　　）			1.7
	無回答			0.3
18．あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。（主たるものを移動時間の多い順に２つまで選び、番号を記入してください。）	「第１位のみの集計」			
	1．電車	77.5％	2．バス	0.2％
	3．自家用車	0.1	4．バイク	2.0
	5．.自転車	16.4	6．徒歩のみ	1.9
	7．その他（　　　　　）	0.1	無回答	1.8
19．片道の通学所要時間はどれくらいですか。◎(分単位で記入してください。)	所要時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			49.0分

Ⅴ．奨学金について

20．日本育英会又は他の団体から定期的に奨学金を受けていますか。	1．受けている	21.7％
	2．受けたいが受けられなかった	14.8％
	3．受けたくない	4.9
	4．受ける必要がない	57.1
	無回答	1.4
◎設問20で「2」または「3」と答えた方に伺います。 21．その理由はどれにあたりますか。	1．事務手続が煩雑だから	10.5％
	2．掲示等に気がつかなかった	13.0
	3．書類を期限までに整えられなかった	4.3
	4．出願はしたが採用されなかった	21.4
	5．貸与なので申請しなかった	25.7
	6．資格がない	22.5
	7．その他（　　）	2.5
奨学金を受けている方に伺います。 22．どこの奨学金を受けていますか。（該当する番号を記入してください。）	1．日本育英会第一種奨学金	86.4％
	2．日本育英会第二種奨学金・きぼう２１プラン奨学金	12.4
	3．財団・地方公共団体等の奨学金	1.2
	無回答	0.3
23．奨学金はどんな面で役に立っていますか。(主たるものを２つまで選び、番号を記入してください。)	1．家庭の経済的負担が軽減される	77.6％
	2．多少ともゆとりのある生活ができる	34.0
	3．アルバイトが軽減される	17.5
	4．奨学金があるので生活が成り立っている	32.0
	5．定期的な収入があるので助かる	19.8
	6．その他（　　）	3.0
	無回答	0.3
24．奨学金の主たる支出目的（用途）はどれにあたりますか。（主たるものを３つまで選び、番号を記入してください。）	1．生活費（衣・食・住居費）	77.9％
	2．授業料	30.0
	3．勉学費	61.7
	4．教養・娯楽費	49.2
	5．旅行（帰省旅行も含む）	9.9
	6．技術・資格等取得の費用	6.3
	7．耐久消費財購入費用	9.2
	8．貯金	14.5
	9．その他（　　）	2.0
	無回答	0.3

Ⅵ. アルバイトについて

アルバイトをした方に伺います

25. 過去一年間にアルバイトをしましたか。	1. 継続的（1ヶ月以上）アルバイトをした	53.9％
	2. 臨時（1ヶ月未満）アルバイトをした	10.1
	3. 継続的＋臨時アルバイトをした	15.4
	4. しなかった（「4」を選んだ方は設問32に進んで下さい。）	20.3
	無回答	0.3
26. そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。（主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。）	1. 家庭教師	50.3
	2. 塾講師	29.6
	3. 試験監督・採点	11.1
	4. 特殊技術（翻訳・通訳・プログラミング等）を要すること	6.9
	5. 一般事務	8.7
	6. 販売・セールス・サービス業	25.5
	7. 肉体労働	11.6
	8. 宿直・警備	1.7
	9. その他（　　）	6.8
	無回答	0.1
27. アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。	A. 時間（往復時間を含め、一週間当たりの平均時間を記入してください。	11.37時間
	B.収入額（1ヶ月当たりの平均額を単位「千円」で記入してください。）	47.77千円
28. アルバイトの紹介者はだれでしたか。（主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。）	1. 大学の担当事務	10.6％
	2. 大学の研究室	1.5
	3. 内外学生センター	7.9
	4. 新聞広告・アルバイト広告誌	27.8
	5. インターネット	13.6
	6. 友人・知人等	43.1
	7. アルバイト先と直接	30.7
	8. スーパー・銀行等の伝言板	1.9
	9. その他（　　）	5.9
	無回答	0.5
29. アルバイトをした理由はどれにあたりましたか。	1. 家庭の経済的負担を軽減するため	26.6％
	2. 学生生活を楽しむため	42.9
	3. 社会経験のため	25.4
	4. その他（　　）	4.7
	無回答	0.5
30. アルバイトの収入は何に使っていましたか。（主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。）	1. 生活費（衣・食・住居費）	52.6％
	2. 授業料	2.2
	3. 勉学費	12.3
	4. 教養・娯楽費	68.7
	5. 旅行（帰省旅行も含む）	21.5
	6. 技術・資格等取得の費用	2.3
	7. 耐久消費財購入費用	3.8
	8. 貯金	22.2
	9. その他（　　）	1.2
	無回答	0.4
◎設問25で「1」または「3」と答えた方に伺います。 31. 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんでした）か。	1. かなり妨げになる（なった）	8.2％
	2. 多少妨げになる（なった）	46.5
	3. 妨げにならない（なかった）	42.0
	無回答	3.3

32.現在の暮らし向きについてどうお考えですか。	1．かなり楽な方	22.7％
	2．やや楽な方	20.4
	3．普通	37.3
	4．やや苦しい方	15.0
	5．大変苦しい方	3.4
	6．分からない	0.7
	無回答	0.5

Ⅶ. 心身の健康について

33．今年１月から現在までの健康状態 は、どれにあたりますか。	1．非常に良好	26.5％
	2．良好	61.4
	3．やや悪い（症状：　　）	10.0
	4．悪い　　（症状：　　）	1.6
	無回答	0.4
34．あなたは、朝食を食べていますか。	1．ほぼ毎日	69.5％
	2．ときどき	17.9
	3．ほとんど食べない	12.3
	無回答	0.3
35．あなたは、お酒をどのくらい飲みますか。	1．ほぼ毎日	2.6％
	2．週３・４回	5.5
	3．週１・２回	37.6
	4．ほとんど飲まない	54.1
	無回答	0.3
36．あなたは、たばこをどのくらい吸いますか。	1．１日２０本以上	1.5％
	2．１日２０本未満	5.5
	3．ときどき吸う程度	4.7
	4．全く吸わない	88.0
	無回答	0.3
37．一日の平均睡眠時間はどれくらいですか。	1．４時間未満	1.8％
	2．４時間以上５時間未満	7.1
	3．５時間以上６時間未満	24.1
	4．６時間以上７時間未満	38.3
	5．７時間以上	28.5
	無回答	0.3
38．あなたは、日ごろ健康維持増進のために心がけていることがありますか。（主たるものを２つまで選び、番号を記入してください。）	1．スポーツをしている	38.2％
	2．なるべく歩くなど体を動かすようにしている	33.1
	3．自然・健康食品をとるように心がけている	7.6
	4．栄養のバランスを考え、食事の内容に注意している	35.1
	5．栄養剤、栄養飲料をとっている	10.5
	6．規則正しい生活をするように心がけている	22.2
	7．健康診断を年１回以上受けている	3.4
	8．特に心がけていることはない	19.4
	9．その他（　　）	0.8
	無回答	0.6

39．次の項目について、あてはまるものの番号を記入してください。
（それぞれの項目について４段階の中から該当する番号を選び記入して下さい。）

	よくあてはまる −4	ややあてはまる −3	あまりあてはまらない −2	全くあてはまらない −1	無回答
1．毎日が充実している	24.2	49.1	22.6	3.7	0.4％
2．こころから楽しいと感じるときがある	45.0	36.5	14.8	3.4	0.4
3．大学入学前後を比べ、自分の成長を感じる	36.6	37.3	19.4	6.4	0.4
4．よく眠れて、朝は爽快な気分で目覚める	9.7	29.5	43.7	16.7	0.4
5．朝起きて夜眠る生活のリズムが乱れている	22.3	28.7	29.8	18.9	0.4
6．いつも頭がボンヤリしている	2.9	23.1	49.5	24.2	0.4
7．自分のしていることに自信がもてない	10.0	33.0	36.8	19.8	0.4
8．自分の将来といっても現実感がない	16.8	36.5	29.9	16.5	0.4
9．自分が本当になにをやりたいのかわからない	15.4	31.0	30.4	22.8	0.4

40．現在の学生生活の中で次の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。
（それぞれの項目について、４段階の中から該当する番号を選び、記入してください。）

	よく悩む −4	ときに悩む −3	あまり悩まない −2	全く悩まない −1	無回答
1．勉学（成績・単位など）	20.4	40.9	26.1	12.5	0.1％
2．学部進学や大学院進学	22.4	32.2	21.9	23.3	0.2
3．就職	26.8	33.7	24.0	15.3	0.2
4．将来の進路や生き方	39.2	39.6	15.2	5.9	0.1
5．友人との対人関係	13.3	30.9	39.6	16.1	0.1
6．性・異性・恋愛・結婚	21.4	36.0	29.5	13.0	0.1
7．経済的なことや経済的自立	19.1	35.3	33.2	12.3	0.1
8．自分の性格	17.5	31.1	35.3	16.0	0.1
9．自分の体調や健康	7.7	24.6	43.3	24.2	0.1
10．人生の意義・目標	18.6	34.0	29.2	18.0	0.1

41．あなたは，不安や悩みを感じたときどのように対処していますか。
（それぞれの項目について、４段階の中から該当する番号を選び記入してください。）

	よくあてはまる −4	少しあてはまる −3	あまりあてはまらない −2	全くあてはまらない −1	無回答
1．他人に相談する	14.6	36.4	28.8	20.0	0.1％
2．友人と雑談などで気を紛らわす	19.9	44.9	22.1	13.0	0.1
3．趣味・スポーツなどで気を紛らわす	23.9	41.4	23.7	10.8	0.1
4．勉学、研究に打ち込むことで気を紛らわす	7.5	21.5	38.9	31.9	0.1
5．旅に出るなど環境を変えてみる	5.7	18.2	30.1	45.8	0.1
6．お酒を飲んだり食事をしたりして気を紛わす	12.0	32.0	26.5	29.4	0.1
7．宗教や自己啓発セミナーなどの活動に参加する	0.2	0.9	2.9	95.8	0.1

42．あなたは、不安や悩みを感じたとき誰に相談したり話し合ったりしますか。
（頻度が高いものを順に２つ番号を選んでください。）

「第１位のみの集計」

1．父親	4.5％
2．母親	18.4
3．兄弟姉妹	3.5
4．恋人	17.9
5．大学の教官・職員	0.3
6．学内の友人・知人	36.2
7．学外の友人・知人	15.0
8．メル友、インターネット上の友人	0.4
9．カウンセラー、精神科医	0.4
無回答	3.4

Ⅷ．入学・進学・学業について

43．東大に入学することを、どの程度希望していましたか。	1．どうしても入りたかった	45.6％
	2．だめなら他大学でもよいと思った	35.4
	3．なんとなく	18.6
	無回答	0.4
44．東大入学の動機は、どれにあたりますか。（主たるものを３つまで選び、重視した順に番号を記入してください。）	1．社会的評価が高いから	23.4％
	2．スタッフ・設備が優れているから	16.0
	3．将来の就職を考えて	8.8
	4．難関を突破したかったから	8.1
	5．私大に比べて授業料が安いから	9.7
	6．東大の伝統や雰囲気に憧れて	6.7
	7．入学後に学部の選択が可能だから	15.3
	8．親・兄弟・姉妹の勧めで	2.1
	9．高校の先生や友人などの勧めで	3.4
	10．その他（　　）	5.9
	無回答	0.6
45．入学するときに進学する学部、あるいは学科等を決めていましたか。	1．学科等まで決めていた	27.6％
	2．学部のみを決めていた	34.6
	3．学部、学科等は決めていなかった	37.4
	無回答	0.4
46．学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか（しますか）。（主たるものを２つまで選び、番号を記入してください。）	1．最先端の学問が学べること	14.6％
	2．自分が惹きつけられた学問分野であること	78.1
	3．その学部・学科等の教官に魅力を感じること	11.2
	4．社会のためになる分野であること	20.9
	5．就職の際に有利であること	14.9
	6．将来なりたい職業に就くのに必須であること	30.7
	7．選択に際し特に考えなかった（ない）	9.5
	無回答	0.5
◎進学内定者及び後期課程学生に伺います 47．進学の決定（内定）は、希望通りでしたか。	1．希望通り決定（内定）した	79.3％
	2．ほぼ希望通り決定（内定）した	14.3
	3．希望通りでなかった	4.8
	無回答	1.6
48．現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか。	1．満足している	35.0％
	2．まあ満足している	34.9％
	3．どちらとも言えない	12.9
	4．やや不満である	9.1
	5．不満である	4.6
	無回答	3.5
49．進学振り分け制度についてどのように考えていま すか。	1．現行のままでよい	36.2％
	2．点数だけでない選択方法も取り入れてほしい	29.7
	3．入学時からある程度進路が決まっていた方がよい	13.0
	4．特にない	14.6
	5．その他（　　）	3.7
	無回答	2.9
50．現在のカリキュラムに満足していますか。	1．満足している	9.8％
	2．まあ満足している	34.8％
	3．どちらとも言えない	22.2
	4．やや不満である	21.8
	5．不満である	8.6
	無回答	2.9

51．現在のカリキュラムは消化できますか。	1．できる	37.6％
	2．まあまあできる	35.5％
	3．多少困難	20.5
	4．できない	3.4
	無回答	3.0
◎設問51で「3」または「4」と答えた方に伺います。	**「第１位のみの集計」**	
52．その理由はどれにあたりますか。	1．進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる	15.0％
（主たるものを３つまで選び、順位に従って番号を記入してください。）	2．授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある	25.7
	3．カリキュラムの組み方に問題がある	12.3
	4．教育上の指導助言が十分でない	7.2
	5．高校までの勉強のやり方ではうまく適応できない	6.0
	6．大学入試の受験科目として取らなかった	1.5
	7．授業の準備と復習の時間が十分とれない	15.9
	8．授業に対する自分の意欲や努力が足りない	13.5
	9．その他（　　）	2.7
	無回答	0.3
53．学部卒業後、どのような進路を予定していますか。	1．進学する	41.2％
	2．就職する	31.5％
	3．まだわからない	22.7
	4．進学も、就職もするつもりはない	1.5
	無回答	3.1
◎設問53で「1」と答えた方に伺います。	1．大学院修士課程	62.1％
54．どこまで進学を予定していますか。	2．大学院博士課程	36.5
	3．その他（学士入学等）	1.4
	無回答	—
◎設問54で「1」または「2」と答えた方に伺います。	1．高度の専門知識・技術身につけるため	77.1％
55．その理由は、次のうちどれにあたりますか。	2．大学で教職に就くため	9.5％
（主たるものを２つまで選び、番号を記入してください。）	3．将来研究者になるため	46.0
	4．良い就職先を得るため	19.2
	5．まだ社会に出たくないから	18.2
	6．周囲にすすめられたから	2.6
	7．社会的評価が高いから	6.0
	8．友人・先輩の意見	3.9
	9．大学での進路指導	0.7
	10．その他（　　）	4.2
	無回答	0.5

Ⅸ．教科外学習について

56．現在、大学の授業以外で、何か学んだり習ったりしているものがあますか。	1．ある（運転・操縦免許取得を除く）	31.0％
	2．ない	68.3
	無回答	0.6
57．それは、どのような分野ですか。（最も力を入れているものに「１」、その他に学んでいるものがあればそれらすべてに「２」を記入してください。）		最も力を入れているもの
	1．外国語	21.0％
	2．コンピュータ	4.2
	3．法律	30.7
	4．経済・会計	10.2
	5．医・薬・獣医	0.7
	6．一般教養	6.0
	7．音楽・美術	16.2
	8．文芸・演劇・舞踊	4.4
	9．その他（　　）	6.5
	無回答	0.2
58．最も力を入れている分野は、どのような方法で学んでいますか。（主なもの１つを選び、番号を記入してください。）	1．各種学校・カルチャーセンター等	46.9％
	2．通信教育	6.9
	3．インターネット	3.0
	4．ラジオ・テレビ	4.8
	5．個人授業	13.9
	6．学内外のサークル	11.5
	7．その他（　　）	12.5
	無回答	0.5
59．最も力を入れている分野は、どのような理由で始めたのですか。（主なもの１つを選び、番号を記入してください。）	1．現在の勉学の上でプラスになるから	5.1％
	2．将来進みたい分野で役に立ちそうだから	16.6
	3．技術・能力を身につけたいから	8.8
	4．資格取得のため	26.8
	5．受験のため	6.9
	6．実生活に役立たせたいから	2.5
	7．探求心を満足させるため	3.9
	8．趣味を楽しむため	19.9
	9．教養を身につけるため	4.8
	10．大学での教育に満足できないため	2.1
	11．その他（　　）	2.3
	無回答	0.2
60．教科外学習の総費用は、月額でどれくらいですか。		千円
	単位「千円」で記入してください。	23.6

設問56で「1」と答えた方に伺います

X．旅行・スポーツについて

61．海外旅行について伺います。大学に入学してから海外旅行をした経験がありますか。	1．１回ある			19.0％
	2．２回ある			8.6
	3．３回ある			3.9
	4．４回以上ある			5.3
	5．ない			62.9
	無回答			0.4
設問61で「1」から「4」と答えた方のみに伺います 62．主たる旅行先はどこですか。（3つまで選び、番号を記入してください。）	1．アジア	56.3％	2．中近東	1.0％
	3．アフリカ	1.4	4．北アメリカ	29.2
	5．中南米（メキシコを含む）	2.1	6．西ヨーロッパ	39.2
	7．旧ソ連・東欧	5.3	8．オセアニア	9.6
	9．ハワイ・グァム・サイパン	9.2	10．その他（　　）	0.8
	無回答	0.0		
63．旅行の目的はどれにあてはまりますか。（主たるものを2つまで選び番号を記入してください。）	1．語学研修	16.2％	2．学術調査	4.9％
	3．留学	2.9	4．スポーツ等の活動	4.7
	5．ホームステイ	4.7	6．家族や親戚・友人の訪問	19.5
	7．観光	83.0	8．その他（　　）	5.1
	無回答	0.0		
64．旅行は次のどの形態でしましたか。（主たるものを２つまで選び番 号を記入してください。）	1．１人で旅行をした	29.6	2．友人と旅行をした	57.1
	3．家族と旅行をした	31.8	4．団体旅行に参加した	15.2
	無回答	0.2		
65．国内旅行について伺います。今年の４月から９月末までの間に、一泊以上の国内旅行（帰省を除く）を何回しましたか。	1．１回			20.7％
	2．２回			21.4
	3．３回			14.1
	4．４回			7.2
	5．５回以上			11.7
	6．旅行はしなかった			24.0
	無回答			0.9
◎設問65で「１」から「５」と答えた方のみに伺います。 66．旅行は次のどの形態でしまし たか。（主なものを２つまで選び、番号を記入してください。）	1．サークルの合宿や試合に参加した			60.4％
	2．ゼミ旅行に参加した			9.2
	3．１人で旅行をした			13.3
	4．友人と旅行をした			43.0
	5．家族と旅行をした			17.2
	6．その他（　　）			5.0
	無回答			0.4
67．スポーツはしていますか。	1．全くしていない			30.3％
	2．体育の授業でしているが、他にはしていない			14.5
	3．サークル活動でしている			35.3
	4．自主的にしている			18.7
	無回答			1.1

設問67で「2」から「4」と答えた方のみに伺います

68．スポーツはどの程度していますか。	1．週１回			45.3％
	2．週２回			19.4
	3．週３回			15.1
	4．週４回～５回			13.2
	5．週６回以上			6.7
	無回答			0.4
69．現在しているスポーツは何ですか。（主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。）	1．バスケットボール	8.7	2．ハンドボール	1.0％
	3．バレーボール	4.4	4．バドミントン	11.5
	5．ボクシング	0.5	6．水泳	8.7
	7．卓球	7.1	8．テニス	20.4
	9．サッカー	17.5	10．ラグビー	0.5
	11．アメリカンフットボール	1.4	12．野球	6.3
	13．ソフトボール	3.0	14．陸上競技	3.0
	15．アーチェリー	0.4	16．ゴルフ	1.4
	17．ジョギング・ランニング	9.3	18．ハングライダー	－
	19．ラクロス	1.2	20．ダンス	3.2
	21．エアロビクス	1.4	22．ボディビル・筋力トレーニング	18.2
	23．体操	1.3	24．ボーリング	1.8
	25．スキー	3.0	26．スケート	0.6
	27．フィールドホッケー	0.2	28．アイスホッケー	0.1
	29．スキューバダイビング	1.0	30．サーフィン	0.5
	31．ウィンドサーフィン	－	32．ボート	0.9
	33．ヨット	0.3	34．登山	1.9
	35．馬術	0.1	36．自転車	2.7
	37．剣道	1.8	38．合気道	2.3
	39．柔道	0.4	40．空手	1.3
	41．太極拳	0.3	42．少林寺拳法	1.0
	43．弓道	1.4	44．フェンシング	－
	45．レスリング	0.2	46．相撲	0.1
	47．その他（　　）	6.4	無回答	0.6

70．東京大学の次の施設を授業以外で今までにどの程度利用したことがありますか。

都市規模が不明の場合は具体的に都市名を記入してください。

	1.利用したことはない	2.1回だけ利用した	3.2回～3回利用した	4.4回～5回利用した	5.6回～9回利用した	6.10回以上利用した	無回答
A．御殿下記念館（本郷）	61.4	7.2	6.6	3.7	2.1	18.6	0.4 %
B．屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（本郷）	78.2	3.6	5.2	2.1	0.7	9.6	0.6
C．屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（駒場）	61.2	2.5	4.7	2.6	1.4	27.0	0.6
D．体育館（駒場）	58.6	3.1	5.2	2.7	2.1	27.5	0.8
E．検見川総合運動場・検見川セミナーハウス	68.4	10.5	7.6	4.2	3.1	5.7	0.6
F．スポーティア（戸田寮、山中寮、下賀茂寮、谷川寮、乗鞍寮）	89.0	6.5	1.9	0.7	0.1	0.9	0.9

71．◎設問70で各施設につき、「2」から「6」と答えた方に伺います。各施設はあなたにとって満足できるものでしたか。

「3」または「4」と回答した方は、特に大学に要望がありましたら85に自由に記入してください。

	1.非常に満足できるものであった	2.一応満足できるものであった	3.やや不満の残るものであった	4.非常に不満の残るものであった	無回答
A．御殿下記念館（本郷）	48.6	43.2	5.8	2.4	－ %
B．屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（本郷）	16.9	59.5	17.6	6.1	－
C．屋外運動場（テニスコート、野球場等を含む）（駒場）	16.9	61.7	17.7	3.4	0.4
D．体育館（駒場）	13.6	63.1	18.9	4.2	0.2
E．検見川総合運動場・検見川セミナーハウス	32.3	57.3	8.1	2.1	0.2
F．スポーティア（戸田寮、山中寮、下賀茂寮、谷川寮、乗鞍寮）	25.5	50.4	17.0	7.1	－

Ⅺ．家庭観・結婚観について

72. あなたの出身高校は、男女共学でしたか、それとも男女別学でしたか。	1. 男女共学	47.2％
	2. 男女別学（男子校または女子校）	52.5
	無回答	0.4
73. あなたが高校生の時に、あなたのお母さんは職業に就いていましたか。	1. フルタイムで働いていた	16.5％
	2. パートタイムで働いていた	31.0
	3. 自営業または農業など家の事業を手伝っていた	8.1
	4. 専業主婦だった	42.6
	5. その他（具体的に　　）	1.6
	無回答	0.2
74.「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどう思いますか。	1. 賛成	5.1％
	2. どちらかといえば賛成	28.5
	3. どちらかといえば反対	36.6
	4. 反対	29.4
	無回答	0.4
75. 仕事と家庭や地域活動についての男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。この中から１つだけあげてください。	1. 家事や地域活動は妻に任せ、仕事に専念する	2.4％
	2. 家庭や地域活動を尊重するが、あくまでも仕事を優先させる	34.2
	3. 家事や地域活動に妻とともに参加し、仕事と両立させる	58.3
	4. どちらかといえば、仕事よりも、家庭や地域活動などを優先させる	3.7
	5. 仕事は妻に任せ、家事や地域活動に専念する	0.6
	無回答	0.9
76. 一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたはどう考えますか。この中から１つだけあげてください。	1. 女性は職業をもたない方がよい	1.0％
	2. 結婚するまでは、職業をもつ方がよい	5.0
	3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	10.7
	4. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	39.6
	5. 子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい	42.2
	無回答	1.6
77. あなたは、結婚前の性交渉をどう思いますか。次のうちあなたの気持ちに最も近いものを、1つだけ選んでください。	1. どんな場合でもさけるべきだ	4.0％
	2. 結婚が前提であればかまわない	10.0
	3. お互いに愛情があればかまわない	70.0
	4. 愛情がなくてもかまわない	15.5
	無回答	0.6

Ⅻ．就職について

78．どのような職業に就きたいと思いますか。（主たるものを３つまで選び、就きたい職種の順位に従って番号を記入してください。）	（「第１位のみの集計」）	
	1．大学・官公庁の教育・研究職	24.8％
	2．企業等の研究職	14.1
	3．技術職	8.9
	4．事務職	7.0
	5．教育職（大学を除く）	1.1
	6．行政職（公務員）	12.0
	7．専門職（医師、弁護士、公認会計士等）	21.7
	8．マスコミ（新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等）	5.1
	9．その他（　　）	4.3
	無回答	1.1
79．その職業に就きたいと考えるのは、どのような理由からですか。（主たるものを3つまで選び、重視する順に番号を記入してください。）	（「第１位のみの集計」）	
	1．人を助けたり社会に奉仕する	20.8％
	2．安定した生活が保証されている	9.5
	3．十分な収入が期待できる	6.9
	4．自分の特技・能力や専門知識が活かせる	37.1
	5．華やかで、世間からもてはやされる	0.8
	6．社会的な地位・名声が得られる	1.7
	7．組織にしばられず、自由な活動ができる	7.2
	8．人や組織を動かすことができる	2.4
	9．独創性や創造性を発揮できる	9.3
	10．その他（　　）	3.1
	無回答	1.1
80.仕事や職場を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。（主たるものを3つまで選び、重視する順に番号を記入してください。）	（「第１位のみの集計」）	
	1．給料がよい	9.6％
	2．休みをとりやすい	2.6
	3．責任が軽い	0.9
	4．失業の心配がない	3.9
	5．福利厚生が充実している	0.8
	6．出世の見込みが多い	0.5
	7．技術や知識を身につけられる	7.1
	8．権限が大きい	0.5
	9．やりがいがある	49.2
	10．能力が発揮できる	14.5
	11．人から評価される	1.1
	12．仕事を行う上で男女の差別がない	1.1
	13．将来発展する見込みがある	2.0
	14．職場が都心のオフィス街にある	0.1
	15．職場が自然環境のよい郊外にある	0.1
	16．海外勤務の機会が多い	0.6
	17．転勤が少ない	0.3
	18．いろいろな人と知り合える	0.9
	19．オフィスが新しくてきれい	－
	20．職場の人間関係がよい	1.6
	21．その他（　　）	1.4
	無回答	1.0

81．就職活動として、どのようなことをしていますか（いましたか）。 （該当するすべての項目に「1」を記入してください。）	1．インターネット等で、情報を収集する	39.1％
	2．企業等のセミナーや説明会に参加する	22.2
	3．就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	11.6
	4．職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	16.8
	5．その他（　　）	2.2
	無回答	49.5
82．就職する場所はどこを希望 しますか。	1．東京圏（東京近郊）を希望する	55.1％
	2．東京圏（東京近郊）以外を希望する	1.4
	3．出身地に近いところを希望する	6.2
	4．東京圏、東京圏以外どちらでもよい	32.8
	5．その他（　　）	2.5
	無回答	1.9

Ⅻ．大学への要望について

82．大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 （主たるものを3つまで選び、重視する順に番号を記入してください。）	（「第１位のみの集計」）	
	1．カリキュラムの改革	14.6％
	2．教室・実験室の充実	9.2
	3．教育スタッフの充実	8.3
	4．進学振分け制度の改善	9.2
	5．小人数教育の実施	9.2
	6．授業の方法の工夫・改善	15.1
	7．単位認定や学年試験を緩やかに	6.2
	8．単位認定や学年試験を厳しく	1.0
	9．キャンパスの拡大・移転・統合	1.4
	10．図書館の充実	5.2
	11．談話室・学生控室の充実	4.3
	12．課外活動諸施設の拡充	2.4
	13．体育施設の充実	1.8
	14．福利厚生施設の充実	0.8
	15．学生自治に対する適切な助成と助言	0.1
	16．学生自治の尊重	0.3
	17．奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	4.5
	18．就職対策の充実	3.4
	19．その他（　　）	2.0
	無回答	1.0

2003．12．11　№1277

学生生活委員会学生生活調査室

平成15年11月現在

調　査　室　長	市　川　伸　一（大学院教育学研究科・教育学部）
副調査室長	池　田　謙　一（大学院人文社会系研究科・文学部）
室　　員	中　谷　和　弘（大学院法学政治学研究科・法学部）
〃	小　林　廉　毅（大学院医学系研究科・医学部）
〃	庄　司　正　弘（大学院工学系研究科・工学部）
〃	中　村　正　治（大学院理学系研究科・理学部）
〃	金　子　豊　二（大学院農学生命科学研究科・農学部）
〃	粕　谷　　誠（大学院経済学研究科・経済学部）
〃	瀬地山　　角（大学院総合文化研究科・教養学部）
〃	青　木　淳　賢（大学院薬学系研究科・薬学部）
〃	竹　田　貴　文（学生部）
〃	宮　田　政　拓（学生部）

調査集計担当　　学生部学生課調査掛

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1277　　2003年12月11日
東京大学広報委員会
〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務課広報室　☎（3811）3393
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/index-j.html